

第1回 淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査 Shukutoku Yomiuri Chiba Social Survey (SYCSS)

報告書



2024年3月

淑徳大学社会福祉研究所

巻頭言

「淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査」の第1回調査の報告書をお届けします。

本調査は、2023年度に新型コロナウイルス感染症の発生により私たちの生活が大きく変化し3年以上経過し、本感染症が社会にどのような影響をもたらしているのかについて、淑徳大学と学園本部との連携事業として企画されたことに端を発しております。現在、新型コロナウイルス感染症の流行から4年以上経過し、「新型コロナウイルス感染症」の名称が報道される機会は少なくなりました。しかし、2023度に卒業した学生たちは入学式のないまま大学生活に入り、慣れない環境の中で学生生活を送らざるを得ませんでした。彼ら・彼女らの4年間に対する影響は大きいものだと感じております。

本調査は、新型コロナウイルス感染症の流行後の社会への影響について、淑徳大学ならではの社会調査を実施し、社会問題への対策を構想する基礎資料を提供することによって社会貢献の一環になることを目的として、淑徳大学の附属機関である淑徳大学社会福祉研究所（以下、社会福祉研究所）において山本功学長特別補佐をリーダーに学内研究者、学外研究者を研究員としてプロジェクトが組織され、読売新聞と共同で千葉県調査を行ったものです。調査の目的は、本調査のプロジェクトのリーダーである山本功学長特別補佐が概要に記載している通りです。

社会福祉研究所は、1977年に「淑徳大学カウンセリングセンター」から「社会福祉研究所」へと名称を変え、建学の精神である「利他共生」の精神に基づき、社会福祉の理論と実践及びヒューマンケア領域との学際的な研究をすすめ、社会の発展、福祉の増進及び社会貢献並びに学生及び卒業生への教育・実践に貢献することを目的として事業展開を行っております。

本調査は、まさに社会福祉研究所の目指す学際的な研究と言え、その成果を皆様に活用していただければ幸いです。

淑徳大学社会福祉研究所

所長 齊藤順子

淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査について

本報告書は、淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査の第1回調査（SYCSS23）の報告書である。この調査プロジェクトの概要を示しておきたい。

この調査は、淑徳大学と読売新聞東京本社とが共同で実施する千葉県調査である。大学と新聞社が共同で調査研究を実施した例はこれまでもあるが、千葉県では初めてのことでないと思われる。

淑徳大学ならではの社会調査を実施し、調査結果の分析及び公表を通じて社会的問題への対策を構想する基礎資料を広く提供し、社会の課題を明らかにしその解決に寄与することを目的としている。この目的に鑑みて、特定の課題に焦点化せず、できるだけ幅広い、包括的な総合社会調査 General Social Surveys となることを目指した。

2023 年を第1回調査とし、隔年で5回実施する計画である。すなわち、2023、2025、2027、2029、2031 年が調査年となる。同一の設問で調査を継続することによって、社会の変化を捉えることを可能としたものである。

調査方法は、インターネット調査会社による web 調査である。千葉県総合計画（2022 年3月）による6つのゾーン区分（東葛・湾岸、印旛、香取・東総、九十九里、南房総・外房、内房）に依拠し、各ゾーンごとに性別・年齢層別（20～69 歳、10 歳刻み）に住民基本台帳人口に比例した割り付けを行った。サンプルサイズは 5000 を想定した。

調査項目は、原則として継続して用いるコア項目と、その調査年においてその都度盛り込むアドホック項目に分けて設定した。コア項目として、基本属性以外に以下の項目を採用した。居住継続意向、メンタルヘルス、機関／専門職への信頼、政策必要性の意見、近隣交流・町内会、ソーシャル・サポート、各種相談窓口認知、福祉制度認知、犯罪不安・体感治安、メディア接触、地域愛着、生活環境評価、災害不安・災害対策、性別役割意識。

アドホック項目は、淑徳大学千葉キャンパスの専任教職員から公募した。また、千葉県庁から要望を聴取し、設問項目の一部に取り込んだ。

個票データは、まずは学内で教職員に公開し、本学の教育研究資源として活用する予定である。さらにその後、個票データを社会調査データアーカイブに寄託予定でもある。

本調査報告書と調査結果が、千葉県関係者に広く活用され、社会問題の解決に幾ばくかでも寄与できることを願うものである。

淑徳大学コミュニティ政策学部
教授 山本 功

目 次

1. 調査の概要

1-1. 目的と方法

(1) 調査の目的	1
(2) 調査方法及び対象者	1
(3) 調査項目の設計について	4

1-2. 回答者の個人属性

(1) 同居家族 〈Q2〉〈Q6-10〉	6
(2) 職業 〈sc6〉〈Q6-16,17〉	7
(3) 学歴 〈Q6-11〉	7
(4) 年収 〈Q29〉	7

2. 調査結果

2-1. 生活実態・習慣・生活実感

(1) 千葉県居住のタイミング 〈Q1〉	9
(2) 住宅 〈Q6-1,2〉	10
(3) 主な交通手段 〈Q6-13~15〉	11
(4) 情報環境 〈Q16〉〈Q6-12〉	12
(5) 健康行動・意識 〈Q27-1~4〉	14
(6) ゆとり・階層意識 〈Q27-5~8〉	17

2-2. 交流・サポート・福祉

(1) 家族・友人等との交流 〈Q4〉	19
(2) ソーシャル・サポート（心理的支えになる人） 〈Q5〉	25
(3) 孤独感・ストレス・幸福感 〈Q25〉〈Q26〉〈Q9-1〉	28
(4) 福祉用語の認知度 〈Q10〉	32
(5) 各機関への信頼度 〈Q12〉	35

2-3. 地域・コミュニティ

(1) 地域との関わり 〈Q6-3~9〉	39
(2) 地域環境満足度 〈Q8〉	42
(3) 地域環境評価・将来不安 〈Q7〉〈Q9-10〉	46
(4) 地域信頼感 〈Q18-4~7〉	51
(5) 地域安全確保主体への意見 〈Q22-6,7〉	53

2-4. 犯罪・防犯

(1) 犯罪被害経験〈Q13〉〈Q6-20〉	55
(2) 犯罪不安感〈Q14〉	57
(3) 固定電話対策の実施状況〈Q6-18,19〉	60
(4) 犯罪被害回避に対する考え方〈Q18-1～3〉	61
(5) 相談窓口等の認知〈Q11〉	63
(6) 犯罪や刑罰への意見〈Q22-1～5〉	65

2-5. 災害・防災

(1) 災害不安感〈Q23〉	67
(2) 災害への備え実施状況〈Q24〉〈Q22-8,9〉	70

2-6. 行政・施策への意見

(1) 自治体の施策・サービス評価〈Q9-2～9〉	73
(2) 政策の必要性に関する意向〈Q15〉	75

2-7. その他

(1) 行動基準（Q19）	79
(2) コロナ禍についての認識（Q20）	82
(3) いじめに対する認識（Q21）	86
(4) ジェンダーに関する認識（Q28）	90

3. 調査画面

94

1. 調査の概要

1-1. 目的と方法

(1) 調査の目的

本調査は、千葉県在住者を対象にした総合的、汎用的な社会調査であり、今後、隔年で計5回継続的に実施する予定の第一回目の調査にあたる。調査の目的は、調査結果の分析及び公表を通じて、社会問題への対策を構想する基礎資料を広く提供することによって、社会の課題を明らかにし、その解決に寄与することである。

(2) 調査方法及び対象者

調査方法はweb上で回答するインターネット調査であり、調査会社（株式会社クロスマーケティング）を通じて、2023年10月に実施した。

対象者は、千葉県在住の調査モニター登録者（男女20～69才）である。対象者の居住地を千葉県総合計画（令和4年3月策定）によって設定された区分である6ゾーン（エリア）に分け、エリアごとに性別・年代（10歳代）が住民基本台帳人口（2022年4月1日時点）に比例するよう割付を行ってアンケートを配信した。

5,000サンプルの配信割付を表1-1に、有効回答数を表1-2に示す。有効回答数はエリアによって大きな差があり、東葛・湾岸エリアだけで全体の67.4%を占める。他のエリアは、多い順に、印旛11.1%、内房9.1%、九十九里5.5%、香取・東総4.4%、南房総・外房2.9%である。

表 1-1 配信割付（n=5,000）

エリア	男性					女性					合計
	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	
東葛・湾岸	307	334	420	407	271	296	313	393	376	273	3390
印旛	45	53	69	64	57	42	49	64	61	60	565
内房	41	45	57	54	49	33	38	49	49	47	461
香取・東総	15	17	22	23	26	12	14	19	22	26	195
南房総・外房	9	9	14	15	18	8	8	13	15	18	127
九十九里	19	22	30	31	33	17	19	27	30	33	261
合計	436	479	612	594	455	407	442	567	552	456	5,000

表 1-2 有効回答数（n=5,175）

エリア	男性					女性					性別他・ 答えたくない	合計
	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代		
東葛・湾岸	184	350	443	434	297	309	330	417	401	289	34	3,488
印旛	21	56	74	67	60	45	54	68	64	63	2	574
内房	14	48	61	58	54	37	41	52	52	50	5	472
香取・東総	7	20	25	26	29	15	17	22	25	22	1	209
南房総・外房	4	10	17	18	21	11	11	16	18	21	2	149
九十九里	11	25	33	35	36	20	22	31	33	36	1	283
合計	241	509	653	638	497	437	475	606	593	481	45	5,175

表 1-3 各ゾーン（エリア）別自治体一覧 （数字は有効回答数）

東葛・湾岸	千葉市 809, 市川市 443, 船橋市 599, 習志野市 140, 八千代市 166, 浦安市 163, 松戸市 413, 野田市 87, 柏市 321, 流山市 135, 我孫子市 125, 鎌ヶ谷市 87
印旛	成田市 99, 佐倉市 152, 四街道市 77, 八街市 42, 印西市 88, 白井市 58, 富里市 35, 酒々井町 14, 栄町 9
内房	市原市 221, 木更津市 118, 君津市 59, 富津市 20, 袖ヶ浦市 54
香取・東総	香取市 58, 神崎町 5, 多古町 4, 東庄町 13, 銚子市 56, 旭市 45, 匝瑳市 28
南房総・外房	勝浦市 16, いすみ市 32, 大多喜町 2, 御宿町 5, 館山市 45, 鴨川市 16, 南房総市 30, 鋸南町 3
九十九里	東金市 57, 山武市 38, 大網白里市 40, 九十九里町 11, 芝山町 1, 横芝光町 16, 茂原市 83, 一宮町 4, 睦沢町 4, 長生村 7, 白子町 10, 長柄町 3, 長南町 9

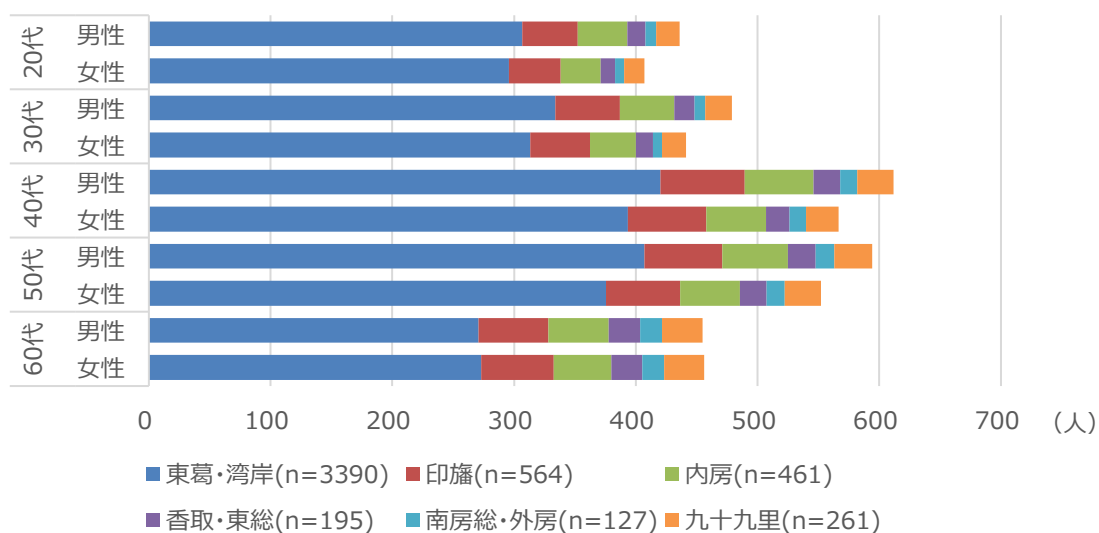


図 1-1 配信割付 (n=5,000) のエリア別性別年代

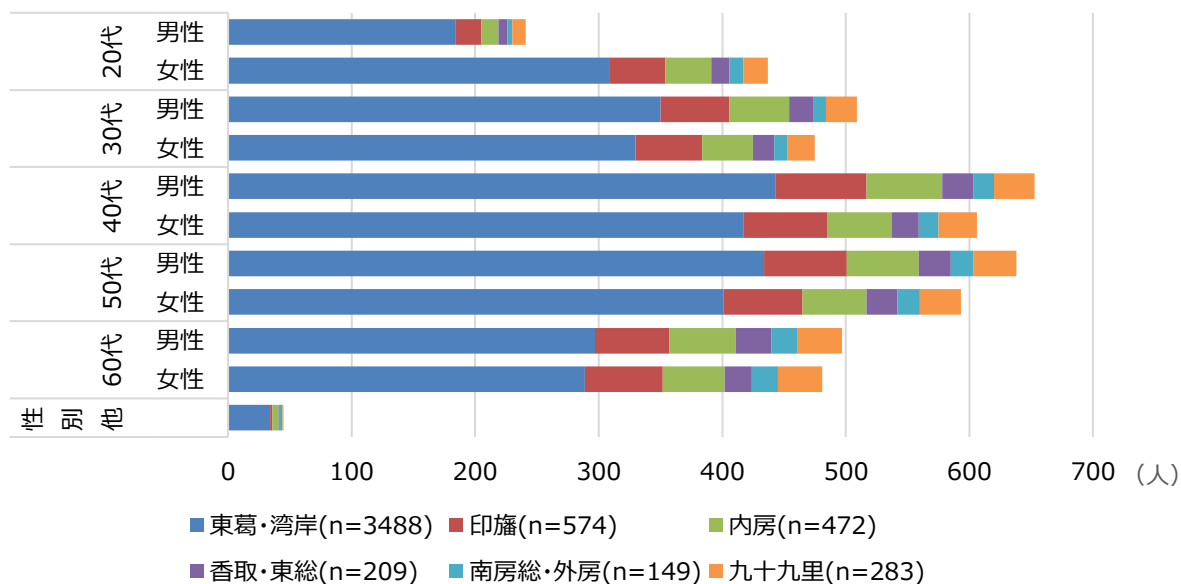


図 1-2 対象者（有効回答）のエリア別性別年代

調査モニター登録者の関係で、どのエリアも 20 代では男性が少なくなったため、他の世代において男性を多めにする等の調整を行った。このため、男女比はどのエリアでもほぼ半々である。

年代は、エリアごとに若干の差がある。若い層がもっとも多いのは東葛・湾岸エリアであり、次いで、印旛、内房、香取・東総、九十九里、南房総・外房の順であった。

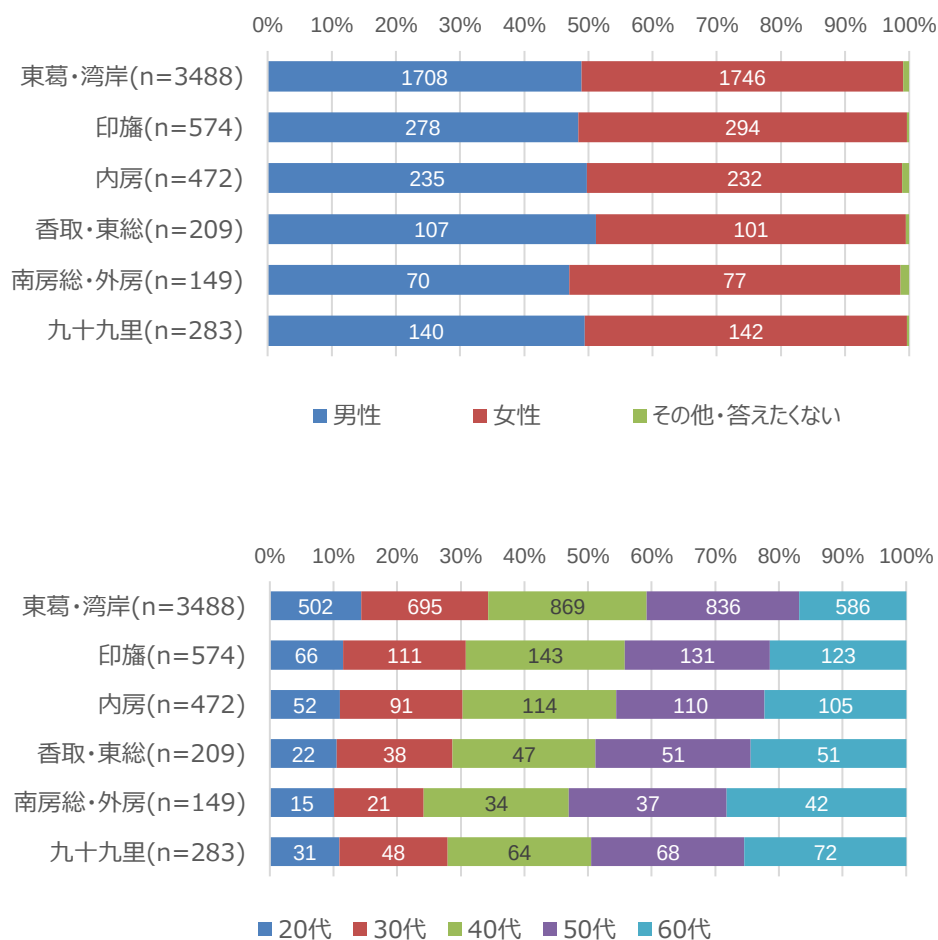


図 1-3 対象者（有効回答）のエリア別性別年代

(3) 調査項目の設計について

本調査は、2023 年を第 1 回とし、以降隔年で 5 回の調査を予定している。そのため、9 年間の千葉県の変化をゾーン別に把握することを念頭においた。特定の領域に限定せずに、できるだけ広範な領域をカバーできる総合社会調査とすることを目指した。

調査項目の設計は、学内コア委員と学外委員が中心となり、継続的に同一の設問で社会の変化を把握するコア項目を策定した。また、共同調査者である読売新聞社から要望のあった設問を取り入れた。

さらに、学内でその都度掲載するアドホックな設問を公募し、採択にあたってはアドホック委員とした。千葉県庁に調査要望を聞き取りし、要望のあった設問を取り込んでみている。

- 淑徳大学学内コア委員

山本 功	コミュニティ政策学部	教授
青柳涼子	コミュニティ政策学部	教授
本多敏明	コミュニティ政策学部	准教授
八田和子	コミュニティ政策学部	准教授
伊藤潤平	コミュニティ政策学部	助教
永房典之	人文学部	教授

- 学外委員

高木大資	東京大学大学院医学系研究科	講師
鈴木あい	福島大学教育推進機構	特任准教授
佐藤麻衣	日工組社会安全研究財団	主任研究員

- 淑徳大学学内アドホック委員

小森めぐみ	総合福祉学部	准教授
松野由希	コミュニティ政策学部	准教授

- オブザーバー

若林直子	株式会社生活環境工房あくと	代表
菅原康司	株式会社生活環境工房あくと	

主な調査項目を表 1-4 に示す。

なお、本調査の実施主体は、淑徳大学社会福祉研究所である（共同調査者：読売新聞東京本社）。事務局は学校法人大乗淑徳学園本部経営企画部が担当した。本調査は、淑徳大学研究倫理審査委員会の審査を受審し、承認を得ていることを付記する（申請番号 2023-204）。

本報告書は、調査結果の単純集計、性別・年代別・エリア別集計の結果を概観し、報告するものである。関係各位にご覧いただき、千葉県の現状の把握に何らかの寄与ができれば幸いである。

なお、調査結果のより詳細な分析は調査メンバーをはじめ淑徳大学の研究者によってなされ、学術論文等の分析データとして活用される予定である。

表 1-4 調査項目一覧

主な調査項目	
個人属性	性別／年齢／居住市町村 同居家族（Q2）（Q6-10）／職業（SC6）／失業・転職（Q6-16・17）／学歴（Q6-11）／年収（Q29）
生活実態・習慣・意識	千葉県居住タイミング（Q1）／住居（Q6-1,2） 利用交通手段（Q16-3・4・5） 情報環境（Q16）（Q6-12） 健康行動・意識（Q27-1～4）／ゆとり・階層意識（Q27-5～8）
交流・サポート・福祉	家族・友人等との交流（Q4） ソーシャル・サポート（Q5） 孤独感（Q25）／ストレス（Q26）／幸福感（Q9-1） 福祉用語の認知度（Q10）／各機関信頼度（Q12）
地域・コミュニティ	地域との関わり（Q6-3～9） 地域満足度（Q8）／地域環境評価（Q7）／将来不安（Q9-10） 地域信頼感（集团的効力感）（Q18-4～7） 地域安全確保主体への意見（Q22-6・7）
犯罪・防犯	犯罪被害実態（Q13）（Q6-20） 犯罪不安感（Q14） 固定電話対策実施状況（Q6-18・19） 犯罪被害回避への意識（Q18-1～3）／相談窓口等の認知度（Q11） 少年犯罪や刑罰への意見（Q22-1～5）
災害・防災	災害不安感（Q23） 災害備え実施状況（Q24）（Q22-8・9）
行政・施策への意見	自治体の施策・サービス評価（Q9-2～9） 政策の必要性意向（Q15）
その他	行動基準（Q19） コロナ禍における認識（Q20） いじめに関する認識（Q21） ジェンダーに関する認識（Q28）

1-2. 回答者の個人属性

(1) 同居家族

〈Q2〉 〈Q6-10〉

「誰とも同居していない（ひとり暮らし）」は20.3%であった。この割合は、東葛・湾岸エリアで多く、九十九里、印旛エリアで少ない。

同居家族は、多い順に「配偶者」52.8%、「子ども」34.8%、「親（配偶者の親を含む）」24.7%、「兄弟姉妹」8.4%であった。この割合はエリアごとに差がみられたが、顕著な差があったのは「親」であり、香取・東総エリアでは36.8%と高いのに対し、東葛・湾岸では21.9%と低かった。

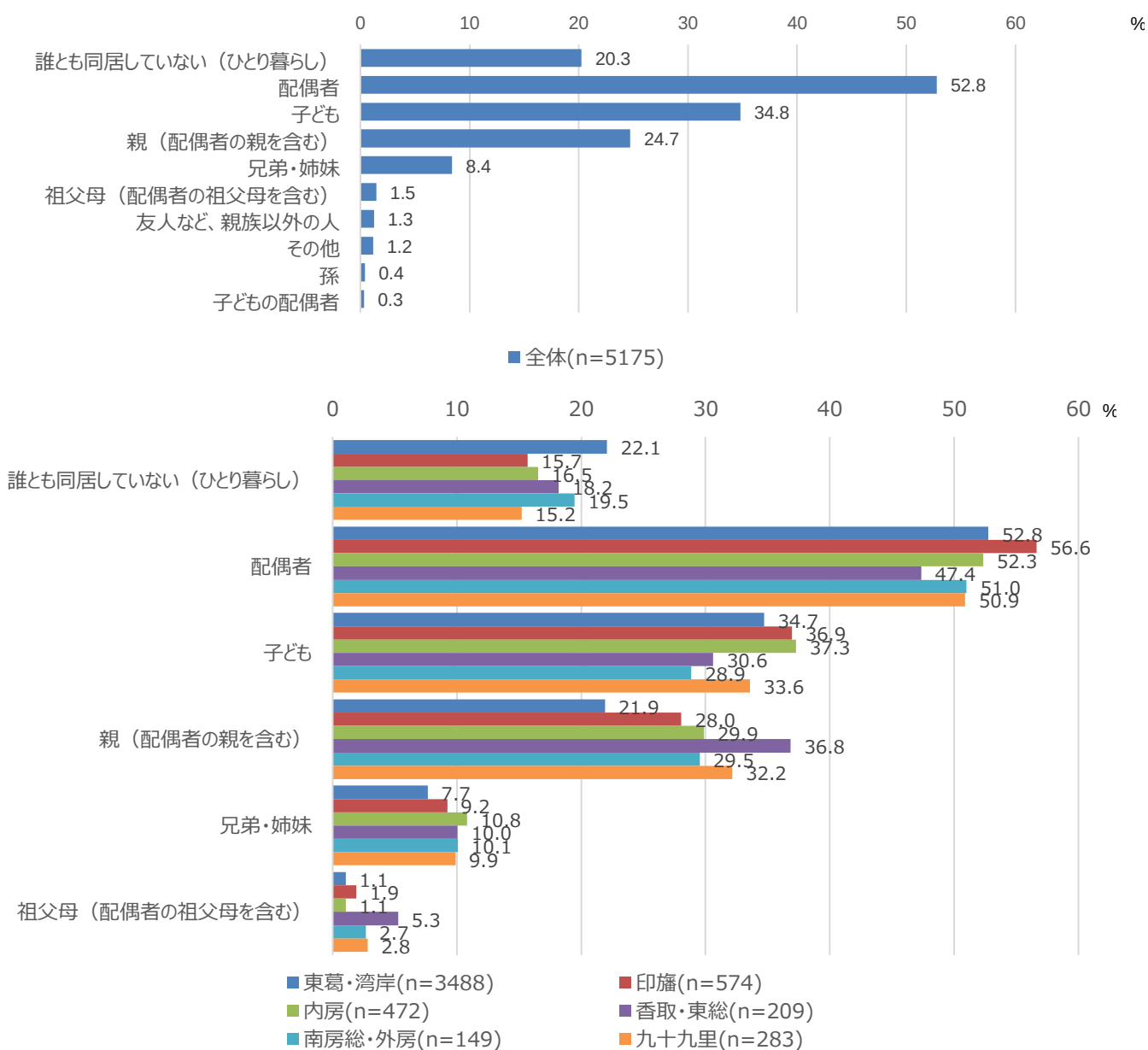


図 1-4 同居家族（複数回答可・%）【上図：全体，下図：エリア別抜粋】

また、同居家族が全員 65 歳以上（自身を含む）である割合は 3.7%であったが、この割合もエリアごとに差がみられた。多い順に、南房総・外房および九十九里 6.0%、印旛 5.6%、内房 4.4%、香取・東総 3.3%、東葛・湾岸 3.0%であった。

(2) 職業

〈sc6〉〈Q6-16,17〉

職業は、会社員（会社勤務・会社経営）がもっとも多く 37.4%であった。パート・アルバイトは 16.7%、専業主婦・主夫は 13.2%、無職は 11.2%である。

会社員の割合は、多い順に、東葛・湾岸 39.9%、内房 35.0%、印旛 34.8%、香取・東総 29.7%、九十九里 27.6%、南房総・外房 23.5%である。

なお、「この3年のあいだ（2020年4月～現在）に自身または同居者の失業があった」割合は 12.7%、同期間に「自身または同居者の転職があった」割合は 17.0%であった。いずれの割合も女性の方が若干高い。また、失業は 60 代、転職は 20 代の割合が若干高いが、エリアによる明確な差はみられなかった。

(3) 学歴

〈Q6-11〉

「大学を卒業している（在学中を含む）」率は 46.9%であった。

エリア別に差があり、大卒の割合が高い順に、東葛・湾岸 52.1%、印旛 44.3%、内房 35.6%、九十九里 32.5%、香取・東総 27.3%、南房総・外房 26.2%である。全体として、若い方が大卒率が高い傾向が若干みられるが（20 代 50.7%、60 代 49.8%）、エリア別の傾向は、エリア別の年齢層の傾向と類似しているといえる。

(4) 年収

〈Q29〉

「年収（税込み）」について尋ねた結果を図 1-5 および 6 に示す。個人年収については半数以上が 400 万円未満、世帯年収については半数以上が 800 万円未満である。

個人年収は性別で大きく異なり、男性が女性より高い（世帯年収はほぼ変わらない）。また、女性の方が「わからない」という回答が多い傾向がみられた。年代別には、個人年収がもっとも高いのが 40 代、次いで 50 代と 30 代であった。

エリア別の個人年収は、南房総・外房、次いで香取・東総エリアで若干低い傾向がみられるが、大きな差はみられなかった。

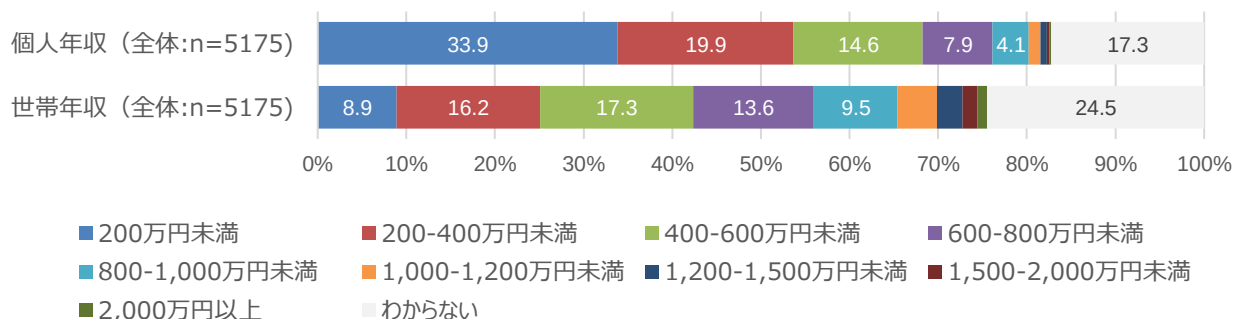


図 1-5 個人年収、世帯年収（％）

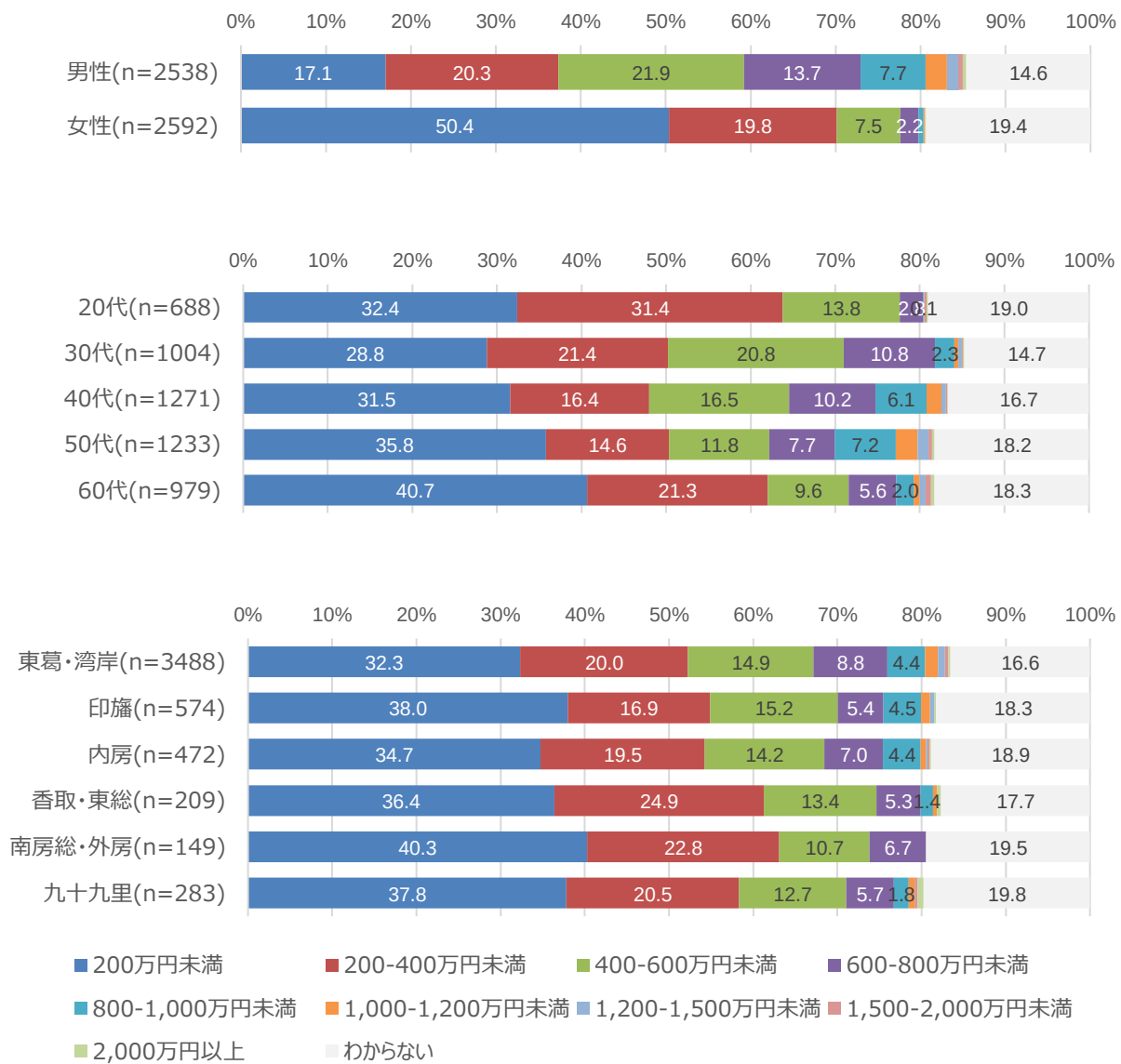


図 1-6 個人年収（％）【性別、年代別、エリア別】

2. 調査結果

2-1. 生活実態・習慣・生活実感

(1) 千葉県居住のタイミング

〈Q1〉

千葉県内に住み始めたタイミングは、「生まれてからずっと」が42.6%と最多であり、次いで「家族の移動に伴って移動」15.3%、「結婚・離婚」10.7%であった。

年代による違いは顕著で、「生まれてからずっと」の割合は若年層ほど高い。高齢層ほど高いのは「結婚・離婚」「住宅の事情」等である。

性別では、「生まれてからずっと」の割合は男女とも変わらないが、男性は「就職・就業」「転勤」等仕事関連、女性は「結婚・離婚」「家族の移動に伴って移動」といった家族関連の事情による居住が多いという特徴がみられた。

エリアによる差も大きい。たとえば「生まれてからずっと」の割合は、香取・東総では8割近く、南房総・外房では7割以上を占めるが、印旛では42.3%、東葛・湾岸では36.1%にとどまる。

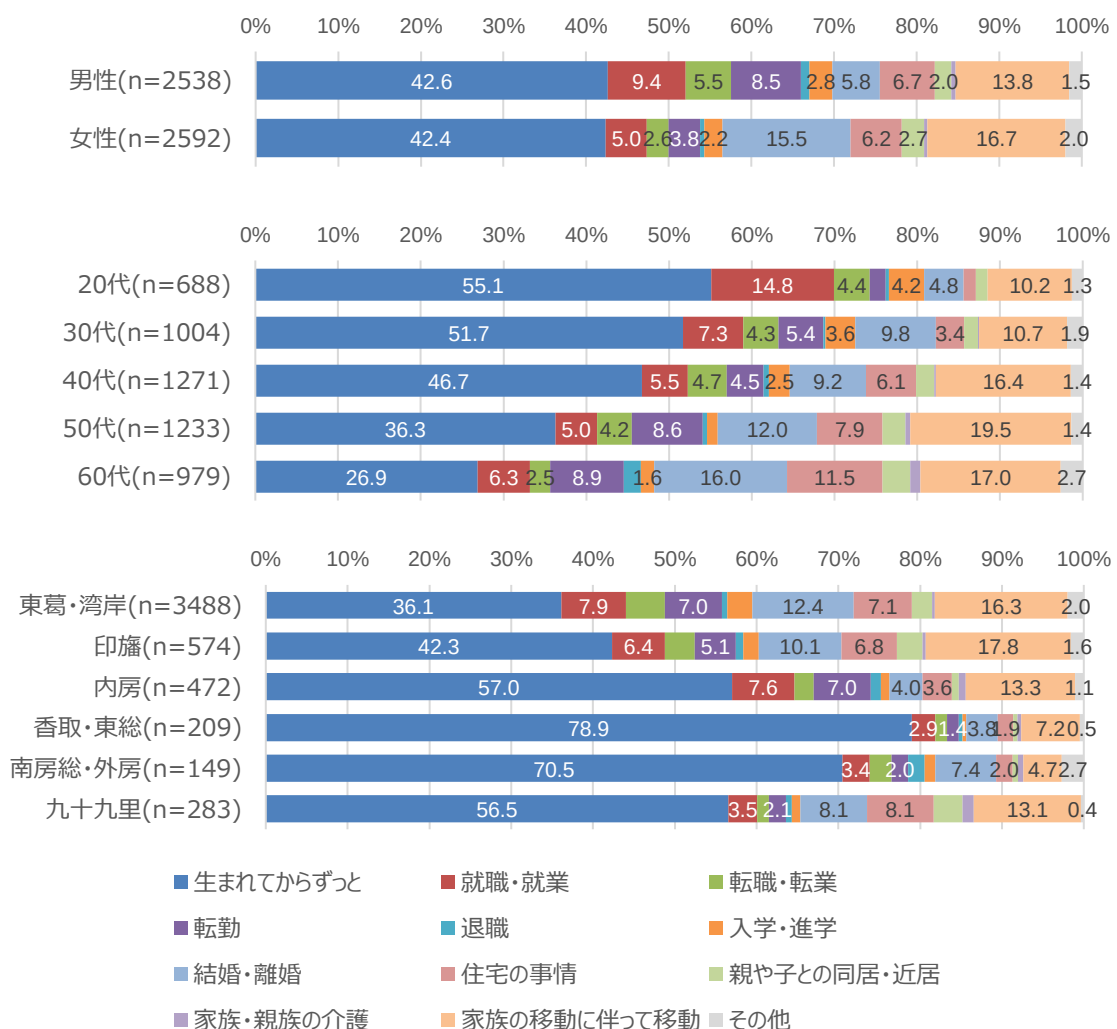


図 2-1 千葉県内居住のタイミング(%)【性別、年代別、エリア別】

(2) 住宅

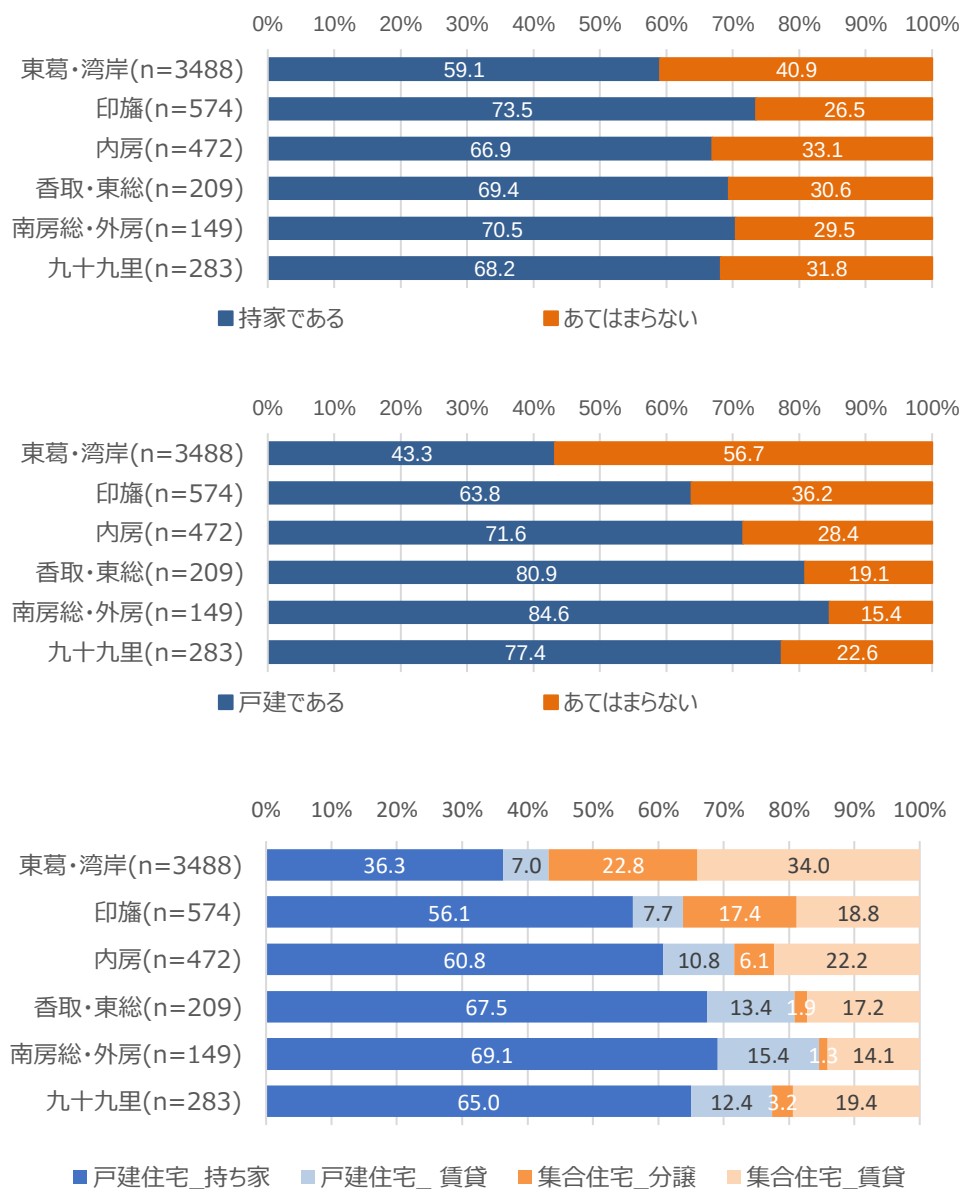
〈Q6-1,2〉

「今の住まい」が「持家（分譲マンション含む）である」割合は 63.6%、「戸建てである」割合は 52.7%であった。

持家率および戸建て率は、高年齢になるにしたがって徐々に高まる（持家率：20代 39.8%、30代 50.9%、40代 64.9%、50代 68.9%、60代 79.8% / 戸建て率：20代 35.6%、30代 45.7%、40代 54.3%、50代 58.6%、60代 62.3%）。

戸建て率はエリアによる違いも大きく、南房総・外房や香取・東総エリアでは 8 割超であるのに対し、東葛・湾岸エリアでは 5 割に満たないという結果であった。

なお、全体としては、戸建ての場合はほとんどが持家、戸建以外（集合住宅）の場合は賃貸が多い。ただし、東葛・湾岸および印旛エリアでは、賃貸ではない集合住宅（分譲マンション等）も少なくなかった。



※ 戸建て住宅に「あてはまらない」を集合住宅、持家に「あてはまらない」を賃貸と解釈

図 2-2 今の住まい (%)【エリア別】

(3) 主な交通手段

〈Q6-13～15〉

「ふだん自動車を運転している」率は48.8%、通勤・通学の交通手段として「鉄道（モノレール含む）を利用している」37.9%、「バスを利用している」は11.8%であった。

自動車運転率は、高年齢になるにしたがって徐々に高まる（20代34.0%、30代43.3%、40代50.9%、50代53.9%、60代55.8%）。通勤・通学のための公共交通手段利用率はこの逆である（鉄道：20代52.9%、30代39.8%、40代38.2%、50代35.4%、60代28.0%）。

エリア別には、東葛・湾岸エリアでは自動車運転率が比較的低く鉄道等利用率が高い、香取・東総や南房総・外房エリアではその逆という結果であった。

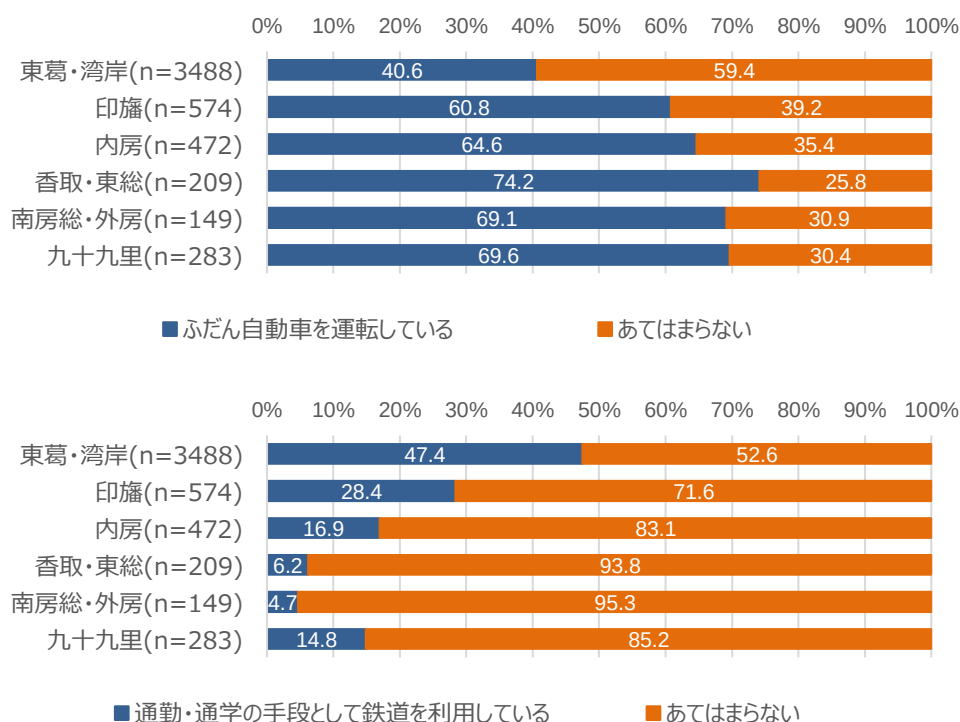


図 2-3 利用交通手段（%）【エリア別】

(4) 情報環境

〈Q16〉 〈Q6-12〉

パソコン等の所持、新聞・テレビ視聴、SNS 利用等の情報環境について、あてはまるか否かを聞いた結果を表 2-1 に示す。

スマートフォンの所持率（84.8%）と Facebook 利用率（16.7%）を除き、年代による顕著な差がみられた。年齢が高くなるにしたがって該当率が高くなるのは、「自宅に固定電話がある」（30 代 24.5%、60 代 71.4%）、「テレビのニュースをほぼ毎日見ている（含ネット配信）」（20 代 39.8%、60 代 77.2%）、「新聞を購読している（含電子版）」（20 代 8.6%、60 代 42.4%）、「県や市町村の広報紙に目をとおしている」（20 代 11.3%、60 代 47.1%）、「警察の広報誌に目をとおしている」（20 代 1.3%、60 代 12.9%）である。若いほど該当率が高いのは SNS の利用率であり、「X（旧 Twitter）を利用している」（20 代 64.8%、60 代 19.5%）、「Instagram を利用している」（20 代 64.5%、60 代 17.7%）、「TikTok を利用している」（20 代 30.2%、60 代 4.6%）、「YouTube を利用している」（20 代 75.9%、60 代 51.5%）等である。「LINE を利用している」（20 代 78.1%、60 代 62.5%）も同じ傾向ではあるが、その差は他に比べると小さく、高年齢層にも広く普及していることがわかった。

性別による差も若干みられた。「自分専用のパソコン（含タブレット）を持っている」は男性で多く、「家族共用のパソコン（含タブレット）を持っている」は女性で多い、Instagram や LINE の利用は女性の方が多などである。

エリアによる顕著な傾向はみられなかった。

表 2-1 情報環境（複数回答可・%）【年代別、男女別、全体】

情報環境（年代別、性別）	年代別					性別		全体
	20代 (n=688)	30代 (n=1004)	40代 (n=1271)	50代 (n=1233)	60代 (n=979)	男性 (n=2538)	女性 (n=2592)	(n=5175)
自分専用のパソコン（含タブレット）を持っている	52.5	46.2	50.9	56.9	63.9	64.2	44.6	54.1
家族共用のパソコン（含タブレット）を持っている	18.3	19.0	25.6	23.4	24.1	19.3	26.1	22.6
自宅に固定電話がある	29.1	24.5	44.8	62.9	71.4	50.9	45.8	48.1
スマートフォンを持っている	82.6	82.7	84.9	86.5	86.1	82.5	87.5	84.8
テレビのニュースをほぼ毎日見ている（含ネット配信）	39.8	46.5	58.5	65.2	77.2	58.0	60.0	58.8
新聞を購読している（含電子版）	8.6	12.2	21.5	30.0	42.4	27.5	20.7	23.9
県や市町村の広報紙に目をとおしている	11.3	17.6	25.2	30.7	47.1	25.2	29.7	27.3
警察の広報紙に目をとおしている	1.3	2.1	3.8	4.9	12.9	5.3	5.0	5.1
X（旧 Twitter）を利用している	64.8	45.0	36.7	28.5	19.5	36.9	37.1	36.9
Facebook を利用している	11.6	19.2	17.4	15.1	18.6	18.9	14.7	16.7
Instagram を利用している	64.5	42.9	31.9	21.7	17.7	24.9	41.7	33.3
LINE を利用している	78.1	70.0	63.7	61.2	62.5	58.9	73.5	66.0
TikTok を利用している	30.2	12.5	8.9	5.7	4.6	9.1	12.6	10.9
YouTube を利用している	75.9	65.9	61.2	54.4	51.5	62.7	58.8	60.6
あてはまるものはない	7.1	7.1	6.5	4.9	3.1	6.1	4.7	5.7

表 2-2 情報環境（複数回答可・％）【エリア別、全体】

情報環境（エリア別）	東葛・湾岸 (n=3488)	印旛 (n=574)	内房 (n=472)	香取・東総 (n=209)	南房総・外 房(n=149)	九十九里 (n=283)	全体 (n=5175)
自分専用のパソコン（含タブレット）を持っている	54.6	52.6	54.4	46.9	54.4	55.1	54.1
家族共用のパソコン（含タブレット）を持っている	23.4	27.5	16.3	18.2	14.8	20.1	22.6
自宅に固定電話がある	45.8	53.8	49.8	53.6	52.3	56.9	48.1
スマートフォンを持っている	84.5	87.1	83.5	88.0	81.2	84.5	84.8
テレビのニュースをほぼ毎日見ている（含ネット配信）	58.1	65.3	59.5	60.3	53.7	54.4	58.8
新聞を購読している（含電子版）	22.8	27.0	25.0	28.7	24.8	25.8	23.9
県や市町村の広報紙に目をとおしている	25.1	34.5	28.2	32.5	33.6	31.4	27.3
警察の広報紙に目をとおしている	4.0	7.8	6.4	8.1	9.4	6.4	5.1
X（旧 Twitter）を利用している	39.5	32.8	33.1	30.1	22.8	31.4	36.9
Facebookを利用している	17.4	16.2	16.5	14.4	10.7	13.8	16.7
Instagramを利用している	34.3	32.2	32.2	34.9	26.2	27.2	33.3
LINEを利用している	66.3	69.5	66.1	64.1	54.4	62.9	66.0
TikTokを利用している	10.3	10.8	14.6	14.4	12.1	8.8	10.9
YouTubeを利用している	60.9	61.8	60.6	62.7	53.0	57.2	60.6
あてはまるものはない	5.9	4.4	4.7	4.8	8.1	6.7	5.7

「よく読書をする（電子書籍を含む）」に対して「あてはまる」は全体で 32.1%であった。性別による差はわずかだが（男性 31.3%、女性 32.6%）、年代による差があり、年齢が高くなる程、読書をしている率が徐々に高まることがわかった。

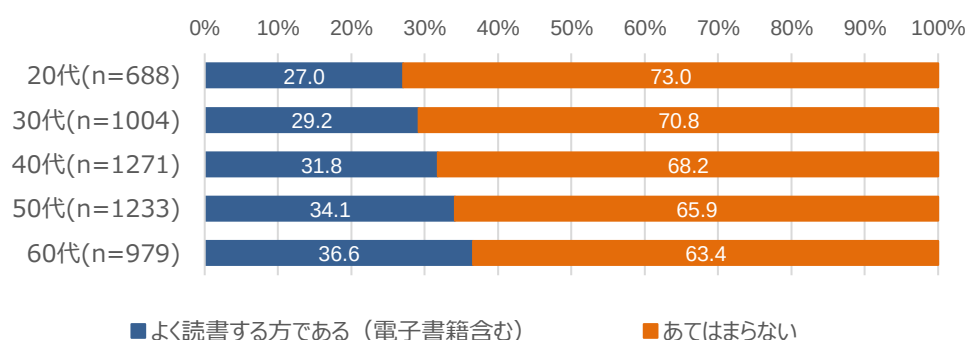


図 2-4 「よく読書をする方である」（％）【年代別】

(5) 健康行動・意識

〈Q27-1～4〉

「毎日たばこを吸っている」「毎日お酒を飲んでいる」は2割前後、「毎日2食以上は野菜を食べている」は53.6%、「健康状態はとてもよい」は55.5%という結果であった（4件法。「あてはまる」＋「どちらかといえばあてはまる」の合計）。

性別・年代別にみると、「たばこ」「お酒」については男性・高齢の方が、「野菜」については女性・高齢の方が該当者が多かった。「健康状態はとてもよい」については、性別による差はほとんどなく、年代では、60代に該当者が若干多いという傾向がみられた。

エリア別の差は顕著ではないが、若干の差がみられる項目があった。「たばこ」は九十九里、次いで南房総・外房で該当者が多く、印旛、東葛・湾岸で少なかった。「野菜」「健康状態はとてもよい」は、南房総・外房で該当者が少ないという傾向がみられた。

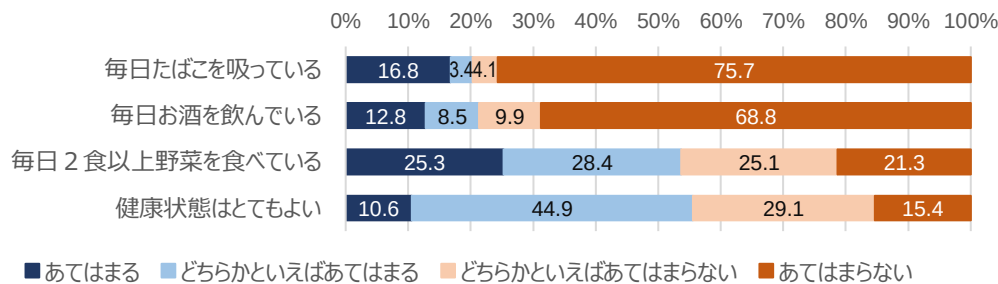


図 2-5 健康行動・意識（％）【全体】

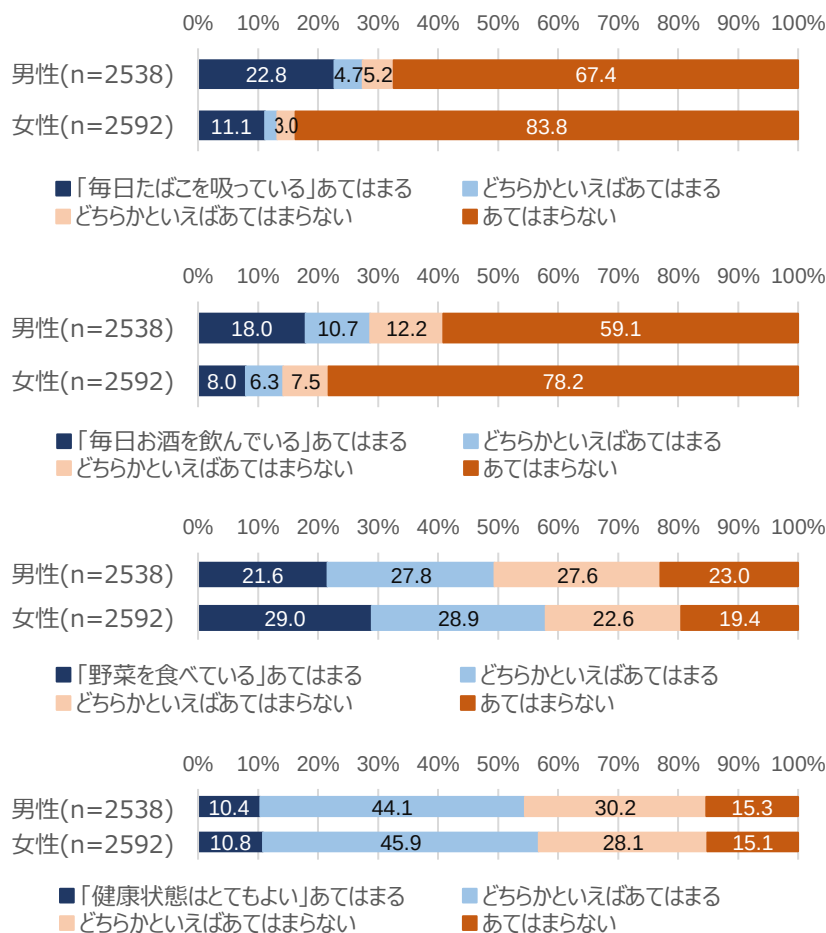


図 2-6 健康行動・意識（％）【男女別】

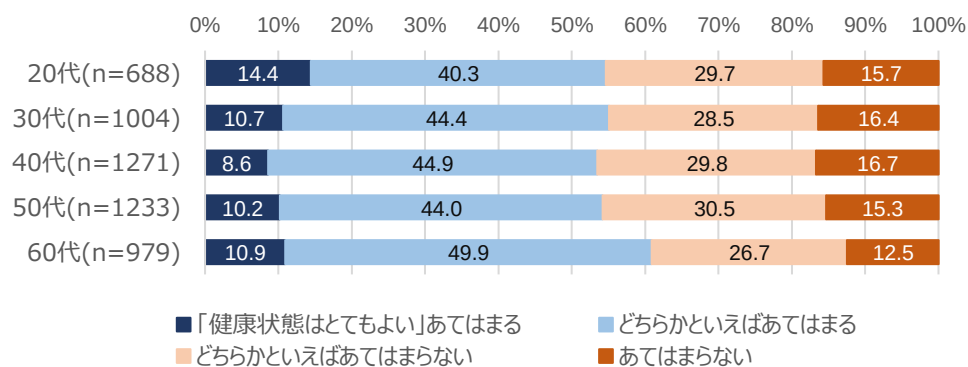
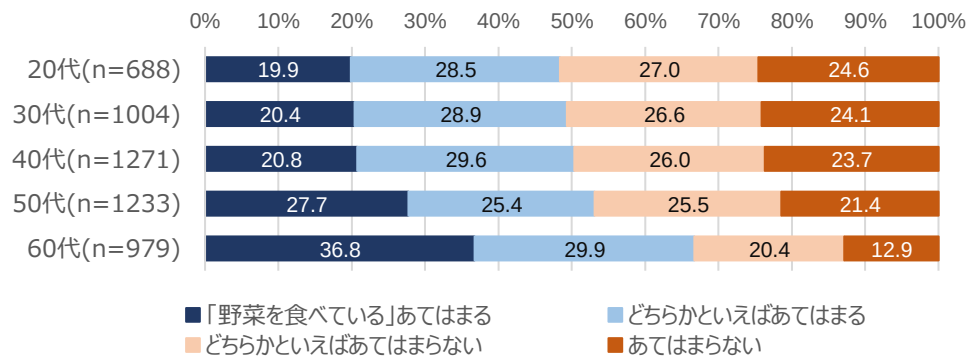
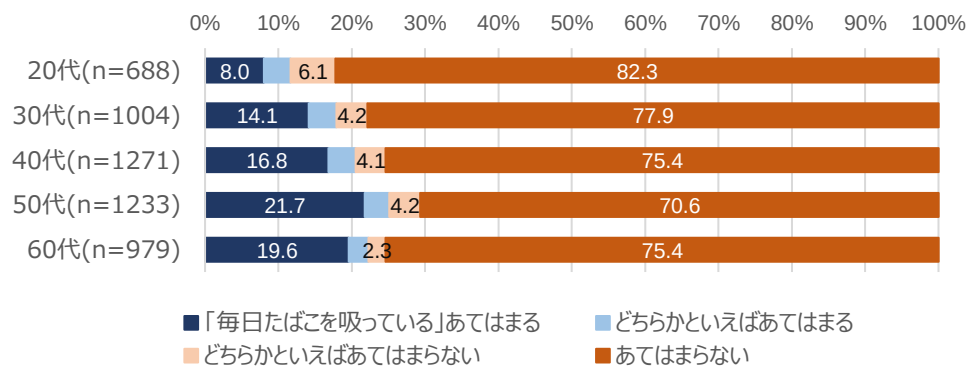
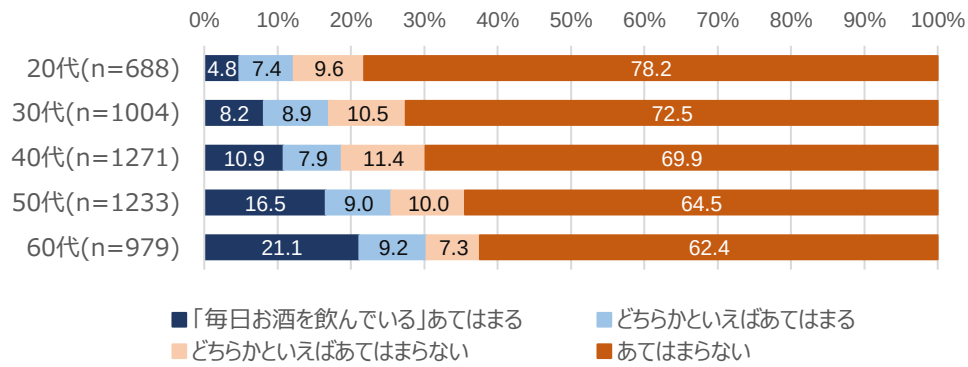


図 2-7 健康行動・意識 (%)【年代別】

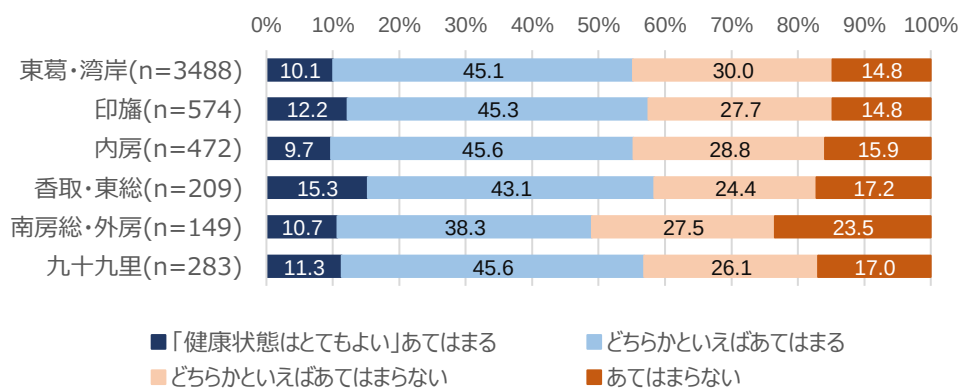
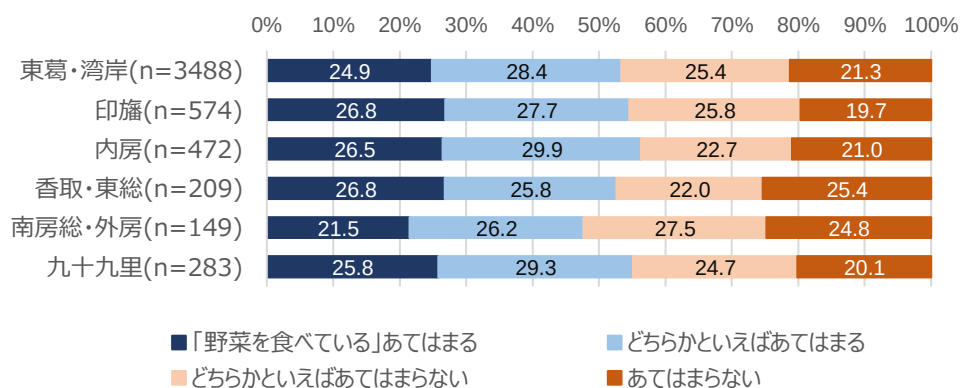
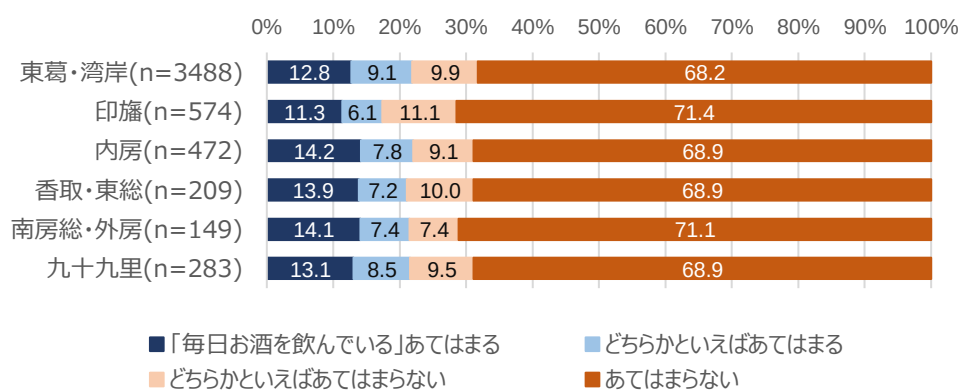
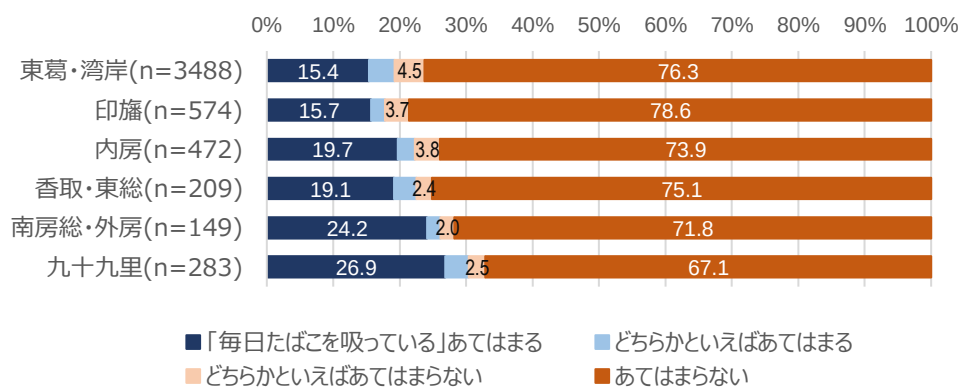


図 2-8 健康行動・意識 (%)【エリア別】

(6) ゆとり・階層意識

〈Q27-5～8〉

「時間的なゆとりを感じる」は51.2%と半数以上、「精神的なゆとりを感じる」は42.8%、「経済的なゆとりを感じる」および「生活の程度は平均よりも上のほうだと思う」は33%前後という結果であった（4件法。「あてはまる」＋「どちらかといえばあてはまる」の合計）。

年代別にみると、60代がもっとも「ゆとりを感じる」世代、40代がその逆であることがわかる。中でも顕著に60代の該当者が多いのは「時間的なゆとり」と「精神的ゆとり」である。

エリア別では、「経済的なゆとり」および「生活の程度が平均より上」においてエリアによる傾向がみられた。南房総・外房、香取・東総等では「経済的なゆとり」を感じる割合、および「生活の程度が平均より上」と感じる割合が低い。

性別では、ほとんど差がなかった。

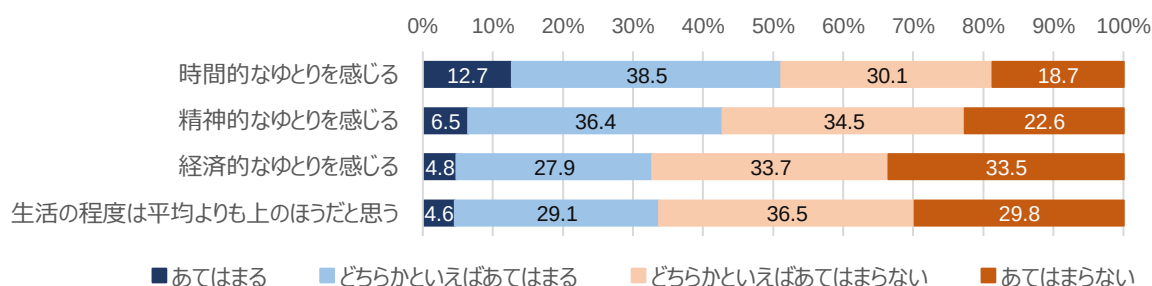


図 2-9 ゆとり・階層意識 (%)【全体】

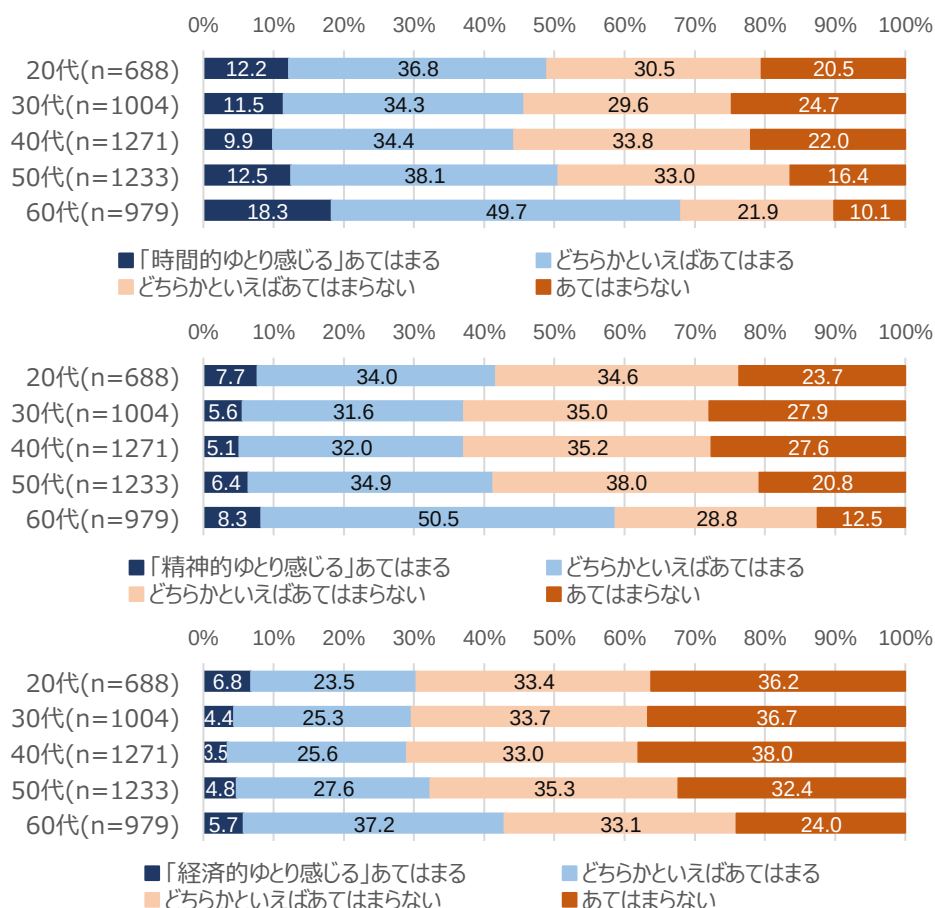


図 2-10-1 ゆとり・階層意識 (%)【年代別】

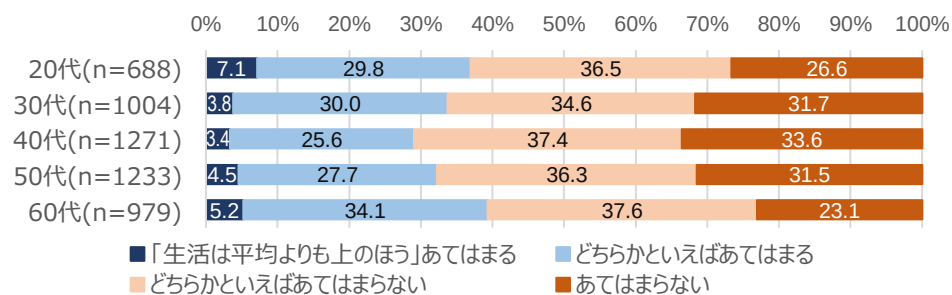


図 2-10-2 ゆとり・階層意識 (%)【年代別】(続き)

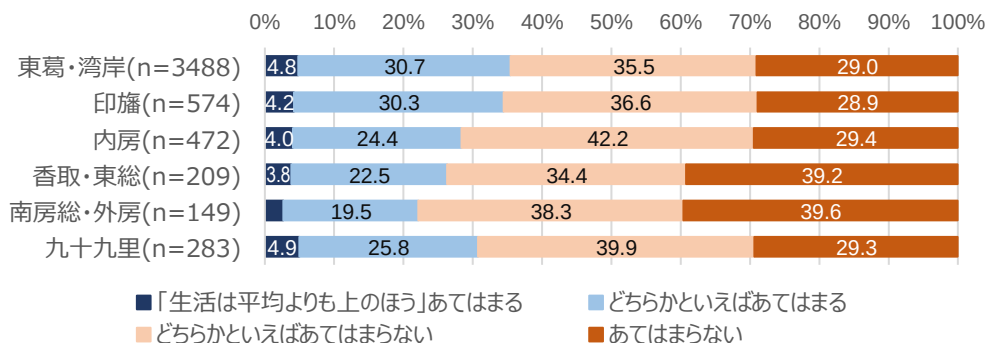
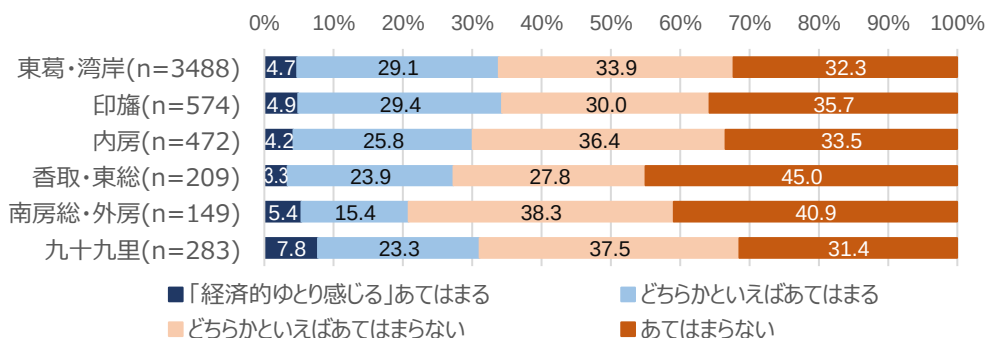
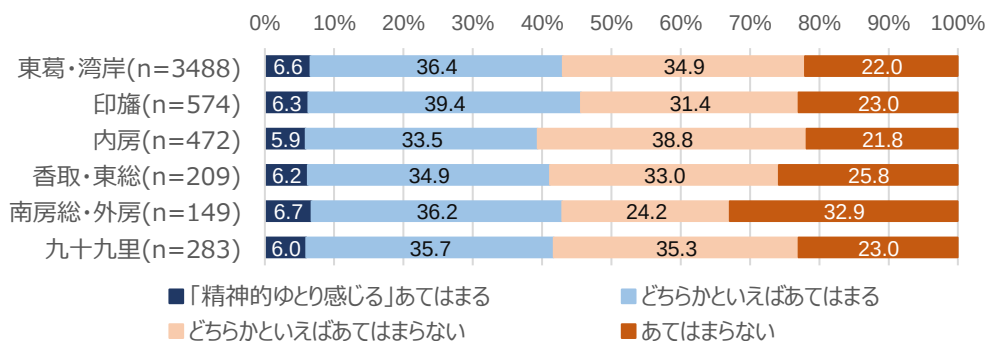
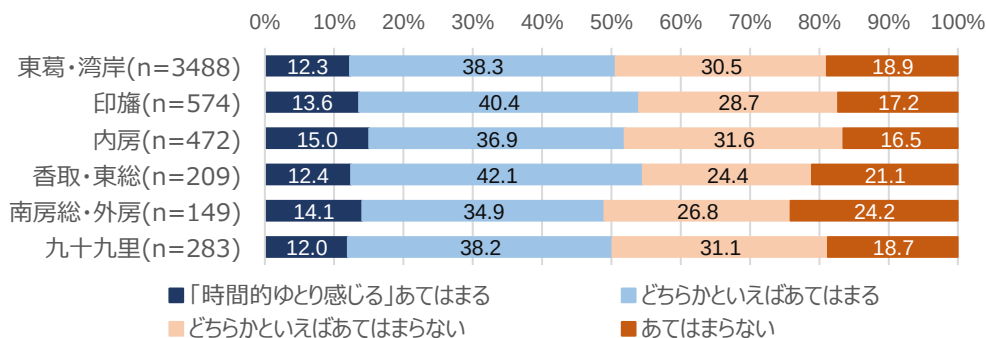


図 2-11 ゆとり・階層意識 (%)【エリア別】

2-2. 交流・サポート・福祉

(1) 家族・友人等との交流

〈Q4〉

電話や手紙、インターネット上のやりとりも含めた交流の頻度について聞いた結果を図 2-12 に示す。「同居している家族」のみ、ひとり暮らしを除いた 4,127 人の結果であるが、もっとも交流の頻度が多いのは「同居家族」であることがわかる。

いずれの項目においても「該当する人がいない」の割合が少なくない。「ボランティア活動の仲間」「インターネット上でつながっている人」は半数以上、「趣味や習い事の仲間」は半数頻度、「別居している家族」「職場やアルバイト先の人」は 2 割以上が該当者なしである。

図 2-13 は、該当者なしを除いた交流の頻度（4 件法）の結果で、「よく交流している」を 4 点、「まったく交流していない」を 1 点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。もっとも交流しているのが「家族」、次いで「友人」と「職場やアルバイト先の人」であった。該当者なしを除くと、「隣近所の人」と「インターネット上でつながっている人」は同頻度の交流といえる。

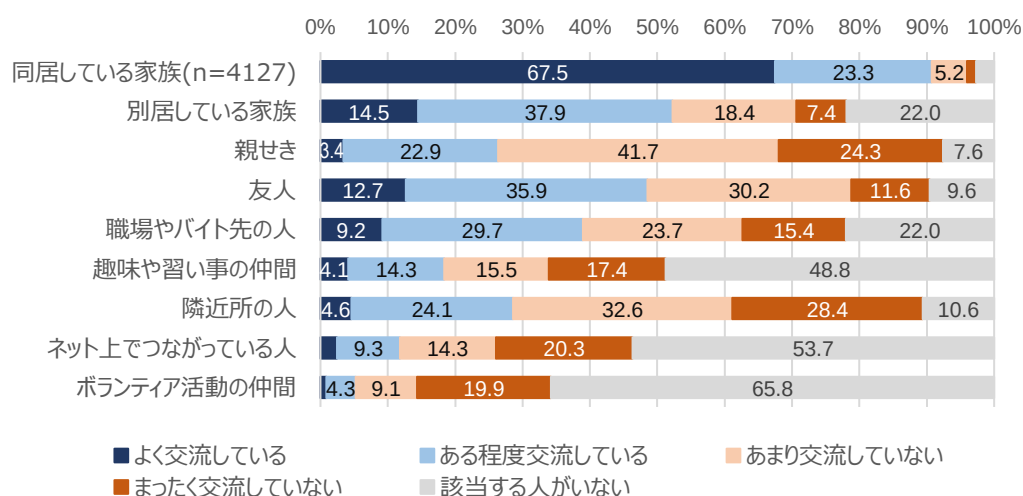


図 2-12 家族・友人等との交流（％）【全体】

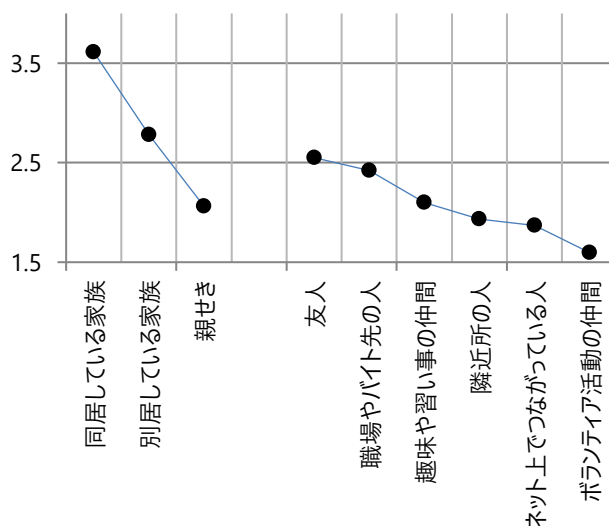


図 2-13 家族・友人等との交流「該当する人がいない」を除いた平均点【全体】

性別によって、該当者なしの割合が異なる項目に一定の傾向がみられた。該当者なしの割合は、男性では「同居家族」（男 3.1%女 2.2%）、「別居家族」（男 21.7%女 15.0%）、「親せき」（男 8.7%女 6.3%）、「隣近所」（男 9.9%女 6.6%）、「友人」（男 11.7%女 7.2%）が若干多く、女性では「職場やアルバイト先の人」（男 17.5%女 26.2%）、「趣味や習い事の仲間」（男 43.9%女 53.3%）、「ボランティア活動の仲間」（男 60.8%女 70.6%）、「インターネット上でつながっている人」（男 50.0%女 57.4%）が多いという結果である。

該当者なしを除いた交流の頻度の平均点グラフ（図 2-14）をみると、どの項目でも女性の方が交流の頻度が多いことがわかる。以上より、交友範囲は男性の方が広めであり、女性は家族親せきや隣近所に限られる傾向があるが、相対的に交流の頻度は女性の方が高いといえる。

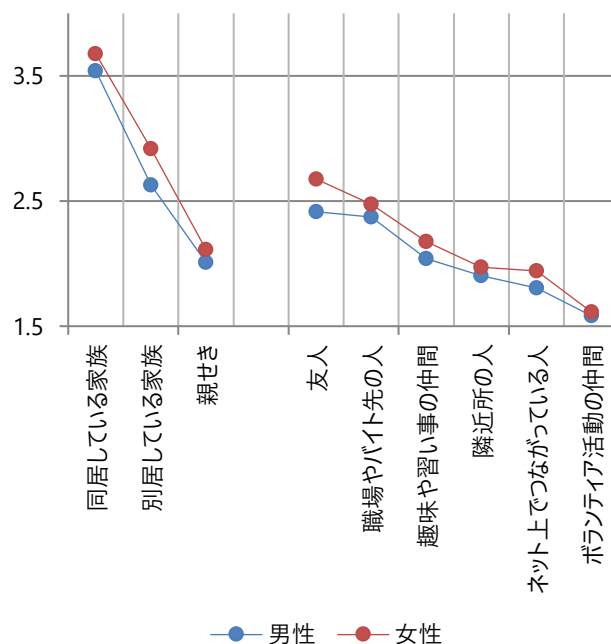


図 2-14 家族・友人等との交流「該当する人がいない」を除いた平均点【男女別】

年代別でも、該当者なしの割合が異なる項目に傾向がみられた。該当者なしの割合は、家族、親せき、隣近所では高齢者の方が若干多く、職場、インターネットは若年層の方が多い。友人、趣味等の仲間などについてはまちまちである。

該当者なしを除いた交流の頻度の平均点グラフ（図 2-15）をみると、各年代のうち、とくに 20 代と 60 代に特徴があることが分かる。20 代は、「隣近所の人」を除き、他の世代よりも総じて交流の頻度が多いといえる。とくに「友人」「インターネット上でつながっている人」などに顕著である。60 代は、20 代に次いで交流の頻度が多い世代といえるが、顕著なのは「隣近所の人」との交流である。

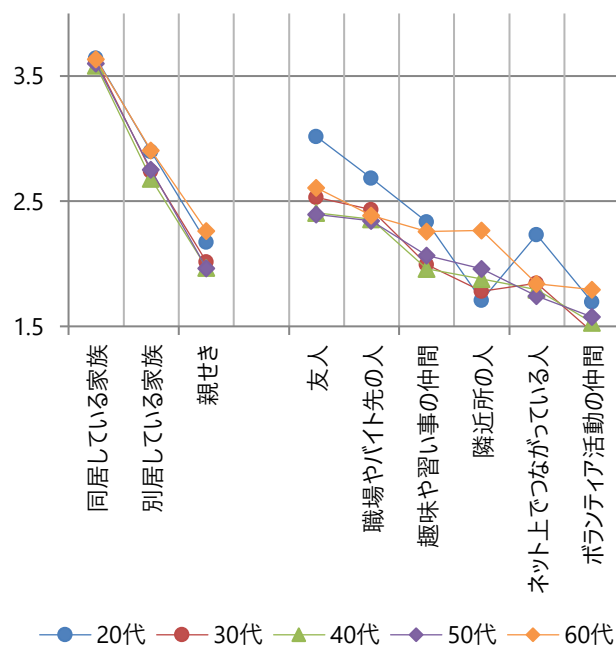


図 2-15 家族・友人等との交流「該当する人がいない」を除いた平均点【年代別】

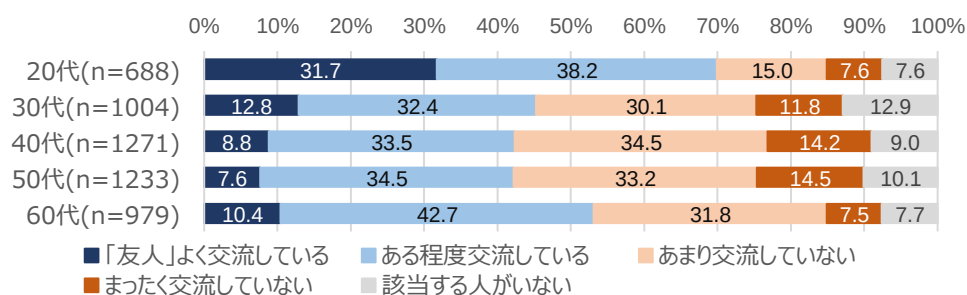
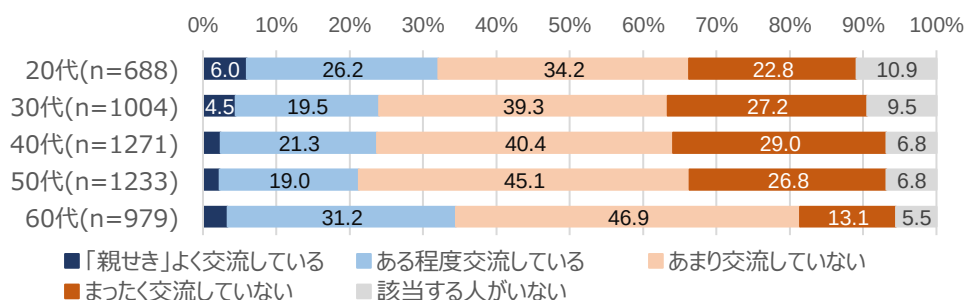
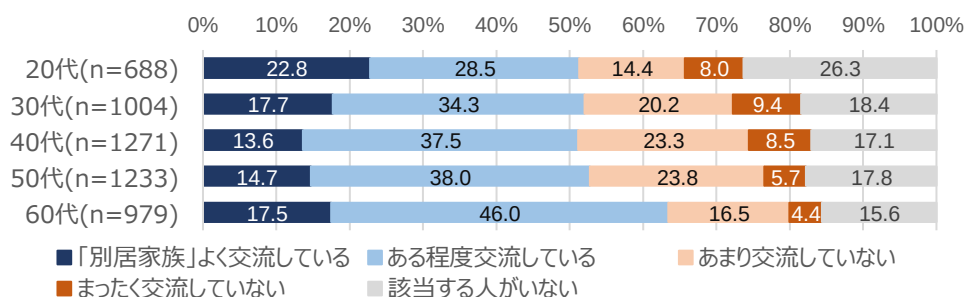


図 2-16-1 家族・友人等との交流（％）【年代別】

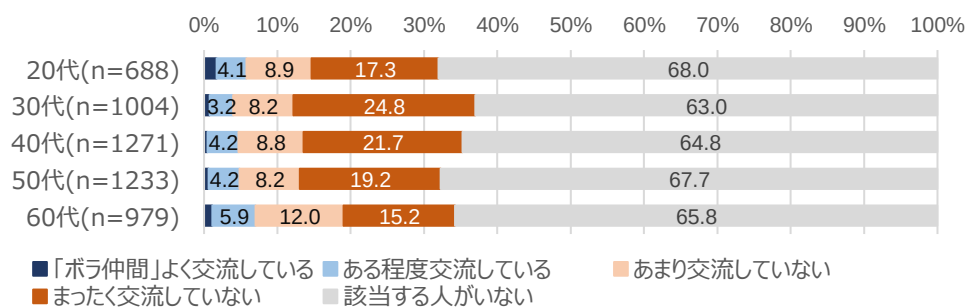
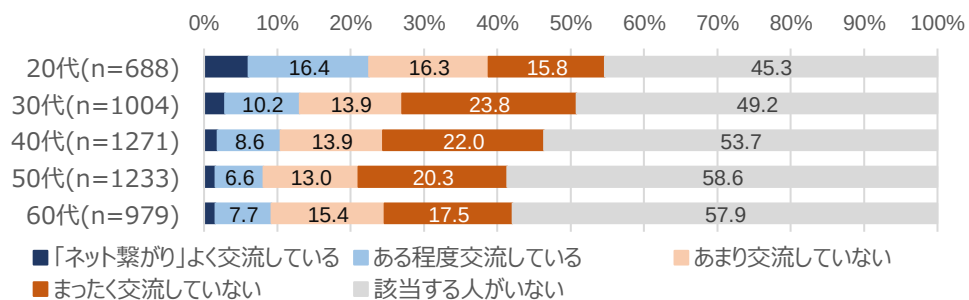
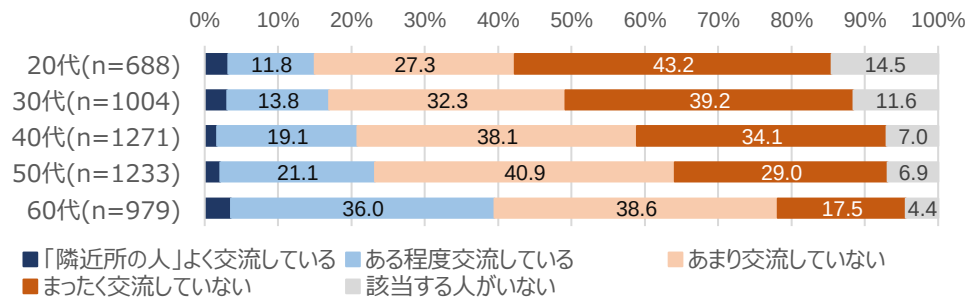
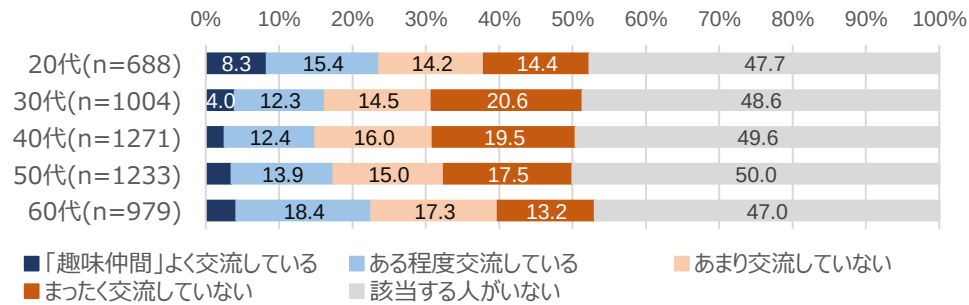
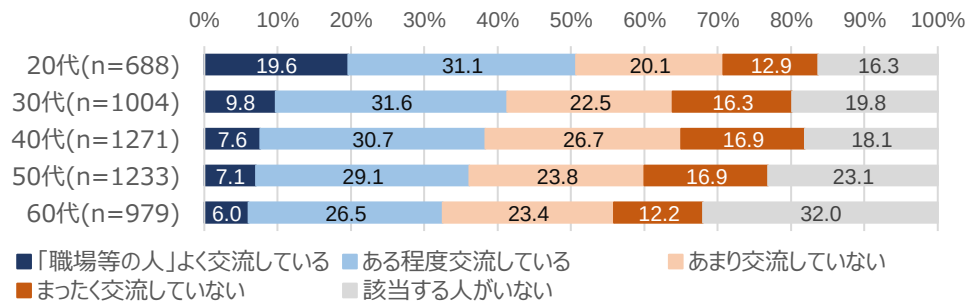


図 2-16-2 家族・友人等との交流（％）【年代別】（続き）

エリア別では、該当者なしの割合が異なる項目に、性別や年代別のような顕著な傾向はみられない。該当者なしを除いた平均点グラフ（図 2-17）をみると、とくに「隣近所の人」との交流の頻度に違いがみられ、南房総・外房では交流の頻度が多く、東葛・湾岸では少ないことがわかる。

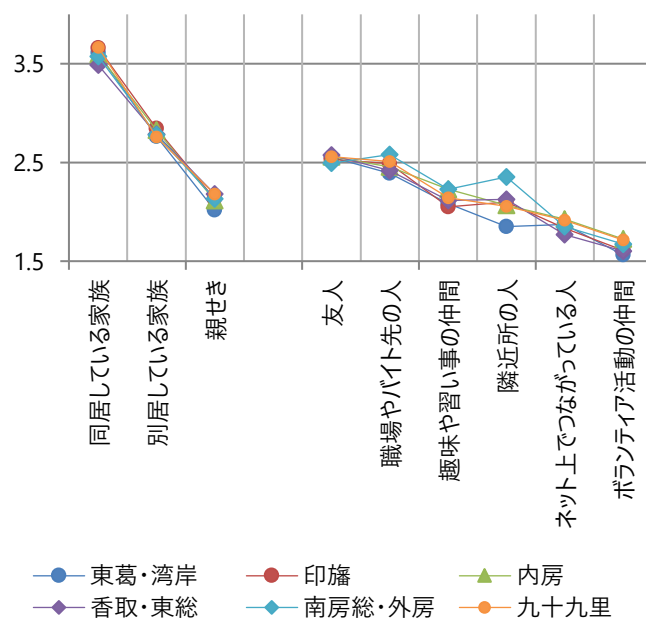


図 2-17 家族・友人等との交流「該当する人がいない」を除いた平均点【エリア別】

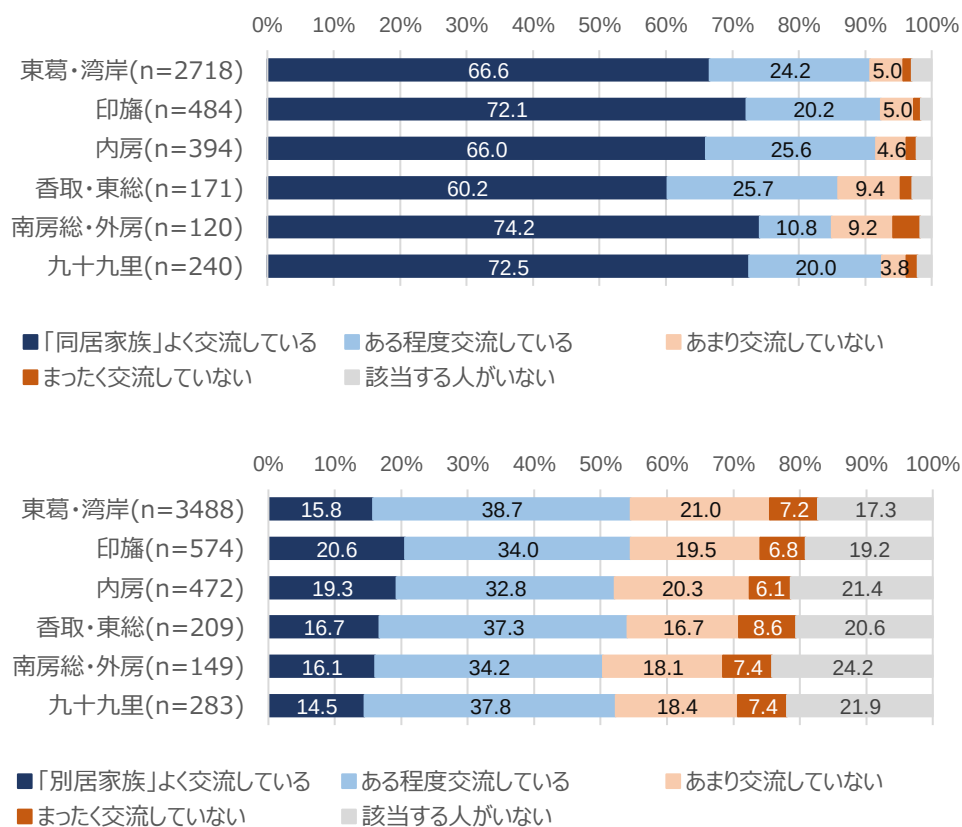


図 2-18-1 家族・友人等との交流（%）【エリア別】

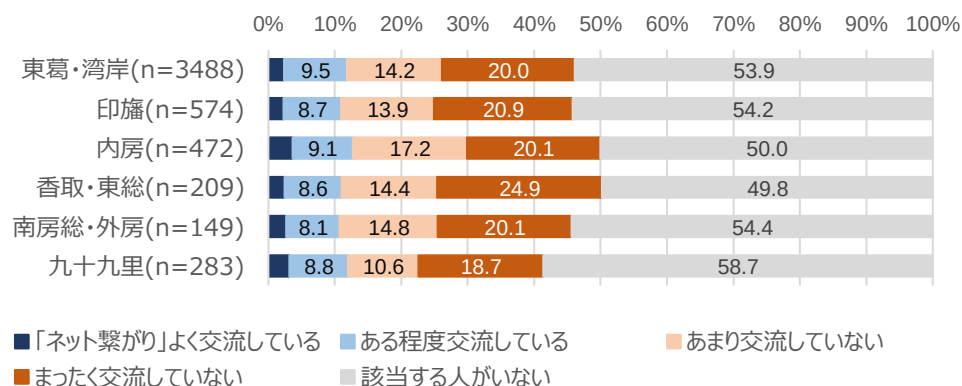
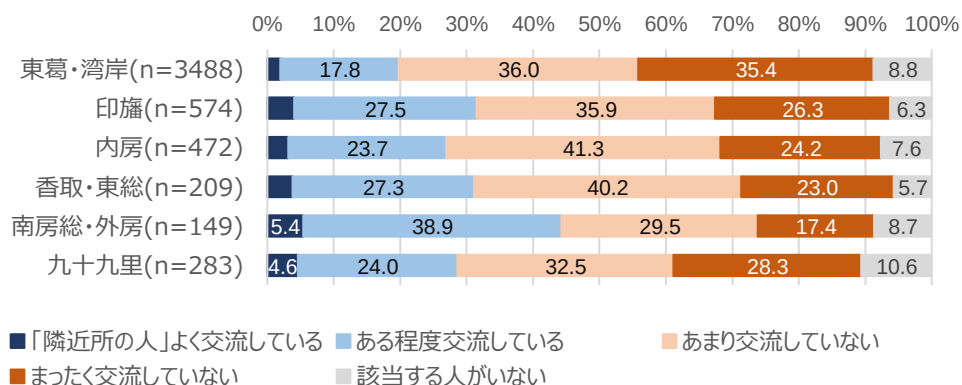
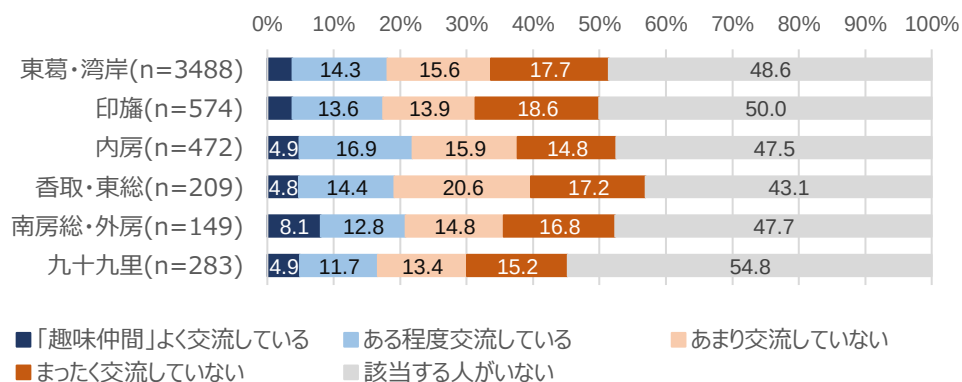
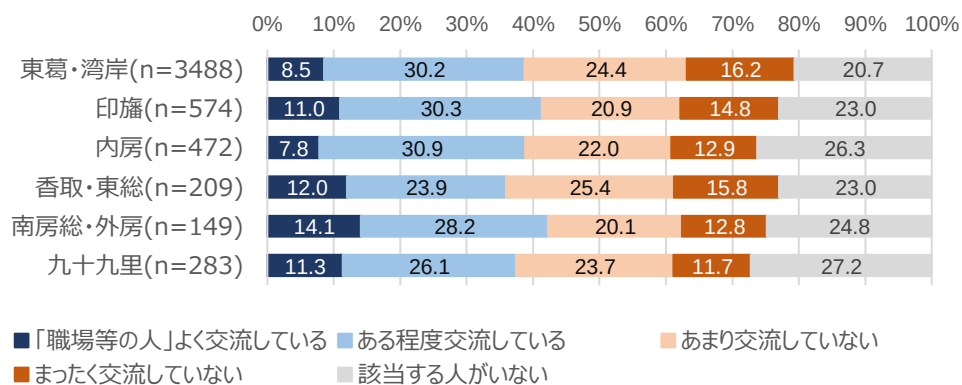


図 2-18-2 家族・友人等との交流（%）【エリア別】（続き）

(2) ソーシャル・サポート（心理的支援になる人）

〈Q5〉

心理的支援になる人の存在等について4件法で聞いた結果を図2-19に示す。

いずれの項目においても、「あてはまる」側の肯定的な回答が多い。とくに「家族」（図2-19上段）については7割前後が肯定的な回答である。

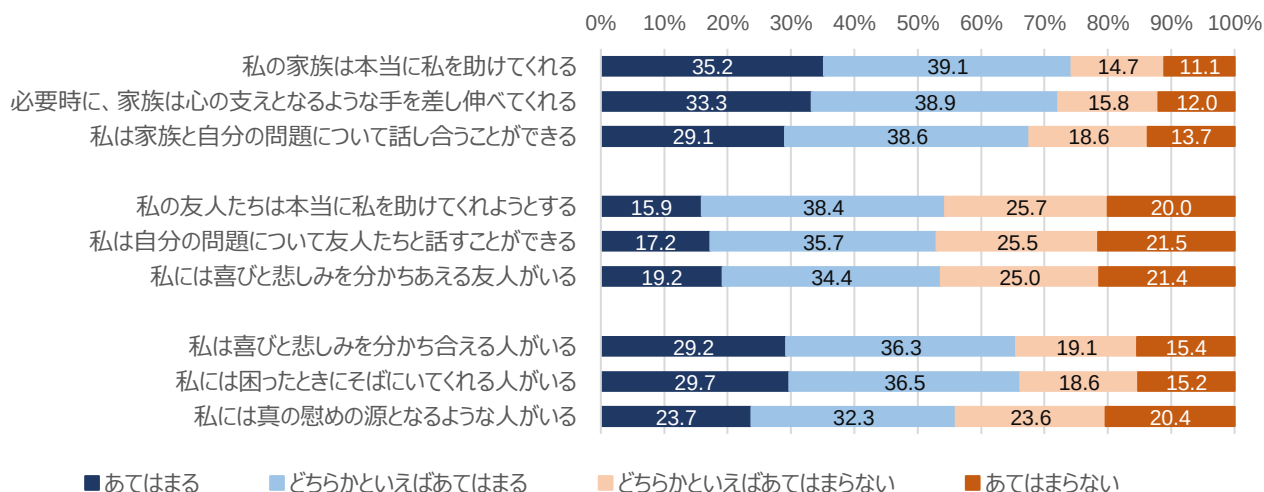


図2-19 心理的支援になる人（％）【全体】

性別、年代によって一定の傾向がみられた。

図2-20および21は、「あてはまる」を4点、「あてはまらない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。どの項目に関しても、男性より女性の方が明らかに肯定的な回答が多い。年代では、20代で肯定的な回答が多く、とくに「友人」に関する項目において顕著である。また、20代に次いで、60代に肯定的な回答が多いことも特徴的である。

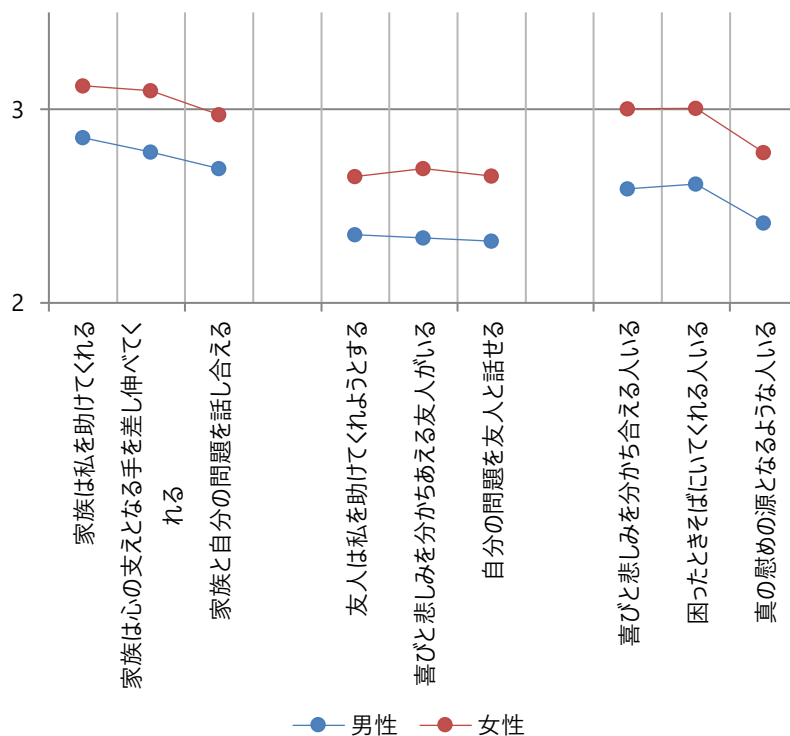


図2-20 心理的な支援になる人 平均点【男女別】

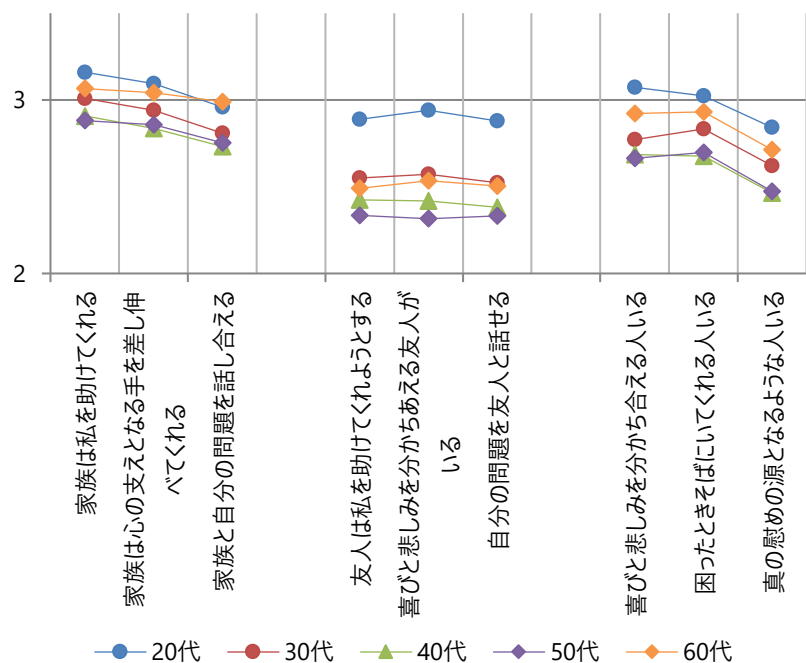


図 2-21 心理的な支えになる人 平均点【年代別】

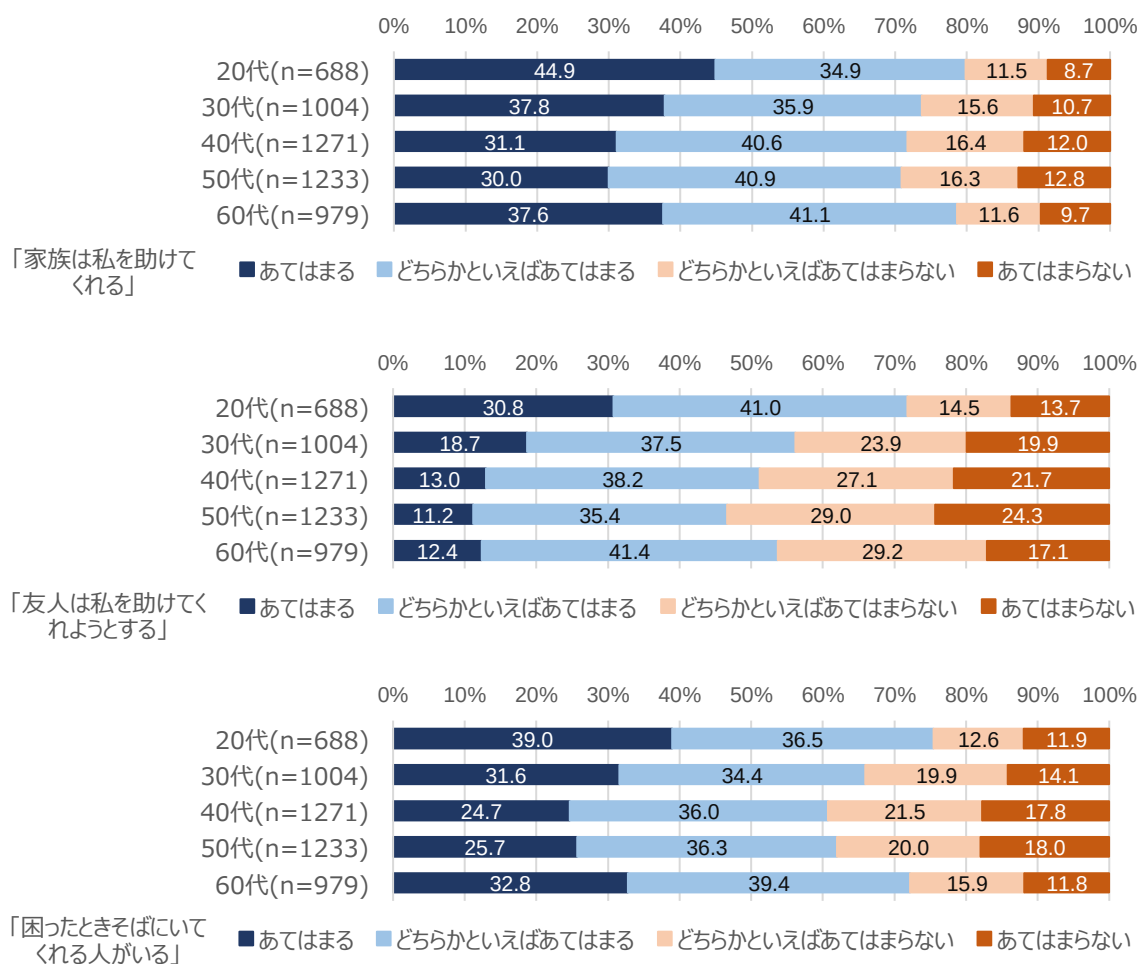


図 2-22 心理的な支えになる人（％）【年代別】

エリアによる有意差はなかったが、印旛において若干肯定的な回答が多いという傾向がみられた。

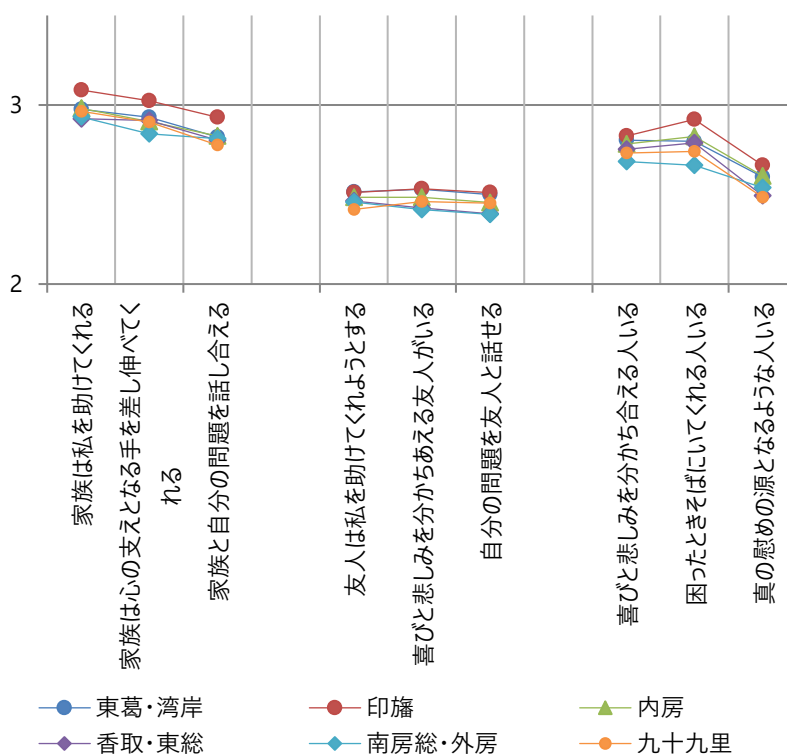


図 2-23 心理的な支えになる人 平均点【エリア別】

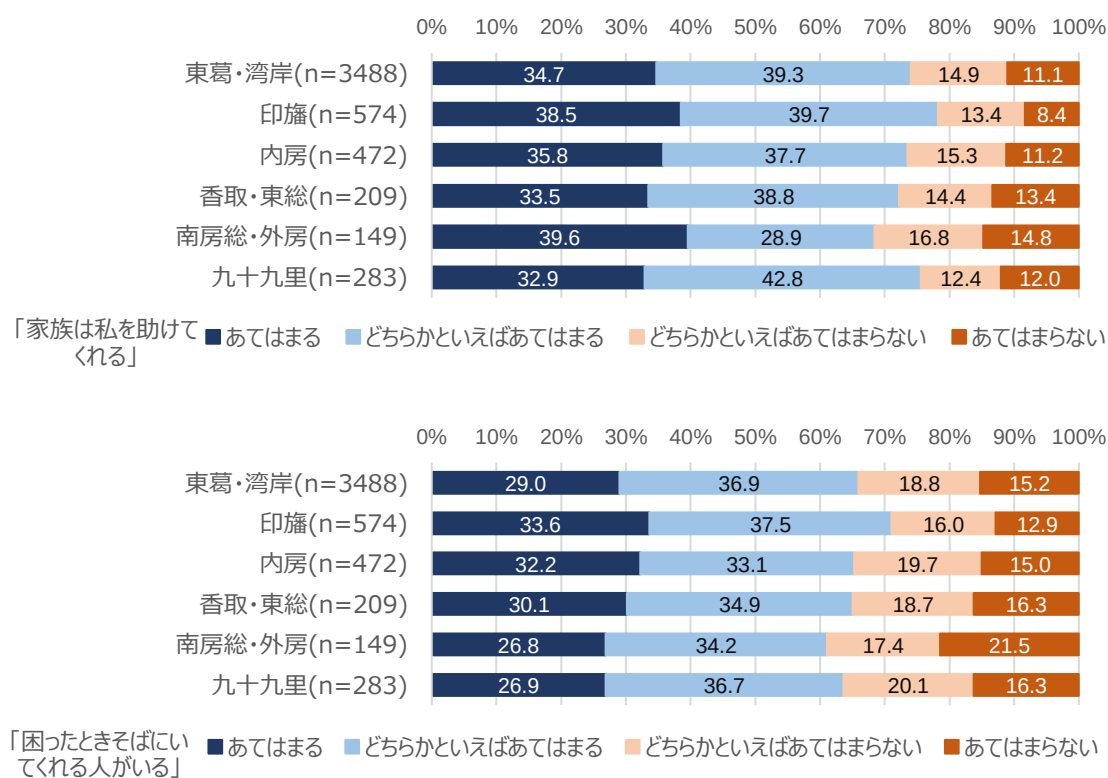


図 2-24 心理的な支えになる人（％）【エリア別】

(3) 孤独感・ストレス・幸福感

〈Q25〉 〈Q26〉 〈Q9-1〉

1) 孤独感

日々の生活において孤独感などを感じる頻度について 5 件法で聞いた結果を図 2-25 に示す。

どの項目も「しばしば・常にある」は少ないが、「時々ある」「たまにある」を加えると、「人とのつきあいが無いと感じることがある」は 6 割以上、「他の人たちから孤立していると感じることがある」「孤独であると感じることがある」「自分を取り残されていると感じることがある」は 5 割以上、「本気で自殺したいと考えることがある」は 3 割程度という結果である。

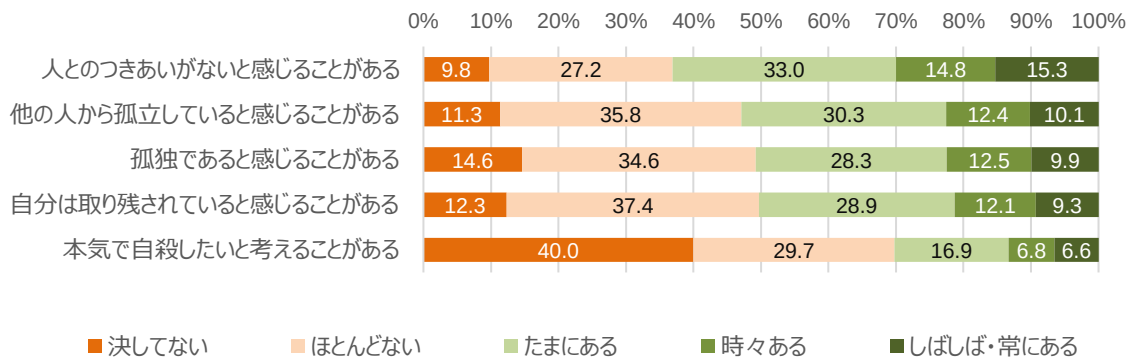


図 2-25 孤独感などを感じる頻度 (%)【全体】

年代別にみると、全体的に 60 代が孤独感などを感じる頻度が少ない、「自殺したいと考えることがある」は若いほど多い傾向があるといった特徴がみられた。性別による差はみられない。

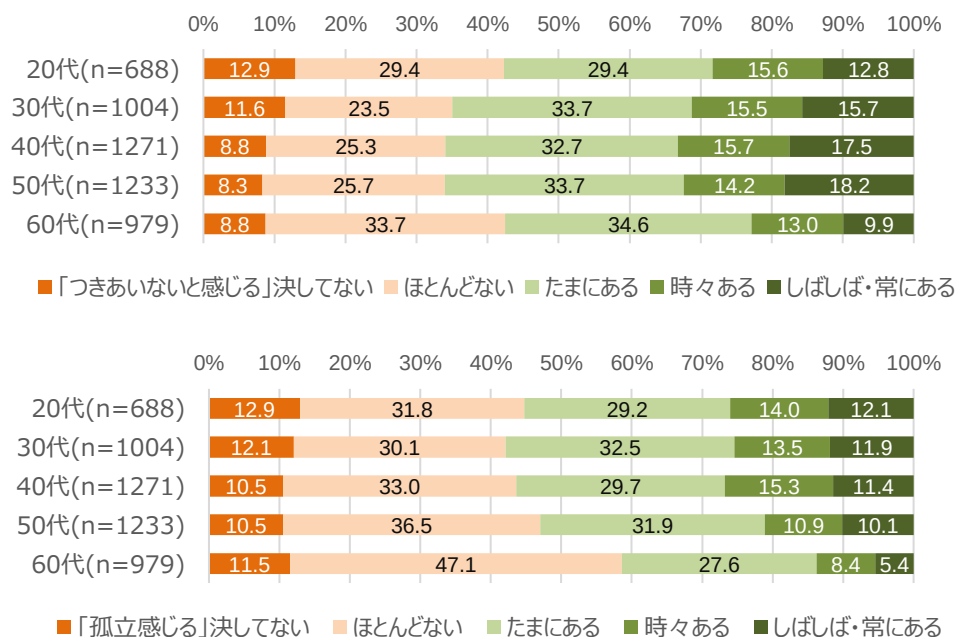


図 2-26-1 孤独感などを感じる頻度 (%)【年代別】

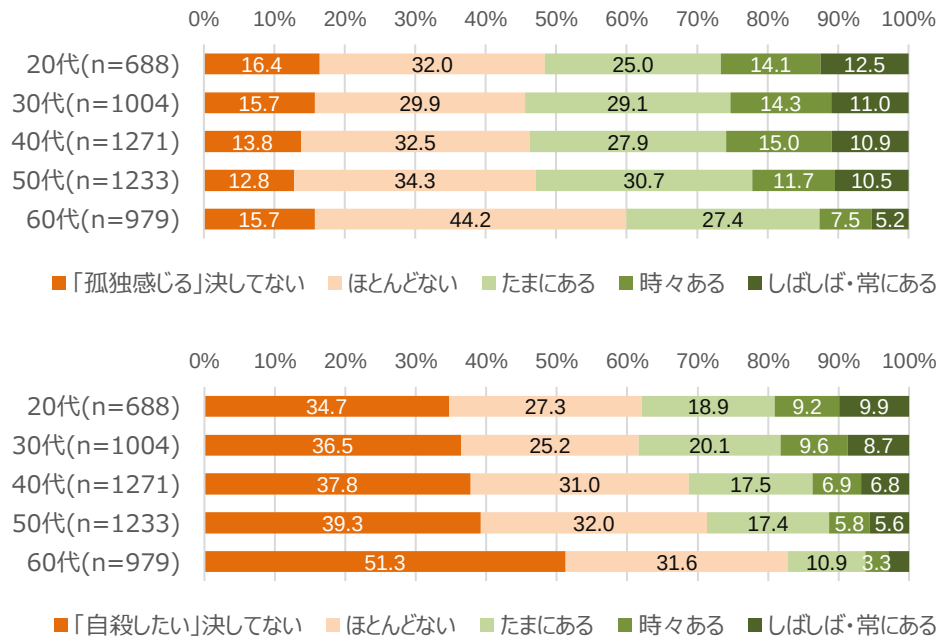


図 2-26-2 孤独感などを感じる頻度（％）【年代別】（続き）

エリア別では、「自殺したいと考えることがある」を除く多くの項目において、南房総・外房で孤独感などを感じる頻度が多い、九十九里で若干少ないといった傾向がみられた。

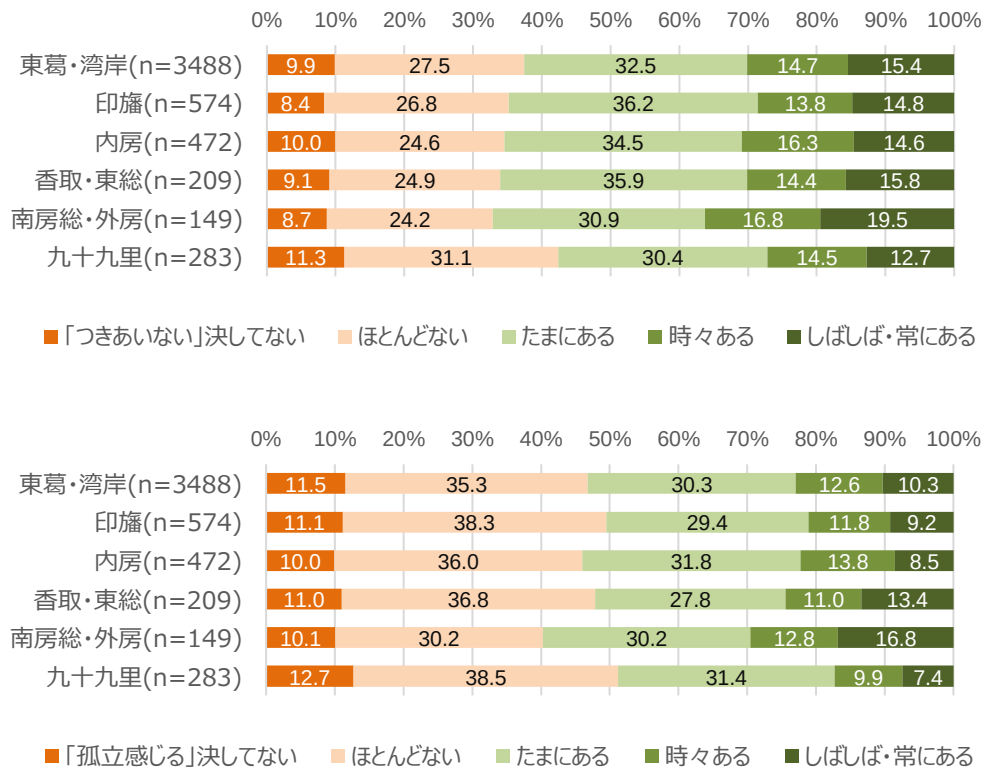


図 2-27 孤独感などを感じる頻度（％）【エリア別】

2) ストレス

過去 1 カ月の間に感じたストレスの頻度について 5 件法で聞いた結果を図 2-28 に示す。いずれの項目においても「まったくない」が最多であり 4～5 割を占める。

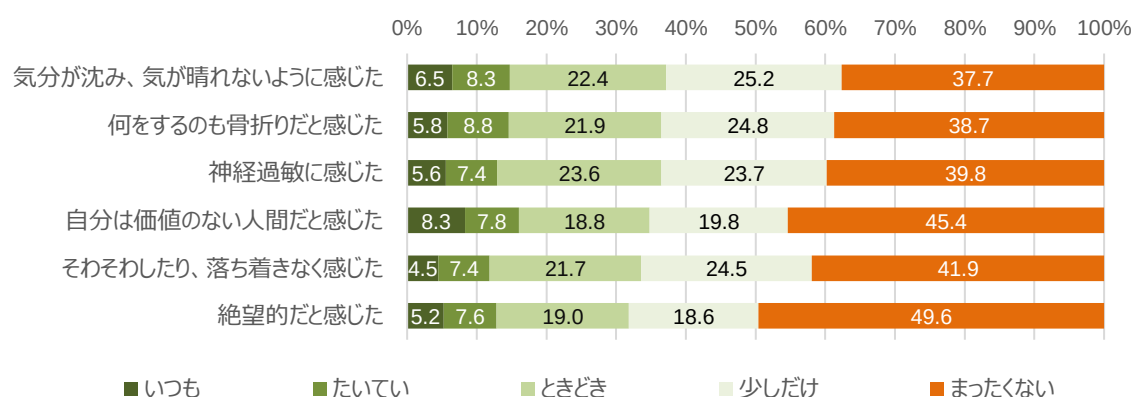


図 2-28 過去 1 カ月の間に感じたストレス等 (%)【全体】

この結果において性差、エリア差はほぼみられなかったが、年代による差は顕著であった。いずれの項目においても、若い方がよりストレス等を感じているという結果であった。

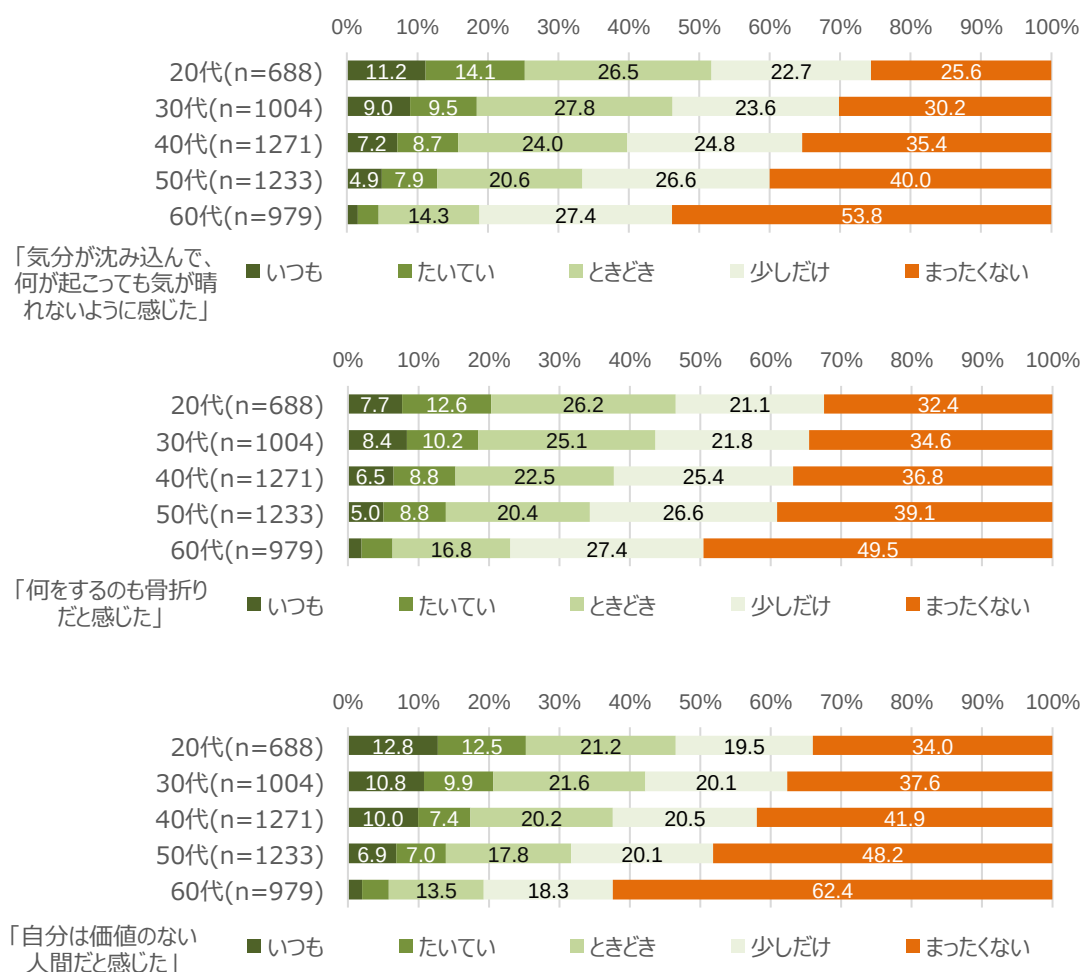


図 2-29 過去 1 カ月の間に感じたストレス等 (%)【年代別】

3) 幸福感

「この1年間の生活や健康について幸福感を感じるか」について4件法で聞いたところ、「思う」が11.3%、「どちらかといえば思う」が46.7%であり、肯定的回答が6割近くとなった。

性別、年代、エリア別の結果を図2-30に示す。男性より女性の方が、年代では60代、次いで20代、30代、40代、50代の順に幸福感を感じる傾向がある。

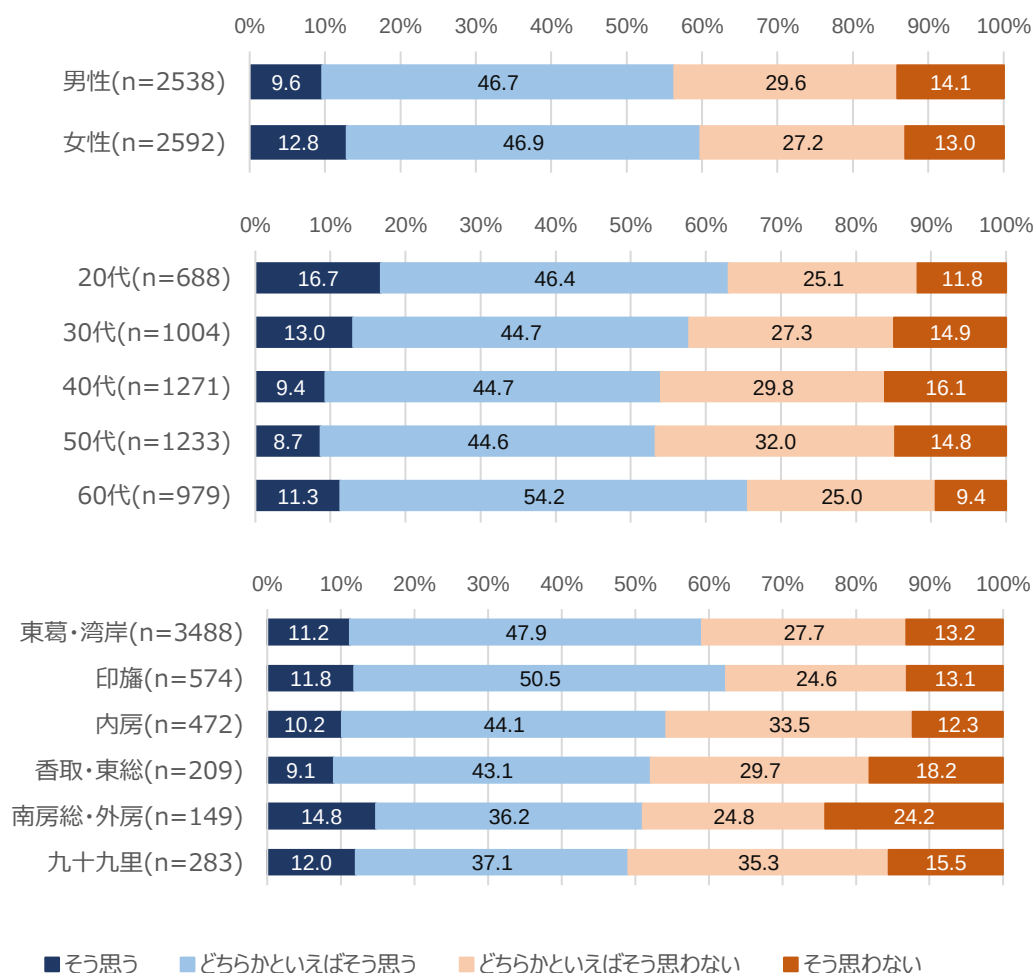


図 2-30 この1年間の生活や健康について幸福感を感じる割合（%）【性別、年代別、エリア別】

(4) 福祉用語の認知度

〈Q10〉

福祉にかかわる言葉の認知度を4件法で聞いた結果を図2-31に示す。いずれの言葉も「よく知っている」は1割前後と少数であり、「聞いたことはあるがよく知らない」「まったく知らない」が過半数を占めるものが大半であった。

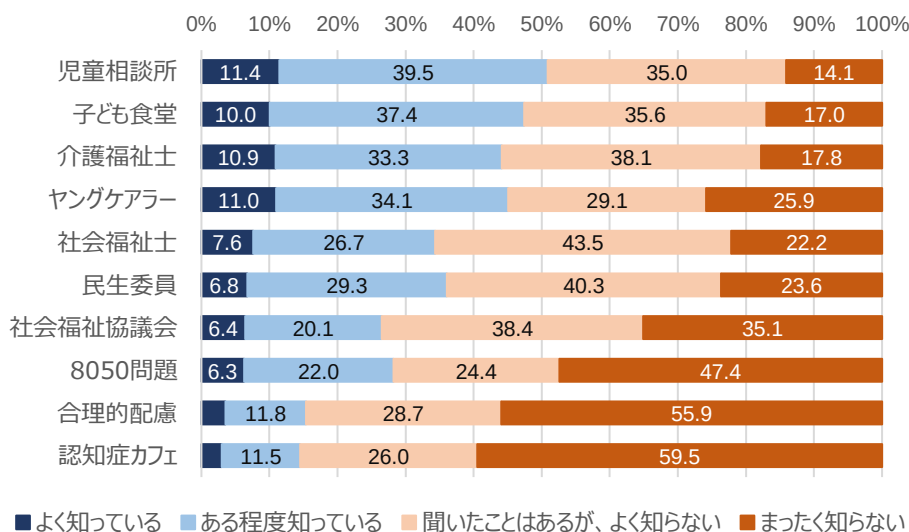


図 2-31 福祉用語の認知度 (%)【全体】

図2-32、33および35は、「よく知っている」を4点、「まったく知らない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

どの項目に関しても、男性より女性の方が、若年層より高齢層、とくに60代で言葉の認知度が高いという傾向がある。この傾向は、年代では、とくに「民生委員」や「社会福祉協議会」について顕著である。なお、全体的に認知度が低い「合理的配慮」については男女差はなく、年代においてもむしろ20代、30代の方が他の世代より若干認知度が高い傾向がみられた。

エリアによる差はほとんどなく、特徴的な傾向はみられなかった。

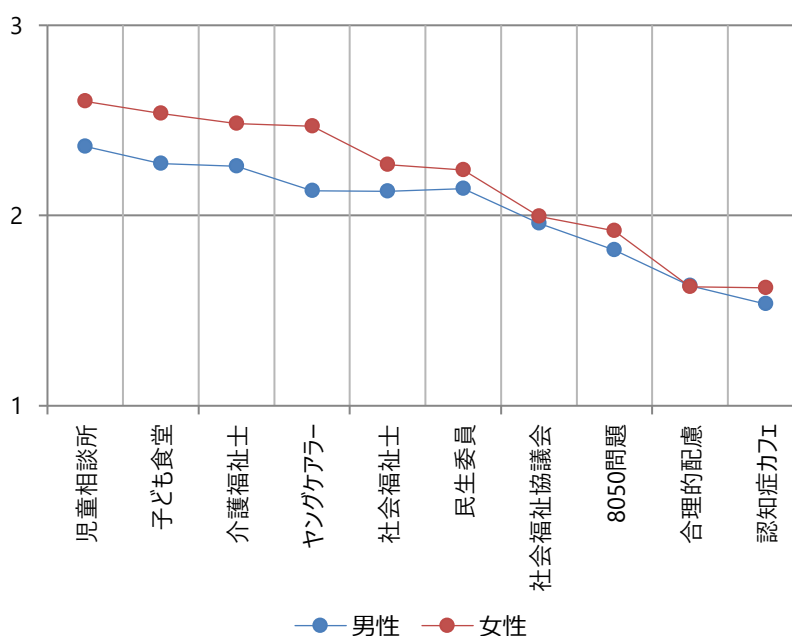


図 2-32 福祉用語の認知度 平均点【性別】

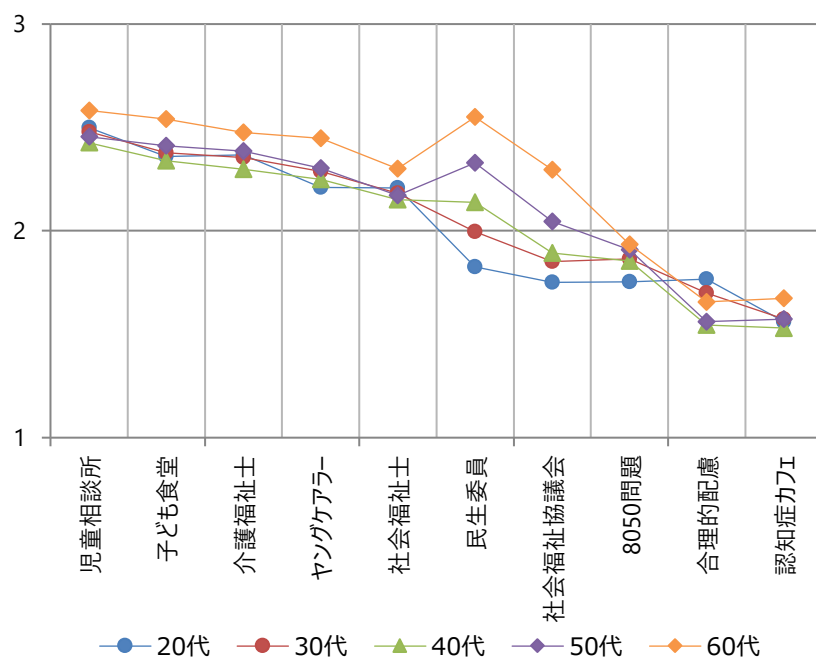


図 2-33 福祉用語の認知度 平均点【年代別】

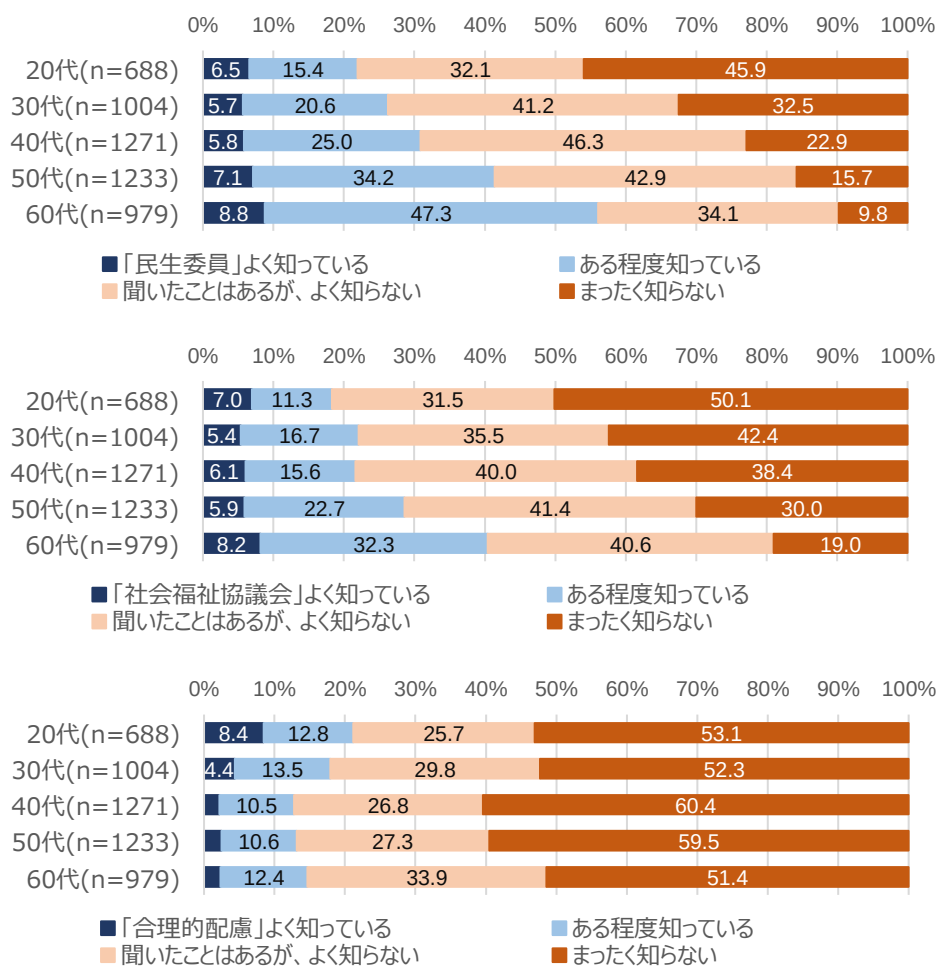


図 2-34 福祉用語の認知度 (%)【年代別】

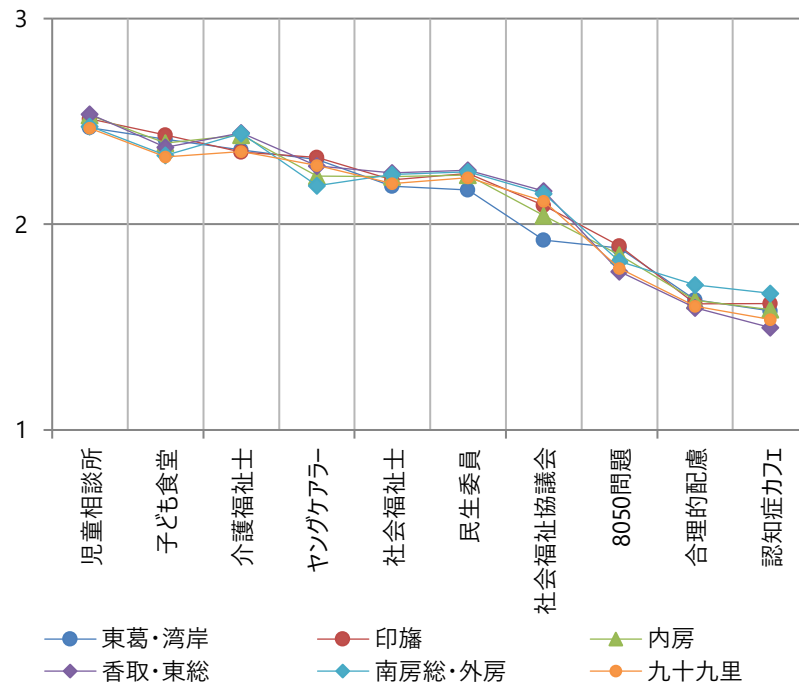


図 2-35 福祉用語の認知度 平均点【エリア別】

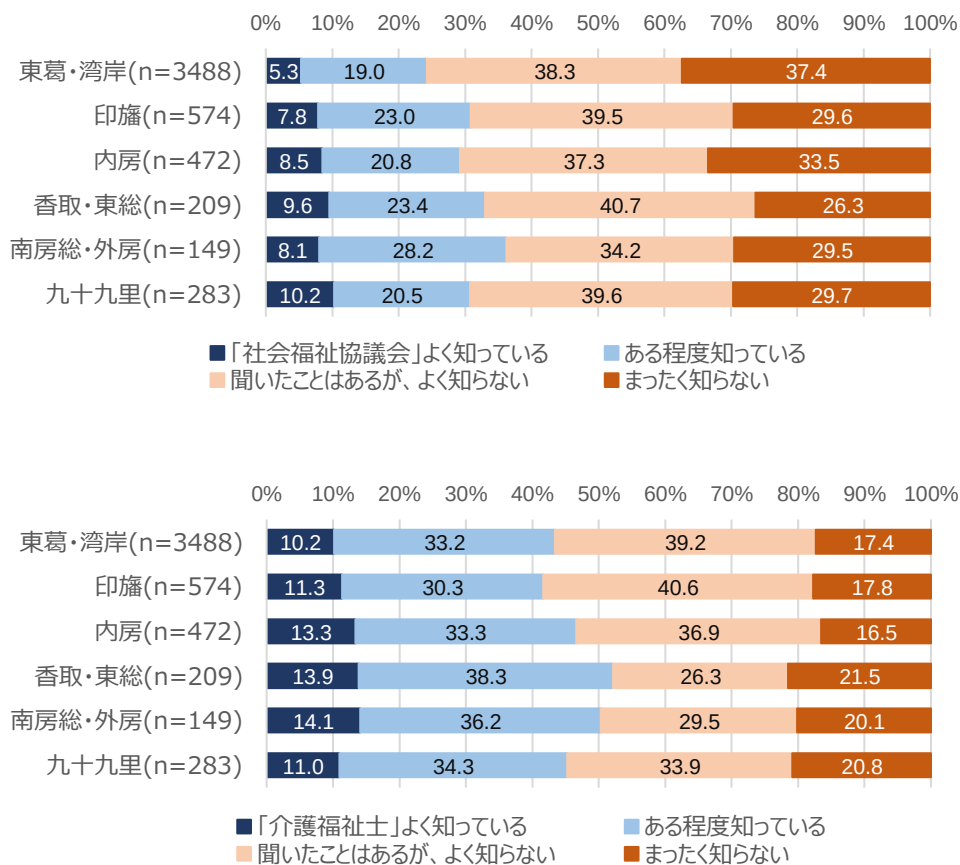


図 2-36 福祉用語の認知度 (%)【エリア別】

(5) 各機関への信頼度

〈Q12〉

主な機関や職業への信頼度を5件法で聞いた結果を図2-37に示す。

「自衛隊」「裁判所」「警察」「市役所・町役場」等では肯定的回答が多く、「政府」「マスコミ・報道機関」「国会議員」では否定的回答が多い。ただし、いずれの項目においても「どちらともいえない」が最多であり、「町内会・自治会」および「大企業」では過半数となった。

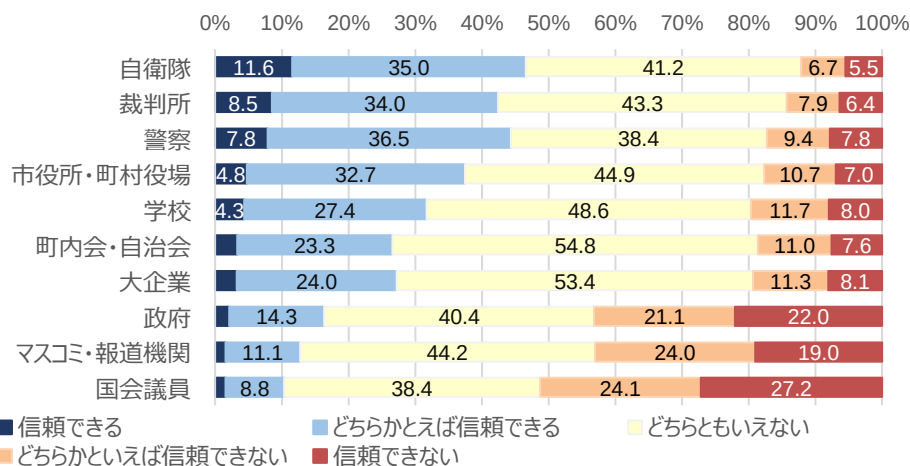


図2-37 各機関・職業への信頼度 (%)【全体】

図2-38および39は、「信頼できる」を5点、「信頼できない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別による差は小さく、信頼度が低い「政府」等についてはまったく差がない。その他の多くの項目は女性の方が若干信頼度が高い傾向があるが、「自衛隊」のみ逆転している。

年代別では、項目を問わず、肯定的回答が多いのは、60代および20代、次いで50代である傾向がみられた。多くの項目で、60代の方が20代よりも肯定的回答が多いが、「大企業」および「国会議員」では逆転、「政府」では同じという傾向がみられた。

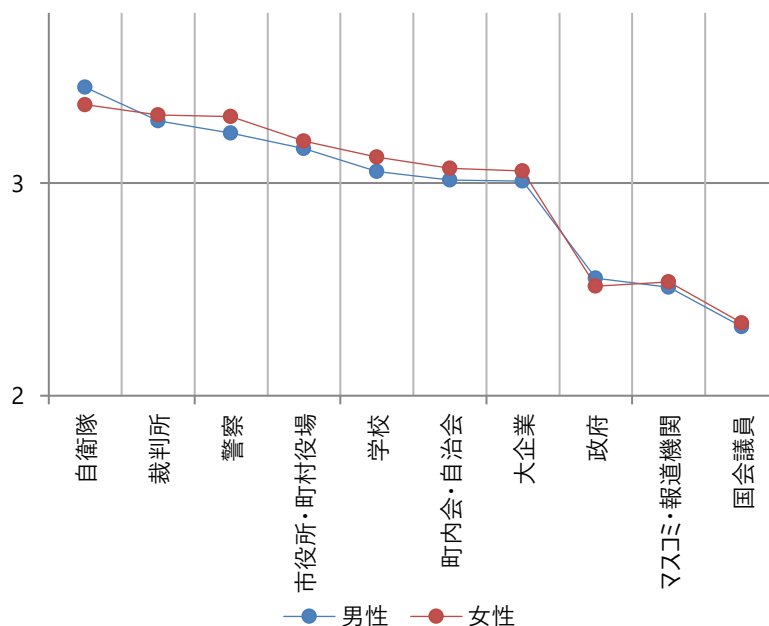


図2-38 各機関・職業への信頼度 平均点【性別】

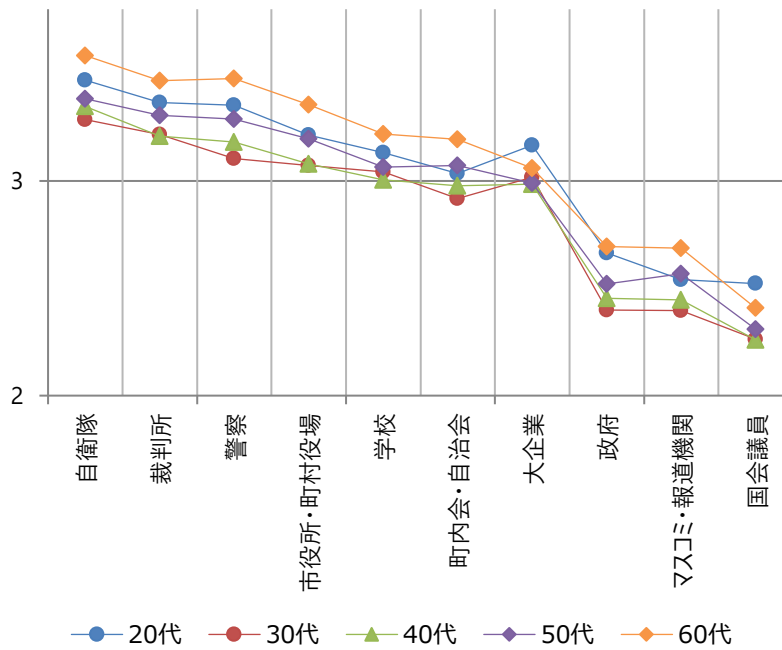


図 2-39 各機関・職業への信頼度 平均点【年代別】

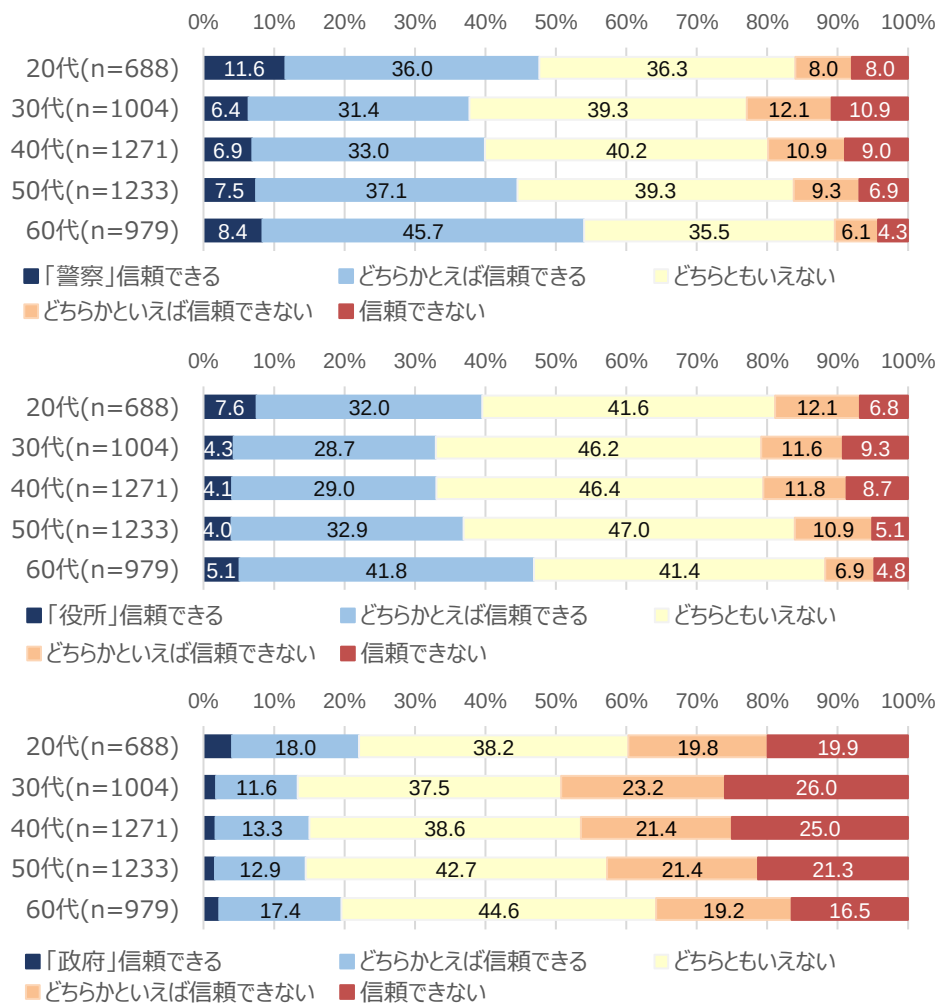


図 2-40 各機関・職業への信頼度 (%)【年代別】

エリア別では、多くの項目において、肯定的回答が比較的多いのは印旛および九十九里エリア、否定的回答が比較的多いのは南房総・外房および香取・東総という一定した傾向がみられた。

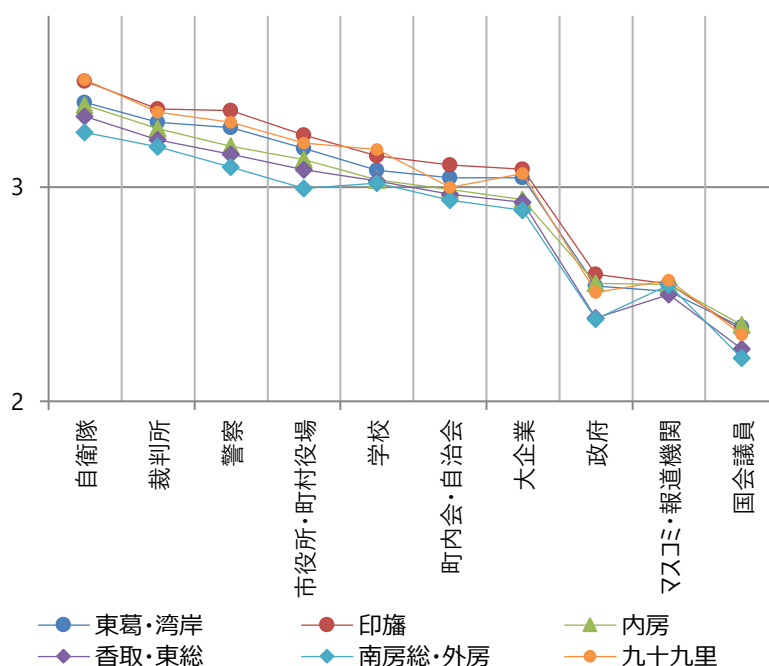


図 2-41 各機関・職業への信頼度 平均点【エリア別】

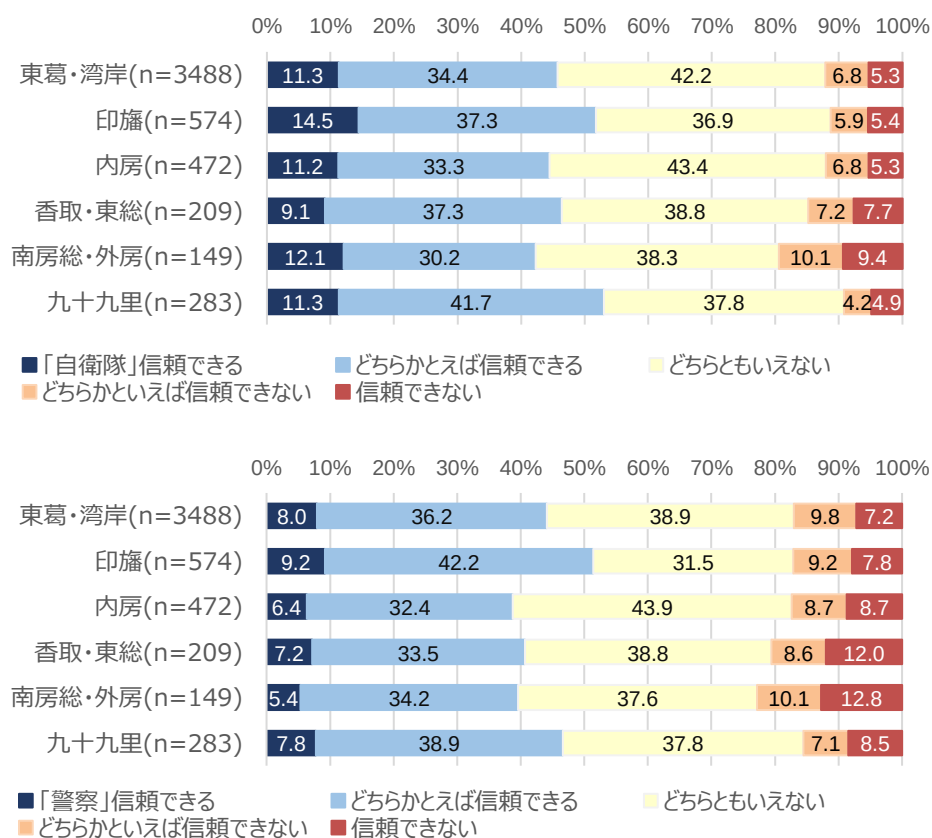


図 2-42-1 各機関・職業への信頼度 (%)【エリア別】

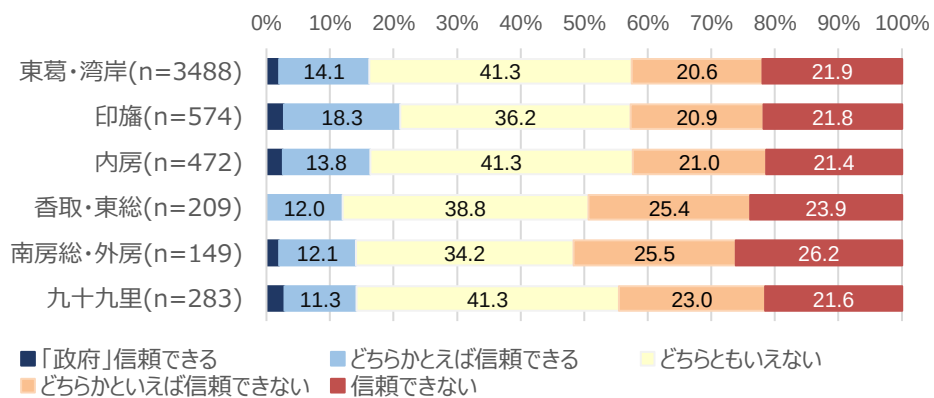
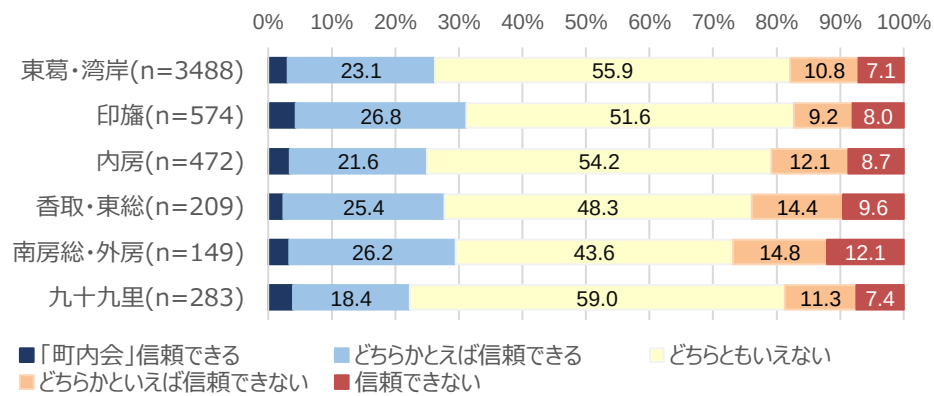
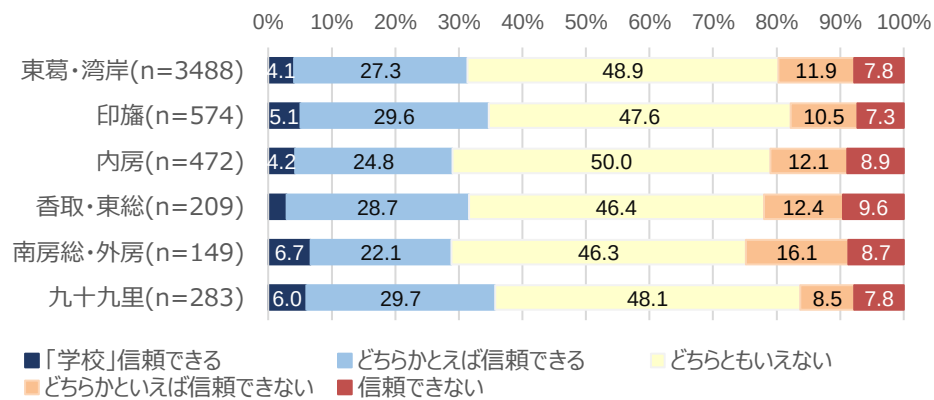
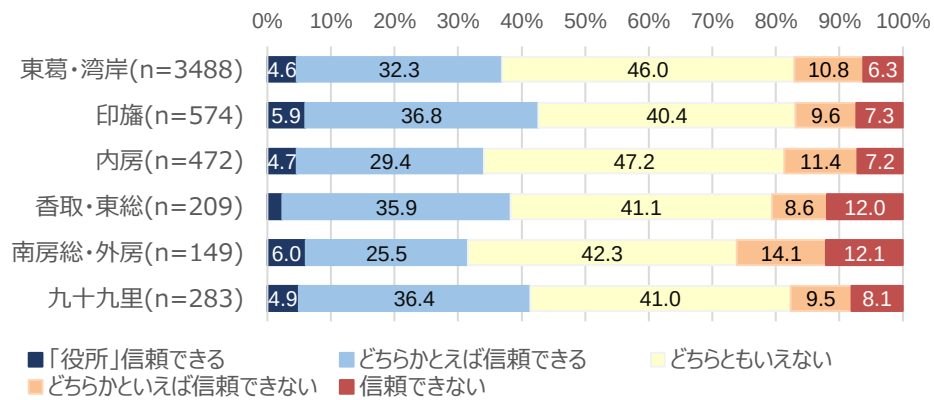


図 2-42-2 各機関・職業への信頼度（%）【エリア別】（続き）

2-3. 地域・コミュニティ

(1) 地域との関わり

〈Q6-3～9〉

地域との関わりに関する結果を図 2-43 に示す。

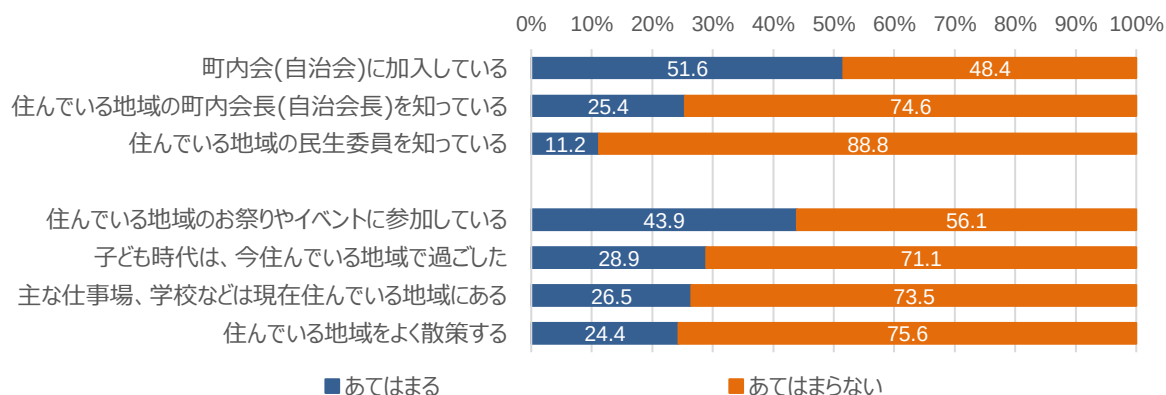


図 2-43 地域との関わり (%)【全体】

年代別では、「町内会加入」「町内会長の認知」「民生委員の認知」は、高年齢層になるほど該当率が高いという顕著な傾向があった。また、「イベント参加」は30代で高く50代で低い傾向があった。

性別では、「職場や学校等が住んでいる地域にある」(男 25.8%女 32.0%)以外の項目についてはほとんど差がなかった。

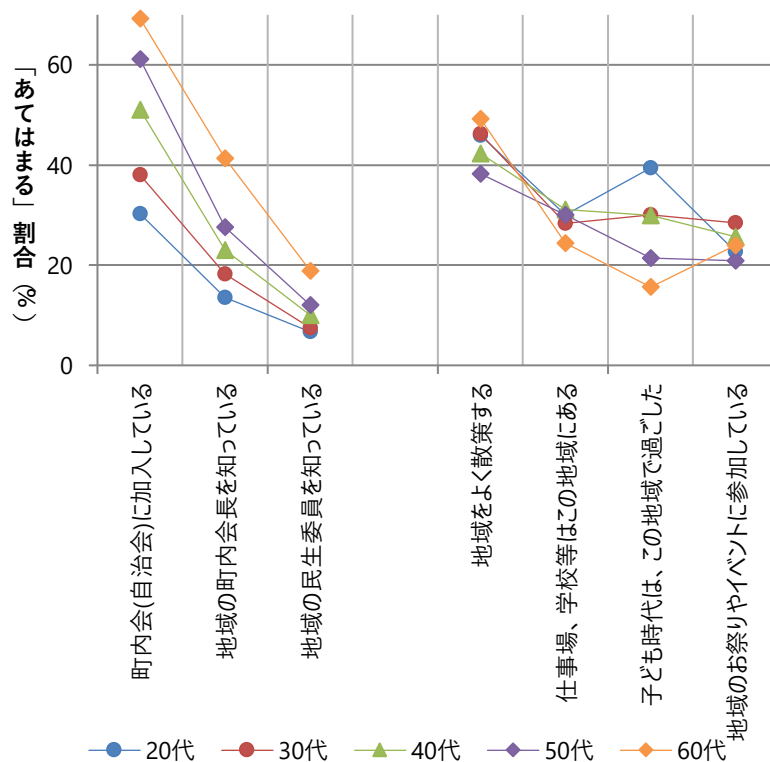


図 2-44 地域との関わり あてはまる割合 (%)【年代別】

エリア別では、「町内会加入」「町内会長の認知」「民生委員の認知」および「職場や学校等が住んでいる地域にある」率は、南房総・外房、次いで香取・東総で高く、東葛・湾岸で低いという一定の傾向があった。「子ども時代はこの地域で過ごした」率も、香取・東総、次いで南房総・外房である以外は同様の傾向である。

「地域を散策する」「地域のお祭りやイベントに参加している」率はエリア差は小さいが、上記とは異なる傾向であることがうかがえる。

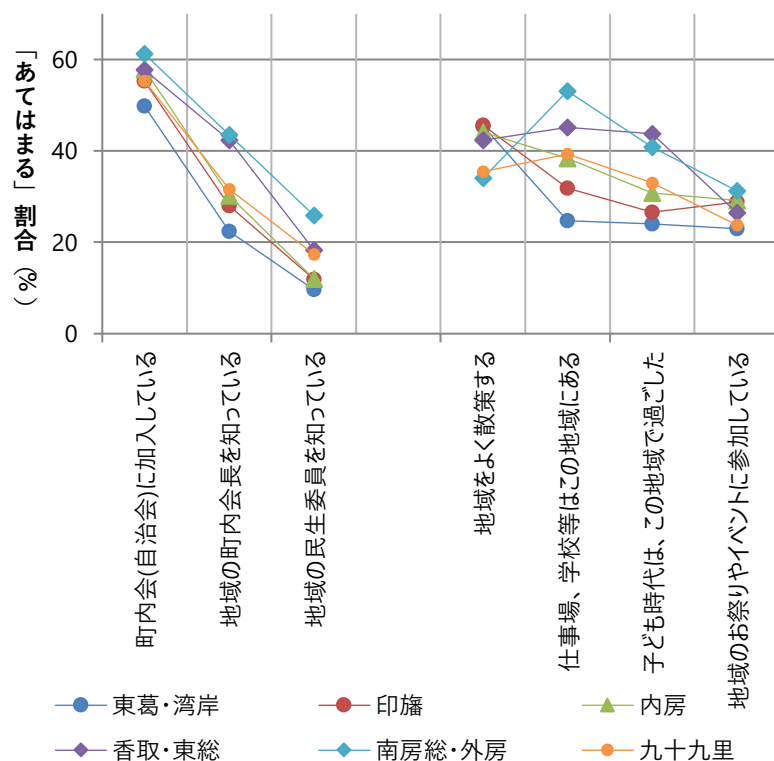


図 2-45 地域との関わり あてはまる割合 (%)【エリア別】

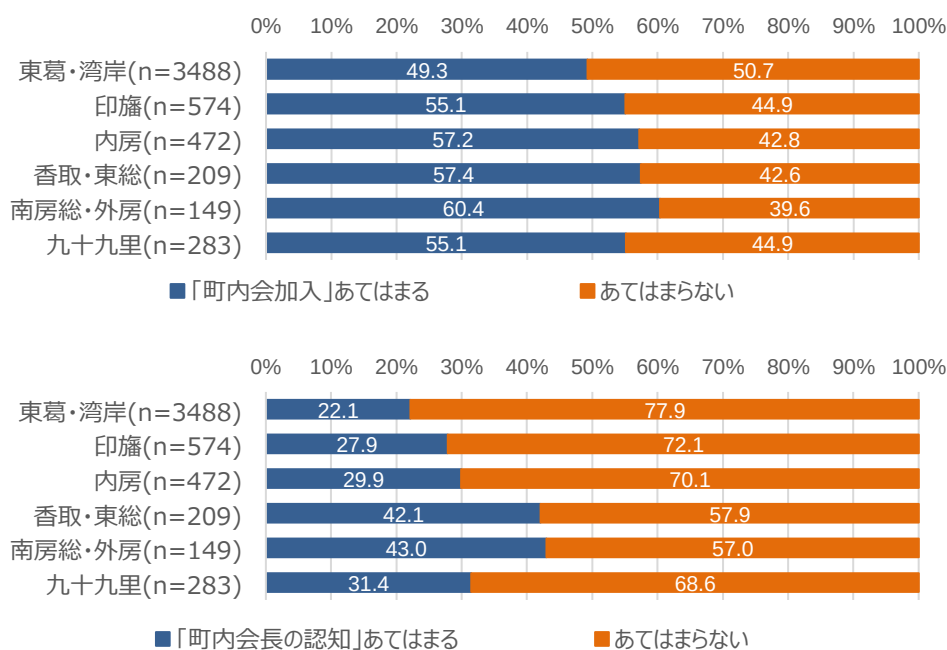


図 2-46-1 地域との関わり (%)【エリア別】

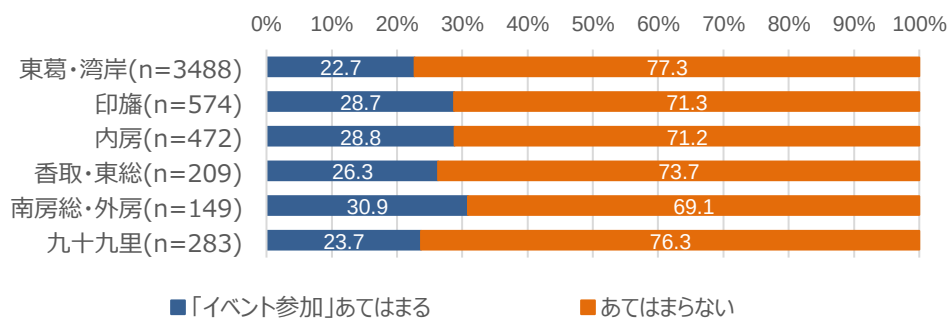
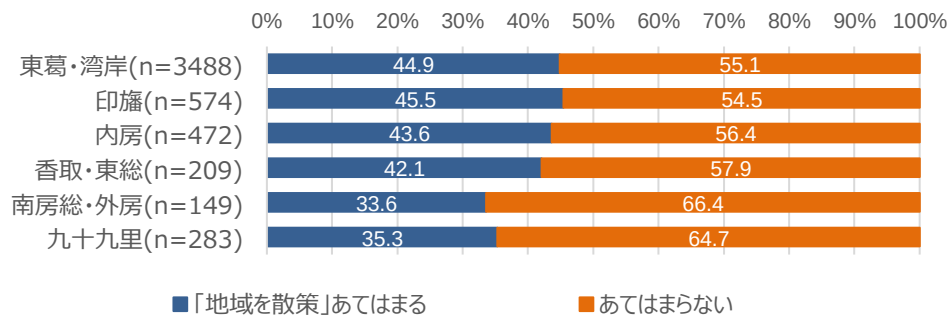
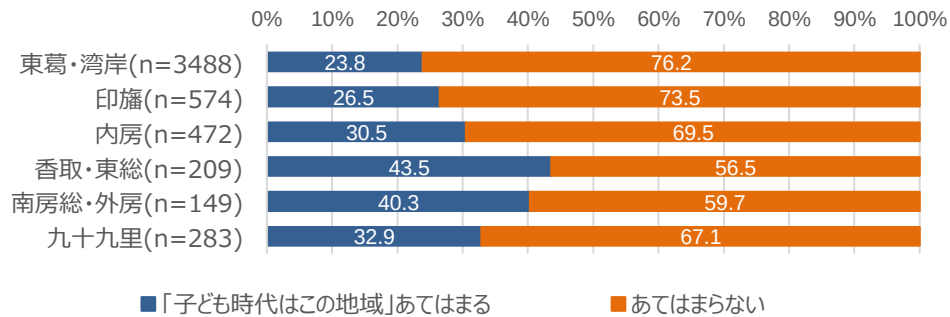
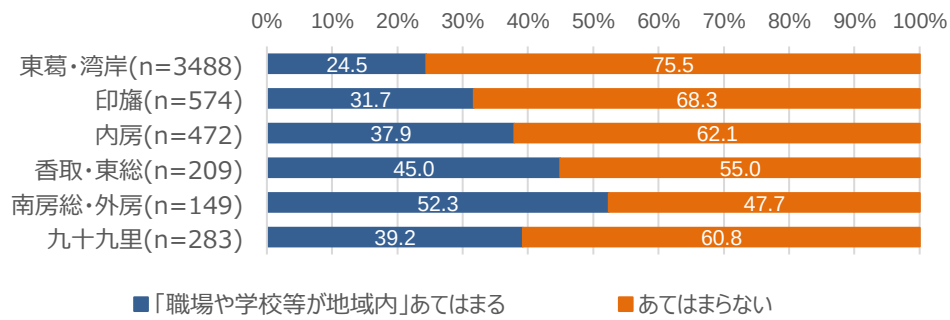


図 2-46-2 地域との関わり (%)【エリア別】(続き)

(2) 地域環境満足度

〈Q8〉

住宅のまわりの環境に対する満足度を5件法で聞いた結果を図2-47に示す。いずれの項目も「不満」「やや不満」は1割前後と少なく、「満足」「やや満足」側が多い。

「どちらともいえない」の割合には項目ごとの特徴がみられる。「福祉・介護の生活支援サービス」「子どもの遊び場、子育て支援サービス」および「近隣の人やコミュニティとの関わり」では同割合が過半数と多いのに対し、利便性に関する満足度では同割合が少ないという傾向である。とくに買い物などの便、通勤・通学の便については、満足側、不満側に分かれていることが分かる。

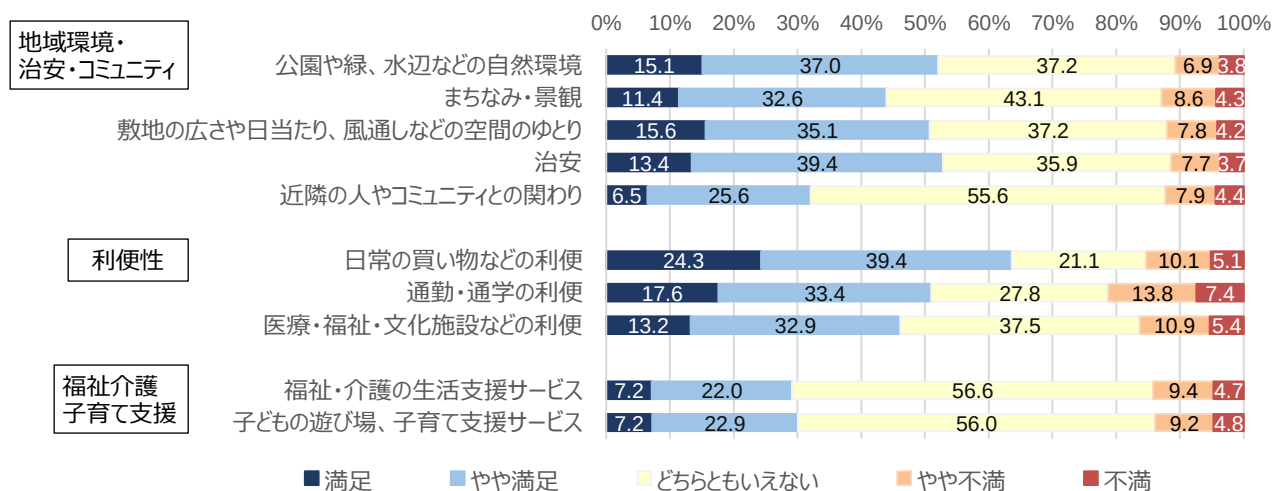


図 2-47 地域環境満足度（％）【全体】

図2-48および50は、「満足」を5点、「不満」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

年代別では、利便性については若年層で満足度が高く、この傾向は通勤通学の便で顕著であった。福祉介護、子育て支援、および「まちなみ・景観」については、20代から50代にかけて満足度が低くなるが、60代で高くなるという傾向がみられた。

性別では、ほとんどの項目で女性の方が男性よりも満足度が高めだがその差は小さく、福祉介護子育て支援、および「通勤・通学の便」では有意差はなかった。

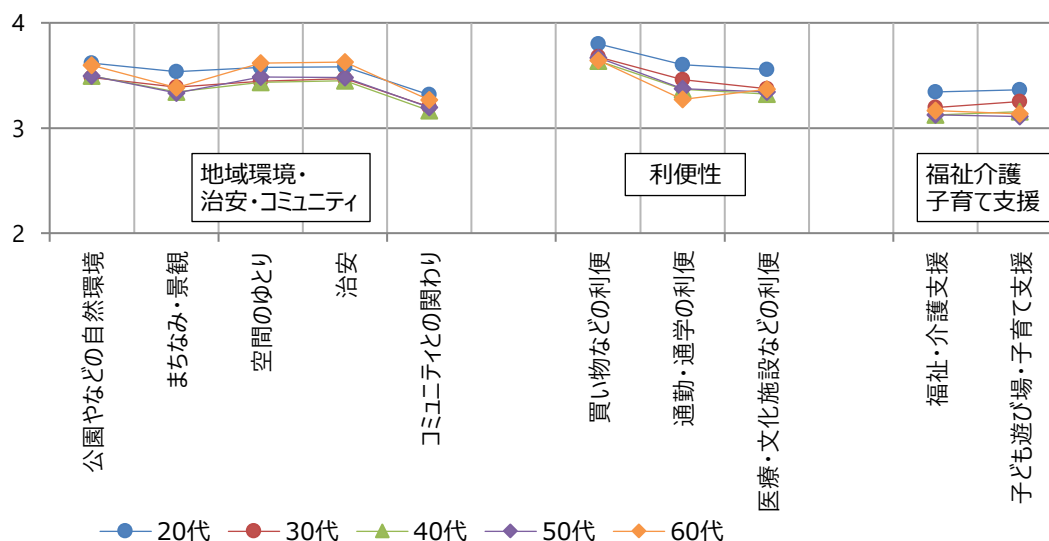


図 2-48 地域環境満足度 平均点【年代別】

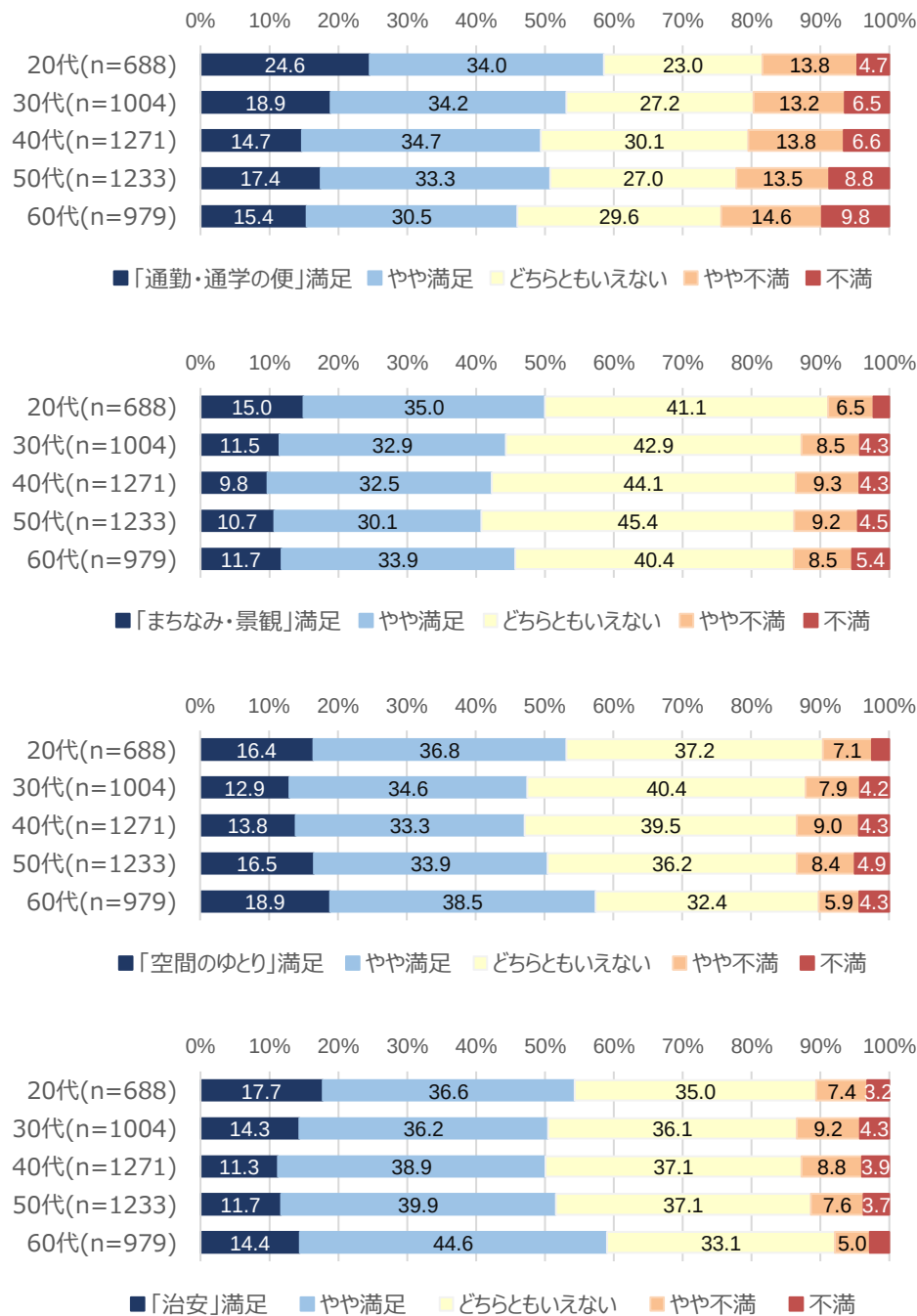


図 2-49 地域環境満足度（％）【年代別】

エリア別では、利便性、福祉介護子育て支援の満足度において一定の差がみられた。利便性の満足度がもっとも高いのは東葛・湾岸であり、次いで印旛、内房、九十九里および香取・東総と続き、南房総・外房でもっとも低い。福祉介護子育て支援の満足度がもっとも高いのは、東葛・湾岸と印旛の2エリアとなるが、その他の順は変わらない。

地域環境・治安・コミュニティについては、利便性等に比べるとエリア差は大きくはないが、ほとんどの項目で印旛の満足度が高いという点が特徴的であった。

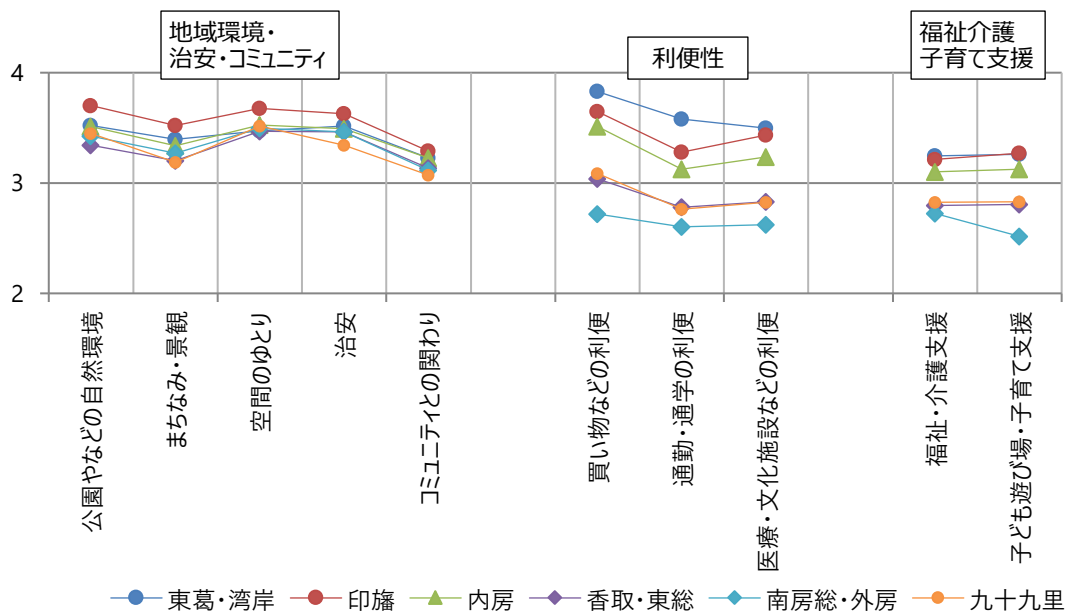


図 2-50 地域環境満足度 平均点【エリア別】

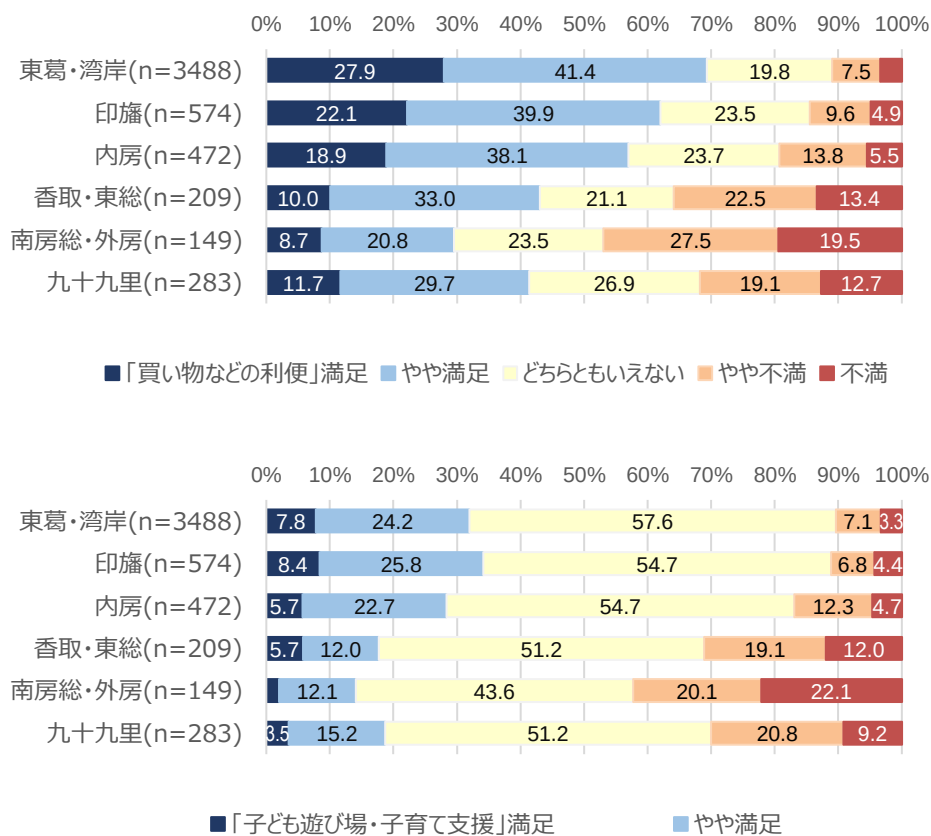


図 2-51-1 地域環境満足度 (%)【エリア別】

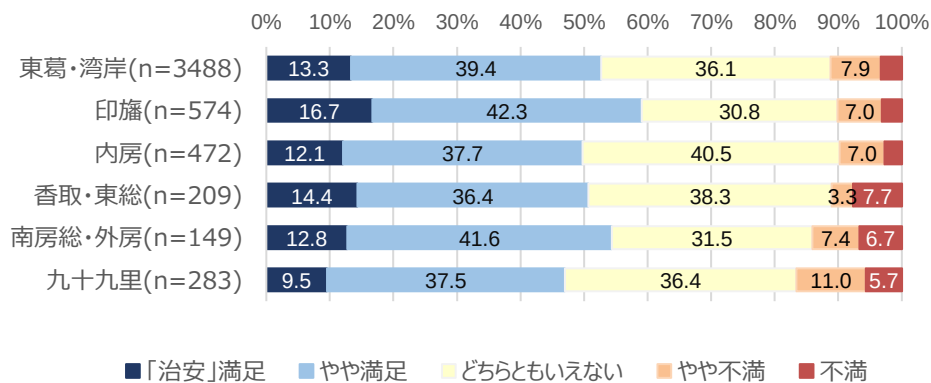
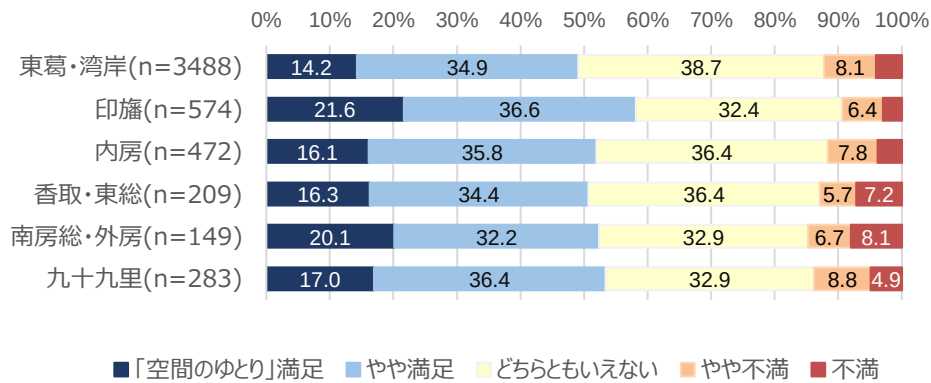
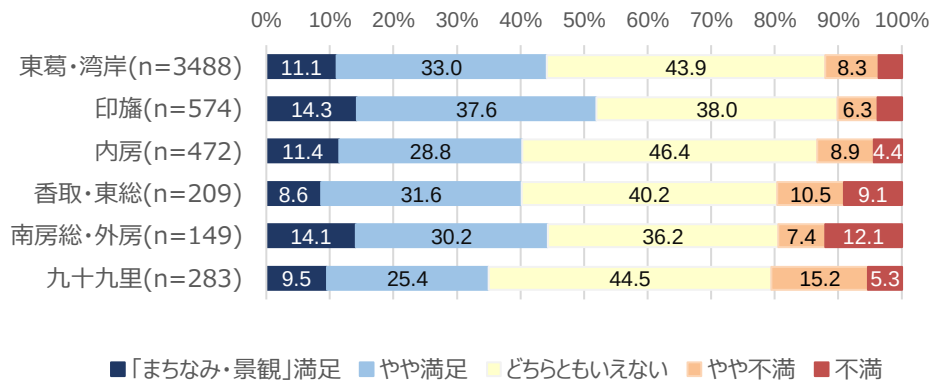
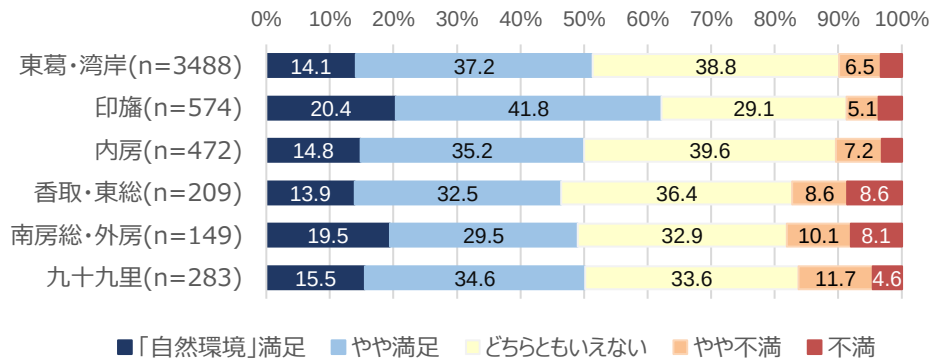


図 2-51-2 地域環境満足度 (%)【エリア別】(続き)

(3) 地域評価・地域将来不安

〈Q7〉 〈Q9-10〉

1) 地域の評価

地域の総合評価について5件法で聞いた結果を図2-52に示す。いずれの項目でも「あてはまる」側の回答が多く、評価はよいといえる。

総合評価、永住意向については「あてはまる」側が半数前後と多く、「あてはまらない」は2割弱と少ない。比較すると、コミュニティは「あてはまる」側は3割強と少なく、その分「どちらともいえない」と「あてはまらない」側が多くなっている。

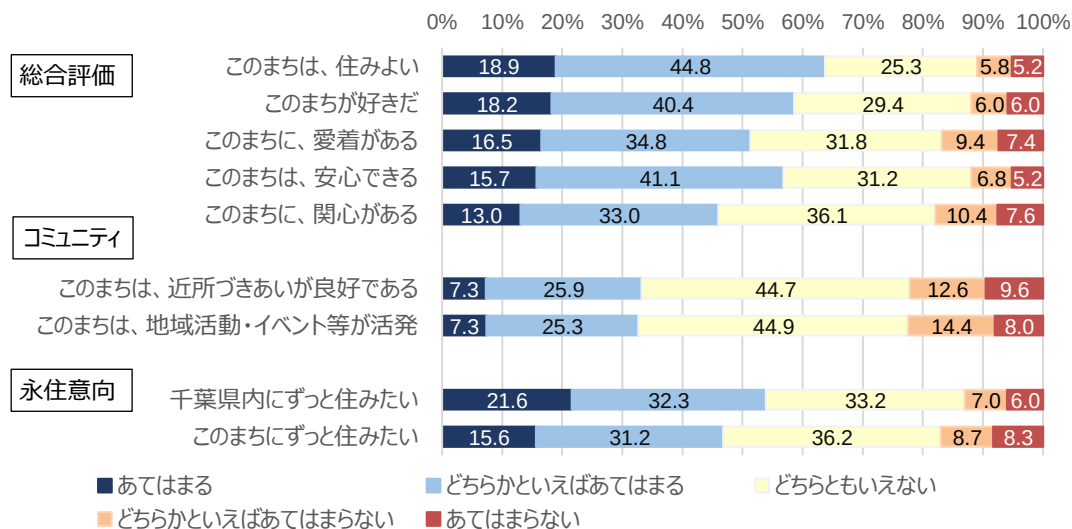


図 2-52 地域の評価 (%)【全体】

図2-53 および55は、「あてはまる」を5点、「あてはまらない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

年代別では、多くの項目において60代、および20代で評価が高いという傾向がみられた。ただし「このまちにずっと住みたい」「安心できる」「近所づきあいが良好」では60代のみ評価が高く、「地域活動・イベント等が活発」では若い方が評価が高いという傾向であった。

性別では、地域環境満足度と同じく、ほとんどの項目で女性の方が男性よりも評価が高い傾向があったがその差は小さく、「好き」「愛着がある」「関心がある」「安心できる」では有意差はなかった。

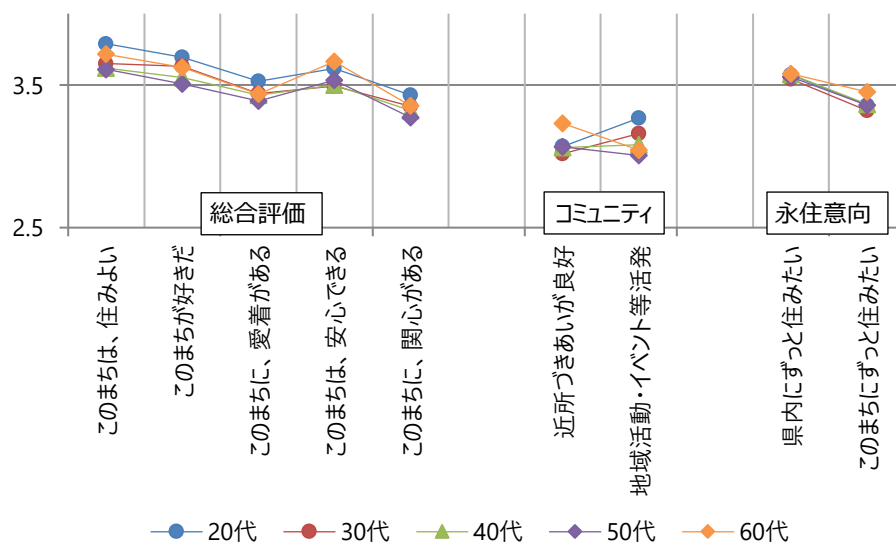


図 2-53 地域の評価 平均点【年代別】

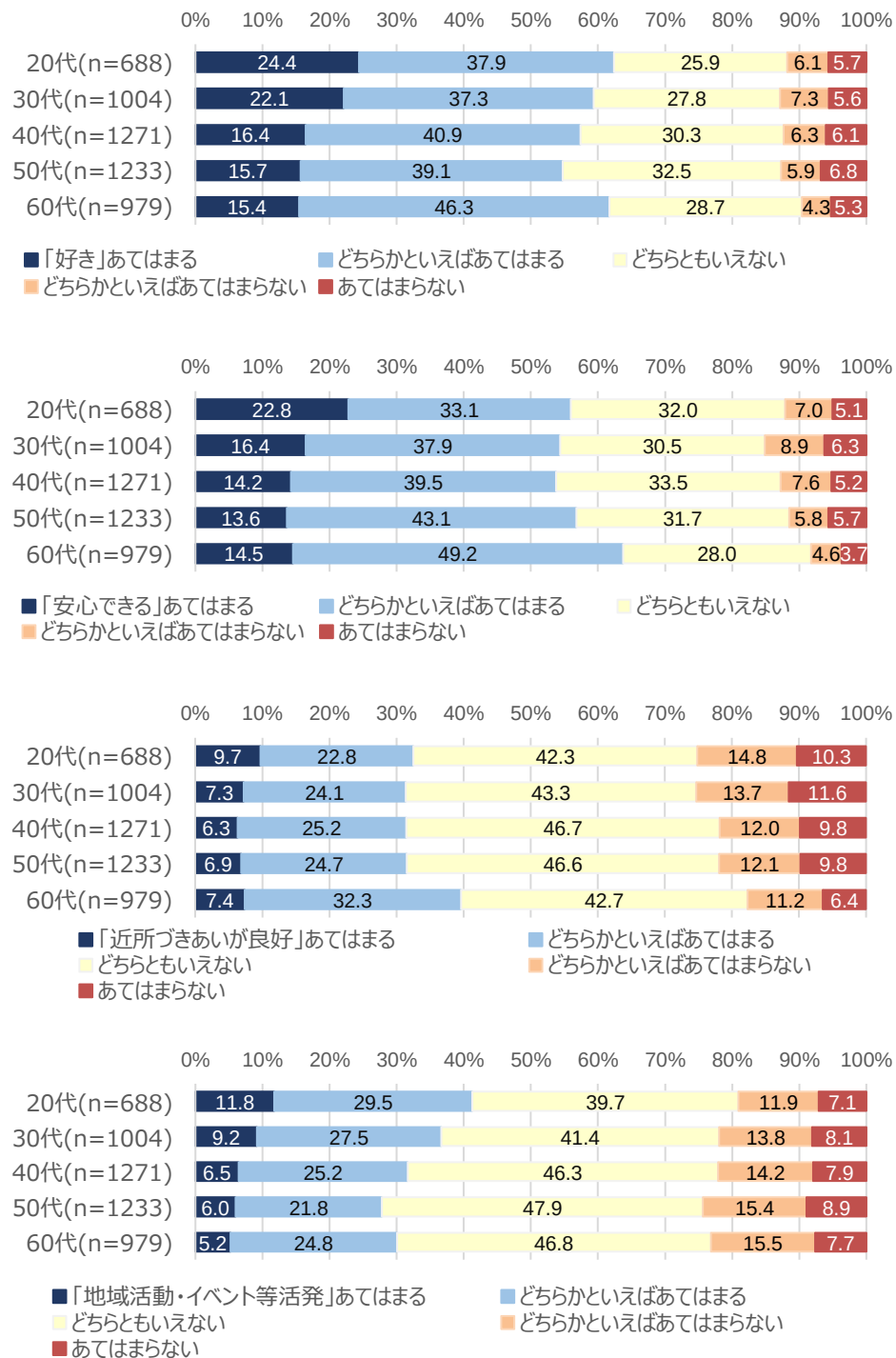


図 2-54 地域の評価（％）【年代別】

エリア別では、地域の総合評価において、東葛・湾岸および印旛で評価が高く、九十九里で低いという傾向がみられた。

利便性の満足度がもっとも高いのは東葛・湾岸であり、次いで印旛、内房、九十九里および香取・東総と続き、南房総・外房でもっとも低い。福祉介護子育て支援の満足度がもっとも高いのは、東葛・湾岸と印旛の2エリアとなるが、その他の順は変わらない。

地域環境・治安・コミュニティについては、利便性等に比べるとエリア差は大きくはないが、ほとんどの項目で印旛の満足度が高いという点が特徴的であった。

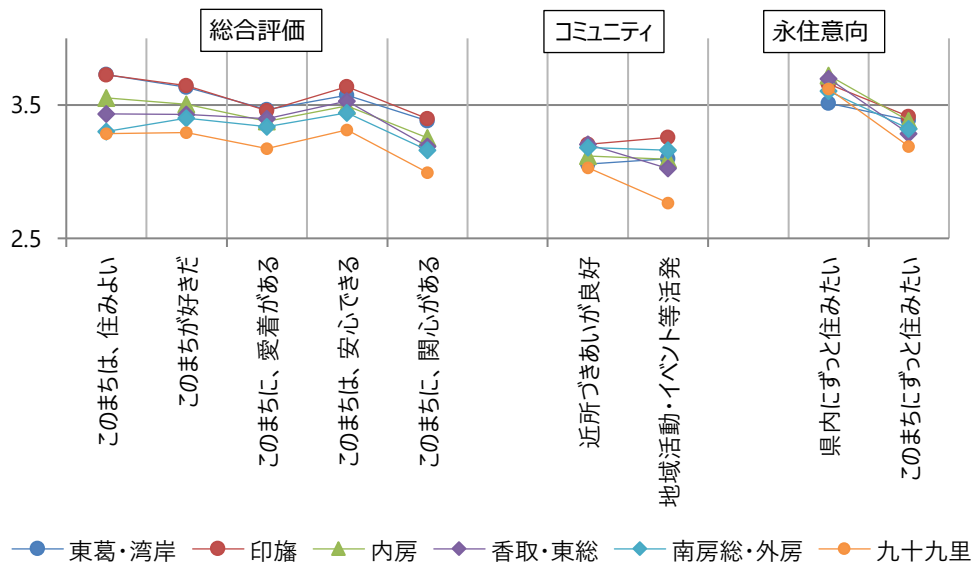


図 2-55 地域の評価 平均点【エリア別】

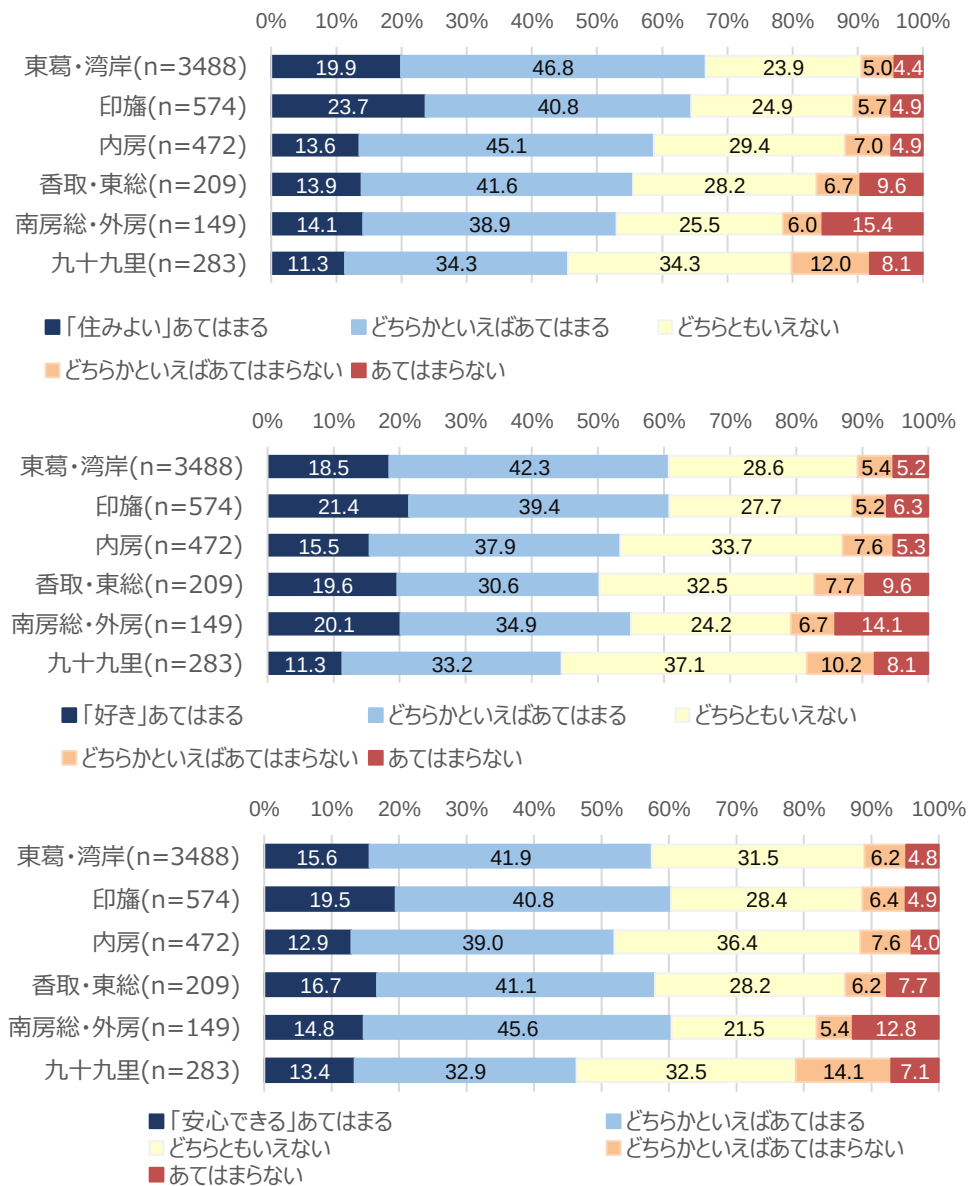


図 2-56-1 地域の評価（％）【エリア別】

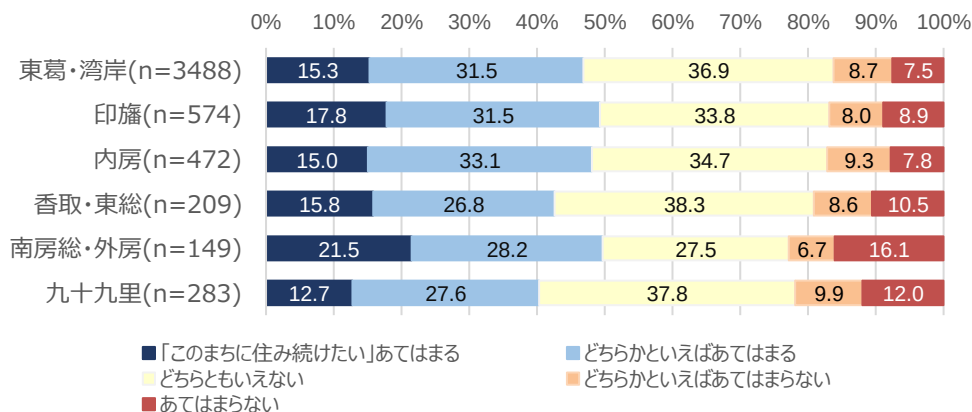
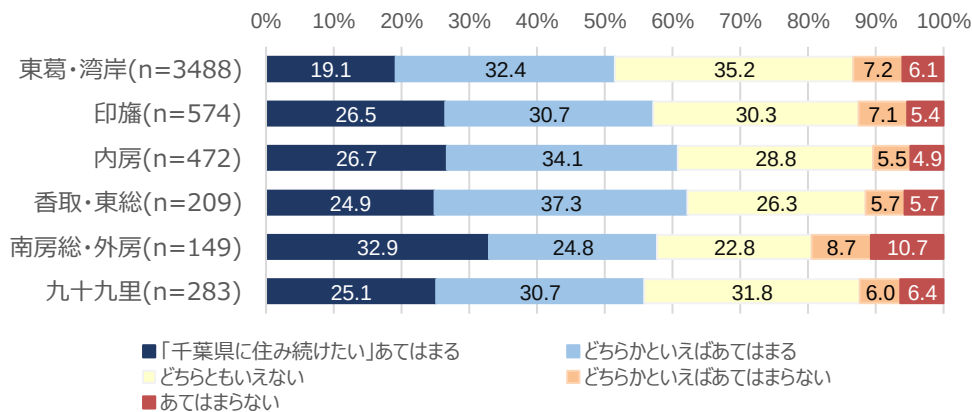
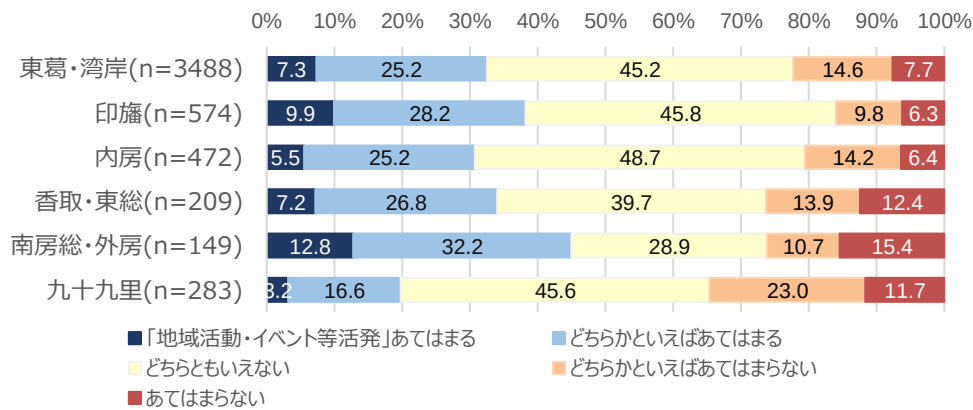
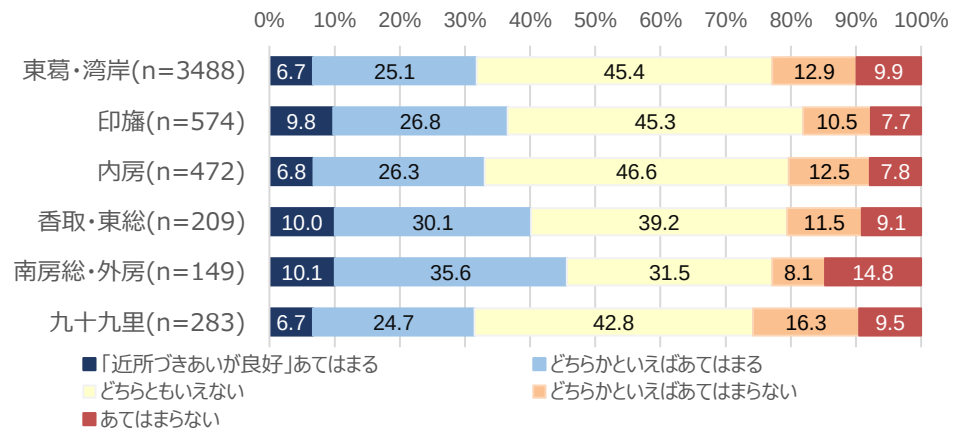


図 2-56-2 地域の評価（％）【エリア別】（続き）

2) 地域将来不安

地域の将来の不安を感じるかについて4件法で聞いた結果を図2-57に示す。

全体としては、「そう思う」側と「そう思わない」側がほぼ半々という結果である。

エリア別では、地域環境満足度や地域の評価と類似した差がみられた。地域の将来にもっとも不安を感じないエリアは東葛・湾岸であり、次いで内房および印旛、南房総・外房、九十九里、香取・東総と続く。

性別、年代別による差はみられなかった。

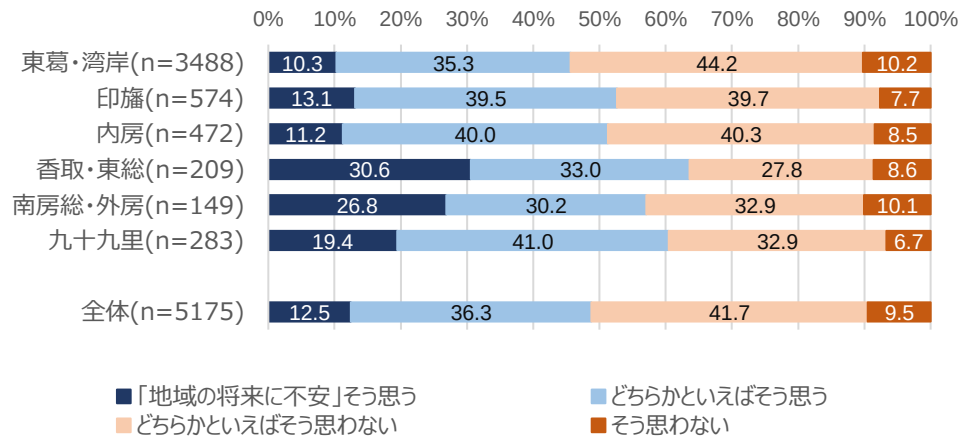


図 2-57 地域の評価（％）【全体】

(4) 地域信頼感

〈Q18-4～7〉

隣近所の人々への信頼感等について4件法で聞いた結果を図2-58に示す。いずれの項目も「あてはまらない」側が過半数であった。

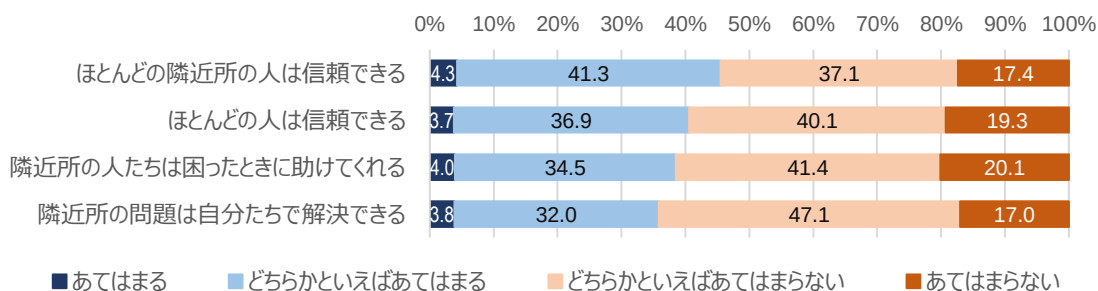


図 2-58 隣近所の人々への信頼感等 (%)【全体】

図2-59は、「あてはまる」を4点、「あてはまらない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

年代別では顕著な差があった。30代以降は年代が高くなるにしたがって「あてはまる」側の回答が増える。ただし、20代の「あてはまる」側の回答は30～40代よりも多く、「隣近所の問題は自分たちで解決できる」では60代を上回る。性別では、「隣近所の問題は自分たちで解決できる」では男性の方が、「隣近所の人たちは困ったときに助けてくれる」では女性の方が「あてはまる」側の回答が若干高い傾向があったが、その他は差がみられなかった。

エリア別では有意差はみられなかったが、印旛、次いで香取・東総では「あてはまる」側の回答が多い傾向がみられた。印旛と並んで、地域環境満足度や地域の総合評価が高かった東葛・湾岸は、隣近所の人々への信頼感等については肯定的な回答が若干少ない傾向があった。

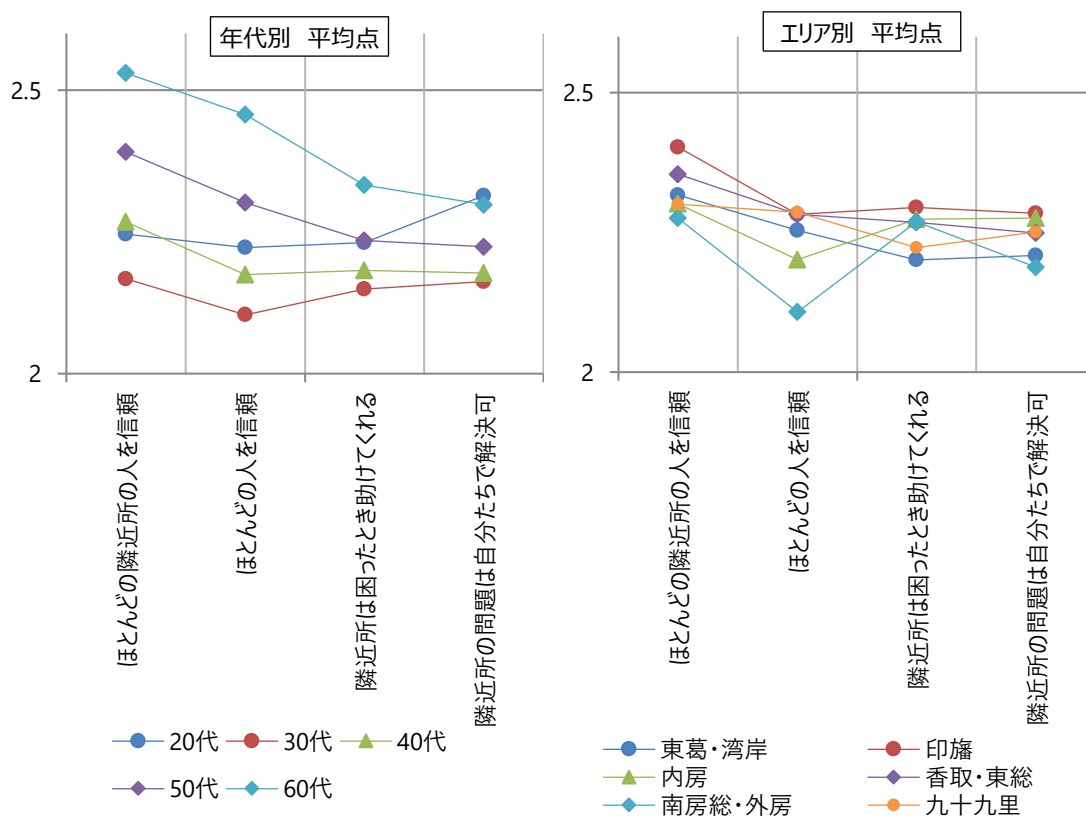


図 2-59 隣近所の人々への信頼感等 平均点【年代別、エリア別】

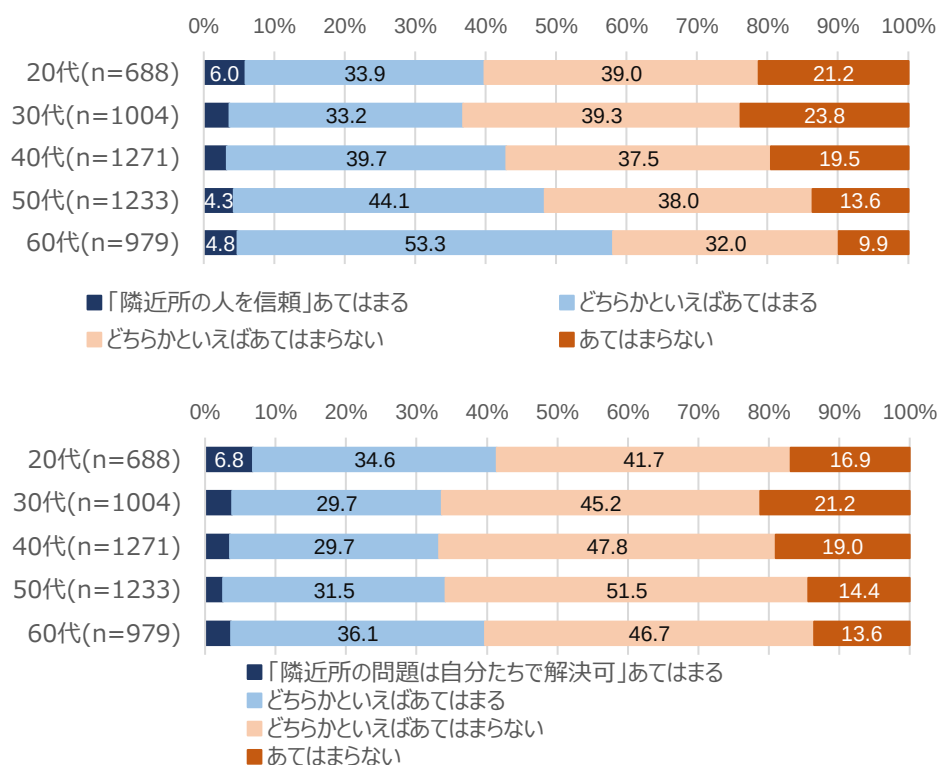


図 2-60 隣近所の人々への信頼感等（％）【年代別】

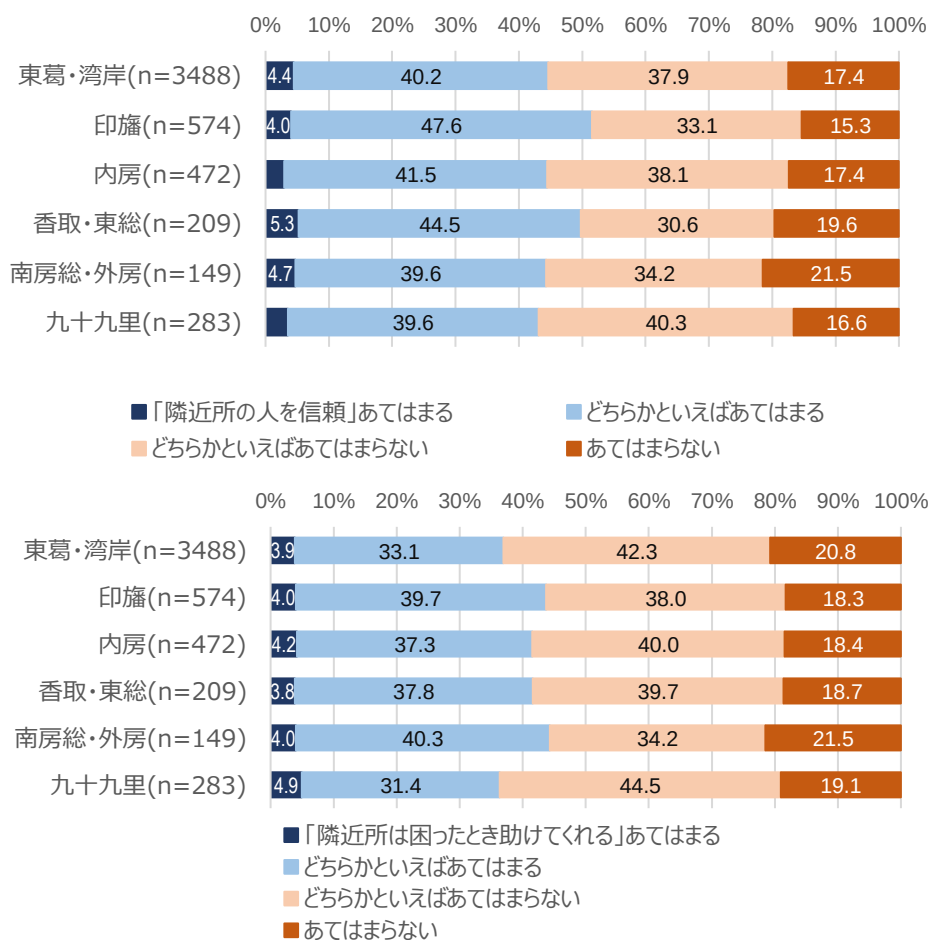


図 2-61 隣近所の人々への信頼感等（％）【エリア別】

(5) 地域安全確保主体への意見

〈Q22-6,7〉

地域の安全を確保する責任について4件法で聞いた結果を図2-62に示す。いずれの項目においても「そう思う」側が過半数と多い。

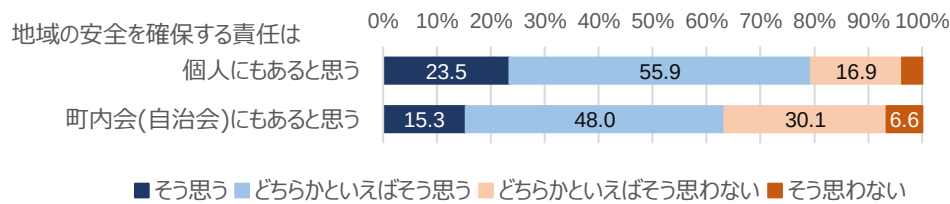


図 2-62 地域安全確保主体への意見（％）【全体】

性別では、いずれの項目も女性の方が「そう思う」側の回答が多かった。

年代別では、「個人にも責任がある」に関しては高齢である方が、「町内会にも責任がある」は若い層の方が「そう思う」側の回答が多かった。

エリア別では、いずれの項目においても、南房総・外房エリアにおいて「そう思う」というもっとも肯定側の回答が多いという特徴がみられた。

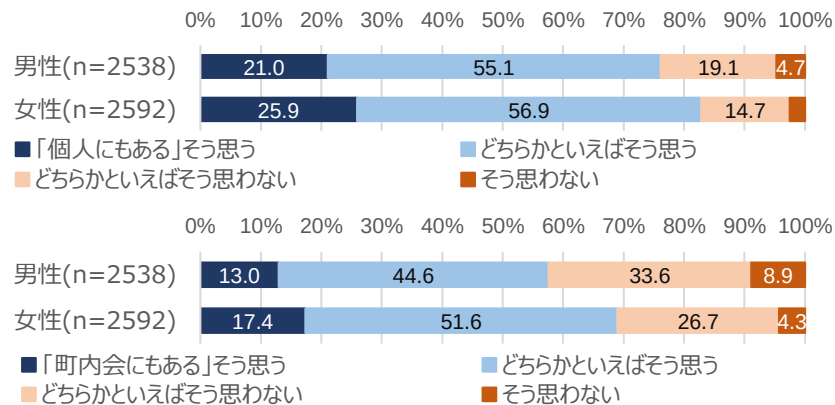


図 2-63 地域安全確保主体への意見（％）【性別】

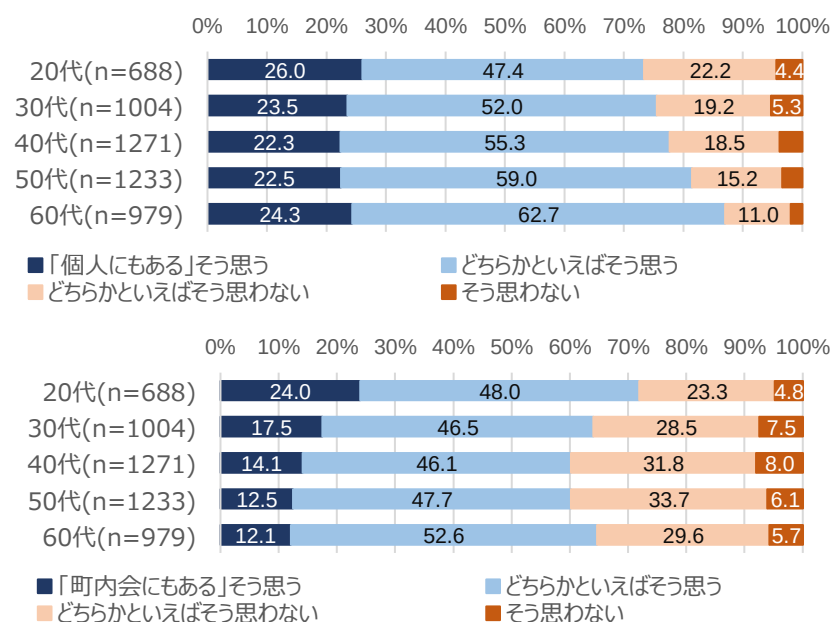


図 2-64 地域安全確保主体への意見（％）【年代別】

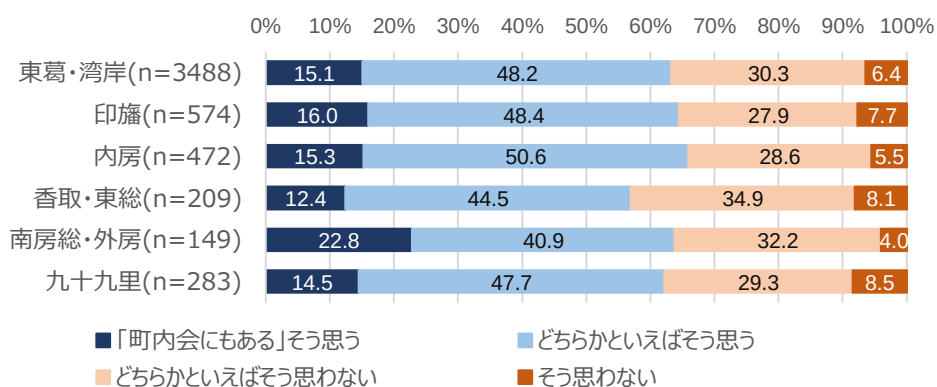
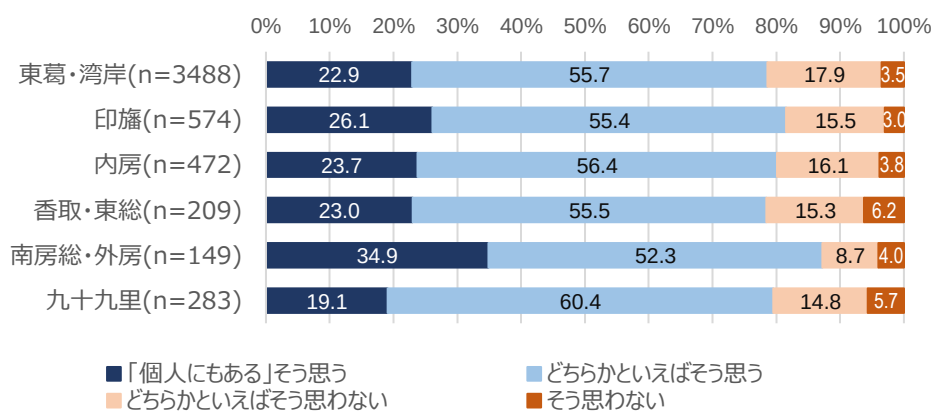


図 2-65 地域安全確保主体への意見（％）【エリア別】

2-4. 犯罪・防犯

(1) 犯罪被害経験

〈Q 13〉〈Q6-20〉

この1年間に犯罪被害にあったことがあるかを聞いたところ、「あなた・同居家族ともに犯罪の被害にあったことはない」が91.8%であった。

何らかの被害にあった423人に対し罪種等を複数回答可で聞いた結果を図2-66および67に示す。回答者本人、同居家族を問わずもっとも多かったのは「インターネットによる詐欺・悪質商法・消費者被害」である。また、「電話de詐欺」にあったという回答は、回答者本人よりも同居家族の割合が高いという特徴があった。

年代別、性別、エリア別の割合を表2-3に示す。

性別による差はほとんどない。年代別では、「知らない人からのちかん・つきまといなど」は20代で、「自宅敷地への侵入」は30代で、「電話de詐欺」は60代で若干多いという傾向がみられた。

エリア別では、「インターネットによる詐欺・悪質商法・消費者被害」は印旛で、「家族や恋人からの暴力（暴言などを含む）」は内房で、「自宅敷地への侵入」「自動車盗・バイク盗・車上ねらい」「自動車盗・バイク盗・車上ねらい」は南房総・外房で若干多い等の傾向がみられた。

なお、別問で、1年間の間に、犯罪の被害にあった友人・知人がいるかを聞いたところ、「あてはまる」という回答は全体の4.8%であった。

性別による差、エリアによる差はほとんどみられない。年代別の差も小さいが、若いほど「あてはまる」が多い傾向はみられた（20代8.0%、30代5.7%、40代4.2%、50代4.0%、60代3.7%）。

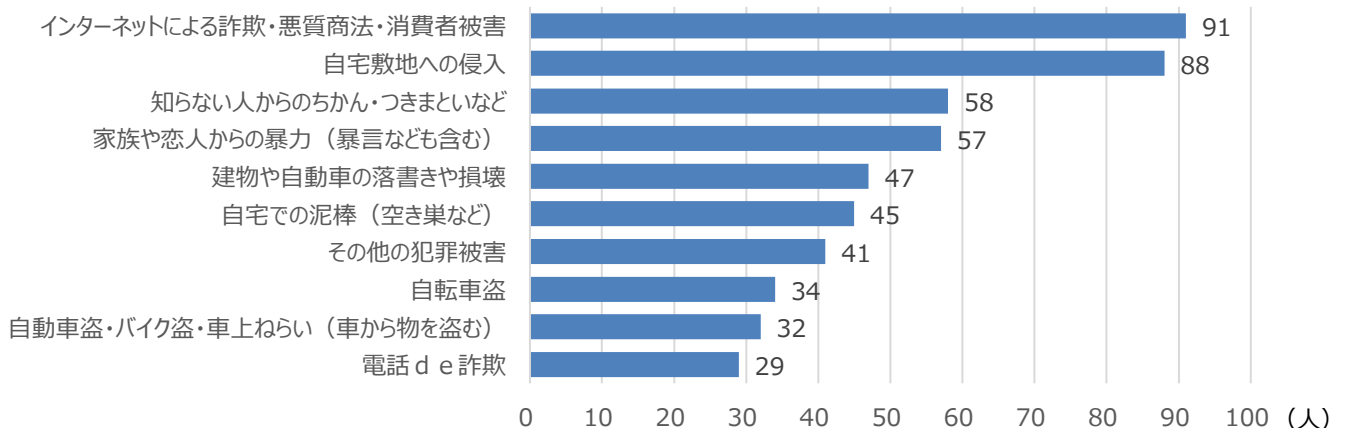


図 2-66 1年間に回答者本人があった犯罪被害経験（複数回答可）【全体 n=5,175】

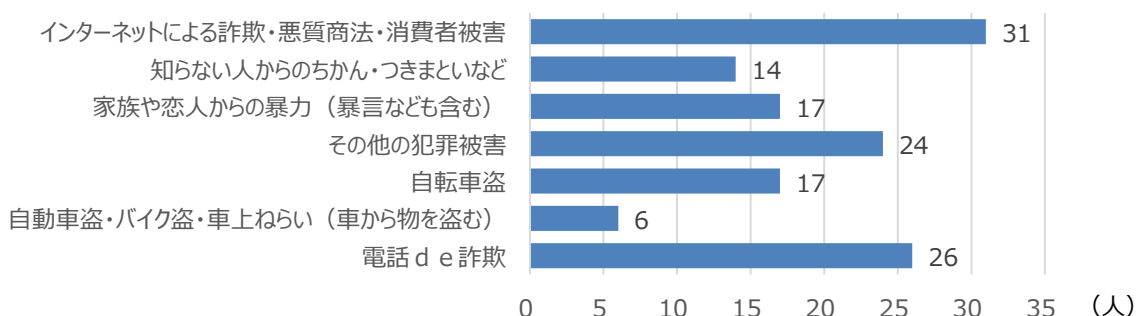


図 2-67 1年間に同居家族があった犯罪被害経験（複数回答可）【同居家族あり全体 n=4,157】

表 2-3 1 年間であった犯罪被害経験 (%)【年代別、性別、エリア別】

本人があった犯罪被害（年代別、性別）	年代別					性別		全体
	20代 (n=688)	30代 (n=1004)	40代 (n=1271)	50代 (n=1233)	60代 (n=979)	男性 (n=2538)	女性 (n=2592)	(n=5175)
ネットによる詐欺・悪質商法・消費者被害	2.2	1.4	1.3	1.8	2.3	1.7	1.8	1.8
自宅敷地への侵入	1.9	2.6	1.8	1.0	1.4	2.0	1.4	1.7
ちかん・つきまといなど	2.8	1.4	1.0	0.7	0.3	1.1	1.1	1.1
家族や恋人からの暴力・暴言	1.9	1.0	1.5	0.7	0.6	0.8	1.4	1.1
建物や自動車の落書きや損壊	0.3	1.8	0.7	0.8	0.8	0.9	0.8	0.9
自宅での泥棒（空き巣など）	0.9	0.9	1.2	0.6	0.8	1.1	0.6	0.9
その他の犯罪被害	1.2	0.6	0.9	0.7	0.6	0.9	0.7	0.8
自転車盗	0.9	0.7	0.6	0.5	0.7	0.8	0.5	0.7
自動車盗・バイク盗・車上ねらい	0.7	1.0	0.8	0.3	0.3	0.7	0.5	0.6
電話 d e 詐欺	0.6	0.5	0.2	0.6	1.0	0.6	0.5	0.6
犯罪の被害にあったことはない	89.4	90.5	93.3	92.1	92.6	92.1	91.7	91.8

本人があった犯罪被害（エリア別）	東葛・湾岸 (n=3488)	印旛 (n=574)	内房 (n=472)	香取・東総 (n=209)	南房総・外 房(n=149)	九十九里 (n=283)	全体 (n=5175)
ネットによる詐欺・悪質商法・消費者被害	1.5	3.0	1.9	1.9	1.3	1.8	1.8
自宅敷地への侵入	1.2	3.0	3.0	1.4	4.0	2.1	1.7
ちかん・つきまといなど	1.3	0.3	1.9	0.5	0.0	0.7	1.1
家族や恋人からの暴力・暴言	1.0	0.5	2.3	1.4	1.3	0.7	1.1
建物や自動車の落書きや損壊	0.8	1.2	1.5	1.0	1.3	0.7	0.9
自宅での泥棒（空き巣など）	0.9	0.7	0.8	0.5	1.3	1.4	0.9
その他の犯罪被害	0.9	0.3	1.1	1.0	0.7	0.4	0.8
自転車盗	0.6	0.9	0.4	1.0	1.3	0.4	0.7
自動車盗・バイク盗・車上ねらい	0.7	0.2	0.6	0.0	1.3	0.4	0.6
電話 d e 詐欺	0.7	0.5	0.2	0.0	0.0	0.0	0.6
犯罪の被害にあったことはない	92.3	91.8	89.0	91.9	91.3	90.5	91.8

同居家族があった犯罪被害（エリア別）	東葛・湾岸 (n=2718)	印旛 (n=484)	内房 (n=394)	香取・東総 (n=171)	南房総・外 房(n=120)	九十九里 (n=240)	全体 (n=4127)
ネットによる詐欺・悪質商法・消費者被害	0.7	1.2	1.0	0.0	0.0	0.8	0.8
ちかん・つきまといなど	0.4	0.4	0.5	0.0	0.0	0.0	0.3
家族や恋人からの暴力・暴言	0.4	0.0	1.0	0.6	0.0	0.0	0.4
その他の犯罪被害	0.5	0.0	0.8	1.2	0.8	1.7	0.6
自転車盗	0.4	0.2	0.3	0.6	0.0	0.8	0.4
自動車盗・バイク盗・車上ねらい	0.1	0.2	0.0	0.6	0.0	0.0	0.1
電話 d e 詐欺	0.6	0.8	0.8	0.0	0.0	0.8	0.6

(2) 犯罪不安感

〈Q14〉

犯罪に対する不安感について4件法で聞いた結果を図2-68に示す。いずれの項目も「やや不安」が4～5割と最も多く、「不安はない」は1～3割と少ない。もっとも不安感が少ないのは「日中、住んでいる地域を1人で出歩いている時に犯罪の被害にあうこと」だが、不安感がある人は7割である。

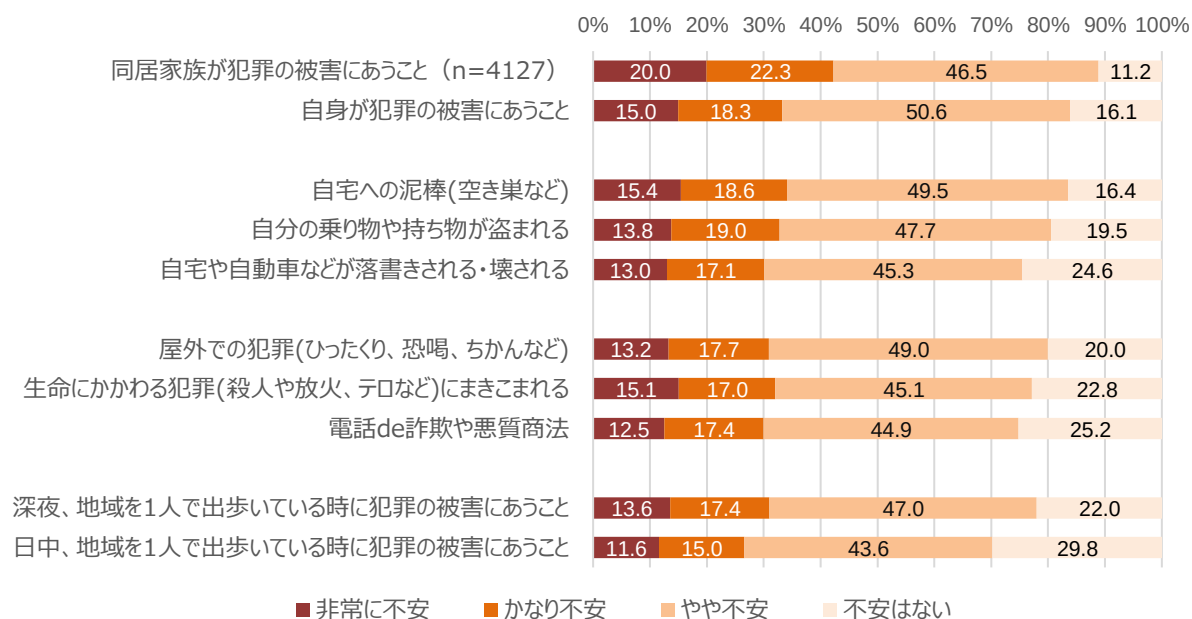


図 2-68 犯罪不安感 (%)【全体】

図2-69～71は、「非常に不安」を4点、「不安はない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。項目を問わず、性別では女性の方が、年代別では概ね若い方が不安感が高いという顕著な傾向がみられた。エリア別では、いずれの項目においても有意な差はみられなかった。

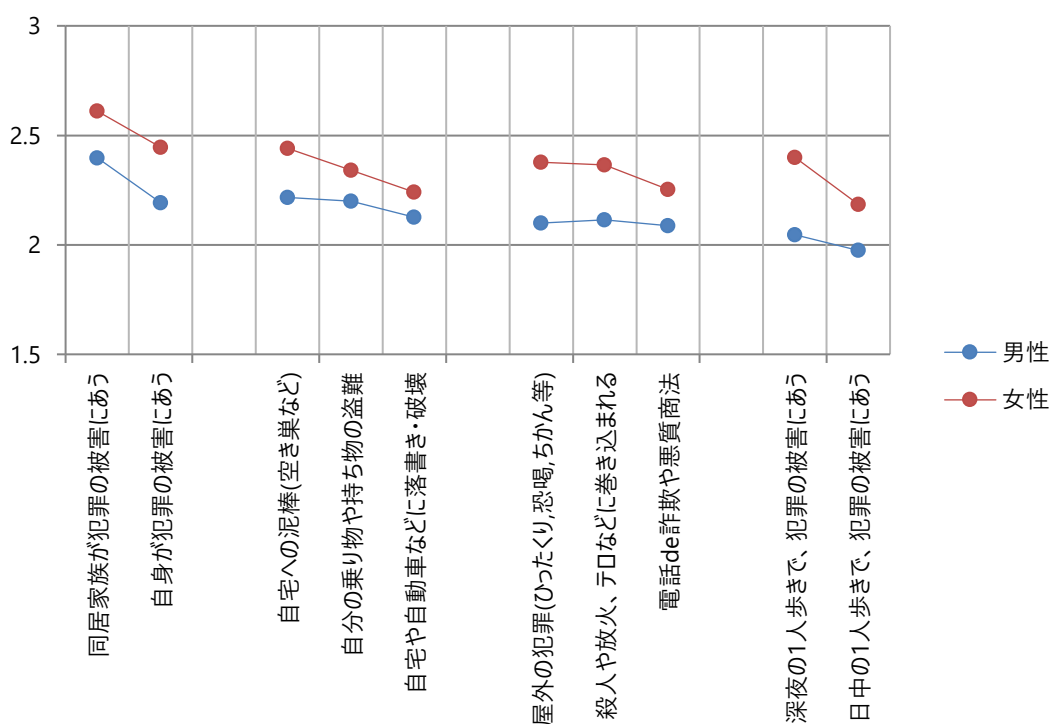


図 2-69 犯罪不安感 平均点【性別】

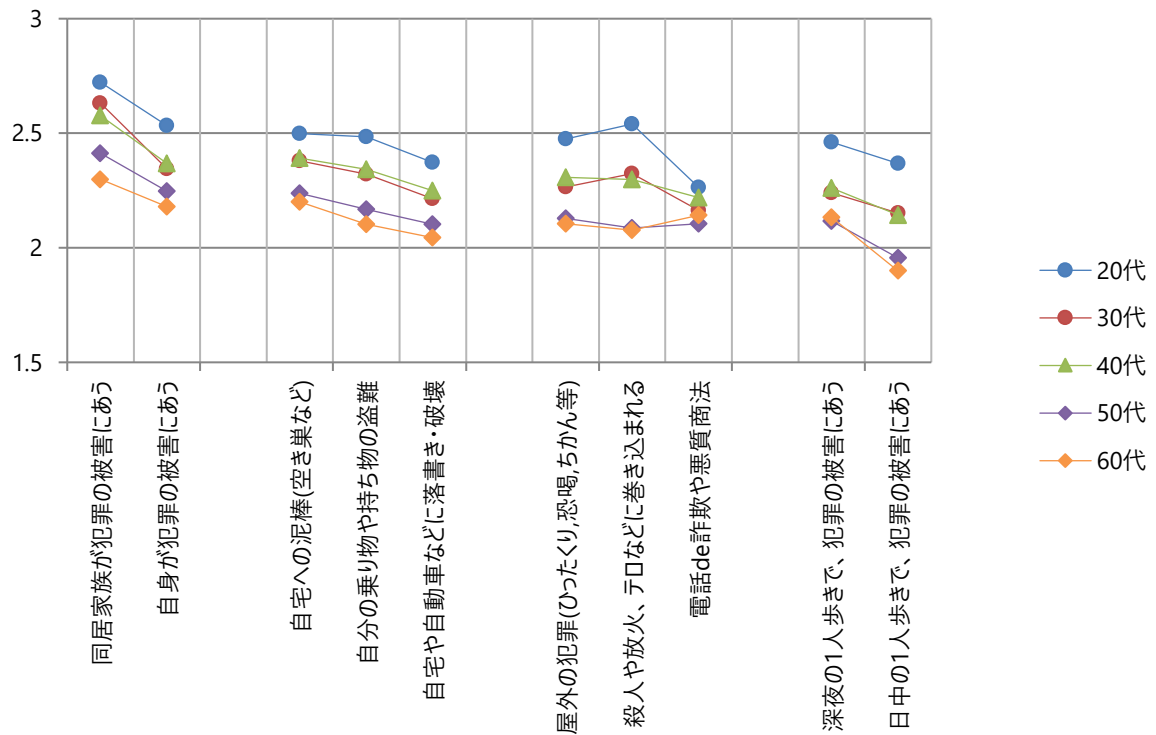


図 2-70 犯罪不安感 平均点【年代別】

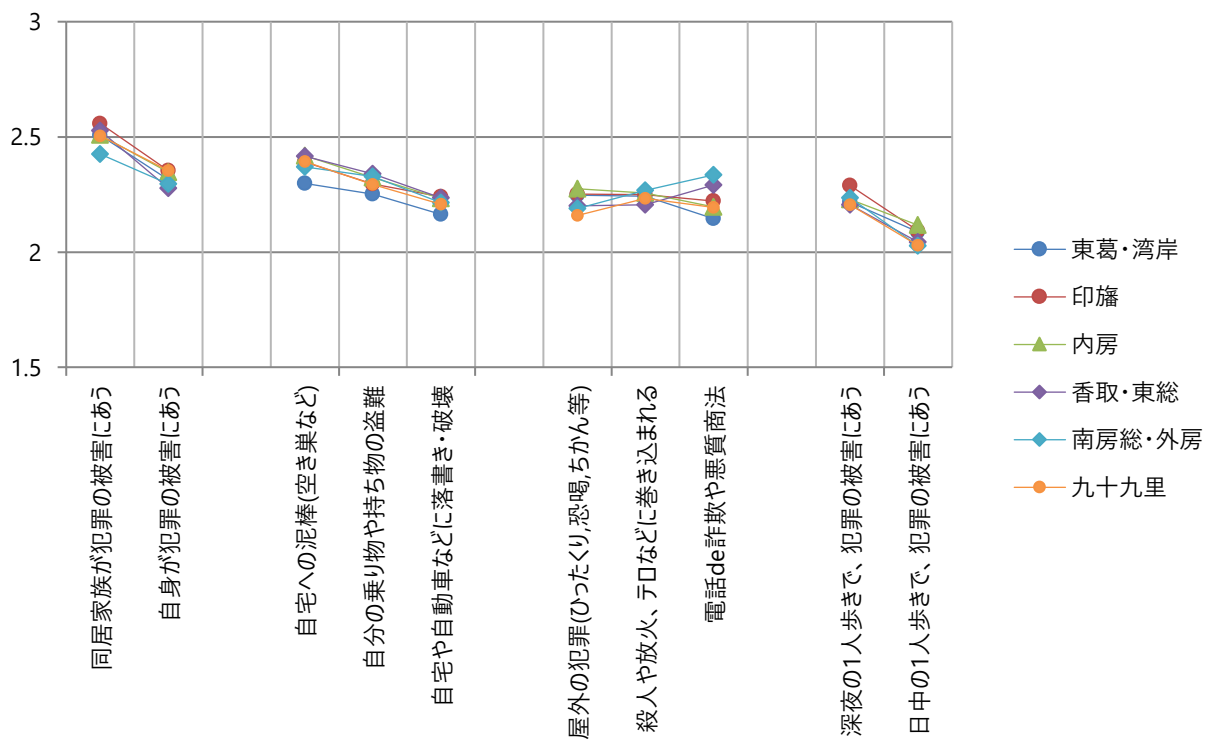


図 2-71 犯罪不安感 平均点【エリア別】

なお、年代については、ほとんどの項目において「不安はない」の割合には大きな差がみられなかった。年代による差の多くは、「不安はない」という回答割合ではなく、どの程度不安に思っているかという不安度の違いである。

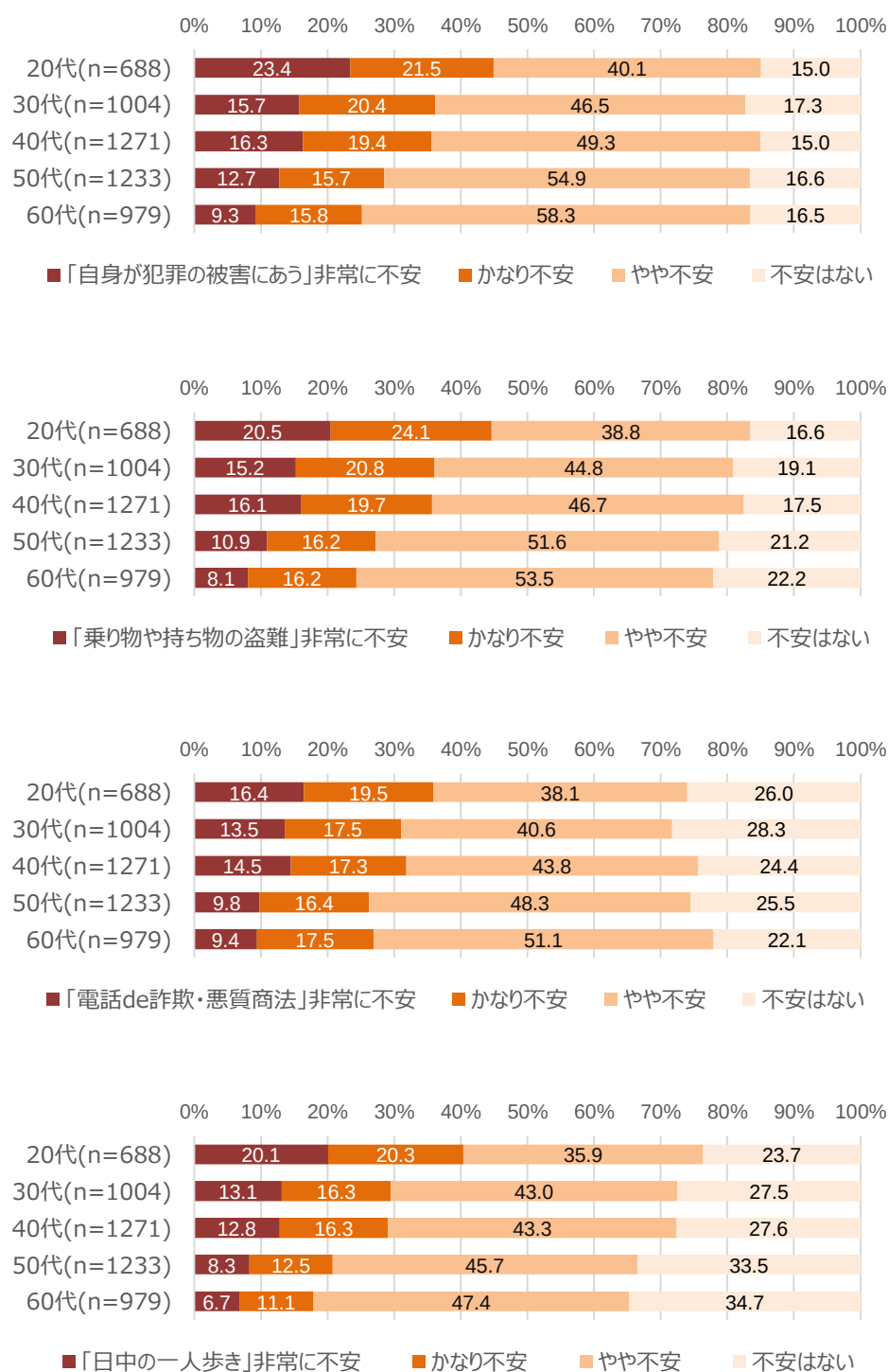


図 2-72 犯罪不安感（%）【年代別】

(3) 固定電話対策の実施状況

〈Q6-18,19〉

「家の固定電話は、いつも留守番電話にして相手を確認している」に対し「あてはまる」という回答は30.3%、「ナンバーディスプレイを使用して相手を確認している」は28.3%という結果であった。

性別による差はほとんどみられなかったが、年代による差は大きく、年齢が高いほど「あてはまる」という回答が多い傾向がみられた。

エリア別の差は顕著ではなかった。

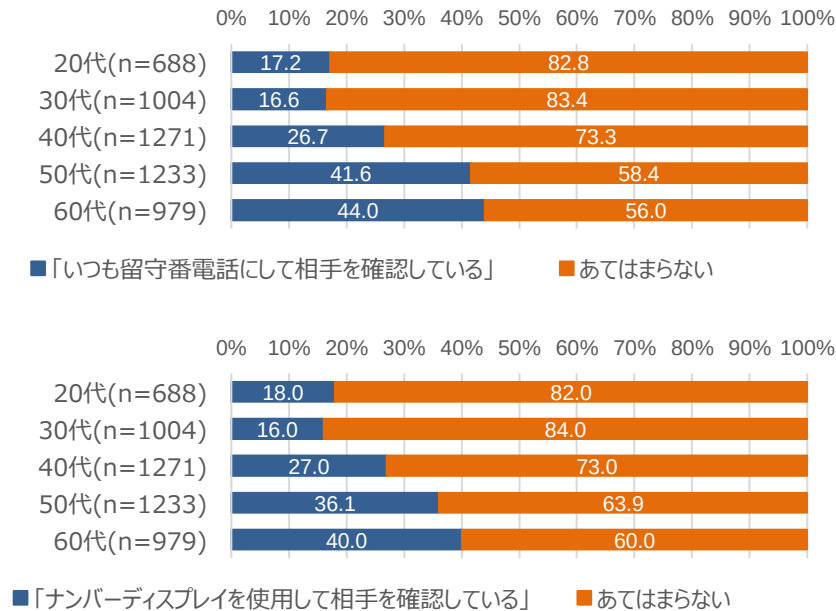


図 2-73 固定電話対策の実施状況 (%)【年代別】

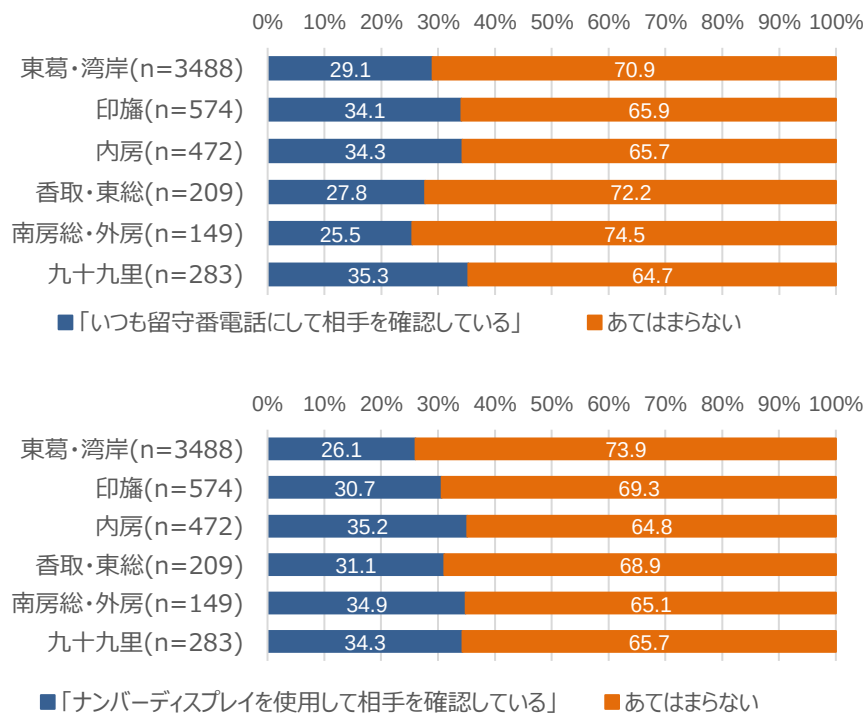


図 2-74 固定電話対策の実施状況 (%)【エリア別】

(4) 犯罪被害回避に対する考え方

〈Q18-1～3〉

犯罪の被害にあうことに関する考え方について4件法で聞いた結果を図2-75に示す。「あてはまる」側の回答は、「犯罪の被害にあうかどうかは運次第だ」は68.8%、「自分は犯罪の被害にあわないよう行動できる」は52.3%、「対策をすれば犯罪の被害にはあわない」は45.6%であった。

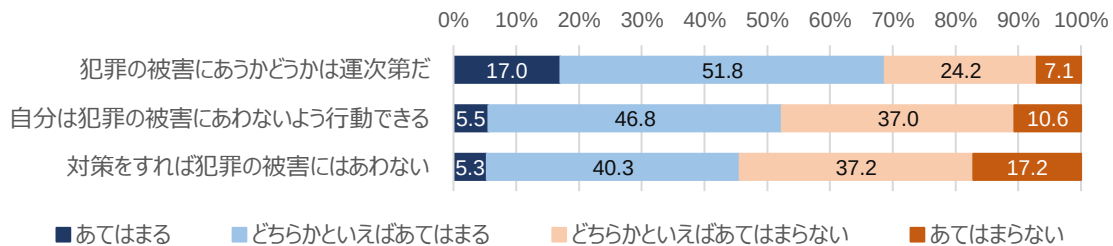


図2-75 犯罪被害回避に対する考え方（％）【全体】

いずれの項目においても、性別および年代による有意な差がみられた。

女性の方が、また年齢が若い方が「犯罪の被害にあうかどうかは運次第だ」に対し肯定的な回答が多い。「自分は犯罪の被害にあわないよう行動できる」「対策をすれば犯罪の被害にはあわない」については、男性の方が「あてはまる」「あてはまらない」という両極側の回答が多く、また30代以降は高年齢の方が肯定的な回答が多い。

エリア別の差はほとんどみられなかった。

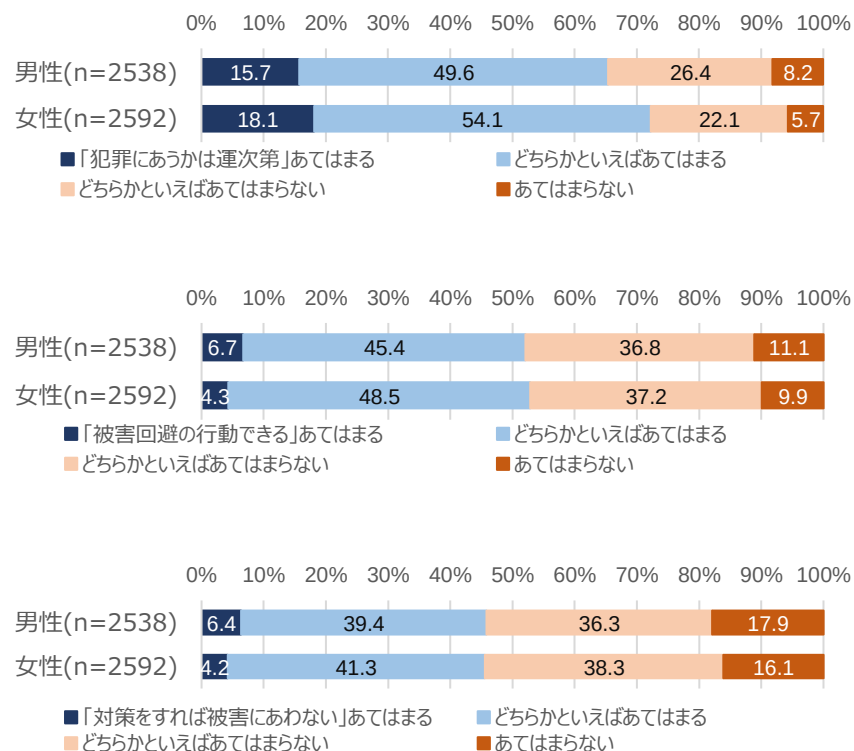


図2-76 犯罪被害回避に対する考え方（％）【性別】

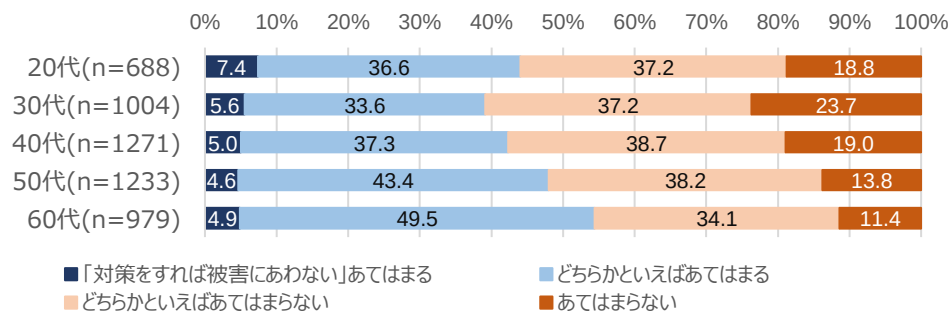
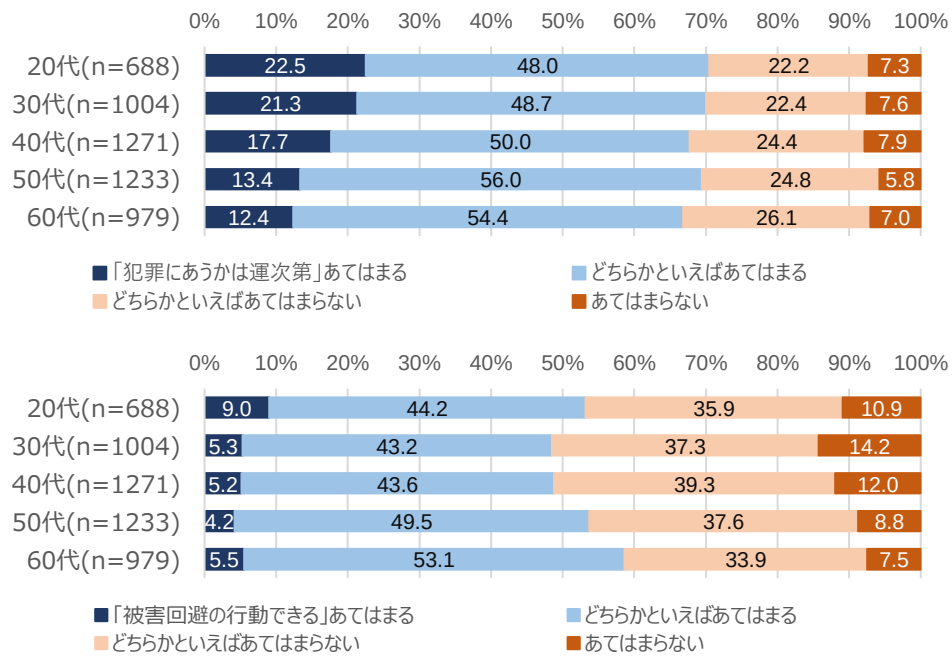


図 2-77 犯罪被害回避に対する考え方（％）【年代別】

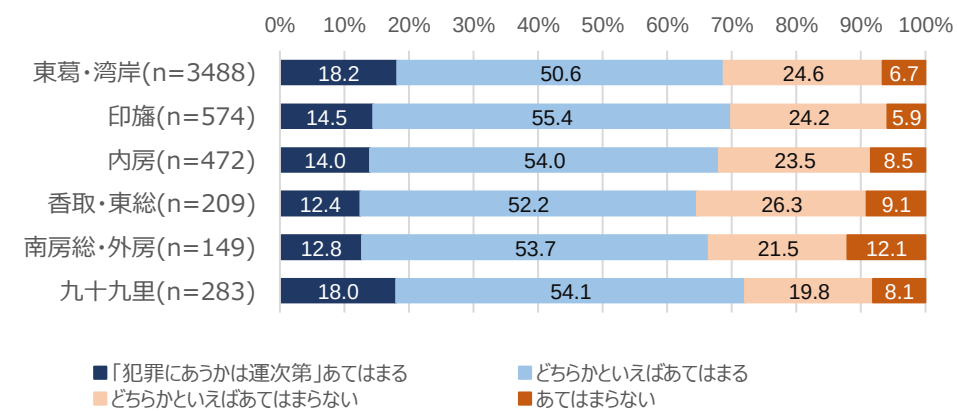


図 2-78 犯罪被害回避に対する考え方（％）【エリア別】

(5) 相談窓口等の認知

〈Q11〉

犯罪被害や悩みごとの相談窓口について、知っているものをすべて選ぶという設問の結果を図 2-79 に示す。

もっとも認知率が高かったのは「いのちの電話」であり、43.1%が知っているとした。次いで回答が多かったのは「どれも知らない」で 38.5%である。もっとも知られていなかったのは性犯罪被害相談等の相談窓口で、認知率は 5%にも満たない。

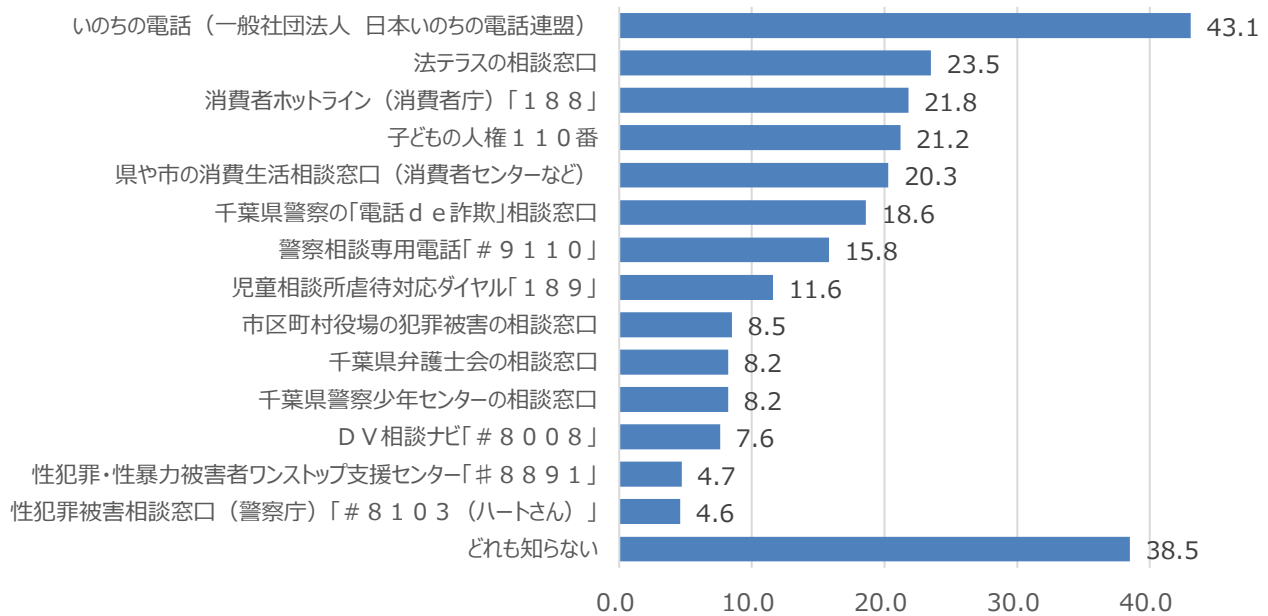


図 2-79 相談窓口等の認知率（複数回答可・%）【全体】

年代別、性別、エリア別の割合を表 2-4 に示す。どの相談窓口等がどの程度知られているかという大きな傾向には違いはないが、年代別・性別では若干特徴的な傾向がみられた。

性別では、ほとんどすべての項目で女性の認知率が高かった。「どれも知らない」という回答も、男性 43.7%に対し、女性は 33.2%と少ない。男性の認知率が若干女性を上回っていたのは、「警察相談専用電話 # 9110」および「千葉県弁護士会の相談窓口」だけであった。

年代別では、「いのちの電話」「法テラスの相談窓口」等、多くの項目で年齢が高くなるにつれて若干認知率が高くなる傾向がみられた。ただし、「子どもの人権 110 番」「児童相談所虐待ダイヤル 189」については逆に若い層の方が若干認知率が高い。

表 2-4 相談窓口等の認知率（複数回答可・％）【年代別、性別、エリア別】

相談窓口等の認知（年代別、性別）	年代別					性別		全体 (n=5175)
	20代 (n=688)	30代 (n=1004)	40代 (n=1271)	50代 (n=1233)	60代 (n=979)	男性 (n=2538)	女性 (n=2592)	
いのちの電話 （一般社団法人 日本いのちの電話連盟）	39.1	37.7	43.4	44.8	48.5	35.3	51.0	43.1
法テラスの相談窓口	18.5	20.7	24.4	24.9	26.8	22.5	24.5	23.5
消費者ホットライン（消費者庁）「１８８」	22.2	20.7	20.3	20.4	26.3	19.7	23.9	21.8
子どもの人権１１０番	27.3	20.2	20.3	19.4	21.3	18.4	24.0	21.2
県や市の消費生活相談窓口 （消費者センターなど）	15.0	18.0	16.4	21.9	29.5	17.8	22.9	20.3
千葉県警察の「電話ｄｅ詐欺」相談窓口	23.0	17.9	17.4	16.9	20.2	17.5	19.8	18.6
警察相談専用電話「＃９１１０」	19.3	15.1	15.3	14.5	16.4	16.6	15.1	15.8
児童相談所虐待対応ダイヤル「１８９」	16.1	14.1	11.3	8.8	9.6	8.7	14.5	11.6
市区町村役場の犯罪被害の相談窓口	7.0	8.0	9.5	6.8	11.1	9.1	7.9	8.5
千葉県弁護士会の相談窓口	5.7	5.9	7.4	8.6	12.7	8.9	7.4	8.2
千葉県警察少年センターの相談窓口	9.6	8.8	6.6	7.6	9.2	8.1	8.2	8.2
DV相談ナビ「＃８００８」	9.7	8.1	8.3	6.7	5.7	6.2	9.0	7.6
性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター 「＃８８９１（はやくワンストップ）」	8.7	5.9	4.2	3.2	3.1	4.1	5.2	4.7
性犯罪被害相談窓口（警察庁） 「＃８１０３（ハートさん）」	6.5	4.8	5.2	3.5	3.8	4.9	4.4	4.6
どれも知らない	37.6	42.0	40.6	39.1	32.0	43.7	33.2	38.5

相談窓口等の認知（エリア別）	東葛・湾岸 (n=3488)	印旛 (n=574)	内房 (n=472)	香取・東総 (n=209)	南房総・外 房(n=149)	九十九里 (n=283)	全体 (n=5175)
いのちの電話 （一般社団法人 日本いのちの電話連盟）	42.4	48.1	43.2	39.2	42.3	44.2	43.1
法テラスの相談窓口	24.1	25.1	20.1	21.5	16.8	23.3	23.5
消費者ホットライン（消費者庁）「１８８」	21.0	26.7	22.9	18.7	21.5	22.6	21.8
子どもの人権１１０番	20.3	22.8	23.7	21.1	22.1	24.7	21.2
県や市の消費生活相談窓口 （消費者センターなど）	18.8	23.9	23.1	24.9	23.5	21.9	20.3
千葉県警察の「電話ｄｅ詐欺」相談窓口	17.4	22.1	17.2	24.4	24.2	21.9	18.6
警察相談専用電話「＃９１１０」	15.1	19.3	17.4	14.4	14.8	17.0	15.8
児童相談所虐待対応ダイヤル「１８９」	10.8	13.8	13.8	13.9	15.4	10.2	11.6
市区町村役場の犯罪被害の相談窓口	7.9	9.6	10.4	11.5	11.4	8.1	8.5
千葉県弁護士会の相談窓口	7.5	7.7	11.2	8.6	12.8	9.2	8.2
千葉県警察少年センターの相談窓口	7.1	10.3	12.5	7.7	8.1	9.9	8.2
DV相談ナビ「＃８００８」	6.5	8.5	12.3	9.1	9.4	8.8	7.6
性犯罪・性暴力被害者ワンストップ支援センター 「＃８８９１（はやくワンストップ）」	4.4	6.3	4.7	5.7	3.4	5.3	4.7
性犯罪被害相談窓口（警察庁） 「＃８１０３（ハートさん）」	4.4	5.7	3.6	4.3	6.0	6.4	4.6
どれも知らない	39.5	33.3	38.1	39.2	38.3	36.4	38.5

(6) 犯罪や刑罰への意見

〈Q22-1～5〉

犯罪や刑罰に対する意見を4件法で聞いた結果を図2-80に示す。いずれの項目も「そう思う」が8割前後と多い。

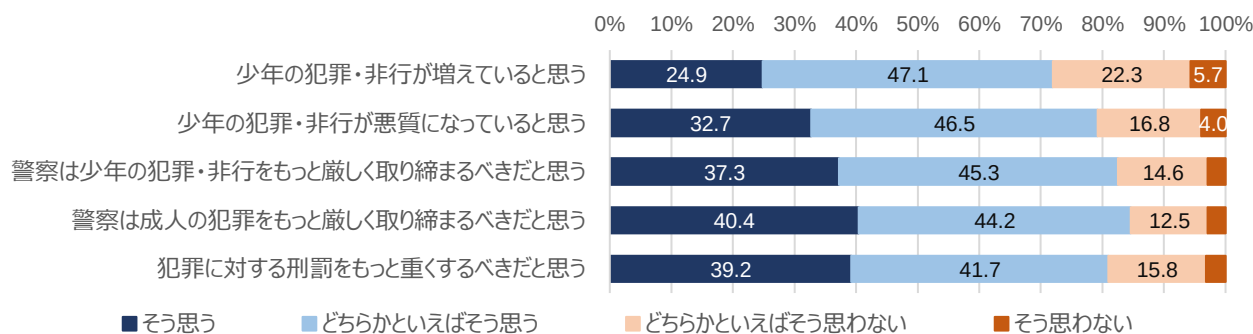


図 2-80 犯罪や刑罰への意見（％）【全体】

図2-81は、「そう思う」を4点、「そう思わない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別では女性の方が、年代別では高年齢層の方が「そう思う」という回答が多い傾向があった。エリア別では「少年の犯罪・非行が増えていると思う」以外は有意な差はないが、南房総・外房等で、とくに少年犯罪・非行に対して若干厳しい意見が多い傾向がみられる。

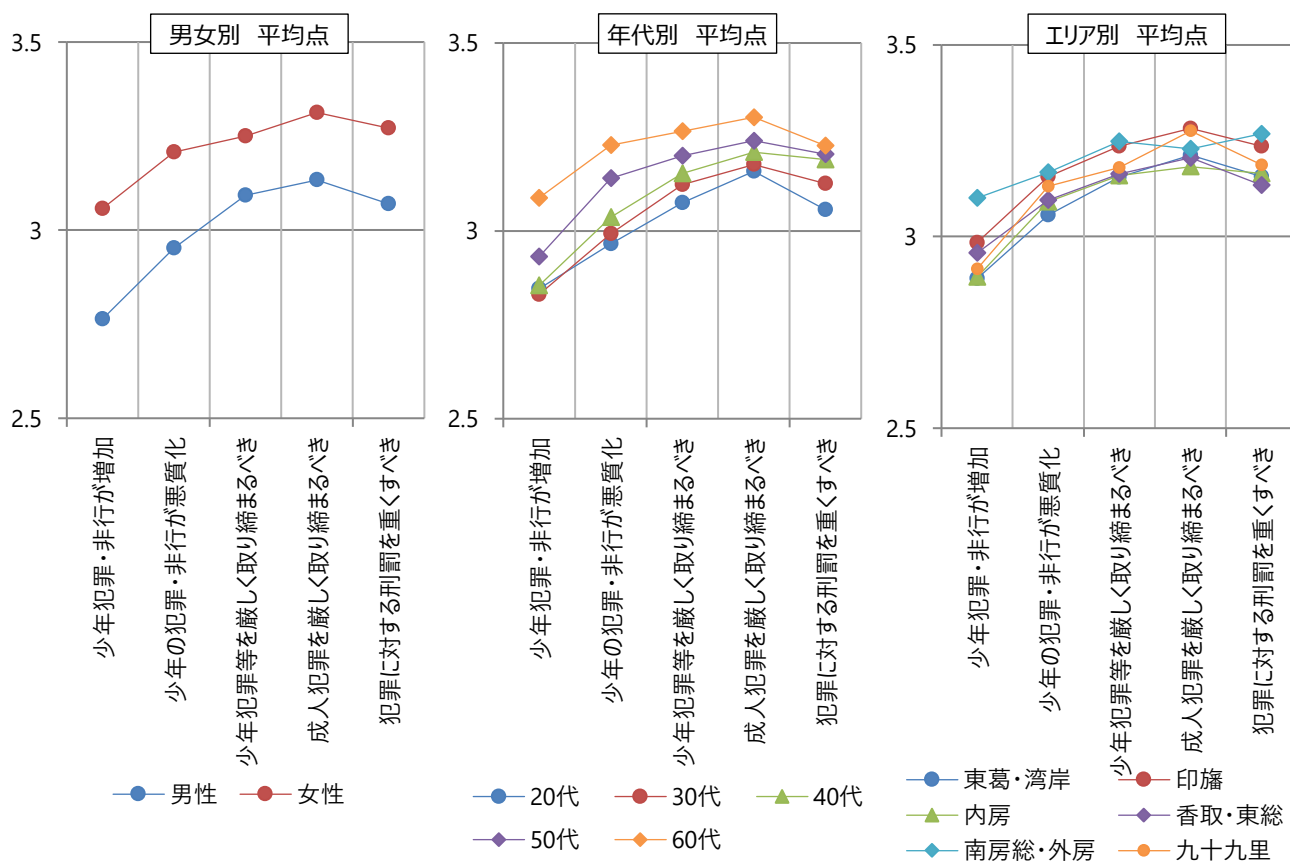


図 2-81 犯罪や刑罰への意見 平均点【性別、年代別、エリア別】

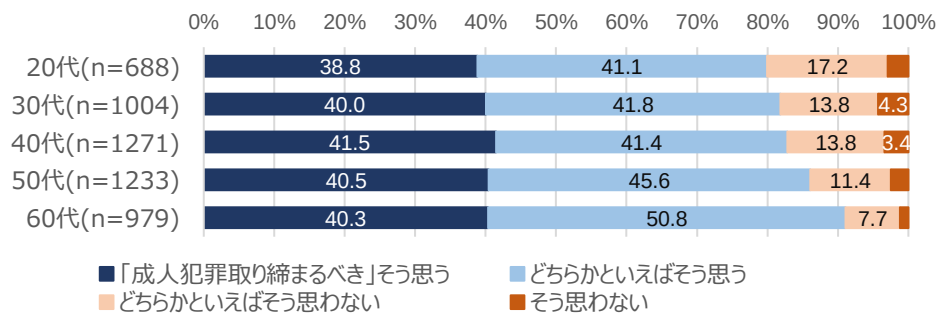
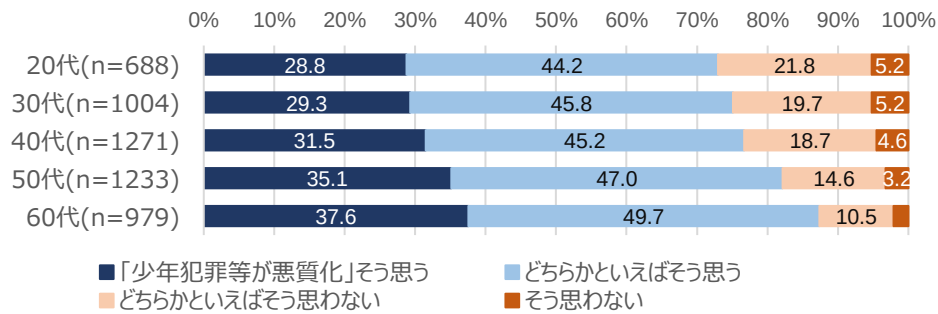
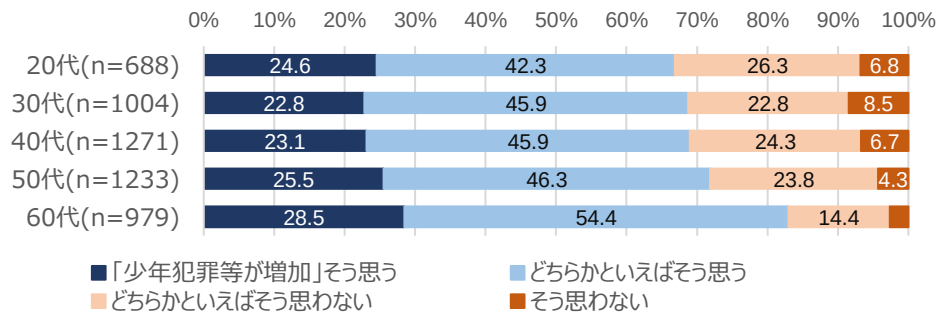


図 2-82 犯罪や刑罰への意見（％）【年代別】

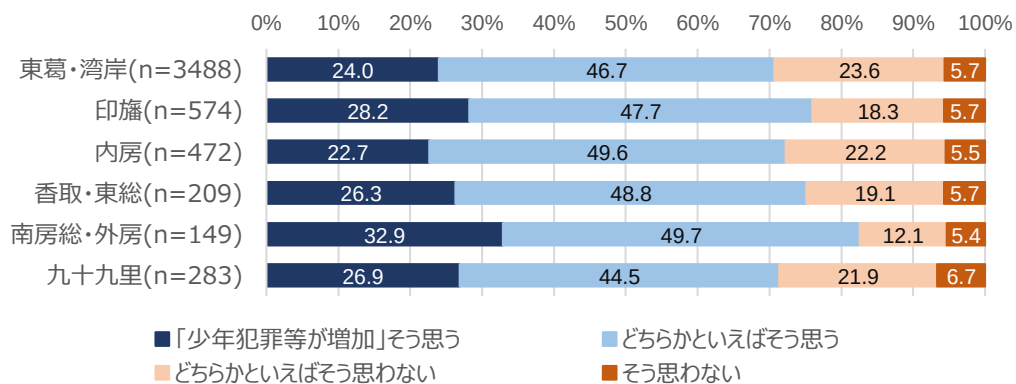


図 2-83 犯罪や刑罰への意見（％）【エリア別】

2-5. 災害・防災

(1) 災害不安感

〈Q23〉

自然災害に対する不安感を4件法で聞いた結果を図2-84に示す。

ほとんどの人が不安に思っているのは「地震」であり、「非常に不安」という回答が4割を超える。立地の影響が大きい「土砂災害」「津波」「高潮」は、「不安はない」の割合が比較的高い。

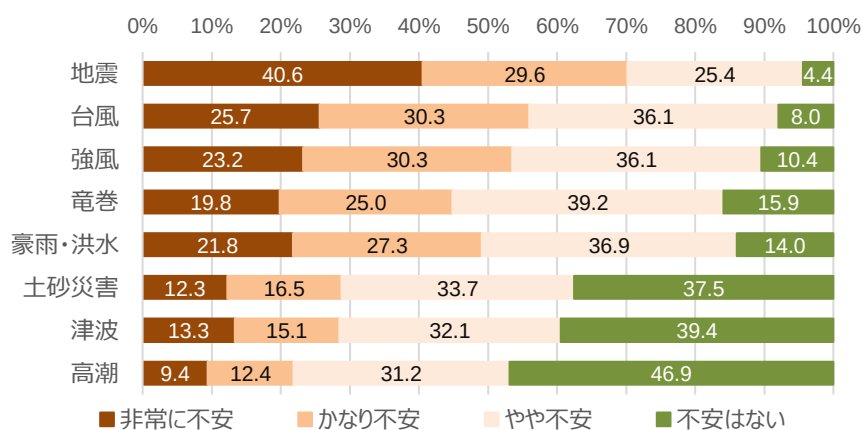


図2-84 自然災害に対する不安感（％）【全体】

図2-85および86は、「非常に不安」を4点、「不安はない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別では、いずれの災害に対しても女性の方が一定して不安感が強い。

年代別では、「土砂災害」「津波」「高潮」に関しては年齢が若いほど不安感が強い。

エリア別では、いずれの災害に対しても南房総・外房で不安感が強く、東葛・湾岸および印旛で弱い傾向があった。この傾向はとくに「土砂災害」「津波」「高潮」において顕著である。なお、「地震」に関しては有意な差はなかった。

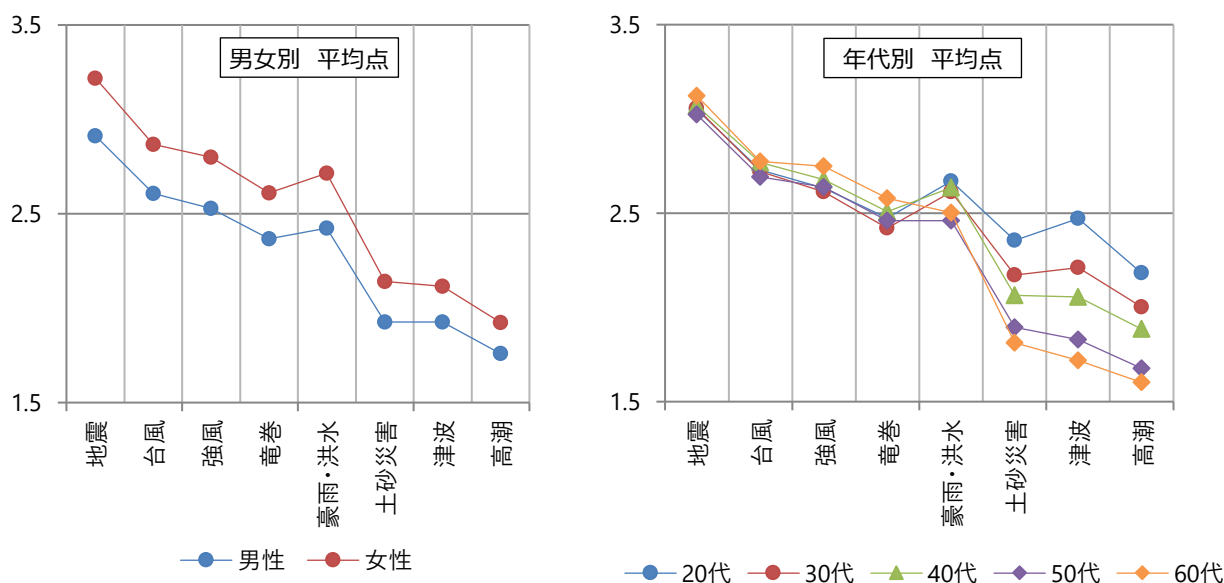


図2-85 自然災害に対する不安感 平均点【年代別】【性別】

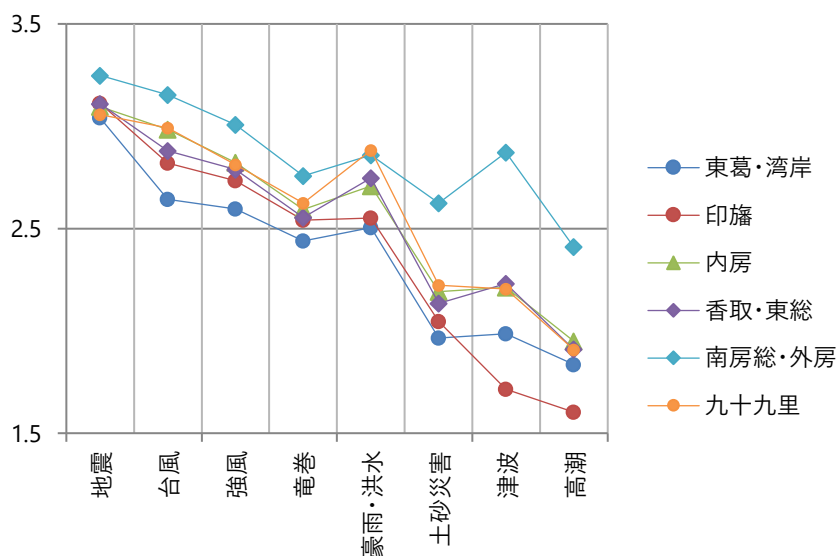


図 2-86 自然災害に対する不安感 平均点【エリア別】

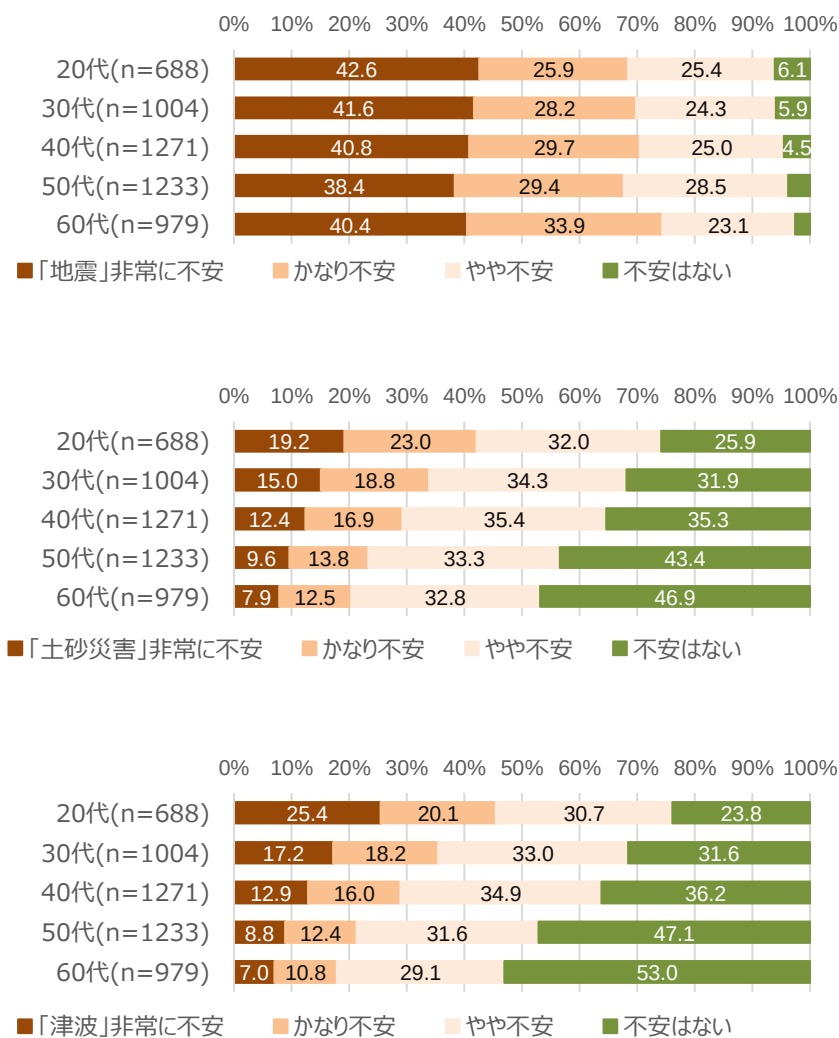


図 2-87 自然災害に対する不安感（％）【年代別】

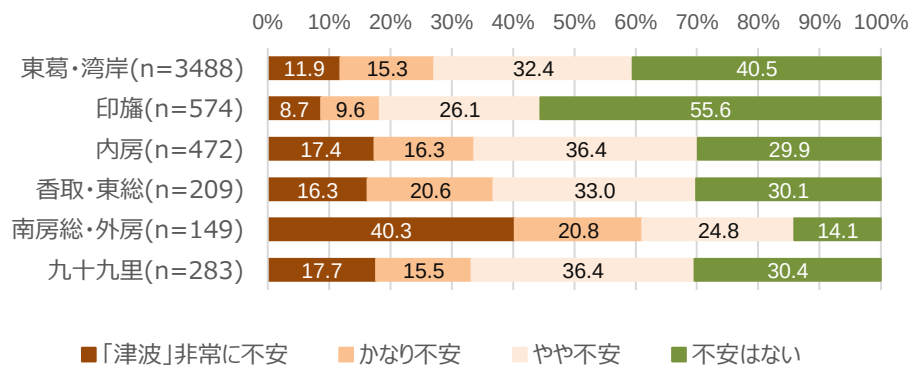
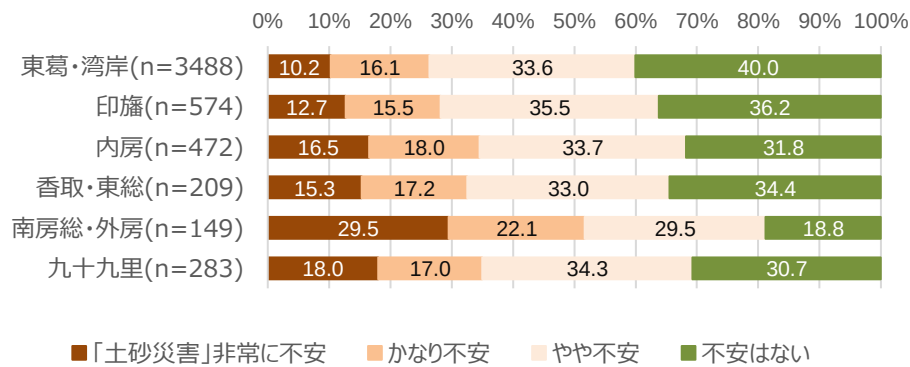
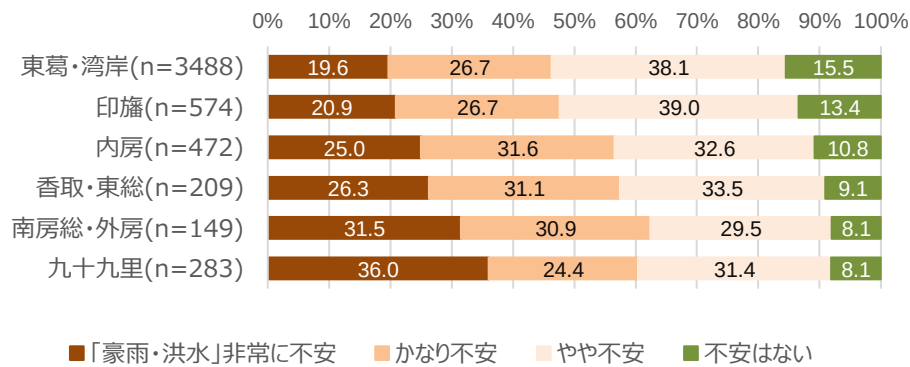
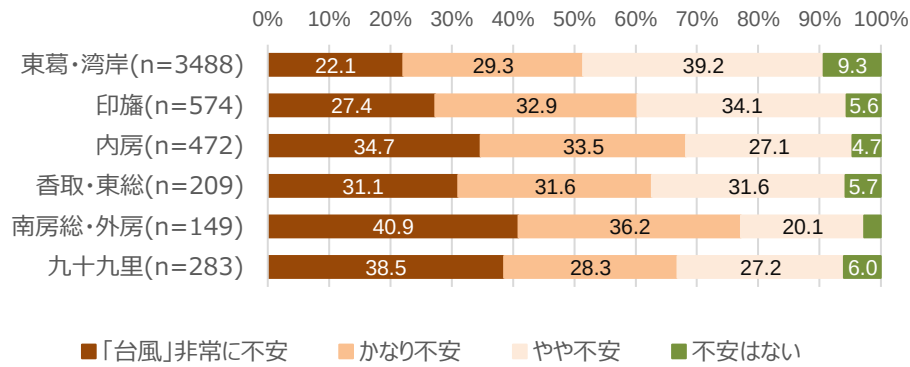


図 2-88 自然災害に対する不安感（％）【エリア別】

(2) 災害への備え実施状況

〈Q24〉〈Q22-8,9〉

自然災害に備えて本人や同居家族が行っていることを複数回答可で聞いた結果を図 2-89 に示す。

何らかの備えを行っているのは「特に何もしていない」(25.4%)を除く 74.6%であり、多かったのは「懐中電灯の準備」53.7%、「飲料水の備蓄」50.4%、「食糧の備蓄」45.4%である。もっとも不安感が高かった地震に対する一般的な対策である「家具の固定や転倒防止」「簡易携帯トイレの準備」等は 2 割程度であるなど、災害への備えは十分とはいえない結果といえる。

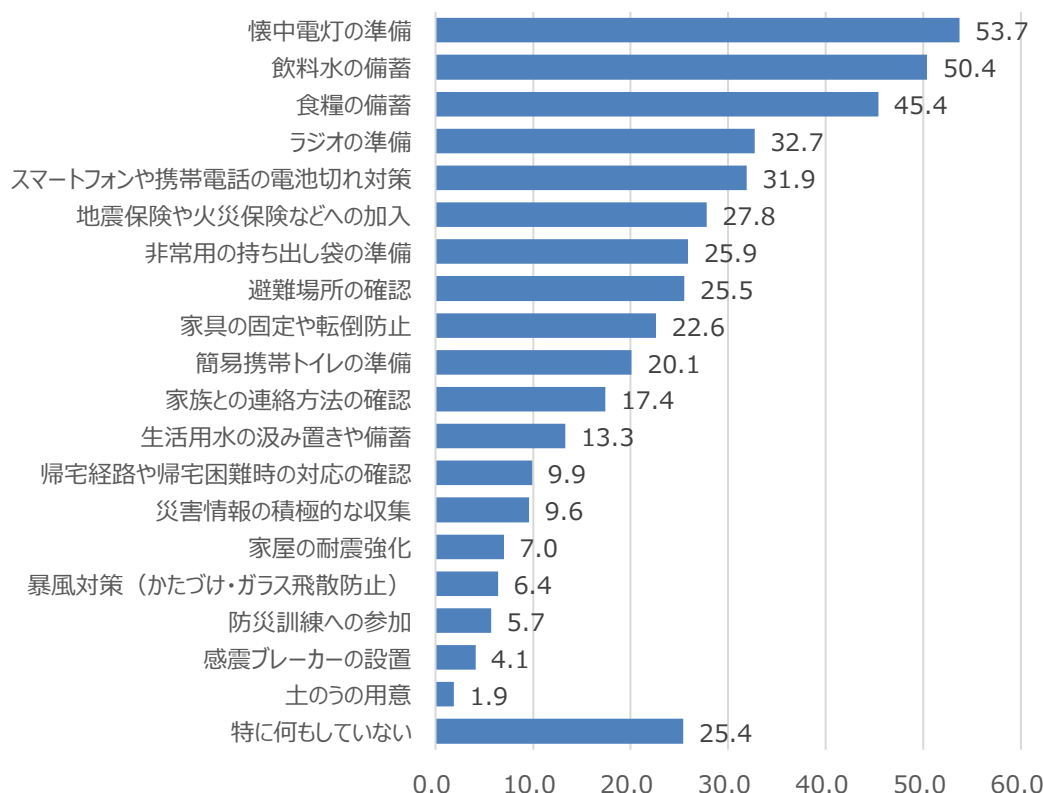


図 2-89 自然災害に対する備えの実施状況（%）【全体】

年代別、性別、エリア別の割合を表 2-5 に示す。どの対策の実施状況が高いかという大きな傾向には違いはないが、それぞれで若干特徴的な傾向がみられた。

性別では、ほとんどすべての項目で女性の対策実施状況が男性を上回った。

年代別では、ほとんどすべての項目で年齢が高くなるにつれて対策実施率が高くなる傾向がみられた。とくに年代による差が大きかったのは「ラジオの準備」「地震保険や火災保険などへの加入」「生活用水の汲み置きや備蓄」等である。なお、「帰宅経路や帰宅困難時の対応の確認」についてはほとんど差がなかった。

エリア別では、「非常用の持ち出し袋の準備」「家具の固定や転倒防止」「簡易携帯トイレの準備」等、多くの項目において、印旛、内房および東葛・湾岸で対策実施率が高く、香取・東総および南房総・外房で低いという傾向がみられた。

表 2-5 自然災害に対する備えの実施状況（複数回答可・％）【年代別、性別、エリア別】

災害への備え実施状況（年代別、性別）	年代別					性別		全体
	20代 (n=688)	30代 (n=1004)	40代 (n=1271)	50代 (n=1233)	60代 (n=979)	男性 (n=2538)	女性 (n=2592)	(n=5175)
懐中電灯の準備	38.4	42.5	51.9	59.0	71.4	50.6	57.0	53.7
飲料水の備蓄	41.7	43.9	50.7	50.6	62.7	47.8	53.5	50.4
食糧の備蓄	40.6	41.9	44.3	45.0	54.5	42.8	48.3	45.4
ラジオの準備	17.9	21.7	31.5	38.6	48.6	33.8	32.1	32.7
スマートフォンや携帯電話の電池切れ対策	26.9	28.4	30.9	32.9	39.2	31.5	32.7	31.9
地震保険や火災保険などへの加入	12.4	20.0	25.2	32.0	45.0	25.7	30.2	27.8
非常用の持ち出し袋の準備	23.7	22.9	23.8	26.2	32.7	23.8	28.0	25.9
避難場所の確認	18.6	21.2	24.3	24.8	37.1	23.0	28.0	25.5
家具の固定や転倒防止	15.0	14.9	20.1	26.8	33.8	20.8	24.7	22.6
簡易携帯トイレの準備	14.1	19.6	19.5	21.2	24.2	15.3	24.8	20.1
家族との連絡方法の確認	15.6	14.6	15.5	18.0	23.3	15.0	20.0	17.4
生活用水の汲み置きや備蓄	7.4	9.5	12.0	14.2	22.0	11.7	15.0	13.3
帰宅経路や帰宅困難時の対応の確認	9.6	10.0	9.8	10.5	9.7	9.5	10.4	9.9
災害情報の積極的な収集	7.0	8.7	7.7	9.7	14.8	9.6	9.6	9.6
家屋の耐震強化	6.7	6.0	6.2	6.3	10.2	7.3	6.8	7.0
暴風対策（かたづけ・ガラス飛散防止）	5.5	4.1	5.9	6.3	10.0	5.6	7.2	6.4
防災訓練への参加	4.2	4.9	4.6	4.9	10.0	6.0	5.4	5.7
感震ブレーカーの設置	3.9	4.0	3.5	3.1	6.3	4.9	3.3	4.1
土のうの用意	2.3	2.3	2.0	1.2	1.6	2.0	1.7	1.9
特に何もしていない	35.0	32.7	25.9	22.7	14.1	28.6	21.9	25.4

災害への備え実施状況（エリア別）	東葛・湾岸 (n=3488)	印旛 (n=574)	内房 (n=472)	香取・東総 (n=209)	南房総・外 房(n=149)	九十九里 (n=283)	全体 (n=5175)
懐中電灯の準備	52.2	57.1	58.1	55.5	53.0	56.9	53.7
飲料水の備蓄	50.1	55.1	53.0	41.1	45.0	51.2	50.4
食糧の備蓄	44.9	49.3	51.3	36.8	37.6	45.2	45.4
ラジオの準備	31.3	37.8	37.3	33.5	27.5	34.3	32.7
スマートフォンや携帯電話の電池切れ対策	30.6	34.3	35.0	31.1	36.2	36.4	31.9
地震保険や火災保険などへの加入	26.0	34.0	28.8	28.7	33.6	32.5	27.8
非常用の持ち出し袋の準備	27.0	28.0	25.8	15.3	15.4	20.8	25.9
避難場所の確認	24.8	29.6	27.3	18.7	26.2	26.9	25.5
家具の固定や転倒防止	22.4	28.9	23.1	15.8	16.8	19.4	22.6
簡易携帯トイレの準備	21.4	20.7	18.0	9.6	11.4	18.4	20.1
家族との連絡方法の確認	17.3	18.8	20.6	9.1	14.8	18.7	17.4
生活用水の汲み置きや備蓄	12.7	15.5	14.0	12.9	10.1	17.3	13.3
帰宅経路や帰宅困難時の対応の確認	10.4	11.5	9.3	4.3	6.0	8.5	9.9
災害情報の積極的な収集	8.7	12.7	12.5	6.7	11.4	10.6	9.6
家屋の耐震強化	6.5	9.8	7.2	7.7	4.7	8.1	7.0
暴風対策（かたづけ・ガラス飛散防止）	5.4	8.0	10.6	3.3	8.7	8.5	6.4
防災訓練への参加	5.4	7.0	7.2	4.3	8.1	4.2	5.7
感震ブレーカーの設置	3.8	4.2	5.7	4.8	4.7	4.2	4.1
土のうの用意	1.7	1.9	2.3	2.4	2.7	1.8	1.9
特に何もしていない	26.2	21.1	22.9	26.8	28.2	26.1	25.4

自然災害への備えができているかを4件法で聞いた結果を図2-90に示す。自分の家についても、住んでいる地域についても備えができているとは「思わない」側の回答が過半数という結果である。

性別による違いはまったくみられなかった。年代別では、20代が「備えができていると思う」という肯定的な意見がもっとも多かった。また、20代から40代にかけて肯定的な回答割合が減り、50代、60代で増えるという傾向もみられた。エリア別では、印旛などで肯定的な意見が多く、香取・東総などで少ないという傾向がみられた。

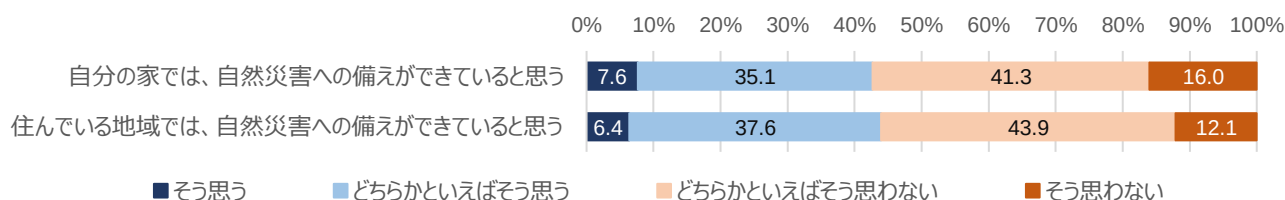


図 2-90 自然災害への備えに対する認識（％）【全体】

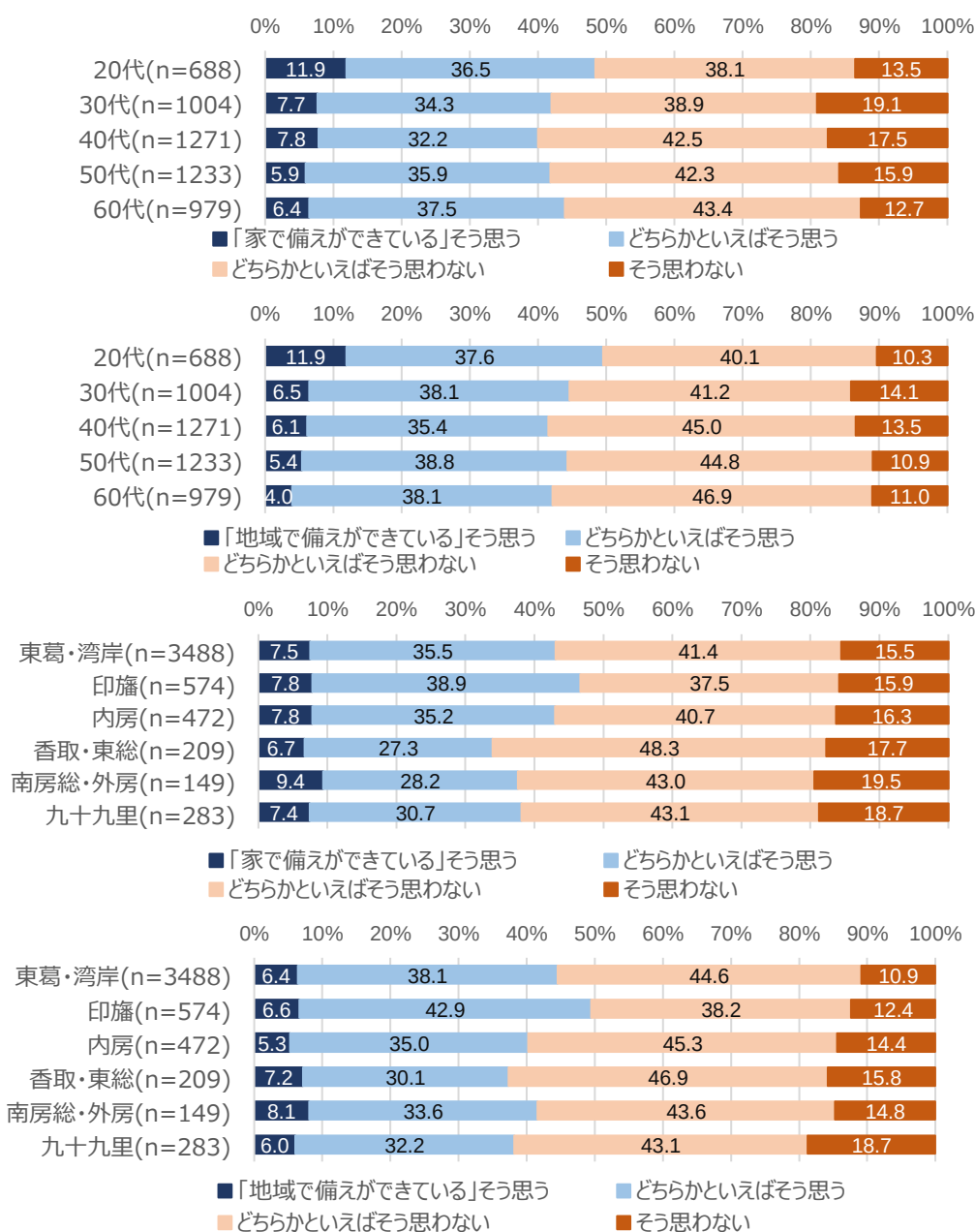


図 2-91 自然災害への備えに対する認識（％）【年代別】【エリア別】

2-6. 行政・施策への意見

(1) 自治体の施策・サービス評価

〈Q9-2～9〉

自治体の施策やサービスに関する評価を4件法で聞いた結果を図2-92に示す。

いずれの項目についても、「そう思う」側が半数強という結果であった。

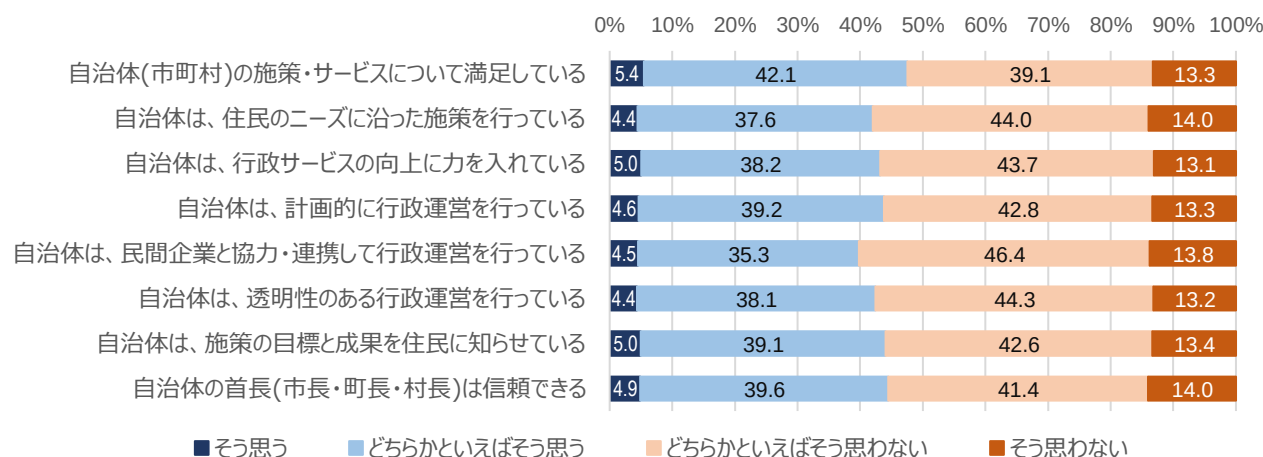


図 2-92 自治体の施策やサービスに関する評価 (%)【全体】

図2-93は、「そう思う」を4点、「そう思わない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別による違いはなかったが、年代別およびエリア別ではいずれの項目にもほぼ共通する有意な差がみられた。年代別では、20代および60代に肯定的な意見が多い。20代から50代にかけて徐々に肯定的な意見が減る傾向もみられる。エリア別では、印旛、東葛・湾岸、次いで内房で肯定的な意見が多く、香取・東総、南房総・外房、次いで九十九里で否定的な意見が多いという傾向がみられた。

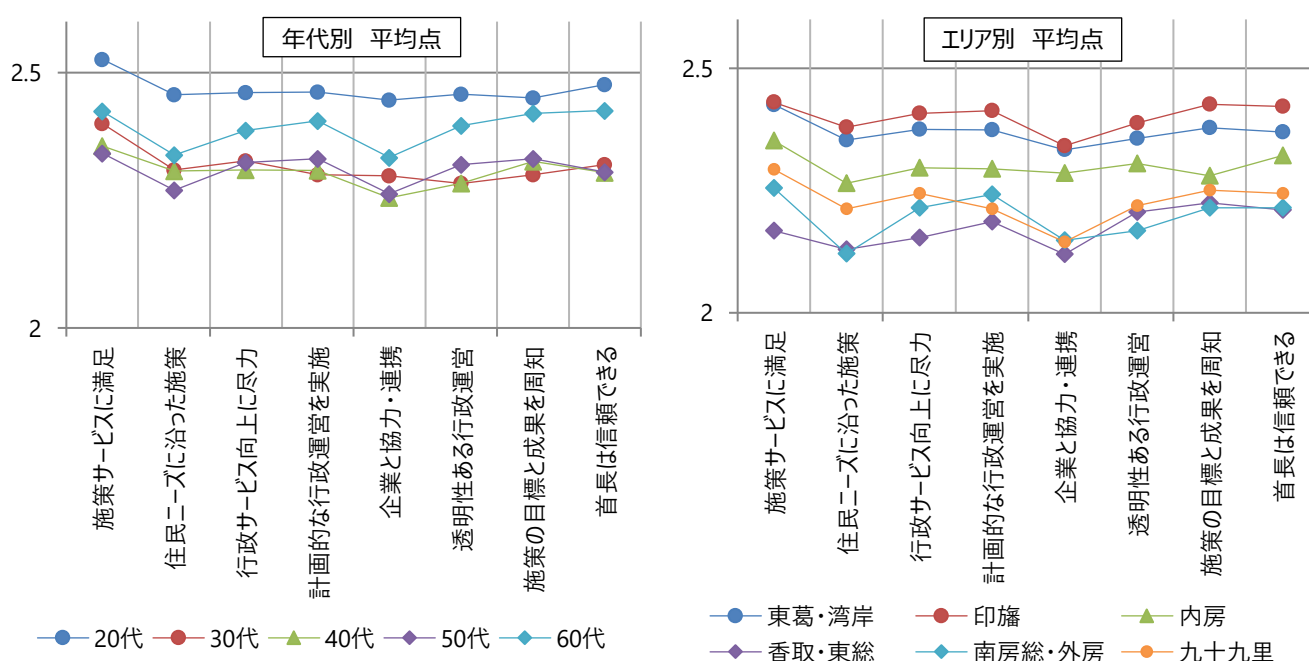


図 2-93 自治体の施策やサービスに関する評価 平均点【年代別】【エリア別】

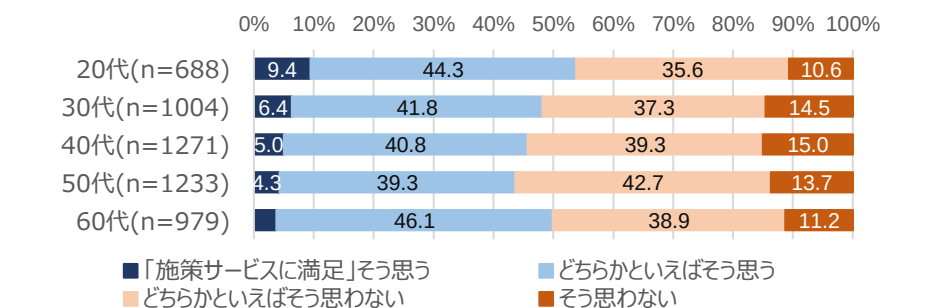


図 2-94 自治体の施策やサービスに関する評価（%）【年代別】

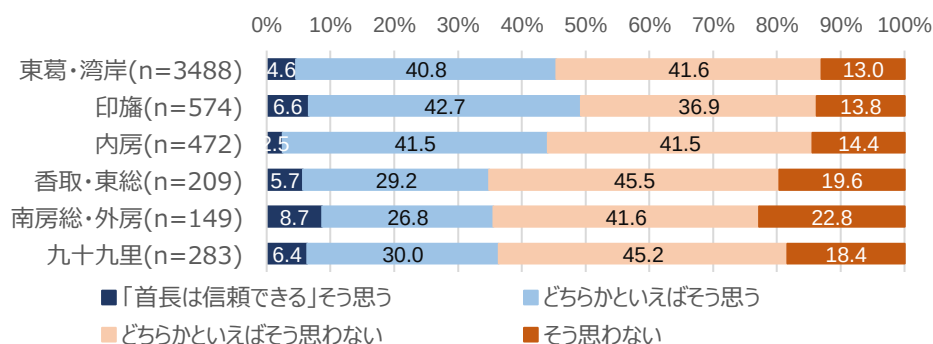
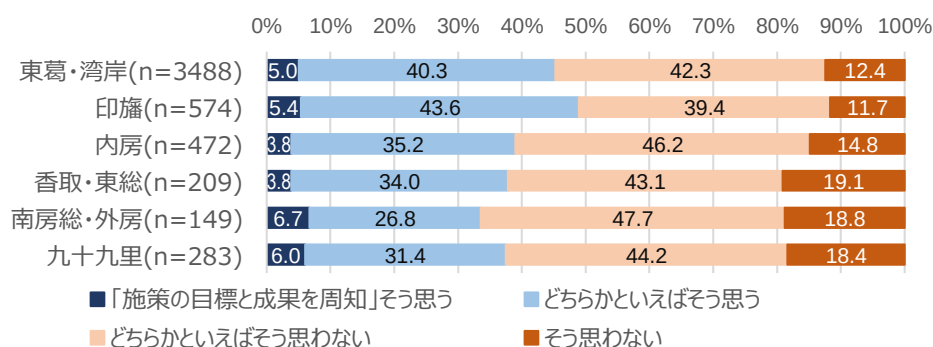
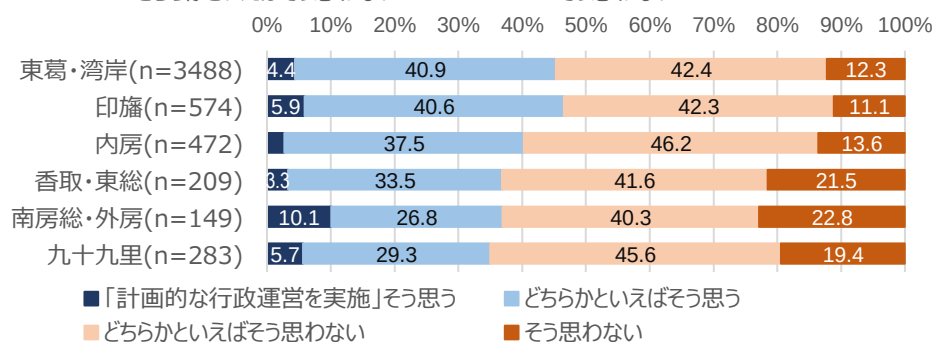
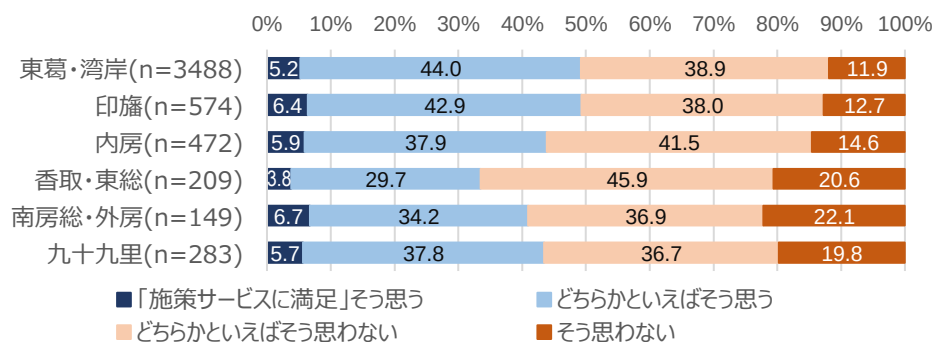


図 2-95 自治体の施策やサービスに関する評価（%）【エリア別】

(2) 政策の必要性に関する意向

〈Q15〉

政府や自治体などの政策の必要性に関する意向について 4 件法で聞いた結果を図 2-96 に示す。

いずれの取り組みについても「必要である」側が 7 割以上という結果であった。もっとも必要とされたのは「子どもを犯罪の被害から守るための取り組み」（「必要である」側 89.0%）であり、次いで「女性を性犯罪から守る取り組み」（同 87.1%）、「災害の予防や被災者の支援のための取り組み」（同 87.3%）と続く。もっとも必要性の意向が低かった「性的少数者(同性愛者、LGBT 等)を支援するための取り組み」でも「必要である」側は 70.4%であり、「必要ない」は少数派である。

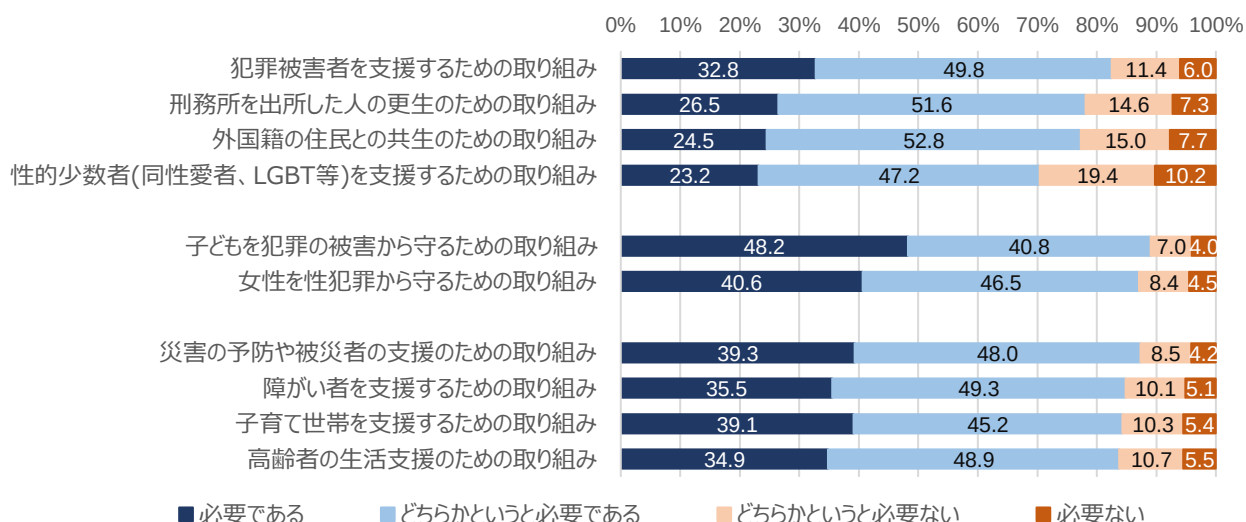


図 2-96 政策の必要性に関する意向（%）【全体】

図 2-97 および 98 は、「必要である」を 4 点、「必要ない」を 1 点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別では、いずれの取り組みに対しても女性の方が一様に必要性の意向が強い。

年代別では、ほとんどの取り組みについて、30 代から 60 代にかけて徐々に必要性の意向が高くなる傾向がみられた。ただし、多くの場合、「必要である」という強い意向の回答割合は若い世代の方が高い。20 代から 50 代にかけて多くなるのは「どちらかといえば必要である」の回答割合である。

20 代は、多くの取り組みに対し 30～40 代よりも必要性の意向が強い傾向があった。とくに 20 代で意向が強いのは、「性的少数者を支援するための取り組み」「犯罪被害者を支援するための取り組み」

「子どもを犯罪の被害から守るための取り組み」および「女性を性犯罪から守る取り組み」等である。なお、「子育て世帯を支援するための取り組み」は若い世代の方が、「高齢者の生活支援のための取り組み」は高齢の世帯の方が意向が強いという傾向がみられた。

エリア別では、印旛などで必要性の意向が強く、南房総・外房などで弱いという傾向がみられた取り組みも複数あったが、いずれの項目についても有意な差はなかった。

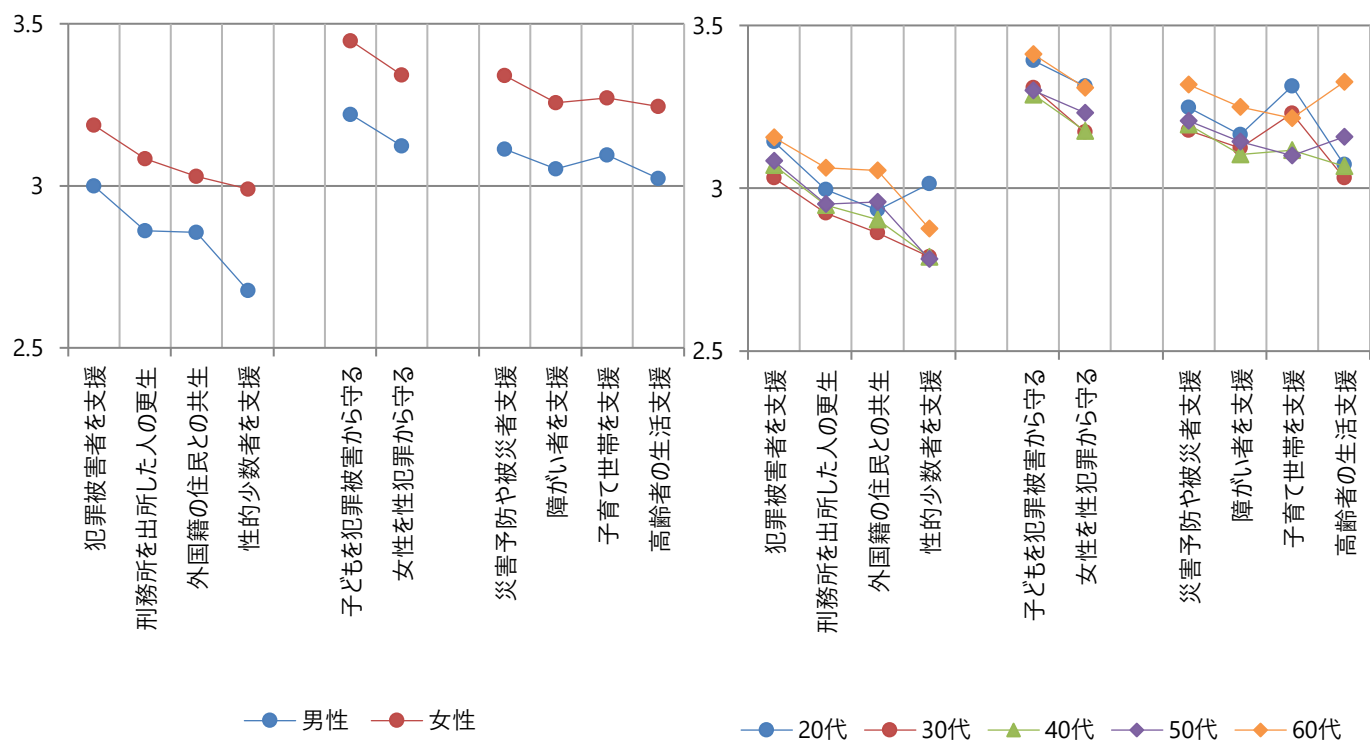


図 2-97 政策の必要性に関する意向 平均点【性別】【年代別】

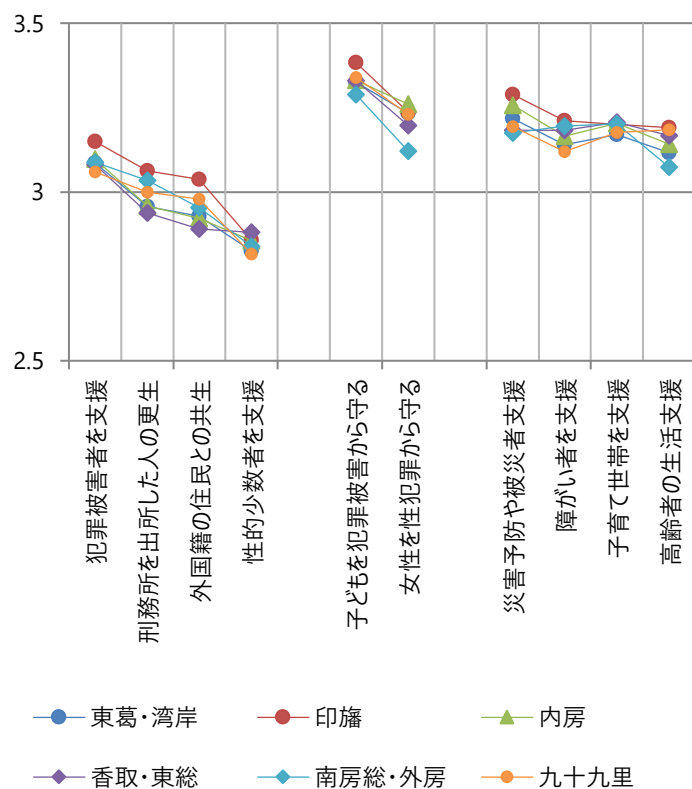


図 2-98 政策の必要性に関する意向 平均点【エリア別】

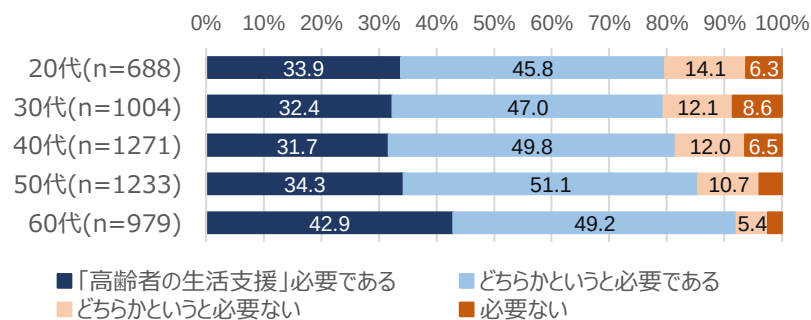
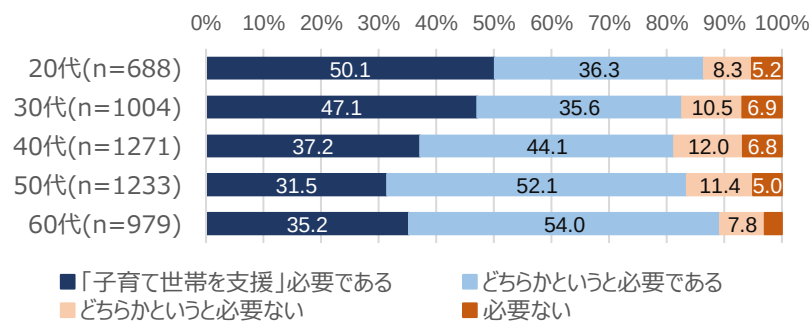
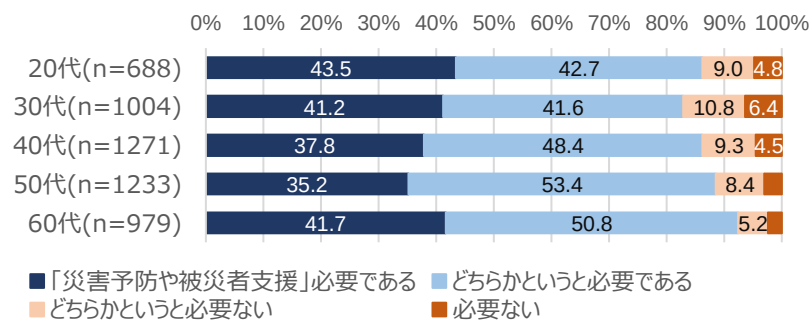
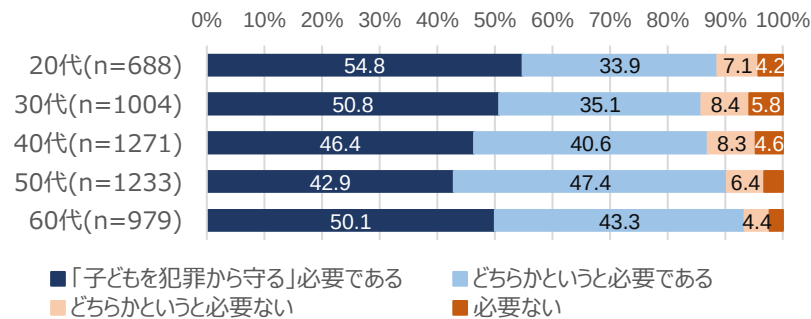
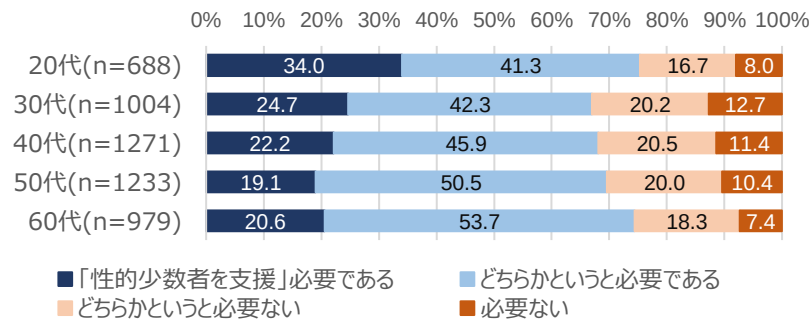


図 2-99 政策の必要性に関する意向（％）【年代別】

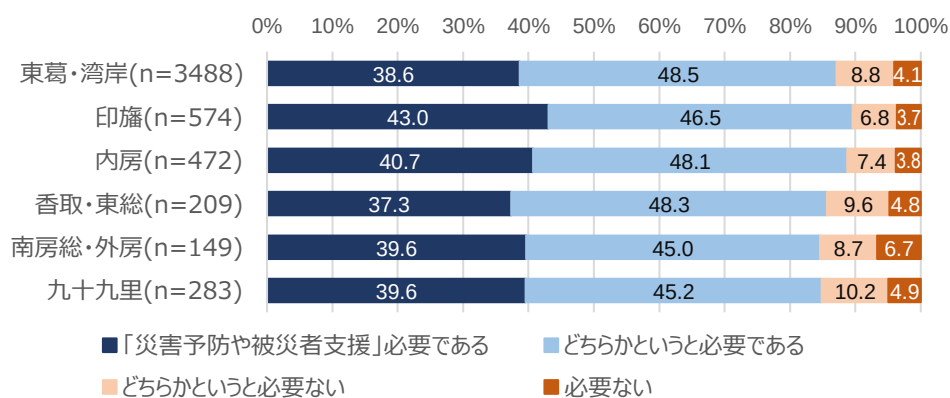
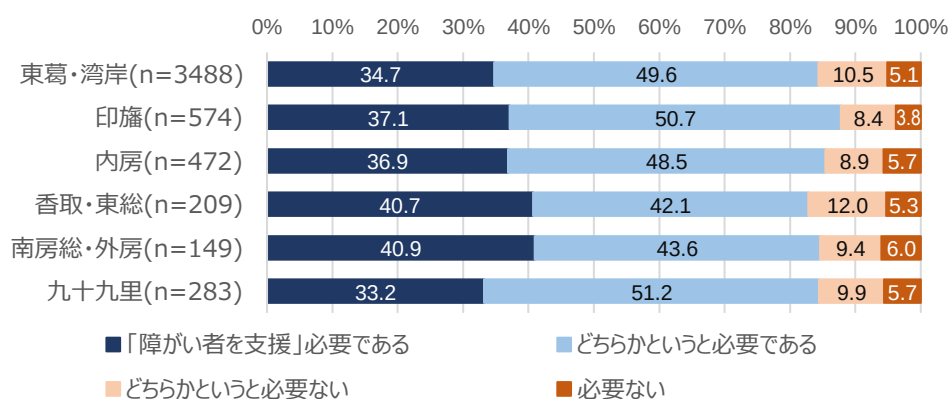
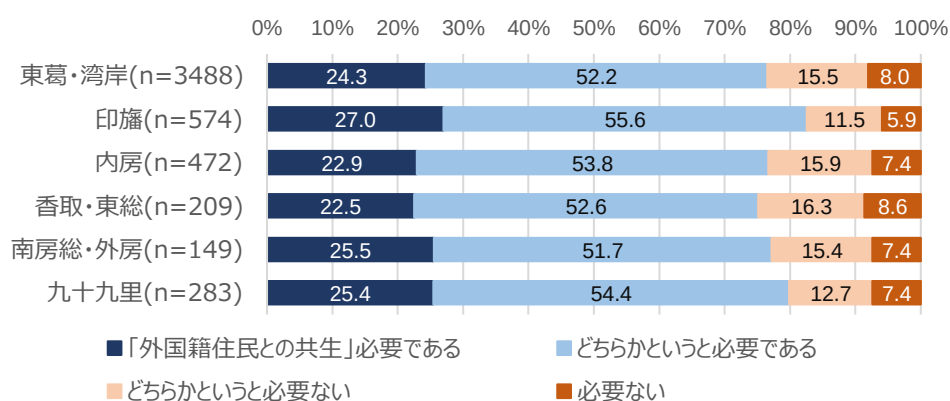
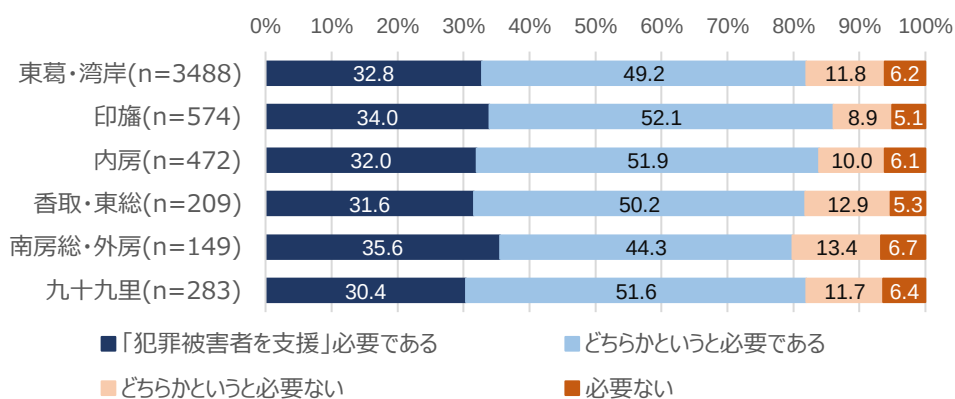


図 2-100 政策の必要性に関する意向（％）【エリア別】

2-7. その他

(1) 行動基準

〈Q19〉

街中や電車の中などで行動するときの考え方に関する結果を図 2-101 に示す。

問題を起こすことや警察につかまらることを嫌う、異なる意見も大切にし人権を尊重する、人の迷惑になることを嫌い気を遣うといった項目については「あてはまる」側の回答がいずれも過半数であり、「あてはまらない」側は 1 割前後と非常に少なかった。何をしようが勝手だと思う、悪事でも仲間に合わせてしまうといった項目についてはその逆であり、「あてはまる」側の回答は 1 割前後と非常に少ない。

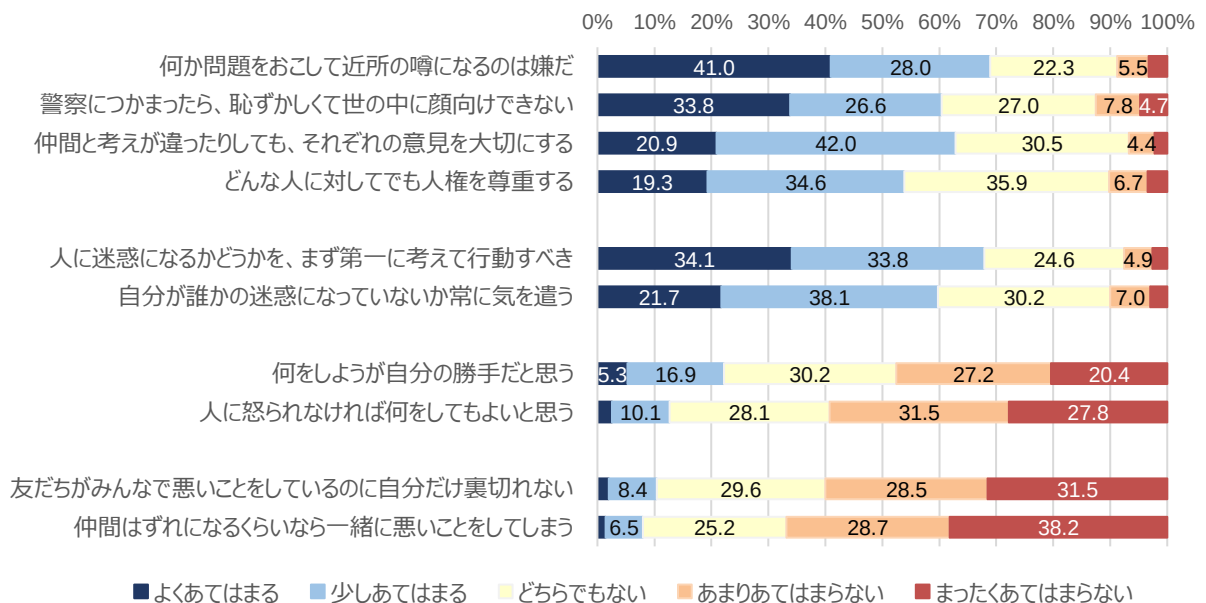


図 2-101 街中での行動基準（％）【全体】

図 2-102 および 103 は、「よくあてはまる」を 5 点、「まったくあてはまらない」を 1 点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別では、「何か問題をおこして近所の噂になるのは嫌だ」「人に迷惑になるかどうかを第一に考えて行動すべき」等、「あてはまる」側の回答が過半数以上であった項目全てにおいて、女性の方が「あてはまる」率が高いという一定の傾向がみられた。その他の項目では男女が逆転する傾向がみられるが、その差は比較的小さい。「何をしようが自分の勝手だと思う」では差はみられなかった。

年代別では、性別とは逆に、「何をしようが自分の勝手だと思う」「仲間はずれになるくらいなら一緒に悪いことをしてしまう」等、「あてはまる」側の回答が少数であった項目全てにおいて、若い方が「あてはまる」率が高いという一定の傾向がみられた。その他の項目については差が小さいが、「仲間と考えが違ったりしても、それぞれの意見を大切にする」「どんな人に対してでも人権を尊重する」「自分が誰かの迷惑になっていないか常に気を遣う」「警察につかまったら、恥ずかしくて世の中に顔向けできない」については、20 代から 40 代にかけて徐々に「あてはまる率」が下がり、40 代から 60 代にかけて徐々に上がるという一定の傾向がみられた。「何か問題をおこして近所の噂になるのは嫌だ」「人に迷惑になるかどうかを第一に考えて行動すべき」の「あてはまる」率は、40 代までは変わらず、50 代、60 代で若干高まるという傾向を示している。

なお、エリア別の違いはほとんどみられなかった。

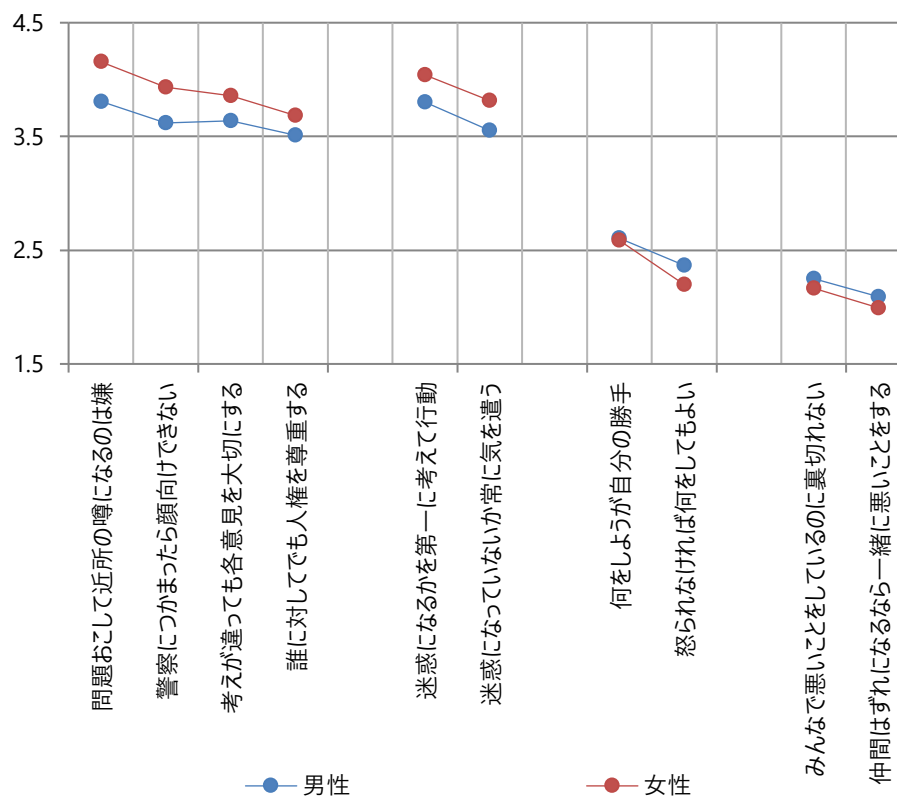


図 2-102 街中での行動基準 平均点【性別】

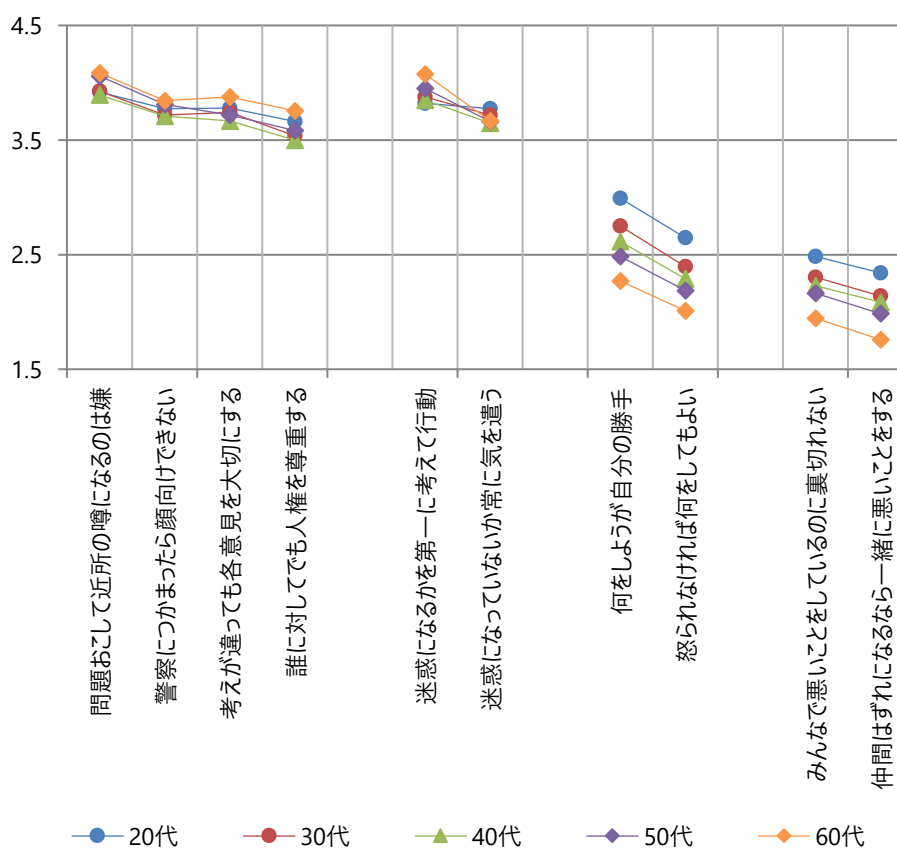


図 2-103 街中での行動基準 平均点【年代別】

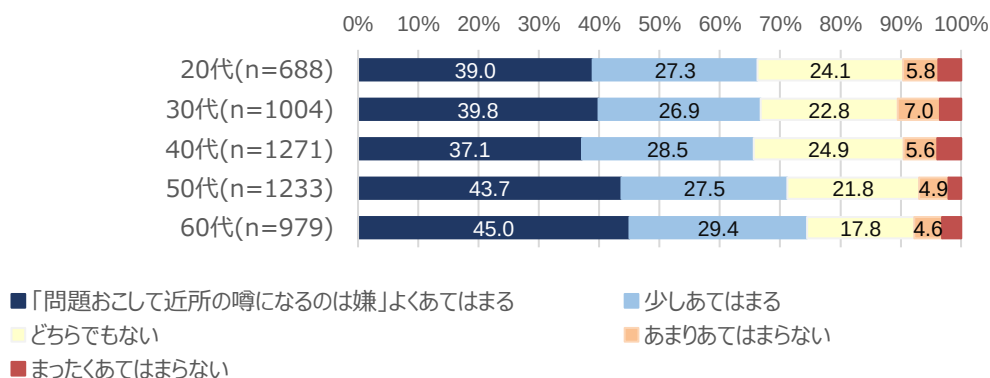
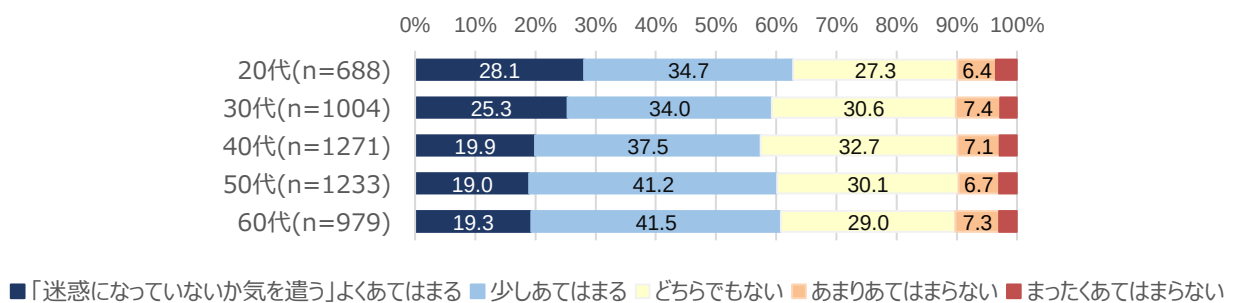
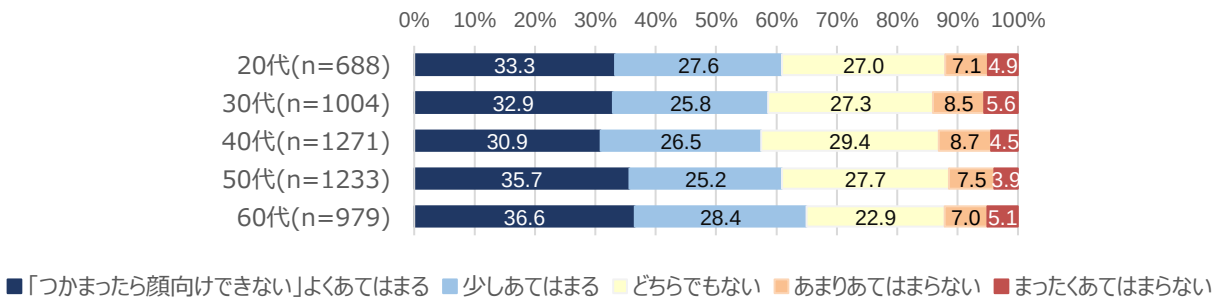
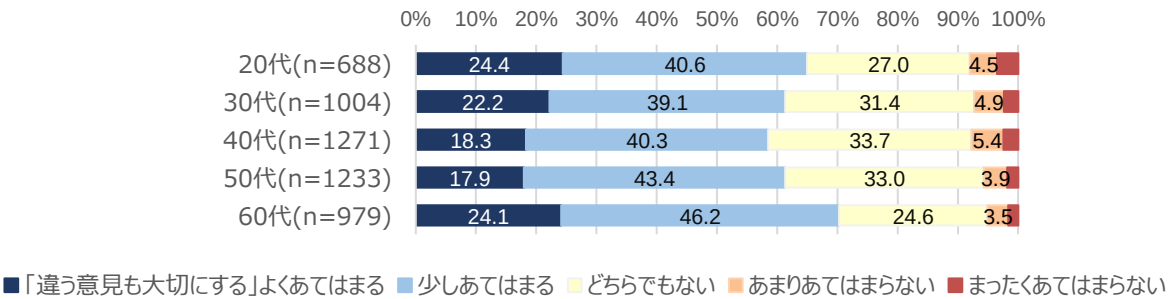
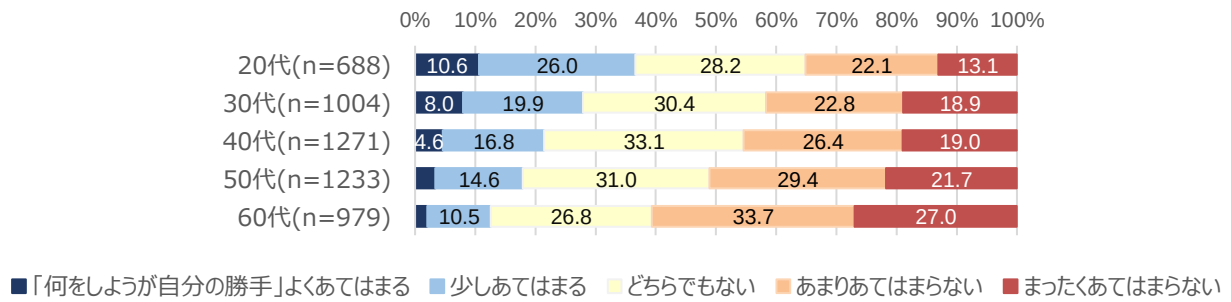


図 2-104 街中での行動基準（％）【年代別】

(2) コロナ禍についての認識

〈Q20〉

コロナ禍について今感じていることを5件法で聞いた結果を図2-105に示す。

「とても大変だった」「我慢が多かった」等は「あてはまる」側が過半数、「あてはまらない」側が2割弱であり、また、「家にとじこもりがちになった」等も「あてはまる」側が「あてはまらない」側を上回った。これらの結果からは、多くの人がコロナ禍のネガティブな影響を受けているといえる。ただし、その反面、孤独感に関する項目では「あてはまる」側が2割弱と少なく「あてはまらない」側が4～5割と多いこと、「人とかかわることもできた」「相談できる人がいた」「良いこともあった」という項目では「あてはまる」側が「あてはまらない」側を上回っていることから、人との関わりや孤独感等に関してはネガティブな影響を受けていない人の方が多いことがわかった。

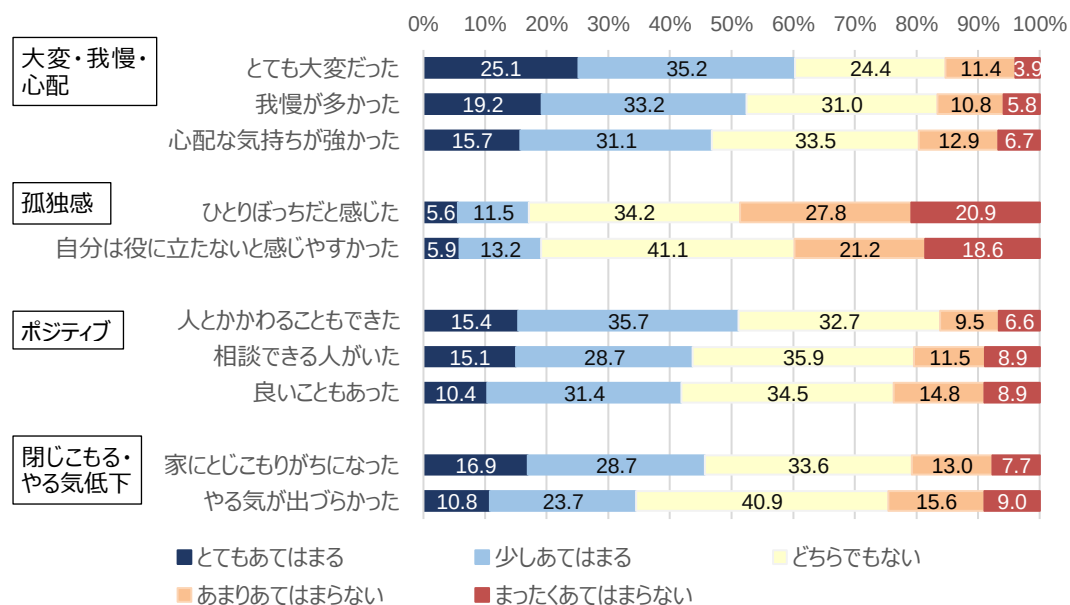


図 2-105 コロナ禍について今感じていること（％）【全体】

図2-106 および107は、「とてもあてはまる」を5点、「まったくあてはまらない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別、年代別の差は顕著であった（すべての項目において有意差あり）。エリア別では、「良いこともあった」等のポジティブな項目のみ有意差があった。

性別において、コロナ禍の影響を大きく受けたのは女性である。女性は、大変・我慢・心配、やる気低下、閉じこもりがちなどのネガティブな項目においても、「良いこともあった」等のポジティブな項目においても「あてはまる」側の回答が多かった。ただし、孤独感に関しては男女差は小さく、「ひとりぼっちだと感じた」では男性の方が「あてはまる」側の回答が若干多かった。

年代別では、コロナ禍の影響を大きく受けたのは若い世代だといえる。とくに、孤独感に関する項目、やる気低下、閉じこもりがちなどの項目において、年代が若いほど「あてはまる」側の回答が多いという顕著な傾向がみられた。また、「良いこともあった」等のポジティブな項目においても若い世代で「あてはまる」側の回答が多かった。

エリア別では、「良いこともあった」等ポジティブな項目における「あてはまる」側の回答は、印旛で多く、南房総・外房および内房で少ないという傾向がみられた。

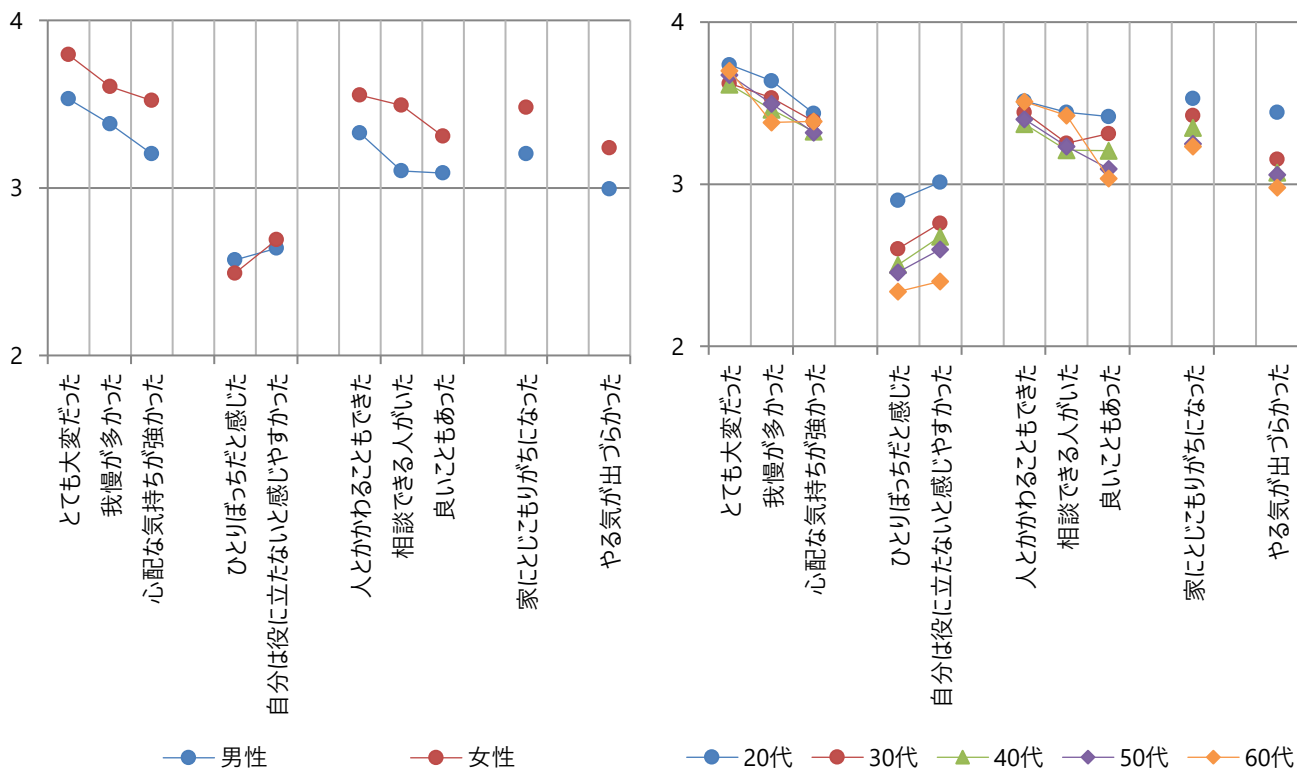


図 2-106 コロナ禍について今感じていること 平均点【性別】【年代別】

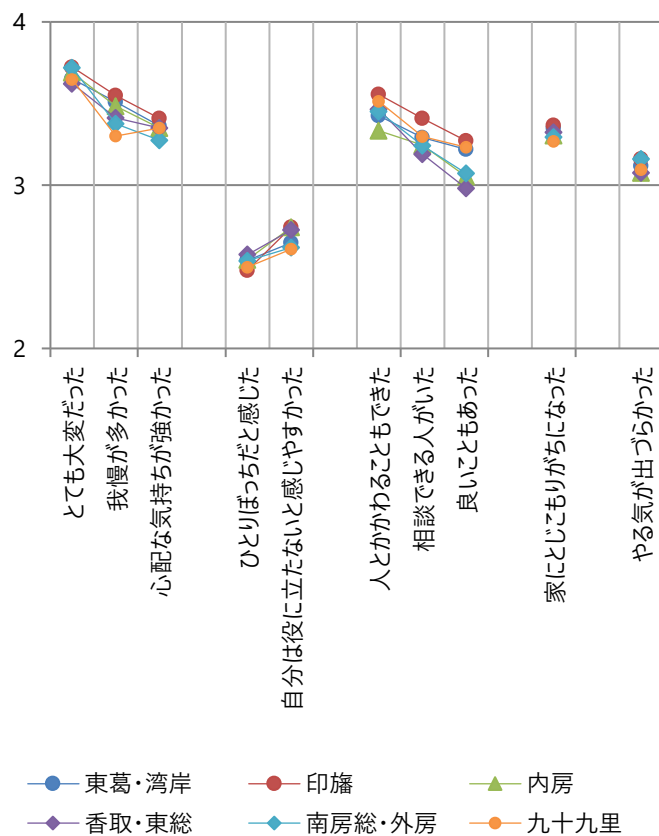


図 2-107 コロナ禍について今感じていること 平均点【エリア別】

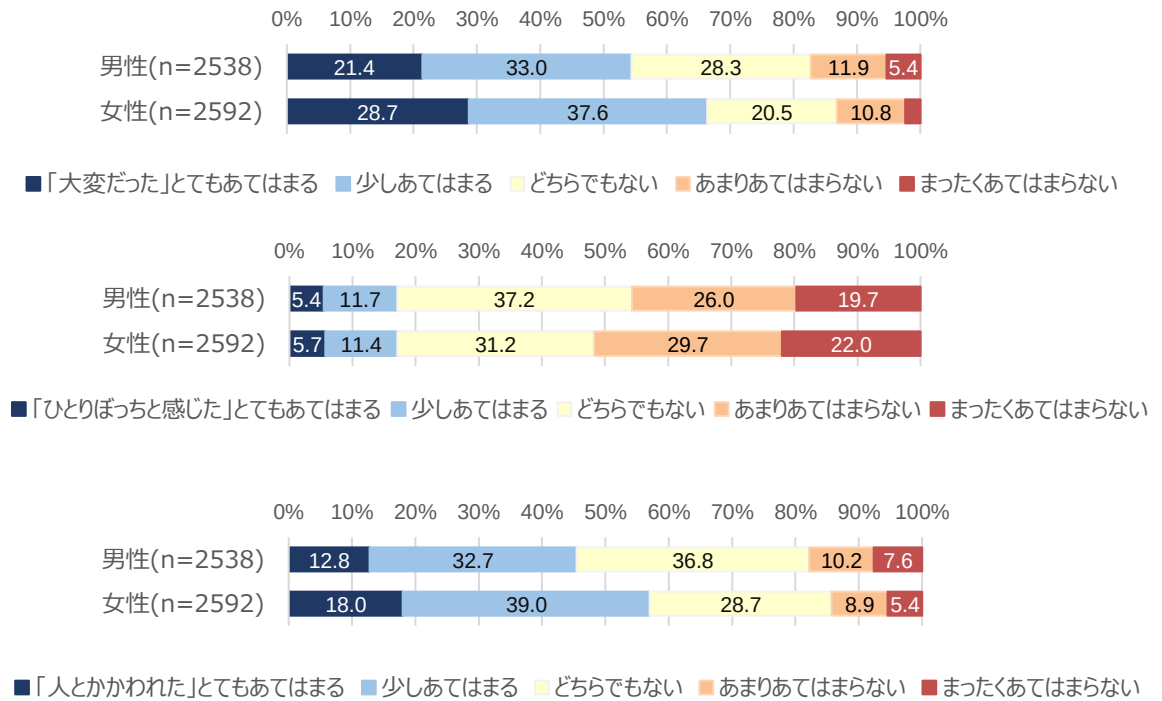


図 2-108 コロナ禍について今感じていること（％）【性別】

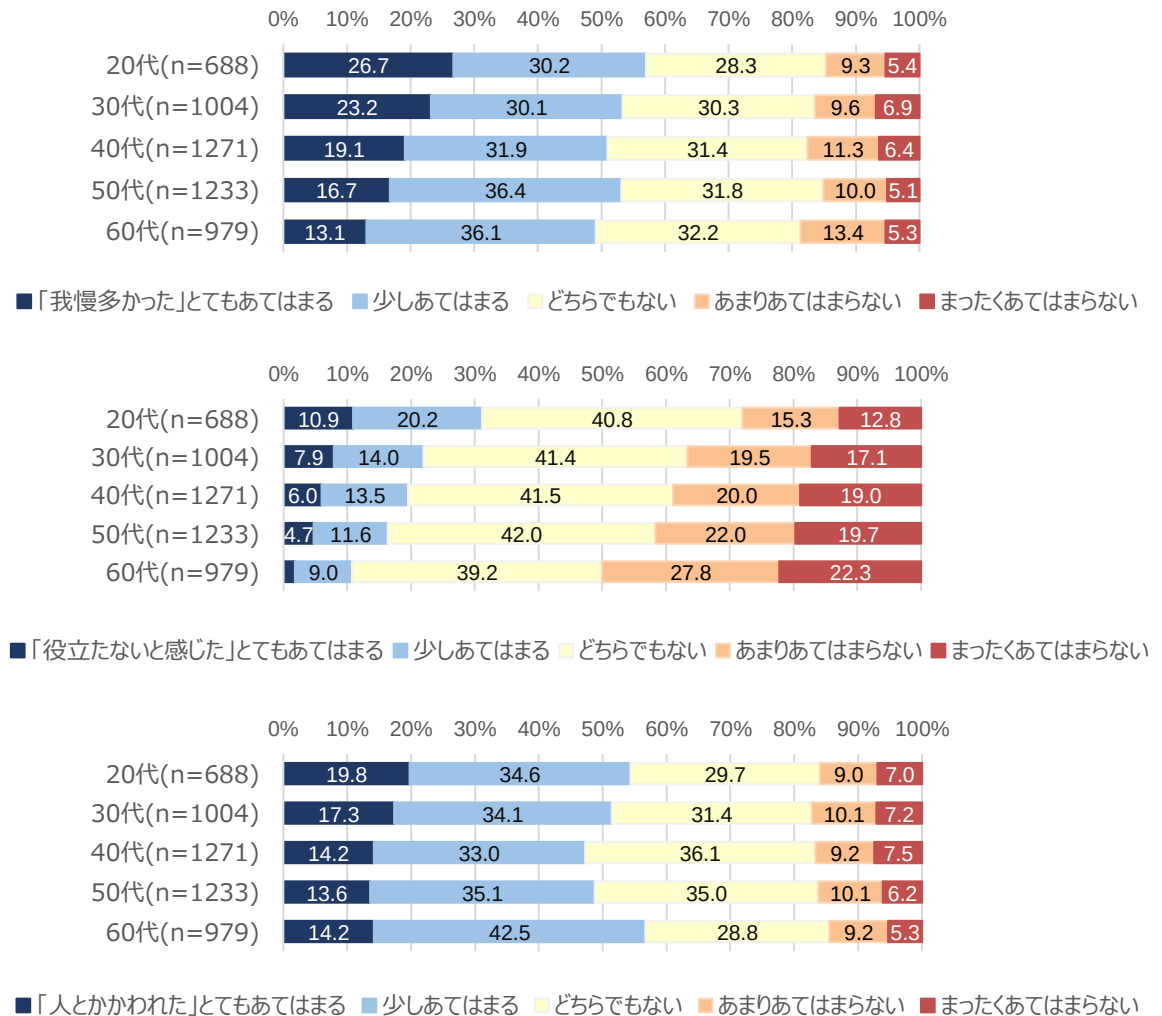


図 2-109-1 コロナ禍について今感じていること（％）【年代別】

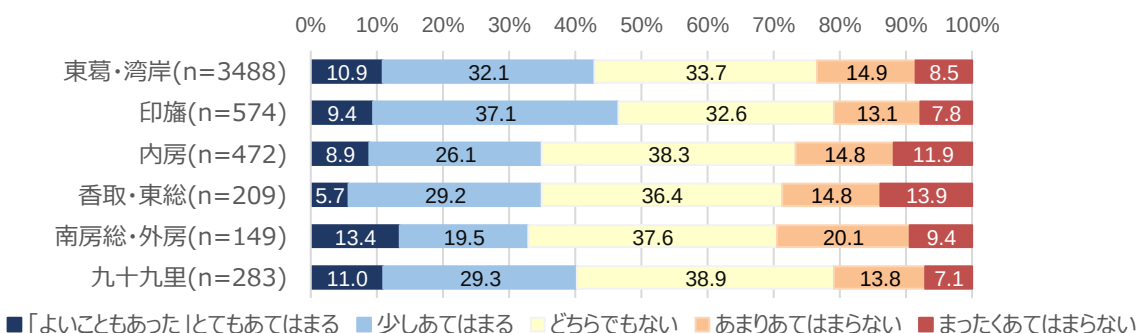
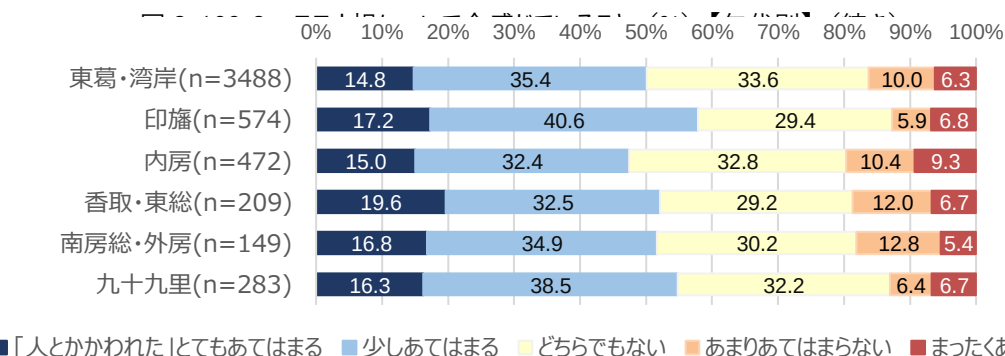
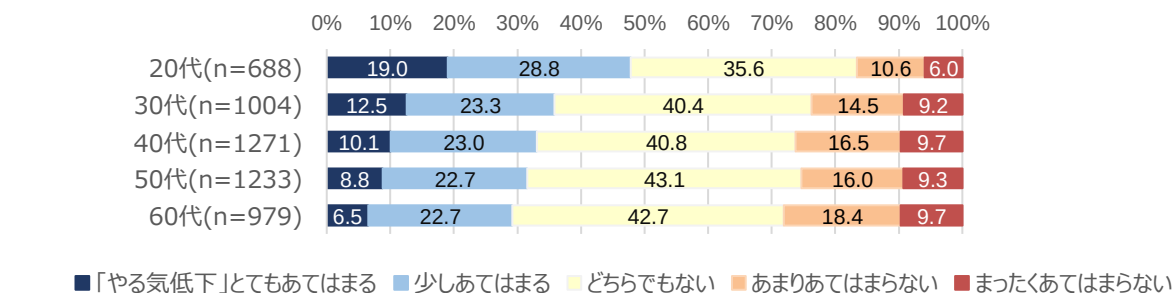
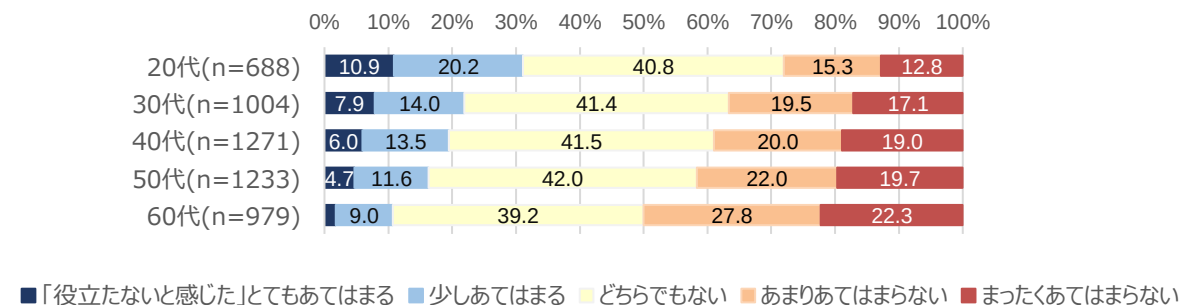
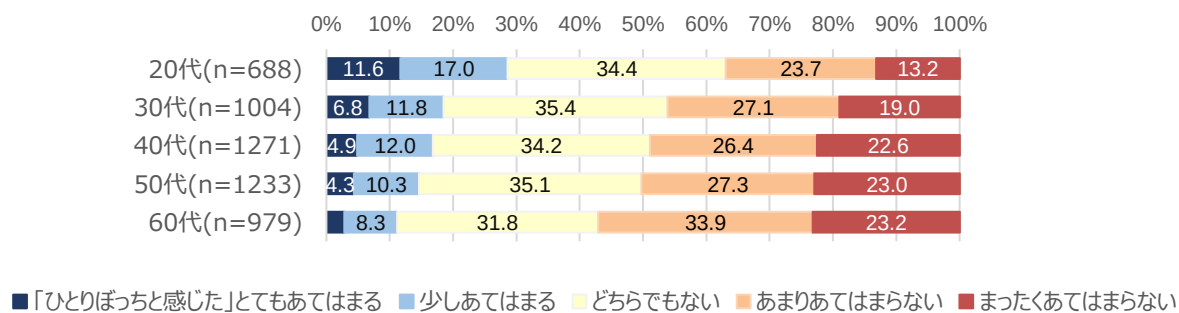


図 2-110 コロナ禍について今感じていること（％）【エリア別】

(3) いじめに対する認識

〈Q21〉

いじめに対する考えを5件法で聞いた結果を図2-111に示す。

「いじめは人権侵害である」「いじめは子どものいる学校だけでなく大人がいる職場・地域にもある」に対して「そう思う」側の回答は7割以上であり、「そう思わない」側は5%以下であった。「いじめは陰湿化、巧妙化している」に対しては66.2%、「いじめは増えている」は52.0%であり、「そう思わない」側の回答は1割に満たない。「いじめ問題に関心がある」も44.8%と多い。

学校でのいじめに関しては、「加害者である子どもにも支援が必要である」に対して「そう思う」側の回答は45.2%、「加害者である子どもの出席停止が有効である」は37.9%、「周りの子どもが傍観するのは仕方がない」は28.3%であり、いずれも「そう思わない」側を上回った。なお、「学校での子どものいじめは学校だけに責任がある」は11.7%であり、非常に少なかった。

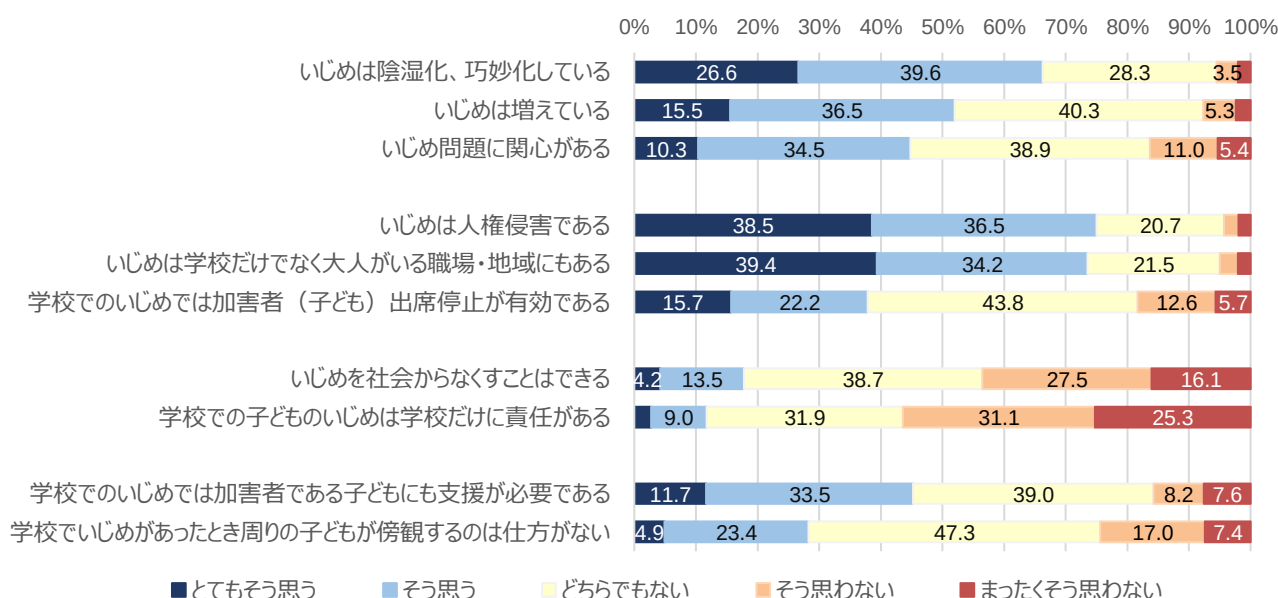


図 2-111 いじめに対する認識（％）【全体】

図2-112および113は、「とてもそう思う」を5点、「まったくそう思わない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

性別、年代別の差は顕著であった（すべての項目において有意差あり）。エリア別では、「いじめは増えている」「人権侵害である」「いじめは職場・地域にもある」において有意差があった。

性別では、女性の方が、いじめ問題に関心が高く、いじめの増加、陰湿化・巧妙化、職場・地域にもあること等を感じており、学校のいじめに関しては「学校だけに責任がある」とは思わず、加害者の子どもへの支援が必要と考えている。

年代別で差が大きかったのは、学校のいじめに関する項目である。若い世代の方が、「学校だけに責任がある」「加害者である子どもの出席停止が有効である」「周りの子どもが傍観するのは仕方がない」と考える傾向が顕著であった。加害者である子どもへの支援については、もっとも必要と考えているのは60代、次いで20代・30代、40代・50代という順である。

エリア別では、印旛などで「いじめは増えている」「人権侵害である」「職場・地域にもある」に対して「そう思う」側が若干多い傾向がみられた。

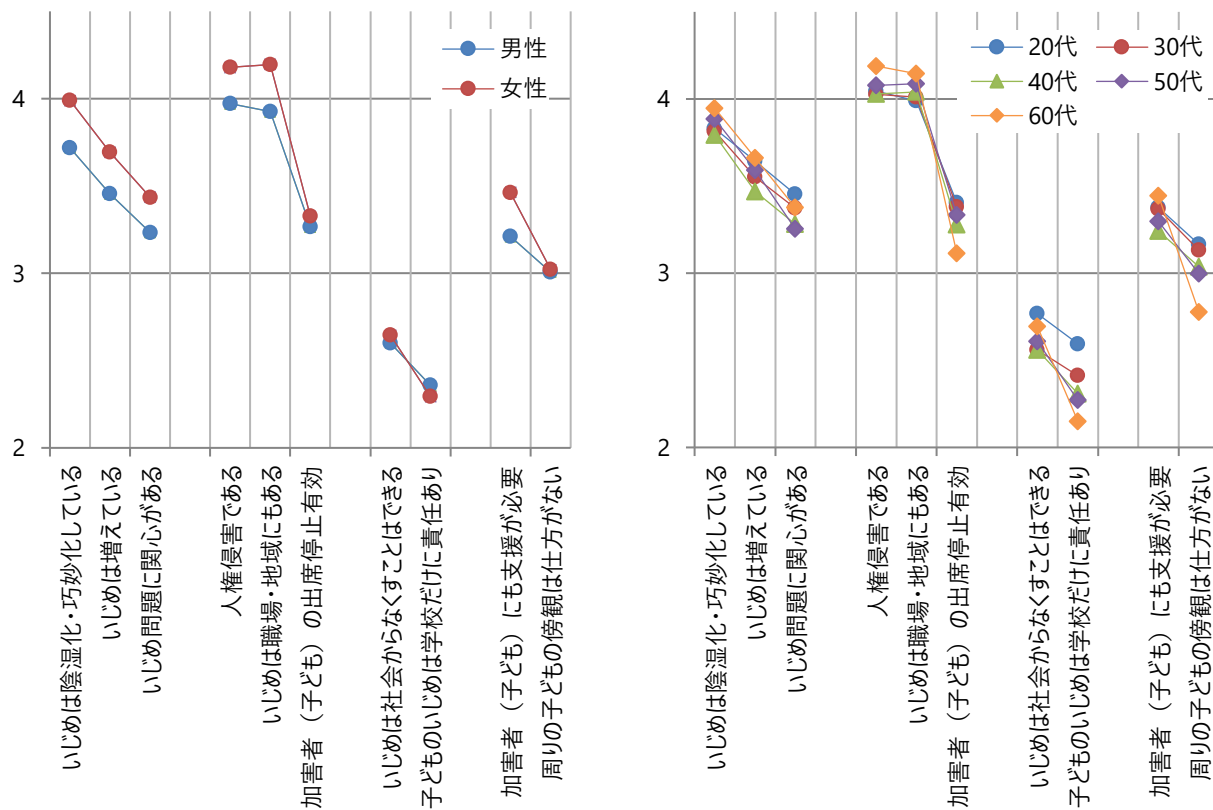


図 2-112 いじめに対する認識 平均点【性別】【年代別】

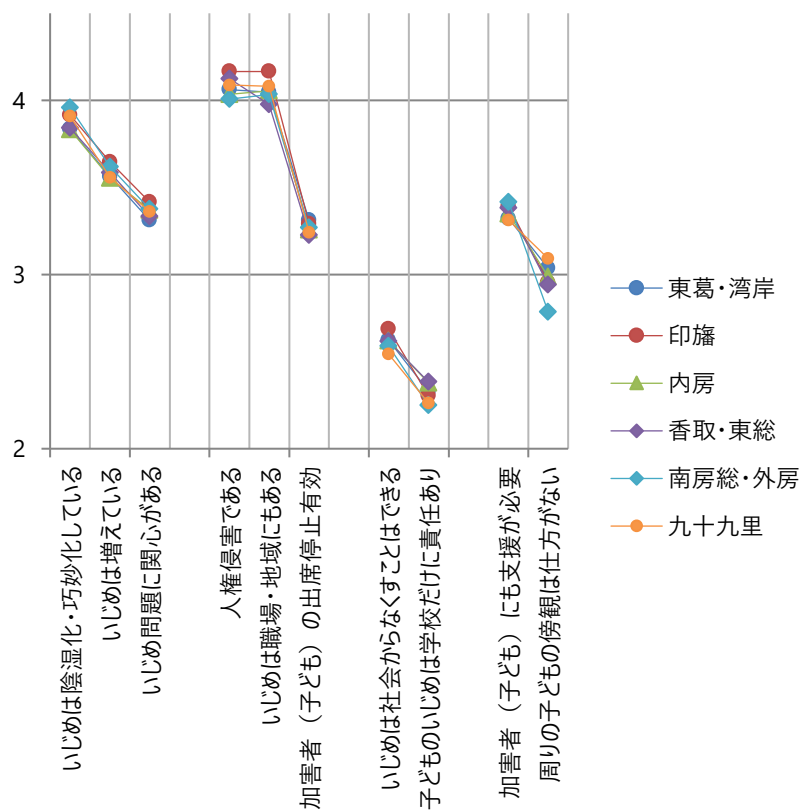


図 2-113 いじめに対する認識 平均点【エリア別】

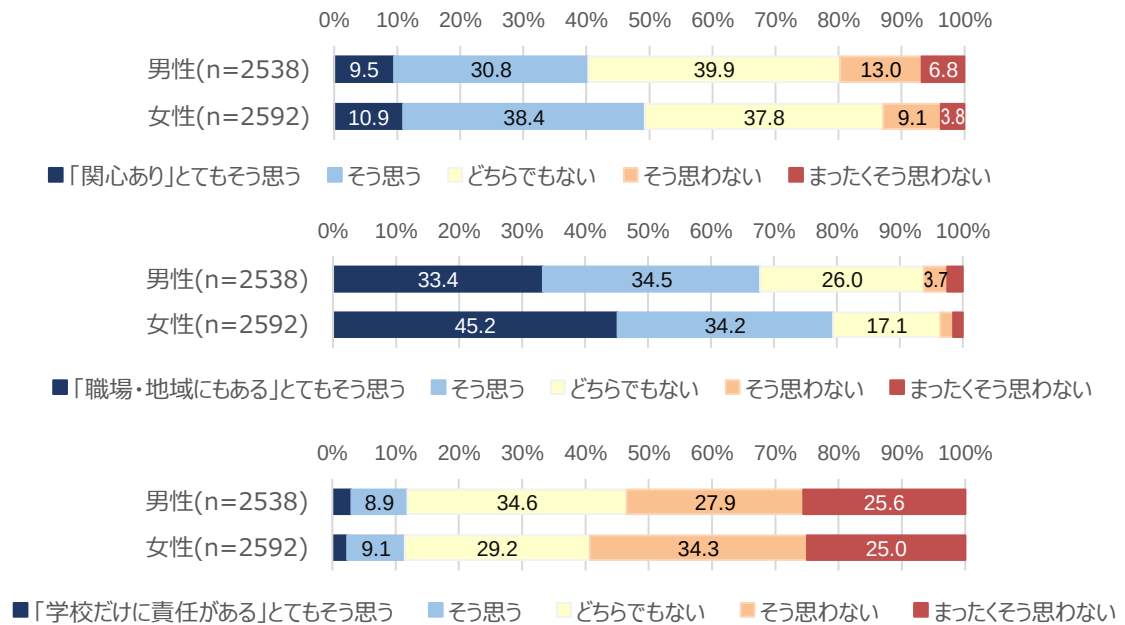


図 2-114 いじめに対する認識 (%)【性別】

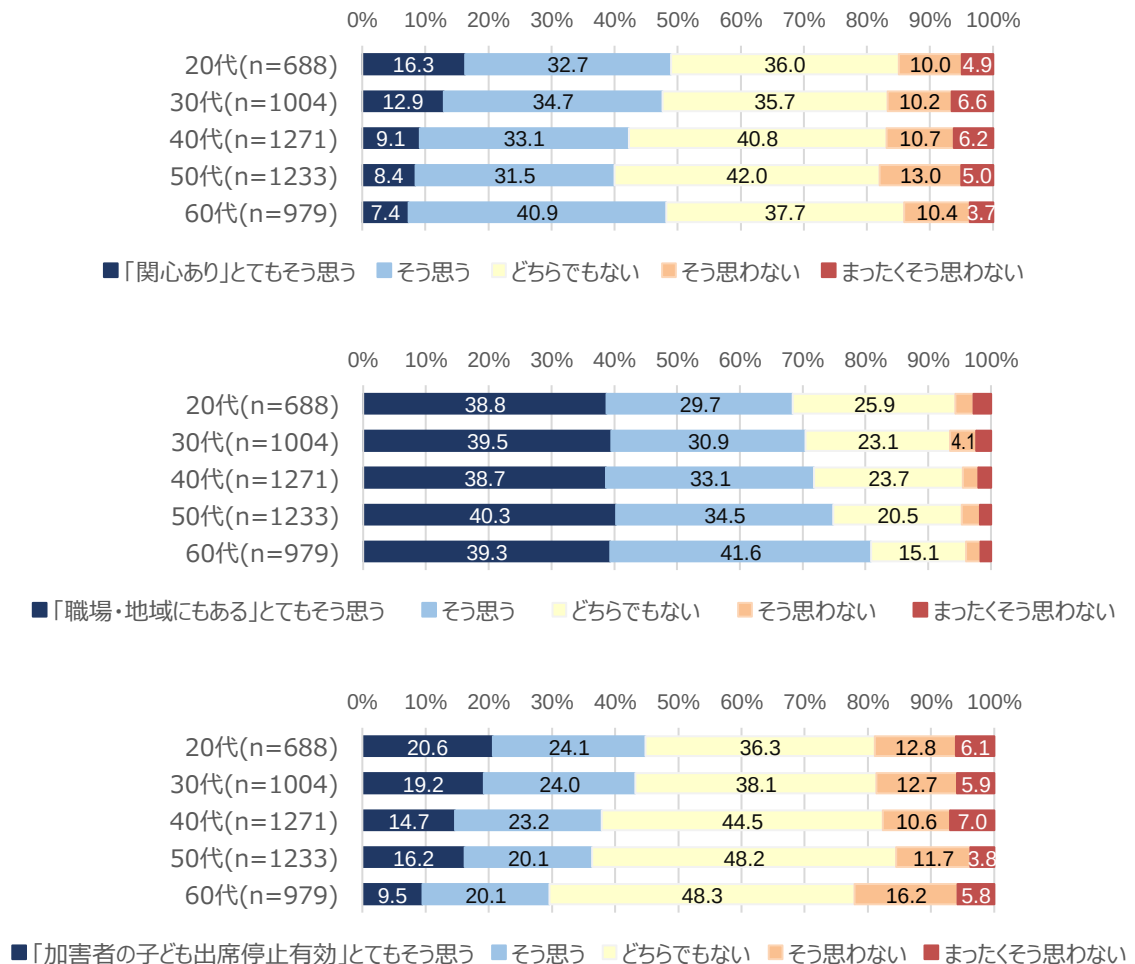


図 2-115-1 いじめに対する認識 (%)【年代別】

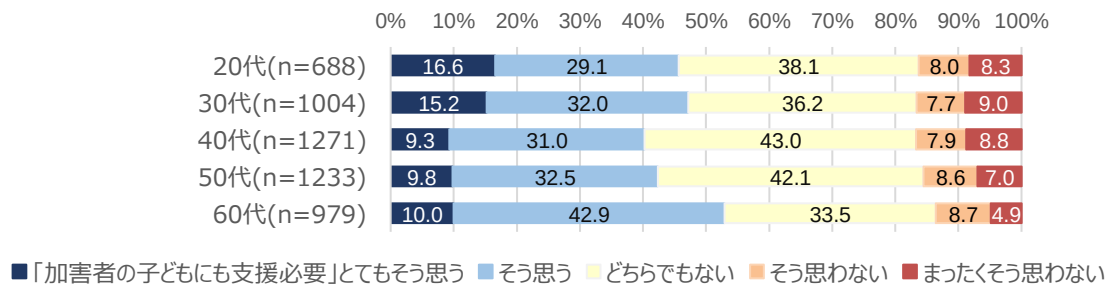
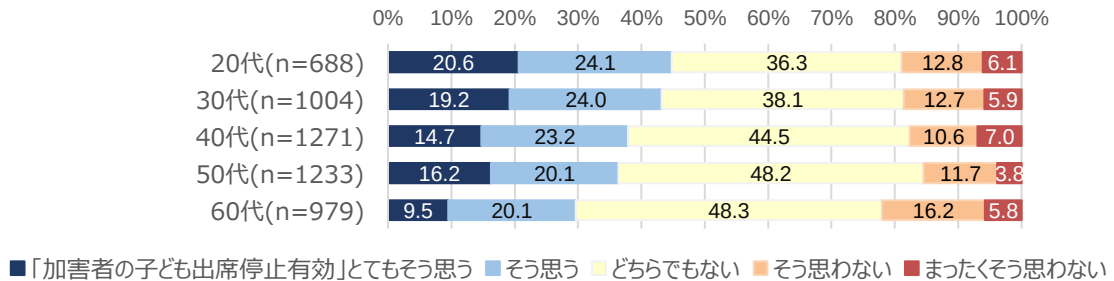
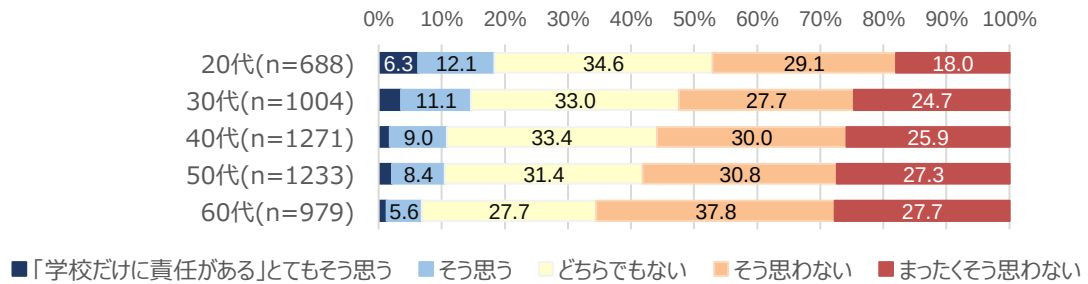


図 2-115-2 いじめに対する認識 (%)【年代別】(続き)

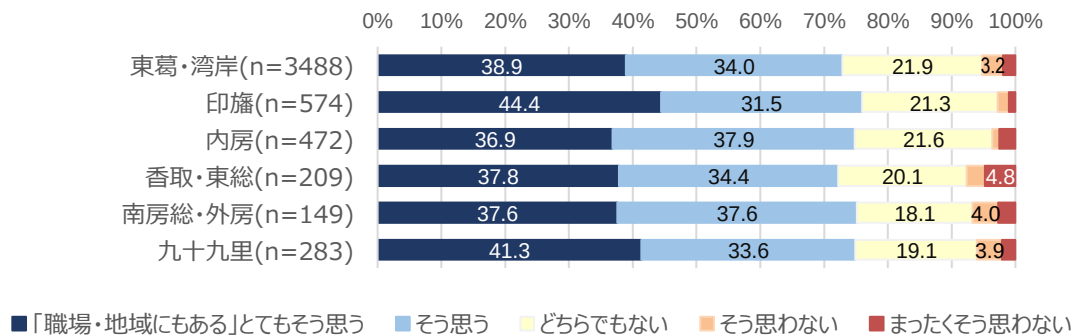
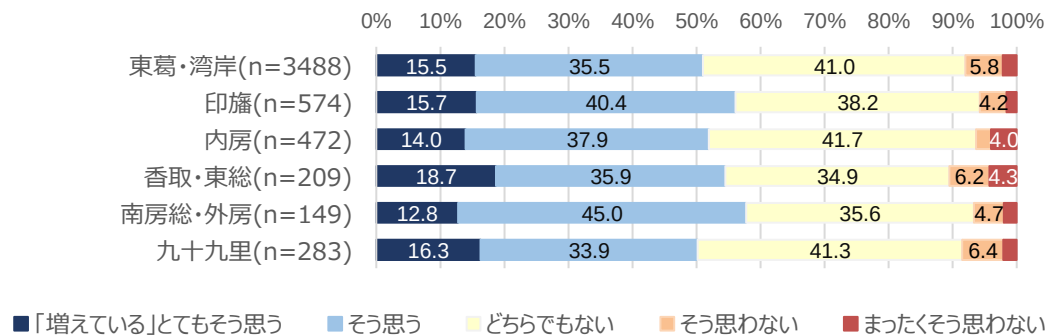


図 2-116 いじめに対する認識 (%)【エリア別】

(4) ジェンダーに関する認識

〈Q28〉

女性と男性の違いに関する考え方への評価について4件法で聞いた結果を図2-117に示す。

「女性は男性にくらべ、感情的である」に対して「そう思う」側の回答は54.7%、「子育ては、やはり母親でなくては、と思う」は44.7%と、肯定否定が分かれた。「人前では、妻は夫を立てた方がよい」「最終的に頼りになるのは、やはり男性である」「女性は出産する可能性があるため、男性と仕事の上で互角に並ぶのは無理である」「家庭のこまごまとした管理は、女性でなくては、と思う」では4割前後が肯定意見であった。

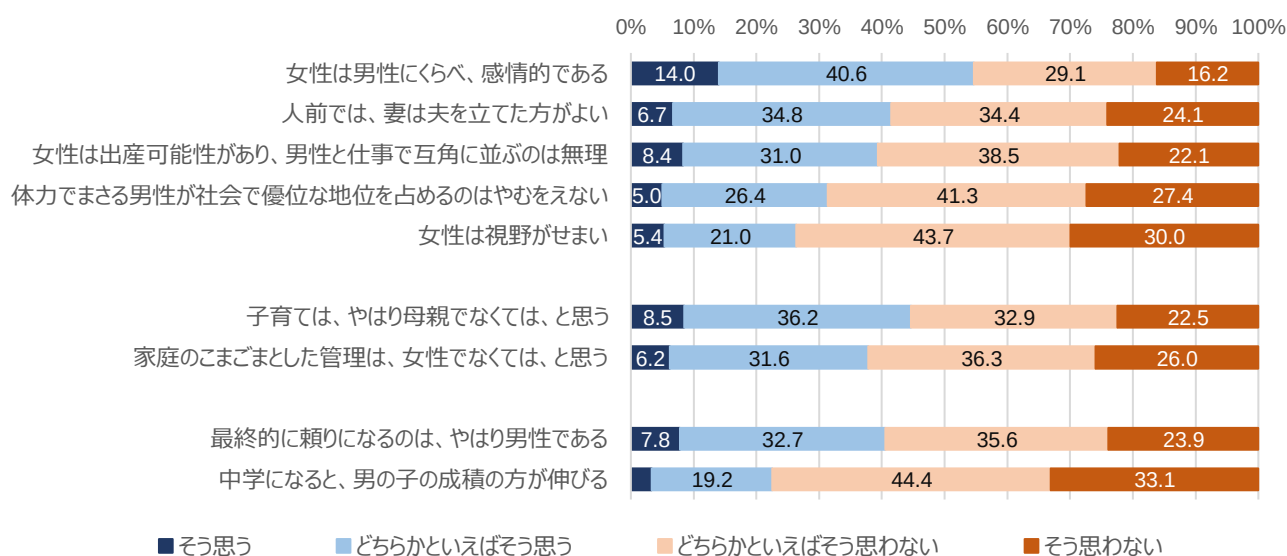


図 2-117 ジェンダーに関する認識 (%)【エリア別】

図2-118および119は、「そう思う」を4点、「そう思わない」を1点として数値化した上で算出した平均点のグラフである。

年代別の差が、性別による差よりも顕著であった（すべての項目において有意差あり）。エリア別では、「家庭のこまごまとした管理は、女性でなくては、と思う」においてのみ有意差があった。

性別では、女性の方が、女性を感情的、男性と仕事で互角に並ぶのは無理と感じ、男性の方が、子育ては女性、女性を視野が狭いと感じる明確な傾向がみられた。最終的に頼りになるのは男性、家庭のこまごました管理は女性という項目については男女の回答に有意差がなかった。

年代別では、一貫して、年代が若いほどすべての項目に対して否定的な回答が多くなる傾向がみられた。とくに顕著だったのは、子育て・育児は女性という考え方、女性は視野が狭い、妻は夫を立てた方がよいという考え方に対する回答である。

エリア別では、印旛で、家庭の管理は女性という考え方に対して「そう思う」側が若干多い傾向等があったが、一貫したエリア差はみられなかった。

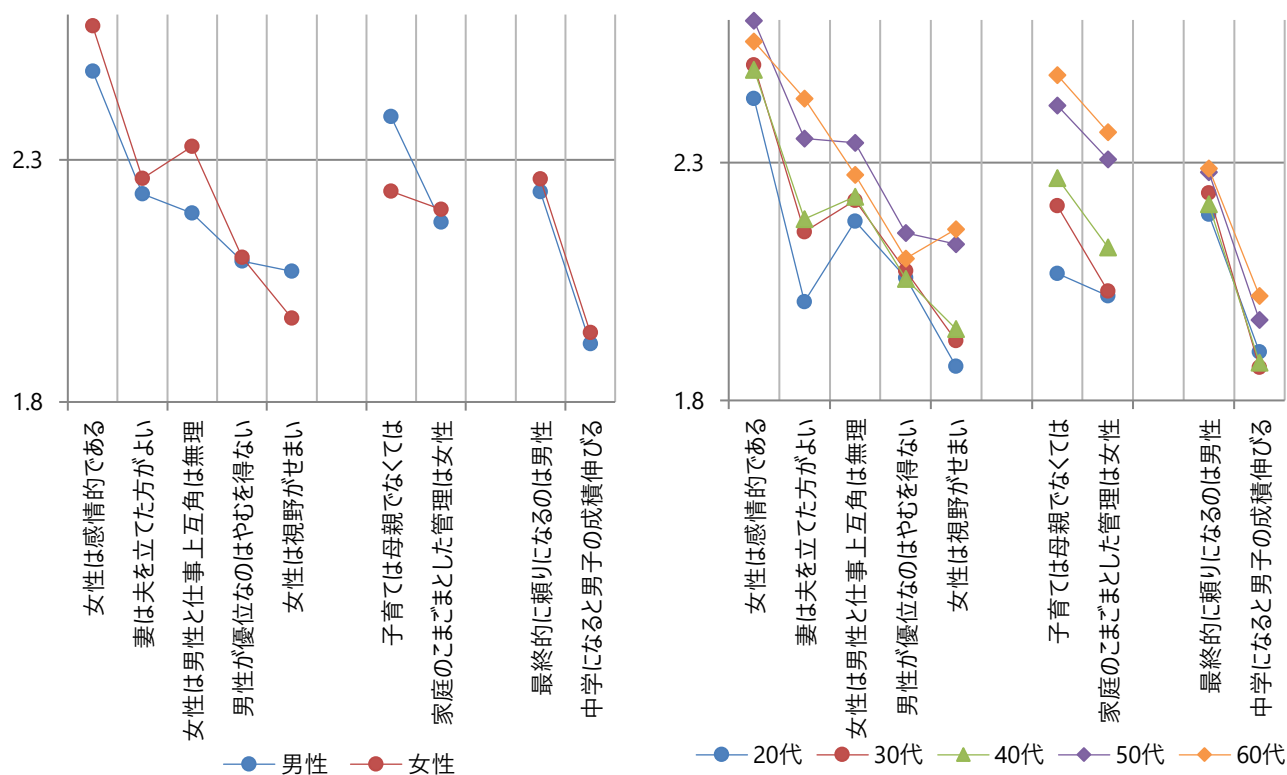


図 2-118 ジェンダーに関する認識 平均点【性別】【年代別】

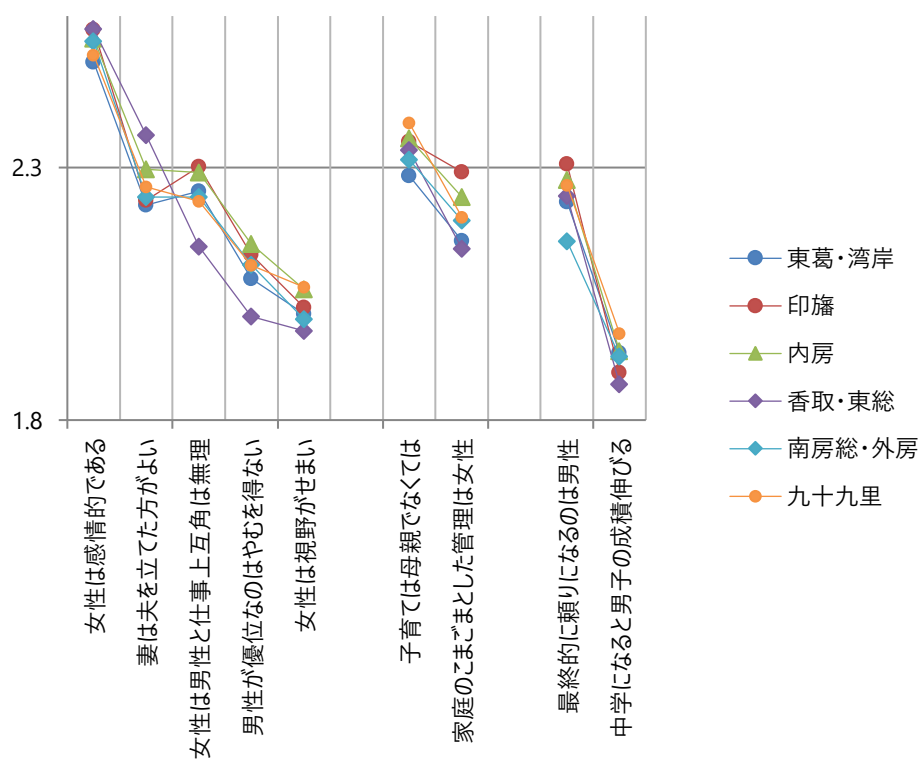


図 2-119 ジェンダーに関する認識 平均点【エリア別】

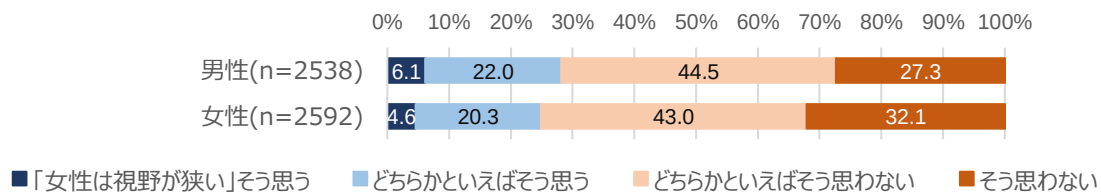
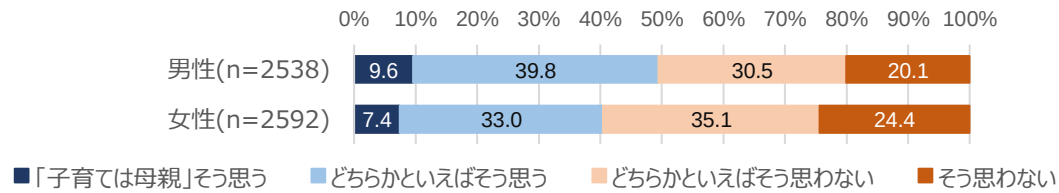
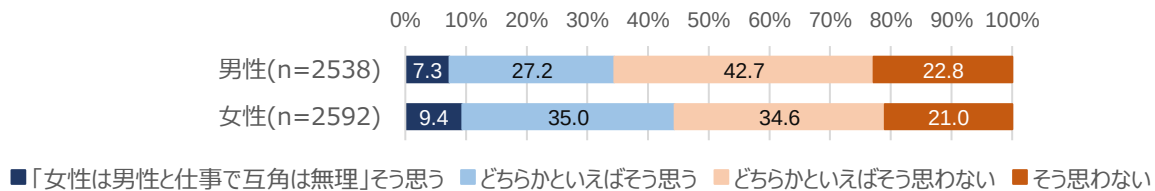


図 2-120 ジェンダーに関する認識 (%)【性別】

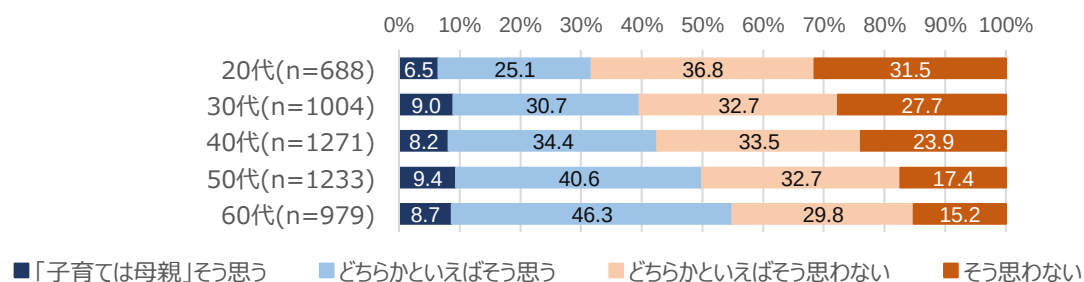
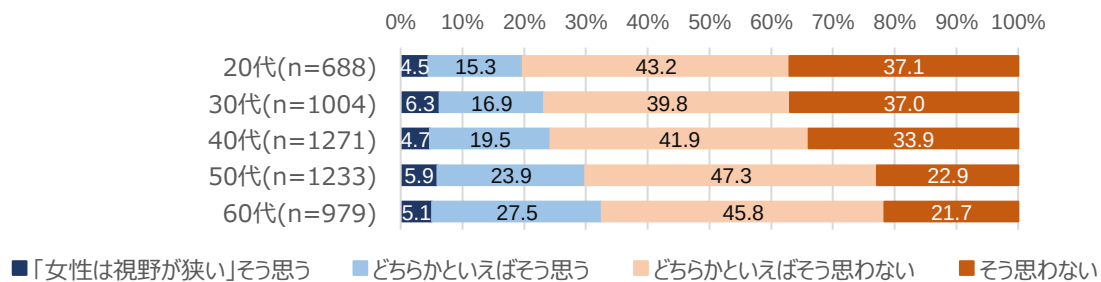
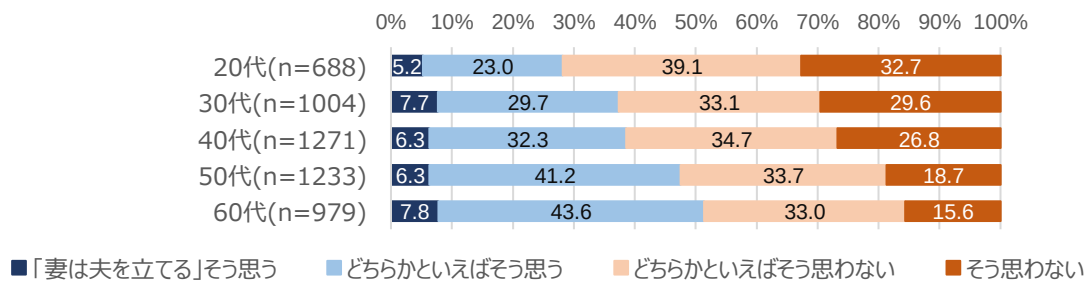


図 2-121-1 ジェンダーに関する認識 (%)【年代別】

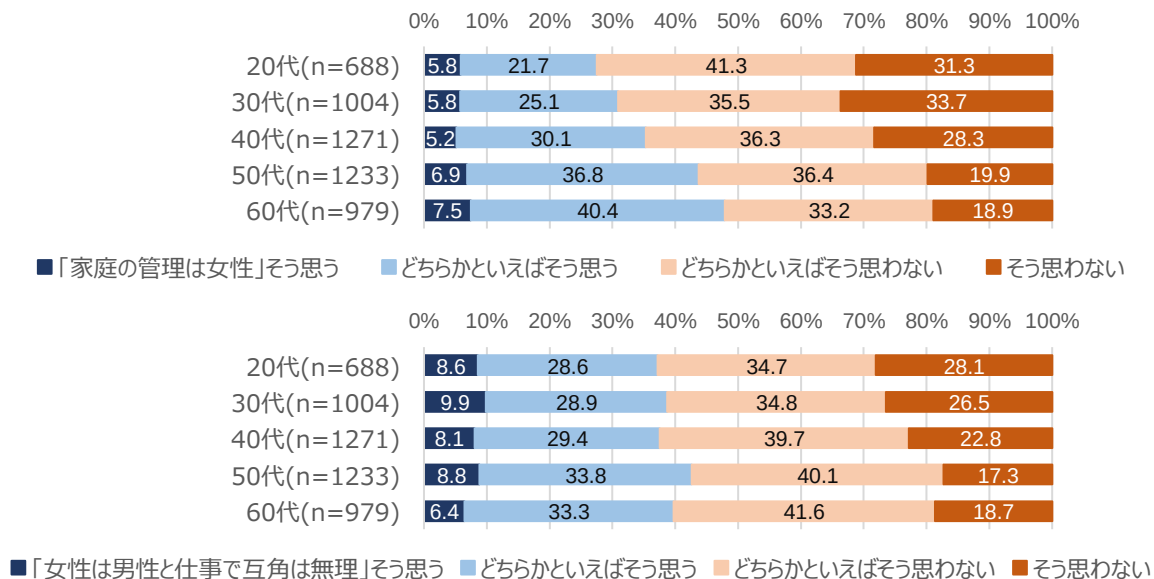


図 2-121-2 ジェンダーに関する認識 (%)【年代別】(続き)

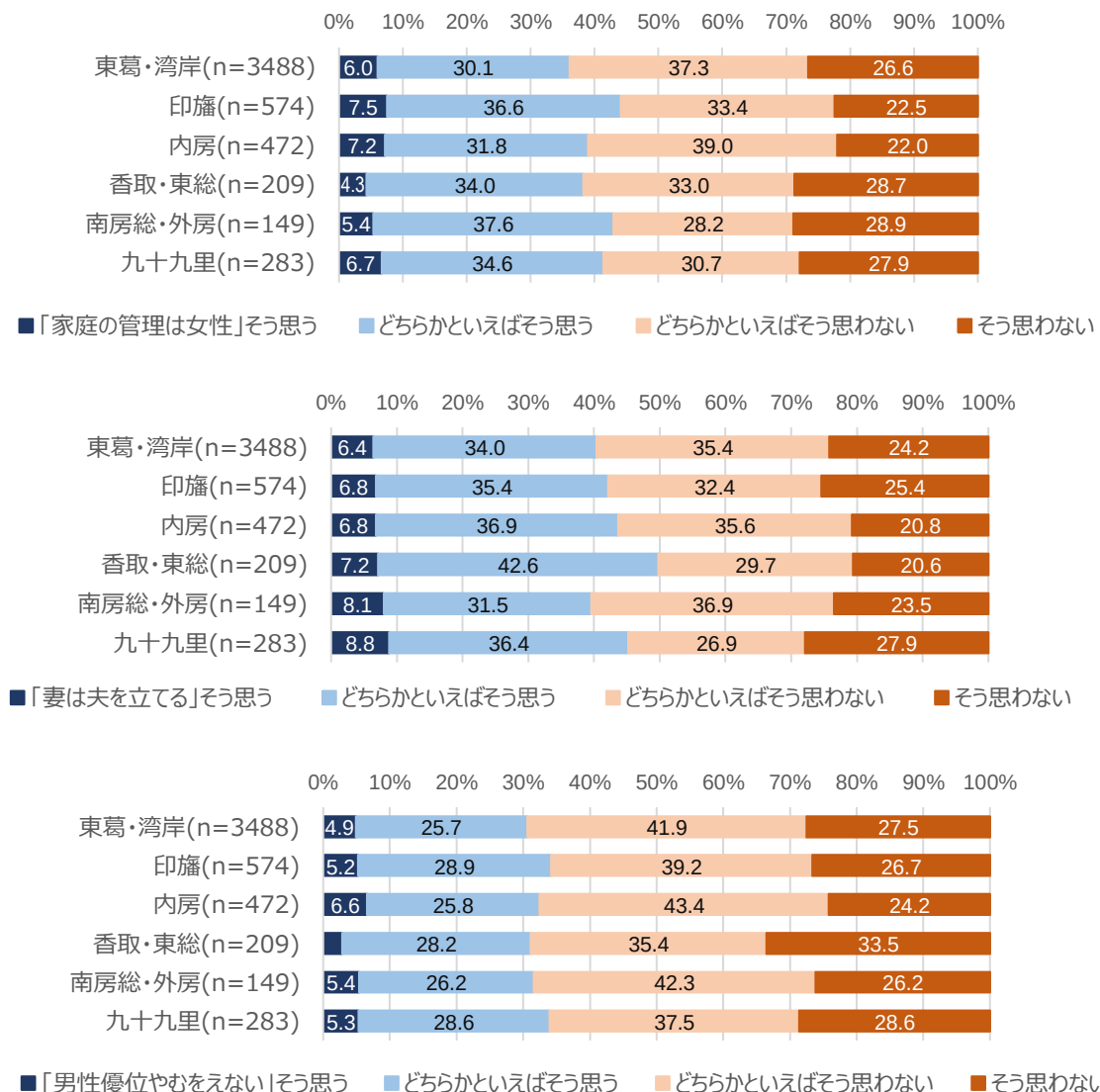


図 2-122 ジェンダーに関する認識 (%)【エリア別】

3. 調査画面

アンケート画面開始

Page 1

このアンケートは、千葉県在住の方に生活や意識についておたずねし、千葉県の実態を把握してどのような施策が必要であるかを分析・研究することを目的としたものです。淑徳大学と読売新聞東京本社が共同で企画し、株式会社クロス・マーケティングに委託して実施いたします。

ご回答の途中でやめたくなった場合には、途中でやめて下さっても構いません。回答をしないことによって生じる不利益や、回答者が特定されることは一切ございません。なお、ご回答をもちまして、アンケートへの参加に同意したものとさせていただきます。

調査から1年後に、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターにデータを寄託することを予定していますが、この際も回答者個人が特定されることはございません。どうぞご協力いただけますようお願いいたします。

Page 2

Q1

あなたが千葉県内に住み始めたのは、どのようなタイミングでしたか。
あてはまるものを選んで下さい。

- 1 ☐ 生まれてからずっと
- 2 ☐ 就職・就業
- 3 ☐ 転職・転業
- 4 ☐ 転勤
- 5 ☐ 退職
- 6 ☐ 入学・進学
- 7 ☐ 結婚・離婚
- 8 ☐ 住宅の事情
- 9 ☐ 親や子との同居・近居
- 10 ☐ 家族・親族の介護
- 11 ☐ 家族の移動に伴って移動
- 12 ☐ その他

Q2

同居している人として、あてはまるものすべてを選んで下さい。(いくつでも)

- 1 ☐ 誰とも同居していない(ひとり暮らし)
- 2 ☐ 配偶者
- 3 ☐ 親(配偶者の親を含む)
- 4 ☐ 子ども
- 5 ☐ 子どもの配偶者
- 6 ☐ 孫
- 7 ☐ 祖父母(配偶者の祖父母を含む)
- 8 ☐ 兄弟・姉妹
- 9 ☐ 友人など、親族以外の人
- 10 ☐ その他

Q3

あなた自身を含み、あなたのご家庭に以下のような人はいますか。
あてはまるものすべてを選んで下さい。(いくつでも)

- 1 ☐ 大学、大学院生、短大、専門学校生
- 2 ☐ 高校生の男子
- 3 ☐ 高校生の女子
- 4 ☐ 中学生の男子
- 5 ☐ 中学生の女子
- 6 ☐ 小学生の男子
- 7 ☐ 小学生の女子
- 8 ☐ 3歳以上の未就学児
- 9 ☐ 3歳未満の未就学児
- 10 ☐ 65～74歳の高齢者
- 11 ☐ 75歳以上の高齢者
- 12 ☐ 要支援の認定を受けている人
- 13 ☐ 要介護の認定を受けている人
- 14 ☐ 障害支援区分の認定を受けている人
- 15 ☐ 15～39歳で、家事・通学・就業又は求職活動をしていない人
- 16 ☐ 40～64歳で、家事・通学・就業又は求職活動をしていない人
- 17 ☐ あてはまる人はいない

Q4

あなたは次のような人々とよく交流していると思いますか。

対面で会うことのほか、電話や手紙、インターネット上のやりとりも含めてお答えください。(それぞれひとつずつ)

	よく 交流 して いる	あ る 程 度 交 流 し て い る	あ ま り 交 流 し て い ない	ま っ た く 交 流 し て い ない	該 当 す る 人 が い ない
1 同居している家族	1○	2○	3○	4○	5○
2 別居している家族	1○	2○	3○	4○	5○
3 親せき	1○	2○	3○	4○	5○
4 隣近所の人	1○	2○	3○	4○	5○
5 職場やアルバイト先の人(仕事以外の目的で)	1○	2○	3○	4○	5○
6 友人	1○	2○	3○	4○	5○
7 趣味や習い事の仲間	1○	2○	3○	4○	5○
8 ボランティア活動の仲間	1○	2○	3○	4○	5○
9 インターネット上でつながっている人	1○	2○	3○	4○	5○

Q5

人間関係についておたずねします。

以下のそれぞれについて、あてはまるものを選んでください。(それぞれひとつずつ)

	あ て は ま る	ど あ ち て ら は か ま と ま る	ど あ ち て ら は か ま と ま る	あ て は ま ら な い
1 私には困ったときにそばにいてくれる人がいる	1○	2○	3○	4○
2 私は喜びと悲しみを分かち合える人がいる	1○	2○	3○	4○
3 私の家族は本当に私を助けてくれる	1○	2○	3○	4○
4 必要な時に、私の家族は私の心の支えとなるような手を差し伸べてくれる	1○	2○	3○	4○
5 私には真の慰めの源となるような人がいる	1○	2○	3○	4○
6 私の友人たちは本当に私を助けてくれようとする	1○	2○	3○	4○
7 私は家族と自分の問題について話し合うことができる	1○	2○	3○	4○
8 私には喜びと悲しみを分かちあえる友人がいる	1○	2○	3○	4○
9 私は自分の問題について友人たちと話すことができる	1○	2○	3○	4○

Q6

以下のそれぞれについて、あてはまるかどうかお答えください。(それぞれひとつずつ)

	あてはまる	あてはまらない
1 今の住まいは、持家である(分譲マンションを含む)	1 ☐	2 ☐
2 今の住まいは、戸建てである	1 ☐	2 ☐
3 町内会(自治会)に加入している	1 ☐	2 ☐
4 住んでいる地域の町内会長(自治会長)を知っている	1 ☐	2 ☐
5 住んでいる地域の民生委員を知っている	1 ☐	2 ☐
6 住んでいる地域のお祭りやイベントに参加している	1 ☐	2 ☐
7 子ども時代は、今住んでいる地域で過ごした	1 ☐	2 ☐
8 主な仕事場、学校などは現在住んでいる地域にある	1 ☐	2 ☐
9 住んでいる地域をよく散策する	1 ☐	2 ☐
10 同居の家族は、自身を含めて全員65歳以上である	1 ☐	2 ☐
11 大学を卒業している(在学中を含む)	1 ☐	2 ☐
12 よく読書する方である(電子書籍含む)	1 ☐	2 ☐
13 ふだん自動車を運転している	1 ☐	2 ☐
14 通勤・通学の交通手段として鉄道(モノレール含む)を利用している	1 ☐	2 ☐
15 通勤・通学の交通手段としてバスを利用している	1 ☐	2 ☐
16 この3年のあいだ(2020年4月～現在)に自身または同居者の失業があった	1 ☐	2 ☐
17 この3年のあいだ(2020年4月～現在)に自身または同居者の転職があった	1 ☐	2 ☐
18 家の固定電話は、いつも留守番電話にして相手を確認している	1 ☐	2 ☐
19 家の固定電話は、ナンバーディスプレイを使用して相手を確認している	1 ☐	2 ☐
20 この1年間の間に、犯罪の被害にあった友人・知人がいる	1 ☐	2 ☐

Q7

あなたがお住まいのまちについておたずねします。(それぞれひとつずつ)

	あてはまる	どちらかともいえない	どちらともいえない	どちらかともいえない	あてはまらない
1 このまちが好きだ	1○	2○	3○	4○	5○
2 このまちは、住みよい	1○	2○	3○	4○	5○
3 このまちに、愛着がある	1○	2○	3○	4○	5○
4 このまちに、関心がある	1○	2○	3○	4○	5○
5 このまちは、安心できる	1○	2○	3○	4○	5○
6 このまちは、近所づきあいが良好である	1○	2○	3○	4○	5○
7 このまちは、地域活動、祭りやイベント等が活発である	1○	2○	3○	4○	5○
8 このまちにずっと住みたい	1○	2○	3○	4○	5○
9 千葉県内にずっと住みたい	1○	2○	3○	4○	5○

Q8

現在お住まいの住宅のまわりの環境に対する満足度について、あてはまるものを選んでください。(それぞれひとつずつ)

	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
1 通勤・通学の利便	1○	2○	3○	4○	5○
2 日常の買い物などの利便	1○	2○	3○	4○	5○
3 医療・福祉・文化施設などの利便	1○	2○	3○	4○	5○
4 福祉・介護の生活支援サービス	1○	2○	3○	4○	5○
5 子どもの遊び場、子育て支援サービス	1○	2○	3○	4○	5○
6 治安	1○	2○	3○	4○	5○
7 近隣の人やコミュニティとの関わり	1○	2○	3○	4○	5○
8 敷地の広さや日当たり、風通しなどの空間のゆとり	1○	2○	3○	4○	5○
9 公園や緑、水辺などの自然環境	1○	2○	3○	4○	5○
10 まちなみ・景観	1○	2○	3○	4○	5○

Q9

あなたの幸福感やお住まいの地域の実情について、各項目ごとにあなたの印象に最も近いものを選択してください。(それぞれひとつずつ)

そう どちら どちら そう
思う 思う 思う 思わ
う う か と い ない
え い え
ば ば

1 この1年間の生活や健康について幸福感を感じる	1○	2○	3○	4○
2 自治体(市町村)の施策・サービスについて満足している	1○	2○	3○	4○
3 自治体は、住民のニーズに沿った施策を行っている	1○	2○	3○	4○
4 自治体は、行政サービスの向上に力を入れている	1○	2○	3○	4○
5 自治体は、計画的に行政運営を行っている	1○	2○	3○	4○
6 自治体は、民間企業と協力・連携して行政運営を行っている	1○	2○	3○	4○
7 自治体は、透明性のある行政運営を行っている	1○	2○	3○	4○
8 自治体は、施策の目標と成果を住民に知らせている	1○	2○	3○	4○
9 自治体の首長(市長・町長・村長)は信頼できる	1○	2○	3○	4○
10 地域の将来に不安を感じる	1○	2○	3○	4○

Q10

あなたは、福祉にかかわる以下の言葉を知っていますか。(それぞれひとつずつ)

よく ある 間 ま
く る よ い た っ
知 程 く た た
っ 度 知 こ く
て 知 ら と 知
い な は ら
る い あ ない
る が
、

1 社会福祉協議会	1○	2○	3○	4○
2 児童相談所	1○	2○	3○	4○
3 民生委員	1○	2○	3○	4○
4 社会福祉士	1○	2○	3○	4○
5 介護福祉士	1○	2○	3○	4○
6 ヤングケアラー	1○	2○	3○	4○
7 認知症カフェ	1○	2○	3○	4○
8 子ども食堂	1○	2○	3○	4○
9 8050問題	1○	2○	3○	4○
10 合理的配慮	1○	2○	3○	4○

Q11

犯罪被害や悩みごとを相談する窓口として、知っているものすべてを選んでください。
(いくつでも)

- 1 ☐ 千葉県警察の「電話de詐欺」相談窓口
- 2 ☐ 千葉県警察少年センターの相談窓口
- 3 ☐ 市区町村役場の犯罪被害の相談窓口
- 4 ☐ 県や市の消費生活相談窓口(消費者センターなど)
- 5 ☐ 法テラスの相談窓口
- 6 ☐ 千葉県弁護士会の相談窓口
- 7 ☐ 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター「#8891(はやくワンストップ)」
- 8 ☐ 警察相談専用電話「#9110」
- 9 ☐ 性犯罪被害相談窓口(警察庁)「#8103(ハートさん)」
- 10 ☐ 消費者ホットライン(消費者庁)「188」
- 11 ☐ 児童相談所虐待対応ダイヤル「189」
- 12 ☐ DV相談ナビ「#8008」
- 13 ☐ 子どもの人権110番
- 14 ☐ いのちの電話(一般社団法人 日本いのちの電話連盟)
- 15 ☐ どれも知らない

Q12

あなたは、以下の機関や職業を信頼できますか。(それぞれひとつずつ)

信 信 信 信 信
頼 頼 頼 頼 頼
で だ だ だ だ
き か か か か
る る る る る
る え い え い
ば え い え い
い

1 自衛隊	1	2	3	4	5
2 マスコミ・報道機関	1	2	3	4	5
3 学校	1	2	3	4	5
4 警察	1	2	3	4	5
5 市役所・町村役場	1	2	3	4	5
6 町内会・自治会	1	2	3	4	5
7 裁判所	1	2	3	4	5
8 国会議員	1	2	3	4	5
9 大企業	1	2	3	4	5
10 政府	1	2	3	4	5

Q13

あなたや同居のご家族は、この1年間に以下に示す犯罪などの被害にあったことがありますか。

あてはまるものすべてを選んで下さい。(いくつでも)

- 1 ☐ 自宅での泥棒(空き巣など)
- 2 ☐ 自宅敷地への侵入
- 3 ☐ 建物や自動車の落書きや損壊
- 4 ☐ 【あなた自身】自動車盗・バイク盗・車上ねらい(車から物を盗む)
- 5 ☐ 【あなた自身】自転車盗
- 6 ☐ 【あなた自身】知らない人からのちかん・つきまといなど
- 7 ☐ 【あなた自身】家族や恋人からの暴力(暴言なども含みます)
- 8 ☐ 【あなた自身】電話de詐欺
- 9 ☐ 【あなた自身】インターネットによる詐欺・悪質商法・消費者被害
- 10 ☐ 【あなた自身】その他の犯罪被害
- 11 ☐ 【同居家族】自動車盗・バイク盗・車上ねらい(車から物を盗む)
- 12 ☐ 【同居家族】自転車盗
- 13 ☐ 【同居家族】知らない人からのちかん・つきまといなど
- 14 ☐ 【同居家族】家族や恋人からの暴力(暴言なども含みます)
- 15 ☐ 【同居家族】電話de詐欺
- 16 ☐ 【同居家族】インターネットによる詐欺・悪質商法・消費者被害
- 17 ☐ 【同居家族】その他の犯罪被害
- 18 ☐ あなた・同居家族ともに犯罪の被害にあったことはない

Q14

犯罪に対する不安感についておたずねします。

以下のそれぞれについて、どれくらい不安に感じていますか。(それぞれひとつずつ)

	非常 に不 安	かな り不 安	やや 不安	不安 はない
1 自身が犯罪の被害にあうこと	1○	2○	3○	4○
2 同居家族が犯罪の被害にあうこと	1○	2○	3○	4○
3 自宅への泥棒(空き巣など)	1○	2○	3○	4○
4 自宅や自動車などが落書きされる・壊される	1○	2○	3○	4○
5 自分の乗り物や持ち物が盗まれる	1○	2○	3○	4○
6 屋外での犯罪(ひったくり、恐喝、ちかんなど)	1○	2○	3○	4○
7 生命にかかわる犯罪(殺人や放火、テロなど)にまきこまれる	1○	2○	3○	4○
8 電話de詐欺や悪質商法	1○	2○	3○	4○
9 日中、住んでいる地域を1人で出歩いている時に犯罪の被害にあうこと	1○	2○	3○	4○
10 深夜23時を過ぎてから、住んでいる地域を1人で出歩いている時に、犯罪の被害にあうこと	1○	2○	3○	4○

Q15

政府や自治体などの政策として、以下のそれぞれについての必要性をおたずねします。
(それぞれひとつずつ)

	必要 である	どちら かという と	どちら かないう と	必要 ない
1 女性を性犯罪から守るための取り組み	1○	2○	3○	4○
2 子どもを犯罪の被害から守るための取り組み	1○	2○	3○	4○
3 外国籍の住民との共生のための取り組み	1○	2○	3○	4○
4 刑務所を出所した人の更生のための取り組み	1○	2○	3○	4○
5 性的少数者(同性愛者、LGBT等)を支援するための取り組み	1○	2○	3○	4○
6 犯罪被害者を支援するための取り組み	1○	2○	3○	4○
7 子育て世帯を支援するための取り組み	1○	2○	3○	4○
8 障がい者を支援するための取り組み	1○	2○	3○	4○
9 災害の予防や被災者の支援のための取り組み	1○	2○	3○	4○
10 高齢者の生活支援のための取り組み	1○	2○	3○	4○

Q16

あなたの情報環境などについておたずねします。
あてはまるものすべてを選んで下さい。(いくつでも)

- 1 ☐ 自家用のパソコン(タブレットも含む)を持っている
- 2 ☐ 家族共用のパソコン(タブレットも含む)を持っている
- 3 ☐ 自宅に固定電話がある
- 4 ☐ スマートフォンを持っている
- 5 ☐ テレビのニュースをほぼ毎日見ている(ネット配信を含む)
- 6 ☐ 新聞を購読している(電子版を含む)
- 7 ☐ 県や市町村の広報紙に目をとおしている
- 8 ☐ 警察の広報紙に目をとおしている
- 9 ☐ X(旧Twitter)を利用している
- 10 ☐ Facebookを利用している
- 11 ☐ Instagramを利用している
- 12 ☐ LINEを利用している
- 13 ☐ TikTokを利用している
- 14 ☐ YouTubeを利用している
- 15 ☐ あてはまるものはない

Q17

以下のそれぞれについて、あてはまる数値を入力してください。

1	あなたご自身を含む、同居家族人数	人
2	現在お住まいの場所での居住年数 ※1年未満の方は、1と入力ください。	年
3	千葉県内での居住年数 ※1年未満の方は、1と入力ください。 ※一度県外に出られた方は、千葉県内におられた合計年数をお答えください。	年
4	あなたの1週間における仕事をしている日数 (例:0、1、2、3、4、5、6、7)	日
5	あなたの1週間における在宅ワーク日数 ※在宅での仕事時間が長ければ在宅ワーク日数としてカウントしてください。 (例:0、1、2、3、4、5、6、7)	日
6	あなたの職場までの通勤時間(分)	分
7	平日の平均的な家事・育児時間(分)	分
8	向こう1年間にあなたご自身や同居家族が、犯罪の被害にあう可能性 ※あなたの予想を0～100%の間の数値でお答えください。	%

Q18

以下のそれぞれについて、あなたのお考えをおたずねいたします。

(それぞれひとつずつ)

あ ど ど あ
て あ あ て
は ち ち は
ま ら ら ま
る は は ら
 ま ま い
 と と な
 る る い
 え え い
 ば ば

1	対策をすれば犯罪の被害にはあわない	1○	2○	3○	4○
2	自分は犯罪の被害にあわないよう行動できる	1○	2○	3○	4○
3	犯罪の被害にあうかどうかは運次第だ	1○	2○	3○	4○
4	隣近所の問題は自分たちで解決できる	1○	2○	3○	4○
5	ほとんどの人は信頼できる	1○	2○	3○	4○
6	ほとんどの隣近所の人は信頼できる	1○	2○	3○	4○
7	隣近所の人たちは困ったときに助けてくれる	1○	2○	3○	4○
8	この質問には、「あてはまらない」を選択して下さい	1○	2○	3○	4○
9	現在、特定の芸能人(スポーツ選手、YouTuberなどを含む、実在の人物あるいはグループ)に強い好意を抱いて、関連グッズを集めたり、関連イベントに参加している	1○	2○	3○	4○
10	現在、特定のキャラクター(人物や生物、あるいはグループを含む、架空の存在。アバター、VTuber含む)に強い好意を抱いて、関連グッズを集めたり、関連イベントに参加している	1○	2○	3○	4○

Q19

街中や電車の中などで行動するとき、以下の項目はあなたの考え方にどの程度あてはまりますか。

あてはまる程度1つを選んでください。(それぞれひとつずつ)

	よくあてはまる	少しあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1 何をしようが自分の勝手だと思う	1○	2○	3○	4○	5○
2 人に怒られなければ何をしてもよいと思う	1○	2○	3○	4○	5○
3 友だちがみんなで悪いことをしているのに自分だけ裏切れない	1○	2○	3○	4○	5○
4 仲間はずれになるくらいなら一緒に悪いことをしてしまう	1○	2○	3○	4○	5○
5 警察につかまったら、恥ずかしくて世の中に顔向けできない	1○	2○	3○	4○	5○
6 何か問題をおこして近所の噂になるのは嫌だ	1○	2○	3○	4○	5○
7 人に迷惑になるかどうかを、まず第一に考えて行動すべき	1○	2○	3○	4○	5○
8 自分が誰かの迷惑になっていないか常に気を遣う	1○	2○	3○	4○	5○
9 どんな人に対してでも人権を尊重する	1○	2○	3○	4○	5○
10 仲間と考えが違ったりしても、それぞれの意見を大切にする	1○	2○	3○	4○	5○

Q20

コロナ禍について、自分自身がいま感じていることとして、以下の項目はどの程度あてはまるか教えてください。(それぞれひとつずつ)

	とてもあてはまる	少しあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
1 コロナ禍はとても大変だった	1○	2○	3○	4○	5○
2 コロナ禍でも良いことがあった	1○	2○	3○	4○	5○
3 コロナ禍ではひとりぼっちだと感じた	1○	2○	3○	4○	5○
4 コロナ禍で相談できる人がいた	1○	2○	3○	4○	5○
5 コロナ禍でも人とかかわることができた	1○	2○	3○	4○	5○
6 コロナ禍では心配な気持ちが強かった	1○	2○	3○	4○	5○
7 コロナ禍ではやる気が出づらかった	1○	2○	3○	4○	5○
8 コロナ禍では自分は役に立たない人間だと感じやすかった	1○	2○	3○	4○	5○
9 コロナ禍では我慢が多かった	1○	2○	3○	4○	5○
10 コロナ禍で家にとじこもりがちになった	1○	2○	3○	4○	5○

Q21

いじめについて、あなたのお考えにあてはまるものを選んでください。

(それぞれひとつずつ)

	とても 思う	そう 思う	どちら でもない	そう 思わない	まったく そう 思わない
1 いじめ問題に関心がある	1○	2○	3○	4○	5○
2 いじめは増えている	1○	2○	3○	4○	5○
3 いじめは陰湿化、巧妙化している	1○	2○	3○	4○	5○
4 いじめは人権侵害である	1○	2○	3○	4○	5○
5 いじめを社会からなくすことはできる	1○	2○	3○	4○	5○
6 いじめは子どもがいる学校だけでなく大人がいる職場・地域にもある	1○	2○	3○	4○	5○
7 学校での子どものいじめは学校だけに責任がある	1○	2○	3○	4○	5○
8 学校でのいじめでは加害者である子どもの出席停止が有効である	1○	2○	3○	4○	5○
9 学校でのいじめでは加害者である子どもにも支援が必要である	1○	2○	3○	4○	5○
10 学校でいじめがあったとき周りの子どもが傍観するのは仕方がない	1○	2○	3○	4○	5○

Q22

以下のそれぞれについて、あなたのお考えとしてあてはまるものを選んで下さい。

(それぞれひとつずつ)

	そう 思う	どちら かとも いえない	どちら かとも いえない	そう 思わない
1 少年の犯罪・非行が増えていると思う	1○	2○	3○	4○
2 少年の犯罪・非行が悪質になっていると思う	1○	2○	3○	4○
3 警察は少年の犯罪・非行をもっと厳しく取り締まるべきだと思う	1○	2○	3○	4○
4 警察は成人の犯罪をもっと厳しく取り締まるべきだと思う	1○	2○	3○	4○
5 犯罪に対する刑罰をもっと重くするべきだと思う	1○	2○	3○	4○
6 地域の安全を確保する責任は、個人にもあると思う	1○	2○	3○	4○
7 地域の安全を確保する責任は、町内会(自治会)にもあると思う	1○	2○	3○	4○
8 自分の家では、自然災害への備えができていていると思う	1○	2○	3○	4○
9 住んでいる地域では、自然災害への備えができていていると思う	1○	2○	3○	4○

Q23

あなたは、以下の自然災害に対してどの程度不安に思いますか。
 あてはまるものを選んで下さい。(それぞれひとつずつ)

	非常に不安	かなり不安	やや不安	不安はない
1 地震	1○	2○	3○	4○
2 津波	1○	2○	3○	4○
3 高潮	1○	2○	3○	4○
4 台風	1○	2○	3○	4○
5 豪雨・洪水	1○	2○	3○	4○
6 強風	1○	2○	3○	4○
7 竜巻	1○	2○	3○	4○
8 土砂災害	1○	2○	3○	4○

Q24

自然災害に備えて、あなたや同居家族が行っていることを、いくつでも選んで下さい。
 (いくつでも)

- 1 ☐ 食糧の備蓄
- 2 ☐ 飲料水の備蓄
- 3 ☐ 懐中電灯の準備
- 4 ☐ ラジオの準備
- 5 ☐ 非常用の持ち出し袋の準備
- 6 ☐ 生活用水の汲み置きや備蓄
- 7 ☐ 簡易携帯トイレの準備
- 8 ☐ スマートフォンや携帯電話の電池切れ対策
- 9 ☐ 家具の固定や転倒防止
- 10 ☐ 感震ブレーカーの設置
- 11 ☐ 家屋の耐震強化
- 12 ☐ 土のうの用意
- 13 ☐ 暴風対策(かたづけ・ガラス飛散防止)
- 14 ☐ 地震保険や火災保険などへの加入
- 15 ☐ 家族との連絡方法の確認
- 16 ☐ 帰宅経路や帰宅困難時の対応の確認
- 17 ☐ 避難場所の確認
- 18 ☐ 災害情報の積極的な収集
- 19 ☐ 防災訓練への参加
- 20 ☐ 特に何もしていない

Q25

あなたの日々の生活での感じ方についておたずねします。

それぞれ、あてはまるものを選んで下さい。(それぞれひとつずつ)

	決してない	ほとんどない	たまにある	時々ある	しばしば・常にある
1 自分には人とのつきあいが無いと感じることがある	1○	2○	3○	4○	5○
2 自分は取り残されていると感じることがある	1○	2○	3○	4○	5○
3 自分は他の人たちから孤立していると感じることがある	1○	2○	3○	4○	5○
4 孤独であると感じることがある	1○	2○	3○	4○	5○
5 本気で自殺したいと考えることがある	1○	2○	3○	4○	5○

Q26

過去1か月の間、次の項目のようなことはどのくらいありましたか。

6つの項目それぞれについてあてはまるものを選んでください。

(それぞれひとつずつ)

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない
1 神経過敏に感じましたか	1○	2○	3○	4○	5○
2 絶望的だと感じましたか	1○	2○	3○	4○	5○
3 そわそわしたり、落ち着きなく感じましたか	1○	2○	3○	4○	5○
4 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか	1○	2○	3○	4○	5○
5 何をするのも骨折りだと感じましたか	1○	2○	3○	4○	5○
6 自分は価値のない人間だと感じましたか	1○	2○	3○	4○	5○

Q27

あなたの日々の健康やゆとりについておたずねします。

それぞれについて、あてはまるものを選んでください。(それぞれひとつずつ)

あ	ど	ど	あ
て	あ	ち	て
は	ち	あ	は
ま	ら	ち	ま
る	は	ら	ら
	か	か	い
	ま	ま	え
	と	と	い
	い	い	ば
	え	え	
	ば	ば	

1	毎日たばこを吸っている	1	2	3	4
2	毎日お酒を飲んでいる	1	2	3	4
3	毎日2食以上野菜を食べている	1	2	3	4
4	健康状態はとてもよい	1	2	3	4
5	普段の生活で時間的なゆとりを感じる	1	2	3	4
6	普段の生活で経済的なゆとりを感じる	1	2	3	4
7	普段の生活で精神的なゆとりを感じる	1	2	3	4
8	生活の程度は、世間一般からみて、平均よりも上のほうだと思う	1	2	3	4

Q28

世間では、女性と男性の違いについて、さまざまなことが言われています。

以下の記述について、あなたはどのように思われますか。

それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものを1つずつ選んで下さい。

(それぞれひとつずつ)

そ	ど	ど	そ
う	そ	ち	う
思	ち	そ	思
う	う	ち	わ
	思	思	な
	う	か	い
	と	わ	い
	い	え	い
	え	え	い
	ば	ば	

1	最終的に頼りになるのは、やはり男性である	1	2	3	4
2	中学になると、男の子の成績の方が伸びる	1	2	3	4
3	家庭のこまごまとした管理は、女性でなくては、と思う	1	2	3	4
4	子育ては、やはり母親でなくては、と思う	1	2	3	4
5	人前では、妻は夫を立てた方がよい	1	2	3	4
6	女性は男性にくらべ、感情的である	1	2	3	4
7	女性は視野がせまい	1	2	3	4
8	体力において男性がまさる以上、社会のあらゆる場で男性が優位な地位を占めるのは、やむをえない	1	2	3	4
9	女性は出産する可能性があるため、男性と仕事の上で互角に並ぶのは無理である	1	2	3	4

Q29

あなたの世帯年収(税込)と個人年収(税込)を教えてください。(それぞれひとつずつ)

	1	2
	世帯 年 収	個 人 年 収
200万円未満	1○	1○
200～400万円未満	2○	2○
400～600万円未満	3○	3○
600～800万円未満	4○	4○
800～1,000万円未満	5○	5○
1,000～1,200万円未満	6○	6○
1,200～1,500万円未満	7○	7○
1,500～2,000万円未満	8○	8○
2,000万円以上	9○	9○
わからない	10○	10○
	世帯 年 収	個 人 年 収
	1	2

送信

0 50 100(%)

第1回 淑徳大学・読売新聞共同千葉県調査
Shukutoku Yomiuri Chiba Social Survey (SYCSS)
報告書

■ 発行 2024（令和6）年3月31日
■ 発行者 淑徳大学社会福祉研究所
〒260-8701 千葉県中央区大巖寺町 200
電話 043-265-7331

■ 制作編集 株式会社生活環境工房あくと
